









[illegible]

・ オーバーヘッドドア

(16. 13. 2、3)

セクション材料による区分

風圧力による強さの区分

開閉方式による区分

収納形式による区分

ガイドレールの材料

※スチールタイプ  
・アルミニウムタイプ  
・ファイバーグラスタイプ

・50  
・75  
・100  
・125

※バランズ式  
・チェーン式  
・電動式

・スタンダード形  
・ローヘッド形  
・ハイリフト形  
・パーチャカル形

※溶融亜鉛めっき鋼板  
・ステンレス鋼板

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置  
(設置箇所 ・ 建具表による )

・ フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類  
○建具表による  
・  
・ 型板ガラスの厚さによる種類  
○建具表による  
・  
・ 納入板ガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類  
・ 建具表による  
・  
・ 合わせガラス  
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ  
・ 建具表による  
・  
・ 地球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性による種類  
・ I 類    ・ II-1類    ・ II-2類    ・ III類  
・ 強化ガラス  
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称  
○建具表による  
・ 破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類  
・ I 類    ・ III類  
・ 熱線吸収板ガラス  
板ガラスによる種類、厚さによる種類  
・ 建具表による  
性能による種類  
・ 1種    ・ 2種  
・ 複層ガラス  
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ  
・ 建具表による  
・  
断熱性による区分  
・ T1    ・ T2    ・ T3    ・ T4    ・ T5    ・ T6  
日射取得性及び日射遮蔽性による区分  
・ G    ・ S  
乾燥気体の種類  
・ 空気    ・ アルゴン  
・ 熱線反射ガラス  
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類  
・ 建具表による  
日射熱遮へい性による区分  
・ 1種    ・ 2種    ・ 3種  
耐久性による区分 (日射熱遮蔽性による区分が2種の場合)  
・ A類    ・ B類  
・ 倍強度ガラス  
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類  
・ 建具表による  
・  
ガラスの留め材及び溝の大きさ  
(16. 14. 2) (9. 7)

建具の種類	ガラス留め材の種類	ガラス溝の大きさ (mm)
アルミニウム製	・ シーリング材 ・ グレイジングチャンネル ・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・
	・ シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・
鋼製及び鋼製軽量	・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・
ステンレス製	・ シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・
樹脂製	・ グレイジングガスケット ・	※建具製造所の仕様による ・ 図示による ・

耐震性能  
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。

・ ガラスブロック積み

(16. 14. 5)

呼び寸法 (mm)    厚さ (mm)    色調    目地幅 (mm)    伸縮調整目地位置 (mm)    防火性能

・ 160×160    ・ 95  
・  
・ 200×200    ・ 95  
・

壁用金属枠及び補強材  
※ 図示による  
力骨  
材質  
※ ステンレス鋼 (SUS304)  
寸法  
※ 径φ 5. 5mm  
形状  
※ はしご形状複筋及び単筋  
化粧目地モルタルの色 ( ・ 白    ・ グレー)  
シーリングの種類 ( ・ SR-1    ・ PS-1)  
金属製化粧カバー  
材質  
・ ステンレス製    ・ アルミニウム製  
(17. 3. 2～6) (表17. 3. 1、2)  
寸法  
※ 図示による  
形状  
※ 図示による  
木下地の場合のアンカー等の取付け間隔  
・ 図示による  
目地部の横力骨の納まり  
※ ガラスブロック製造所の仕様による  
・ 図示による  
・  
工法  
1章 適用区分による風圧力の ( ・ 1    ・ 1. 15    ・ 1. 3) 倍の風圧力に対応した工法

取付け形態による分類  
(17. 1. 4)  
・ 層間方式  
・ 柱・梁方式  
・ 方立方式  
・ スパンドレル方式  
・  
性能

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐湿度差性 (℃)
				・ 30分 ・ 1時間	・ 80 ・ 70 ・ 60

耐風圧性  
1章 適用区分による風圧力 ( ・ 1    ・ 1. 15    ・ 1. 3) 倍の風圧力に対応した工法  
主要部材の耐風圧性能 (ガラスを除く)

支点間距離 (h)	耐風圧性能
4m以下	・ たわみ量が± (1/150) × h かつ絶対値20mm以下であること ・
4mを超える	・

耐震性能  
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による  
性能の確認方法及び判定方法  
※ 性能の確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、監督職員の承諾を受ける

金属系材料の種類  
(17. 2. 2、3、5、6)  
・ アルミニウム材  
・ 鋼材  
・ ステンレス鋼材  
シーリング材の種類 (目地等)  
種類及び寸法等 ※ 図示による  
ガラスの取付け材料  
・ シーリング  
種類 ( ・ SR-2    ・ SR-1)  
・ 構造ガスケット  
形状、寸法等 ※ 図示による  
断熱材 [G]  
種類及び範囲/ ※ 図示による  
形状及び仕上げ  
製品の寸法許容差  
※ 標準仕様書表17. 2. 1による  
・  
見え掛かり部の仕上げ  
(アルミニウム材の場合)  
規格等 標準仕様書16. 2. 3による  
種別 ・ (標準仕様書表14. 2. 1)  
着色 ・ 標準色    ・ 特注色  
(鋼材及びステンレス鋼材の場合)  
・  
ガラス溝の寸法、形状等  
※ カーテンウォールの製造所の仕様  
・

・ PCカーテンウォール

取付け  
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差  
鉛直方向  
※ ± 10mm  
水平方向  
※ ± 25mm  
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差  
目地の幅  
※ ± 3mm  
目地の心の通り  
※ 0～2mm  
目地両側の段差  
※ 0～2mm  
各階の基準墨から各部位までの距離  
※ ± 3mm  
耐火処理  
適用部位、材料等 ※ 図示による  
ガラスの取付け材料  
ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法  
※ 4辺支持  
材料  
コンクリート  
種類 ( ・ 普通コンクリート    ・ 軽量コンクリート1種    ・ )  
品質  
設計基準強度 (Fc) ※ 30N/?  
スランブ ※ 12cm  
気乾単位容積質量  
・ 普通コンクリートの場合 2. 1t/?を超え2. 5t/?以下  
・ 軽量コンクリートの場合1. 8 t/ m3～2. 1 t/ m3  
・  
単位水量の最大値  
※ 185kg/?  
鉄筋  
種類の記号 ※ SD295  
補強鉄線  
径 (mm) ・ 3. 2    ・ 4. 0    ・ 5. 0    ・ 6. 0  
網目寸法 ・  
シーリング材の種類 (目地等)  
種類及び寸法等 ※ 図示による  
ガラスの取付け材料  
・ 構造ガスケット  
形状、寸法等 ・ 図示による  
耐火処理  
適用部位、材料等 ※ 図示による  
断熱材 [G] 種類 ( )  
種類及び範囲 ※ 図示による  
先付けの材料  
・ 表面仕上材  
・ セラミックタイル  
・ 石材  
・ 建具枠  
・ コンドラ用ガイドレール  
形状及び仕上げ  
製品の見え掛かり部の寸法許容差  
辺長  
※ ± 3mm  
対角線長の差  
※ 0～5mm  
版厚  
※ ± 2mm  
開口部内法寸法  
※ ± 2mm  
ねじれ、反り  
※ 0～5mm  
曲がり  
※ 0～3mm  
面の凸凹  
※ 0～3mm  
先付け金物の位置  
※ 0～5mm  
PCカーテンウォールの仕上げ  
・  
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 (mm)  
※ 図示による  
製作  
PC版の配筋 ※ 図示による  
取付け  
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差  
鉛直方向  
※ ± 10mm  
水平方向  
※ ± 25mm  
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差  
目地の幅  
※ ± 5mm  
目地の心の通り  
※ 0～3mm  
目地両側の段差  
※ 0～4mm  
各階の基準墨から各部位までの距離  
※ ± 5mm  
ガラスの取付け方法  
・ ガラスの取付け材が構造用ガスケットで複層ガラス等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う

○ 材料

○ 素地ごしらえ

○ 錆止め塗料塗り

○ 塗装

○ 接着剤

○ ビニル床シート [G]

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放数量  
(18. 1. 3)  
※ F☆☆☆☆  
防火材料  
※ 室内の壁、天井仕上げは防火材料とする。  
・ 以下の箇所を除き防火材料とする。  
(箇所： )  
(18. 2. 2～7)  
下地面等    種別  
木部    不透明塗料塗りの場合    ※ A種    ・ B種  
透明塗料塗りの場合    ※ B種    ・ A種  
鉄鋼面 (DP以外 )    ※ C種    ・ A種    ・ B種  
鉄鋼面 (DPのみ)    ※ B種    ・ A種    ・ C種  
亜鉛めっき鋼面    ・ A種    ・ B種  
モルタル面及びせっこうブラスター面    ※ B種    ・ A種  
コンクリート面 (DP以外 ) 及びALCパネル面    ※ B種    ・ A種  
押出成形セメント板面    ※ B種    ・ A種  
コンクリート面 (DPのみ)    ※ A種    ・ B種  
せっこうボード面及び    目地：難目処理工法    ※ A種    ・ B種  
その他ボード面    目地：難目処理工法以外    ※ B種    ・ A種  
(18. 3. 2、3)  
下地面    塗料の種類    錆止め塗料の種類    錆止め塗料塗りの工程  
鉄鋼面    SGP    A種    見え掛り：A種  
見え隠れ：B種  
DP    C種及びD種    表18. 3. 4  
見え掛り：A種  
見え隠れ：B種  
EP-G    ※ B種    ・ A種  
亜鉛めっき鋼面    SGP    ※ A種    ・ B種  
DP    B種    表18. 3. 6  
EP-G    C種    鋼製建具等：A種  
上記以外：B種  
(18. 4. 1～18. 12. 2)  
塗装    種別    塗料の種類    高日射反  
射率塗料  
[G]  
○ 合成樹脂調査ペイント  
塗り (SGP)    木部屋外    ※ A種    ・ B種    —  
木部屋内    ※ B種    ・ A種    —  
鉄鋼面    ※ B種    ・ A種    ・ 適用する  
亜鉛めっき鋼面    —  
○ クリヤラッカー塗り (CL)  
・ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)    ※ B種    ・ A種    —  
鉄鋼面    —    上塗り塗料の  
等級 ( ) 級    ・ 適用する  
・ 耐候性塗料塗り (DP)    亜鉛めっき鋼面    —    上塗り塗料の  
等級 ( ) 級    —  
3/4カット面    ・ A種    ・ B種  
押出成形物の外板面    ・ C種    —  
○ つや有合成樹脂エマル  
ジョンペイント塗り  
(EP-G)    3/4カット面  
外板面    ※ B種    ・ A種    —  
ガラス面    —  
せっこうボード面  
その他ボード面等    屋内の鉄鋼面  
鉄鋼面    ※ B種    ・ A種    —  
亜鉛めっき鋼面    —  
・ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)    ※ B種    ・ A種    —  
・ ウレタン樹脂ウニス塗り (UC)    ※ B種    ・ A種    —  
・ ビグメント  
ステイン塗り    —  
・ オイルステイ  
ン塗り (OS)    —  
・ 木材保護塗料塗り (WP)    ※ B種    ・ A種    —  
高日射反射率塗装 [G] を適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする。  
クリヤラッカー塗り A種の工程2の適用  
・ 適用しない  
・ 適用する (着色剤： ・ 溶剤形着色剤    ・ 油性染料着色剤)  
ウレタン樹脂ウニス塗りの工程1の着色の適用  
・ 適用する  
・ 適用しない  
オイルステイン塗りの工程等  
・  
ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤のホルムアルデヒド放数量 (19. 2. 2)  
※ F☆☆☆☆  
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類  
・ 図示による  
標準仕様書19. 2. 3 (7) ～(9) 以外の下地の工法  
(19. 2. 3)  
・ 図示による  
(19. 2. 2、3)  
種類の記号    色柄    厚さ (mm)    備考  
※ FS (複層ビニル床シート)  
・  
○ 無地  
○ マーブル柄  
○ 柄物    ※ 2. 0  
・  
接合部の処理  
※ 熱溶接工法

年    月    日

R 4 .    2 .

課 長

担 当

工 事 名 称

第87号木ノ下中学校講堂改築工事（建築）

図 面 名

特記仕様書（6）

No.

7 / 建

[illegible]

○ トイレブース	ハンガーレール及びランナ ※パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナ数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの ・ (品質・性能は別表による)	・ プラインド	<table><tr><th colspan="6">(20. 2. 14)</th></tr><tr><th>形式</th><th>操作方法</th><th>操作方法的の種類</th><th>スラットの種類</th><th>スラット幅</th><th>スラット・レールの材質</th><th>幅・高さ 取付箇所</th></tr><tr><td rowspan="2">・ 横形</td><td>・ 手動</td><td>※ギヤ式 ・ フード式 ・ 操作棒式</td><td>※7Aに相当合金製</td><td>※25 ・</td><td>※鋼製</td><td>・ 図示による ・</td></tr><tr><td>・ 電動</td><td>—</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・ 縦形</td><td>・ 手動</td><td>※2本操作フード式 ・ 1本操作フード式</td><td>・ 7Aミッド ・ 7Aミッド</td><td>・ 80 ・ 100</td><td>※7Aに相当合金製</td><td>・ 図示による ・</td></tr><tr><td>・ 電動</td><td>—</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 縦型プラインドのスラットの材質 ・ アルミスラット 焼付け塗装仕上げ ・ クロススラット 消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工 ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は ☑ とする	(20. 2. 14)						形式	操作方法	操作方法的の種類	スラットの種類	スラット幅	スラット・レールの材質	幅・高さ 取付箇所	・ 横形	・ 手動	※ギヤ式 ・ フード式 ・ 操作棒式	※7Aに相当合金製	※25 ・	※鋼製	・ 図示による ・	・ 電動	—					・ 縦形	・ 手動	※2本操作フード式 ・ 1本操作フード式	・ 7Aミッド ・ 7Aミッド	・ 80 ・ 100	※7Aに相当合金製	・ 図示による ・	・ 電動	—					・ ロールスクリーン																																																																	
	(20. 2. 14)																																																																																																											
	形式	操作方法	操作方法的の種類	スラットの種類	スラット幅	スラット・レールの材質	幅・高さ 取付箇所																																																																																																					
	・ 横形	・ 手動	※ギヤ式 ・ フード式 ・ 操作棒式	※7Aに相当合金製	※25 ・	※鋼製	・ 図示による ・																																																																																																					
		・ 電動	—																																																																																																									
	・ 縦形	・ 手動	※2本操作フード式 ・ 1本操作フード式	・ 7Aミッド ・ 7Aミッド	・ 80 ・ 100	※7Aに相当合金製	・ 図示による ・																																																																																																					
		・ 電動	—																																																																																																									
	○ 手すり	材料の種類及び仕上げ ・ SUS304 表面処理 ※HL程度 ・ 鋼製 表面処理 消磁重鉛めつき (※標準仕様書表14. 2. 2による種別 ( ) 種) ・ アルミニウム 表面処理 (※標準仕様書表14. 2. 1による種別 ( ) 種) 色合い ・ 標準色 ( ) ・ 特注色 ( ) 手すりの握り部分 <table><tr><th>材種</th><th>表面仕上げ</th><th>直径 (mm)</th><th>取付箇所</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 集成材 (材種: )</td><td>・ クリアラッカー ・</td><td>・ 35程度 ・ 45程度 ・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ ビコル製</td><td></td><td>・ 35程度 ・ 45程度 ・</td><td></td><td></td></tr></table>	材種	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所	備考	・ 集成材 (材種: )	・ クリアラッカー ・	・ 35程度 ・ 45程度 ・			・ ビコル製		・ 35程度 ・ 45程度 ・			・ 階段滑り止め	材料の種類 ・ ステンレス製 ・ 黄銅製押出型材 ・ アルミニウム製押出型材 ・ 形状 ※タイヤ型 (タイヤの材質: ゴム又は合成樹脂等) ・ タイヤレス型 端部の形状 ・ フラットエンドあり ・ フラットエンドなし 寸法 (幅) ・ 35mm程度 ・ 40mm程度 ・ 50mm程度 取付け工法 ※接着工法 ・ 埋込み工法	・ 黒板及びホワイトボード ☑	・ 鏡	○ 表示	衝突防止表示 ・ 設置する (設置場所: ※図示による ) 形状・寸法 ( ・ 30φ ) 材質 ( ・ ステンレス製 ) ・ 設置しない 誘導標識、非常用出入口等の表示 ※消防法に適合する市販品 座名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等 (案内用図記号はJIS Z 8210による) ※図示による	○ タラップ	材質及び仕上げ ・ SUS304 (スリッパ止め加工 ※あり ・ なし ) ・ 鋼製 表面処理 消磁重鉛めつき (※標準仕様書表14. 2. 2による種別 (※C種 ・ 種) )	・ 煙突ライニング	適用安全使用温度 ・ 工法 ※鋼製ユニット煙突 (煙突用成形ライニング材 ) ・																																																																																	
	材種	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所	備考																																																																																																							
	・ 集成材 (材種: )	・ クリアラッカー ・	・ 35程度 ・ 45程度 ・																																																																																																									
・ ビコル製		・ 35程度 ・ 45程度 ・																																																																																																										
○ エキスパンションジョイント金物	・ 止水板	・ 旗竿	・ 旗竿受金物	・ 車止めさく	・ フェンス	・ プレキャストコンクリート	・ 間知石及びコンクリート間知ブロック積み																																																																																																					
○ 21排水工事	形式 ・ 差込式 ・ 据置式 ・ 壁張り式 施工箇所 ・ 図示による  建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。  <table><tr><th>材種</th><th>受け枠</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ○ ステンレス鋼 (SUS304) 製 ・</td><td>○ ステンレス鋼 (SUS304) ・ 硬質アルミニウム合金 ・</td><td></td></tr></table>  <table><tr><th>材種</th><th>寸法 (mm)</th><th colspan="2"></th><th colspan="2">備考</th></tr><tr><td></td><td>W</td><td>D</td><td>H</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 流し台</td><td>・ 1200 ・ 1500 ・ 1800</td><td>・ 550 ・ 600 ・ 650</td><td>・ 800 ・ 850</td><td colspan="2">市販品 トラップ付き 天板ステンレス製</td></tr><tr><td>・ コンロ台</td><td>・ 600</td><td>・ 550 ・ 600 ・ 650</td><td>・ 620 ・ 670</td><td colspan="2">市販品 バックガード有り 天板ステンレス製</td></tr><tr><td>・ つり戸棚</td><td>・ 1200 ・ 900</td><td>・ 450</td><td>・ 500 ・ 700</td><td colspan="2">市販品</td></tr><tr><td>・ 水切り</td><td>・ 1200 ・ 900 ・ 600</td><td>—</td><td>—</td><td colspan="2">市販品 ステンレス製 ・ 1段式 ・</td></tr></table> 品質・性能 外観は、JIS A 4420「キッチン設備の構成材」の4.1 による。 構成材は、JIS A 4420 の8 により試験を行ったとき、表1 の規定による。 形状 ※ 図示による  <table><tr><th>材種</th><th>形式</th><th>高さ (m)</th><th>操作方法</th><th>固定方法</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ アルミニウム合金製 ・</td><td>・ テーパー式 ・ 同一断面式</td><td></td><td>・ ハンドル式 ・ ロープ式</td><td>・ 埋込式 ・ ベース式 ・ バンド式</td><td></td></tr></table>  材種 ・ ステンレス製 (SUS 304) ・  <table><tr><th>形式</th><th>材種</th><th>柱径、肉厚 (mm)</th><th>高さ (mm)</th></tr><tr><td>・ 上下式鎖内蔵式 ・ スプリング式 ・</td><td>・ ステンレス製 ・</td><td>・</td><td>・</td></tr></table>  フェンスの種類 ・ ビニル被覆エキスパンドフェンス ・ 樹脂塗装メッシュフェンス ・ 鋼管フェンス ・ アルミフェンス 高さ ・ 図示による  コンクリートの設計基準強度 (20. 3. 3、4) ※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m2を満足する調査強度 ・ 図示による 配筋 ※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する ・ 図示による 取付け方法 ※ 図示による  (20. 4. 2、3) <table><tr><th></th><th>材種</th><th>種類</th><th>質量区分</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 間知石</td><td>・ 花こう岩 ・ 凝灰岩</td><td>—</td><td>—</td><td></td></tr><tr><td>・ コンクリート間知ブロック</td><td>—</td><td></td><td>・ A ・ B</td><td></td></tr></table> 積み方 ※谷積み ・ 布積み 目塗り ・ 図示による 伸縮調整目地 材種 ・ 図示による 厚さ ・ 図示による	材種	受け枠	備考	・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ○ ステンレス鋼 (SUS304) 製 ・	○ ステンレス鋼 (SUS304) ・ 硬質アルミニウム合金 ・		材種	寸法 (mm)			備考			W	D	H			・ 流し台	・ 1200 ・ 1500 ・ 1800	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 800 ・ 850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製		・ コンロ台	・ 600	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 620 ・ 670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製		・ つり戸棚	・ 1200 ・ 900	・ 450	・ 500 ・ 700	市販品		・ 水切り	・ 1200 ・ 900 ・ 600	—	—	市販品 ステンレス製 ・ 1段式 ・		材種	形式	高さ (m)	操作方法	固定方法	備考	・ アルミニウム合金製 ・	・ テーパー式 ・ 同一断面式		・ ハンドル式 ・ ロープ式	・ 埋込式 ・ ベース式 ・ バンド式		形式	材種	柱径、肉厚 (mm)	高さ (mm)	・ 上下式鎖内蔵式 ・ スプリング式 ・	・ ステンレス製 ・	・	・		材種	種類	質量区分	備考	・ 間知石	・ 花こう岩 ・ 凝灰岩	—	—		・ コンクリート間知ブロック	—		・ A ・ B		・ 鋼製書架及び物品棚 ・ 屋内掲示板  ・ 洗面カウンター  ・ 防煙垂れ壁  ・ 屋外掲示板  ○ 収納家具	<table><tr><th>種類</th><th>規格等</th><th>JISによる種類</th></tr><tr><td>・ 鋼製書架</td><td rowspan="2">JIS S 1039 の規格による</td><td>・ 1種 ・ 2種 ・ 3種</td></tr><tr><td>・ 鋼製物品棚</td><td>・ 4種 ・ 5種 ・ 6種</td></tr></table> 枠の材質 ※アルミニウム製 表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り ・ 材種 ・メラミン樹脂化粧板張り (心材: 集成材) ・ 人工大理石 奥行き (mm) ・ 約450 ・ 約600  ・ 固定式 <table><tr><th>材質</th><th>厚さ (mm)</th><th>高さ (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>※ 網入り磨き板ガラス ・ 線入り磨き板ガラス</td><td>※6. 8 ・</td><td>※500 ・</td><td>アルミ製枠付き</td></tr></table> ・ 可動式 <table><tr><th>種類</th><th>材質</th><th>高さ (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 垂直降下式 (巻取り型)</td><td>※不燃布 (不燃認定品)</td><td>※500 ・</td><td>ガイドレール ※固定式 (壁埋込型) ・ 可動式 (天井収納型)</td></tr><tr><td>・ 回転降下式</td><td>鋼板製又はアルミ製</td><td>※500 ・ 800 ・</td><td>表面仕上げ ※ 天井材張り ・</td></tr></table> 降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置 (埋込型)  照明器具 ※有り ・ 無し 施設 ※有り ・ 無し 製造所 ・  合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※☆☆☆☆☆ 材質、形状、寸法 ※ 図示による	種類	規格等	JISによる種類	・ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・ 1種 ・ 2種 ・ 3種	・ 鋼製物品棚	・ 4種 ・ 5種 ・ 6種	材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考	※ 網入り磨き板ガラス ・ 線入り磨き板ガラス	※6. 8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き	種類	材質	高さ (mm)	備考	・ 垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・	ガイドレール ※固定式 (壁埋込型) ・ 可動式 (天井収納型)	・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※ 天井材張り ・
材種	受け枠	備考																																																																																																										
・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ○ ステンレス鋼 (SUS304) 製 ・	○ ステンレス鋼 (SUS304) ・ 硬質アルミニウム合金 ・																																																																																																											
材種	寸法 (mm)			備考																																																																																																								
	W	D	H																																																																																																									
・ 流し台	・ 1200 ・ 1500 ・ 1800	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 800 ・ 850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製																																																																																																								
・ コンロ台	・ 600	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 620 ・ 670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製																																																																																																								
・ つり戸棚	・ 1200 ・ 900	・ 450	・ 500 ・ 700	市販品																																																																																																								
・ 水切り	・ 1200 ・ 900 ・ 600	—	—	市販品 ステンレス製 ・ 1段式 ・																																																																																																								
材種	形式	高さ (m)	操作方法	固定方法	備考																																																																																																							
・ アルミニウム合金製 ・	・ テーパー式 ・ 同一断面式		・ ハンドル式 ・ ロープ式	・ 埋込式 ・ ベース式 ・ バンド式																																																																																																								
形式	材種	柱径、肉厚 (mm)	高さ (mm)																																																																																																									
・ 上下式鎖内蔵式 ・ スプリング式 ・	・ ステンレス製 ・	・	・																																																																																																									
	材種	種類	質量区分	備考																																																																																																								
・ 間知石	・ 花こう岩 ・ 凝灰岩	—	—																																																																																																									
・ コンクリート間知ブロック	—		・ A ・ B																																																																																																									
種類	規格等	JISによる種類																																																																																																										
・ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・ 1種 ・ 2種 ・ 3種																																																																																																										
・ 鋼製物品棚		・ 4種 ・ 5種 ・ 6種																																																																																																										
材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考																																																																																																									
※ 網入り磨き板ガラス ・ 線入り磨き板ガラス	※6. 8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き																																																																																																									
種類	材質	高さ (mm)	備考																																																																																																									
・ 垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・	ガイドレール ※固定式 (壁埋込型) ・ 可動式 (天井収納型)																																																																																																									
・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※ 天井材張り ・																																																																																																									
21排水工事	・ 屋外雨水排水	材料 (21. 2. 1、2) (表 21. 2. 1、2) <table><tr><th>材種</th><th>種類・記号</th><th>形状</th><th>呼び径</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 遠心力鉄筋コンクリート管</td><td>外圧管 (1種)</td><td>・ B形管 ・</td><td>・ 図示による ・</td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">・ 硬質ポリ塩化ビニル管</td><td>・ RF-VP ☑</td><td></td><td>・ 図示による ・</td><td></td></tr><tr><td>・ RS-VU ☑</td><td></td><td>・ 図示による ・</td><td></td></tr><tr><td>・ VP</td><td></td><td>・ 図示による ・</td><td></td></tr><tr><td>・ VU</td><td></td><td>・ 図示による ・</td><td></td></tr></table> 基床の厚さ及び種類 ・ 図示による 硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤 側壁の形状及び寸法 ・ 図示による 排水溝の種類 ・ 図示による 砂地層に用いる材料 ・ シルト ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂 砂利地層に用いる材料 ・ 再生クラッシュラン ☑ ・ 切込砂利又は切込砕石 ・ 現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度 (N/mm2) ※ 18 スランプ (cm) ※ 15又は16 ・ 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※6D295 ・ 排水桟が現場打ちの場合の足掛け金物 ※標準仕様書21. 2. 2 (G) (H) 材質 ・ ステンレス製 ・ 鋼製 ・ 合成樹脂被覆加工されたもの 凍上抑制層に用いる材料 ・ (砂を用いる場合の粒度試験) ・ 行方 ・ 行わない	材種	種類・記号	形状	呼び径	備考	・ 遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1種)	・ B形管 ・	・ 図示による ・		・ 硬質ポリ塩化ビニル管	・ RF-VP ☑		・ 図示による ・		・ RS-VU ☑		・ 図示による ・		・ VP		・ 図示による ・		・ VU		・ 図示による ・																																																																																
材種	種類・記号	形状	呼び径	備考																																																																																																								
・ 遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1種)	・ B形管 ・	・ 図示による ・																																																																																																									
・ 硬質ポリ塩化ビニル管	・ RF-VP ☑		・ 図示による ・																																																																																																									
	・ RS-VU ☑		・ 図示による ・																																																																																																									
	・ VP		・ 図示による ・																																																																																																									
	・ VU		・ 図示による ・																																																																																																									

			年 月 日			課 長	担 当	工 事 名 称	第87号木ノ下中学校講堂改築工事 (建築)	No. 9 建
			R4 . 2 .					図 面 名	特記仕様書 (8)	



22 舗装工事	・ 舗装製ふた	<div>(21. 2. 1)</div> <table><thead><tr><th>名称</th><th>種類</th><th>適用荷重</th><th>鍵</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">鉄製マンホールふた</td><td>・水封形 ・簡易密閉形 (A 仕様)</td><td>・T-2用 ・T-6用 ・T-20用</td><td>・有り ・無し</td><td>左記以外の品質等は (公社) 空気清和衛生工学会SHASE-S209による。</td></tr><tr><td>・密閉形 (F-A・B 仕様) ・中ふた付き密閉形 (F-A・B 仕様)</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	名称	種類	適用荷重	鍵	備考	鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形 (A 仕様)	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用	・有り ・無し	左記以外の品質等は (公社) 空気清和衛生工学会SHASE-S209による。	・密閉形 (F-A・B 仕様) ・中ふた付き密閉形 (F-A・B 仕様)				・ 路盤	<div>(22. 3. 2、3) (表 22. 3. 1)</div> <div>路盤の厚さ</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 図示による</li></ul> <div>路盤材料 (標準仕様書表22. 3. 1による種別)</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・クラッシャー</li><li>・粒度調整砕石</li><li>・再生クラッシャーラン</li><li>・再生粒度調整砕石</li><li>・クラッシャー鉄鋼スラグ</li><li>・粒度調整鉄鋼スラグ</li><li>・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ</li></ul>	・ ブロック系舗装	<div>(22. 8. 2、3)</div> <div>・コンクリート平板舗装</div> <table><thead><tr><th>種類</th><th>寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>目地材</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>・普通平板 (N)</td><td>・ 300角</td><td>※60</td><td>※砂</td><td>表面加工</td></tr><tr><td>・透水平板 (P)</td><td>・</td><td>・</td><td>※珪</td><td>・研ぎ出し</td></tr><tr><td>・保水性平板 (M)</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・洗い出し</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・たたき出し</td></tr></tbody></table> <div>クッション材</div> <ul style="list-style-type: none"><li>※砂</li><li>・空練りモルタル</li></ul> <div>普通平板は (再生材1材を用いた舗装用ブロック)、透水平板は (透水性コンクリート) とする。</div> <div>仕上り面の平たん性</div> <ul style="list-style-type: none"><li>※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。</li><li>・</li></ul> <div>・ インターロッキングブロック舗装</div> <table><thead><tr><th>種類</th><th>部位</th><th>形状寸法</th><th>厚さ (mm)</th><th>曲げ強度 (N/?)</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>※普通ブロック (N)</td><td rowspan="3">車路</td><td rowspan="3">・ 図示による</td><td rowspan="3">※80</td><td rowspan="3">※5. 0</td><td rowspan="3">表面加工</td></tr><tr><td>※透水ブロック (P)</td></tr><tr><td>※保水性ブロック (M)</td></tr><tr><td>※普通ブロック (N)</td><td rowspan="3">歩行者用通路</td><td rowspan="3">・ 図示による</td><td rowspan="3">※60</td><td rowspan="3">※3. 0</td><td rowspan="3">・</td></tr><tr><td>※透水ブロック (P)</td></tr><tr><td>※保水性ブロック (M)</td></tr></tbody></table> <div>クッション材</div> <ul style="list-style-type: none"><li>※砂</li><li>・空練りモルタル</li></ul> <div>歩行者用通路に使用する普通ブロックは (再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水性ブロックは (透水性コンクリート) とする。</div> <div>仕上り面の平たん性</div> <ul style="list-style-type: none"><li>※歩行に支障となる段差がないものとし、インターロッキングブロック間の段差は3mm以内とする。</li><li>・</li></ul> <div>・ 舗石舗装</div> <table><thead><tr><th>種類</th><th>形状寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>張り方</th><th>基層</th><th>基層の厚さ (mm)</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">・花こう岩</td><td>・割石</td><td rowspan="2">・</td><td rowspan="2">・</td><td>・ブロック版</td><td>※70</td></tr><tr><td>・ 図示による</td><td>・スラグ状混合物</td><td>※70</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr></tbody></table> <div>クッション材</div> <ul style="list-style-type: none"><li>※砂</li><li>・空練りモルタル</li></ul> <div>仕上り面の平たん性</div> <ul style="list-style-type: none"><li>※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内とする。</li><li>・</li></ul> <div>・ジオテキスタイル</div> <div>単位面積質量</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 60g / m<sup>2</sup> 以上</li></ul> <div>厚さ (mm)</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 0. 5～1. 0</li></ul> <div>引張強さ</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上</li></ul> <div>透水係数</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 1. 5×10<sup>-3</sup> cm/sec 以上</li><li>・</li></ul>	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備考	・普通平板 (N)	・ 300角	※60	※砂	表面加工	・透水平板 (P)	・	・	※珪	・研ぎ出し	・保水性平板 (M)	・	・	・	・洗い出し	・	・	・	・	・たたき出し	種類	部位	形状寸法	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/?)	備考	※普通ブロック (N)	車路	・ 図示による	※80	※5. 0	表面加工	※透水ブロック (P)	※保水性ブロック (M)	※普通ブロック (N)	歩行者用通路	・ 図示による	※60	※3. 0	・	※透水ブロック (P)	※保水性ブロック (M)	種類	形状寸法 (mm)	厚さ (mm)	張り方	基層	基層の厚さ (mm)	・花こう岩	・割石	・	・	・ブロック版	※70	・ 図示による	・スラグ状混合物	※70	・	・	・	・	・	・	・ 砂利敷き	<div>(22. 9. 2)</div> <div>種別</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ A種 (施工範囲： ・ 図示による ・ 通路 ・ )</li><li>・ B種 (施工範囲： ・ 図示による ・ 建物周囲その他 ・ )</li></ul>	・ 路面標示用塗料	<div>路面標示用塗料はJIS K 5665による。</div> <table><thead><tr><th>種類</th><th>施工</th><th>適用</th><th>色</th><th>幅 (mm)</th><th>塗布厚さ (mm)</th></tr></thead><tbody><tr><td>※3種1号</td><td>溶解</td><td>粉体状</td><td rowspan="2">・ 白</td><td rowspan="2">・ 150</td><td rowspan="2">・ 1. 0</td></tr><tr><td>・ 1種</td><td>常温</td><td>液状</td><td>・</td><td>・ 100</td><td>・</td></tr><tr><td>・ 2種</td><td>加熱</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> <div>低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料</div>	種類	施工	適用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)	※3種1号	溶解	粉体状	・ 白	・ 150	・ 1. 0	・ 1種	常温	液状	・	・ 100	・	・ 2種	加熱					23 植栽及び屋上緑化工事	・ 植栽地の確認等	<div>(23. 1. 3)</div> <div>土壌の水素イオン濃度指数 (pH) 試験</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行う</li><li>・ 行わない</li></ul> <div>電気伝導度 (EC) の試験</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行う</li><li>・ 行わない</li></ul>	・ 植栽基盤の整備	<div>(23. 2. 2、4)</div> <div>樹木の植栽基盤の整備</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 適用する</li><li>・ 適用しない</li></ul> <table><thead><tr><th>植栽</th><th>工法</th><th>有効土層の厚さ (mm)</th><th>整備範囲</th><th>土壌改良材</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="4">・ 樹木</td><td rowspan="4">※A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種</td><td>樹高12m以上 (※100</td><td rowspan="4">・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ・ 図示による ・</td><td rowspan="4">・ 適用する ・ 適用しない</td></tr><tr><td>樹高12m以上～12m未満 (※60</td></tr><tr><td>樹高3m以上～7m未満 (※60</td></tr><tr><td>樹高3m未満 (※50</td></tr><tr><td>※B種</td><td>・</td><td>※20</td><td>・ 植栽部分 ・ 図示による ・</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td></tr></tbody></table> <div>植栽基盤の排水設備</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 設ける (※図示による ・ )</li><li>・ 設けない</li></ul> <div>・ 現場発生土の良質土</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 客土</li></ul>	植栽	工法	有効土層の厚さ (mm)	整備範囲	土壌改良材	・ 樹木	※A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種	樹高12m以上 (※100	・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ・ 図示による ・	・ 適用する ・ 適用しない	樹高12m以上～12m未満 (※60	樹高3m以上～7m未満 (※60	樹高3m未満 (※50	※B種	・	※20	・ 植栽部分 ・ 図示による ・	・ 適用する ・ 適用しない	・ 植込み用土	<div>(23. 2. 3)</div> <div>・ 現場発生土の良質土</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 客土</li></ul>
	名称	種類	適用荷重	鍵	備考																																																																																																																																								
	鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形 (A 仕様)	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用	・有り ・無し	左記以外の品質等は (公社) 空気清和衛生工学会SHASE-S209による。																																																																																																																																								
		・密閉形 (F-A・B 仕様) ・中ふた付き密閉形 (F-A・B 仕様)																																																																																																																																											
種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備考																																																																																																																																									
・普通平板 (N)	・ 300角	※60	※砂	表面加工																																																																																																																																									
・透水平板 (P)	・	・	※珪	・研ぎ出し																																																																																																																																									
・保水性平板 (M)	・	・	・	・洗い出し																																																																																																																																									
・	・	・	・	・たたき出し																																																																																																																																									
種類	部位	形状寸法	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/?)	備考																																																																																																																																								
※普通ブロック (N)	車路	・ 図示による	※80	※5. 0	表面加工																																																																																																																																								
※透水ブロック (P)																																																																																																																																													
※保水性ブロック (M)																																																																																																																																													
※普通ブロック (N)	歩行者用通路	・ 図示による	※60	※3. 0	・																																																																																																																																								
※透水ブロック (P)																																																																																																																																													
※保水性ブロック (M)																																																																																																																																													
種類	形状寸法 (mm)	厚さ (mm)	張り方	基層	基層の厚さ (mm)																																																																																																																																								
・花こう岩	・割石	・	・	・ブロック版	※70																																																																																																																																								
	・ 図示による			・スラグ状混合物	※70																																																																																																																																								
・	・	・	・	・	・																																																																																																																																								
種類	施工	適用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)																																																																																																																																								
※3種1号	溶解	粉体状	・ 白	・ 150	・ 1. 0																																																																																																																																								
・ 1種	常温	液状				・	・ 100	・																																																																																																																																					
・ 2種	加熱																																																																																																																																												
植栽	工法	有効土層の厚さ (mm)	整備範囲	土壌改良材																																																																																																																																									
・ 樹木	※A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種	樹高12m以上 (※100	・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ・ 図示による ・	・ 適用する ・ 適用しない																																																																																																																																									
		樹高12m以上～12m未満 (※60																																																																																																																																											
		樹高3m以上～7m未満 (※60																																																																																																																																											
		樹高3m未満 (※50																																																																																																																																											
※B種	・	※20	・ 植栽部分 ・ 図示による ・	・ 適用する ・ 適用しない																																																																																																																																									
・ 路床	<div>(22. 2. 2、3、5) (表22. 2. 1)</div> <div>路床の材料</div> <table><thead><tr><th>種別</th><th>材料</th><th>厚さ (mm)</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">・ 盛土</td><td>・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種</td><td rowspan="2">・ 図示による</td></tr><tr><td>・ 建設汚泥から再生した処理土</td></tr><tr><td rowspan="2">・ 凍上抑制層</td><td>・ 再生クラッシャーラン</td><td rowspan="2">・ 図示による</td></tr><tr><td>・ クラッシャーラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 (標準仕様書表21. 2. 2による)</td></tr><tr><td>・ フィルター層</td><td>標準仕様書22. 2. 3. (3) による</td><td>・ 図示による</td></tr></tbody></table> <div>(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験)</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行う</li><li>・ 行わない</li></ul> <div>・ 路床安定処理</div> <div>安定処理の方法</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 置き換え工法</li><li>・ 安定処理工法</li></ul> <div>路床安定化処理用添加材料</div> <div>種類</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 普通ポルトランドセメント</li><li>・ 高炉セメントB種</li><li>・ フライアッシュセメントB種</li><li>・ 生石灰 (・ 特号 ・ 1号)</li><li>・ 消石灰 (・ 特号 ・ 1号)</li></ul> <div>添加量</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ kg/m<sup>3</sup> (CRB ・ 3以上 ・ )</li></ul> <div>・ ジオテキスタイル</div> <div>単位面積質量</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 60g / m<sup>2</sup> 以上</li></ul> <div>厚さ (mm)</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 0. 5～1. 0</li></ul> <div>引張強さ</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上</li></ul> <div>透水係数</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 1. 5×10<sup>-3</sup> cm/sec 以上</li><li>・</li></ul> <div>試験</div> <div>路床土の支持力比 (CRB) 試験</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行う</li><li>・ 行わない</li></ul> <div>路床締固め度の試験</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行う</li><li>・ 行わない</li></ul> <div>現場CRB試験</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行う</li><li>・ 行わない</li></ul>	種別	材料	厚さ (mm)	・ 盛土	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種	・ 図示による	・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシャーラン	・ 図示による	・ クラッシャーラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 (標準仕様書表21. 2. 2による)	・ フィルター層	標準仕様書22. 2. 3. (3) による	・ 図示による	・ カラー舗装	<div>(22. 6. 2～4)</div> <div>・ 加熱系カラー舗装</div> <div>構成・厚さ</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 図示による</li></ul> <div>加熱系混合物の結合材</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ アスファルト混合物</li><li>・ 石油樹脂系混合物</li></ul> <div>顔料の添加量 ( %)</div> <div>添加材</div> <ul style="list-style-type: none"><li>着色骨材 ( )</li><li>自然石 ( )</li></ul> <div>・ 常温系カラー舗装</div> <div>工法</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ニート工法 (配合その他： )</li><li>・ 塗布工法 (配合その他： )</li></ul> <div>着色部の下部</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ アスファルト舗装</li><li>・ コンクリート舗装</li><li>・</li></ul> <div>舗装の平たん性</div> <ul style="list-style-type: none"><li>※通行の支障となる水たまりを生じない程度</li><li>・</li></ul>	・ 透水性アスファルト舗装	<div>(22. 7. 2、3、6)</div> <div>舗装の構成</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 図示による</li></ul> <div>材料</div> <div>骨材</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 道路用砕石</li><li>・ アスファルトコンクリート再生骨材</li></ul> <div>(標準仕様書表22. 4. 1による種類： ・ 60～80 ・ 80～100)</div> <div>舗装の平たん性</div> <ul style="list-style-type: none"><li>※著しい不陸がないもの</li></ul> <div>試験</div> <div>開粒度アスファルト混合物等の抽出試験</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行う</li><li>・ 行わない</li></ul>																																																																																																																										
種別	材料	厚さ (mm)																																																																																																																																											
・ 盛土	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種	・ 図示による																																																																																																																																											
	・ 建設汚泥から再生した処理土																																																																																																																																												
・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシャーラン	・ 図示による																																																																																																																																											
	・ クラッシャーラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 (標準仕様書表21. 2. 2による)																																																																																																																																												
・ フィルター層	標準仕様書22. 2. 3. (3) による	・ 図示による																																																																																																																																											
・ 舗装改良材	<div>(23. 2. 3)</div> <div>種類及び指定量等</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ パーク地盤</li><li>施工箇所</li><li>※補栽範囲</li><li>・ 図示による</li></ul> <div>使用量</div> <div>植栽基盤面積1㎡あたり (・ 50L )</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト)</li><li>施工箇所</li><li>※補栽範囲</li><li>・ 図示による</li></ul> <div>使用量</div> <div>植栽基盤面積1㎡あたり (・ 10L )</div> <ul style="list-style-type: none"><li>材料</li><li>「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、補栽試験の</li></ul>																																																																																																																																												

④  
地業工事

○支持地盤等

(3. 2. 1) (4. 2. 4) (4. 3. 4) (4. 3. 5) (4. 4. 4) (4. 5. 5) (4. 5. 6)

○杭基礎  
支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端の位置含む)  
○図示による(構造図)  
・直接基礎  
支持地盤の位置及び土質(基礎底部の位置含む)  
○図示による(構造図)  
試験掘り(根切り底の状態の確認等)  
・行わない  
○行う  
位置等  
・図示による(  
・地盤の載荷試験(平板載荷試験)  
載荷試験の方法  
・地盤工学会基準 JGS 1521による  
試験の位置、載荷荷重  
・図示による(  
報告書の記載事項  
・図示による(  
  
○既製コンクリート杭地業

(4. 2. 2) (4. 3. 1) (4. 3. 3) ~ (4. 3. 6) (4. 3. 8)

種類  
○遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭)  
○プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭)  
○外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC杭)  
SC杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490  
杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分(種別)、寸法、継手の箇所数等

	種類	コンクリート 種別	強度 (N/mm <sup>2</sup> )	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (mm)	継手数	むね数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭	上杭 中杭 下杭									
本杭	上杭 中杭 下杭		構造図による							

杭先端部形状  
○開放形 ・半開放形 ・閉そく形  
工法  
・セメントミルク工法  
試験杭  
試験杭の位置  
・図示による(  
掘削深さ  
・図示による(  
杭の支持層への掘入れ長さ  
・図示による(  
杭の精度  
水平方向の位置ずれ  
・杭径の1/4かつ100mm以下  
建込み時の杭の鉛直度  
・1/100以内  
○特定埋込杭工法  
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法  
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式のうち  
α、β、γが以下の値を採用できる工法  
α= ( )、β= ( )、γ= ( )  
工法  
○プレボーリング拡大根固め工法  
・中掘り拡大根固め工法  
・  
杭周固定液  
○使用する ・使用しない  
試験杭  
試験杭の位置  
○図示による(  
杭の支持層への掘入れ長さ  
※評定等の評価内容による  
杭の精度  
水平方向の位置ずれ  
※評定等の評価内容による  
建込み時の杭の鉛直度  
※評定等の評価内容による  
杭の継手の工法  
・アーチ溶接継手  
溶接材料  
・標準仕様書 7.2.5(1) (2)による  
○機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)  
工法  
※評定等を受けた工法  
杭頭の処理等  
○処理しない  
・処理する  
処理方法(切断にともなう補強方法含む)  
・図示による(  
杭頭の中詰め材料  
・基礎のコンクリートと同調合のもの  
・  
杭施工に伴う発生汚泥の処理  
・場内で固化処理した後に搬出

・鋼杭地業

(4. 2. 2) (4. 4. 3) ~ (4. 4. 6)

鋼杭の材料  
・  
杭の種類、寸法、継手等

	種類	杭径 (mm)	板厚 (mm)	杭長 (mm)	継手数	むね数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭	上杭 中杭 下杭							
本杭	上杭 中杭 下杭							

特定埋込杭工法  
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法  
・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式のうち  
α、β、γが以下の値を採用できる工法  
α= ( )、β= ( )、γ= ( )  
工法  
・  
試験杭  
試験杭の位置  
・図示による(  
杭の支持層への掘入れ長さ  
※評定等の評価内容による  
杭の精度  
水平方向の位置ずれ  
※評定等の評価内容による  
建込み時の杭の鉛直度  
※評定等の評価内容による  
杭の継手の工法  
・アーチ溶接継手  
形状  
・JIS A 5525による  
溶接材料  
・標準仕様書 7.2.5(1) (2)による  
・  
・機械式継手  
工法  
※評定等を受けた工法  
杭頭の処理等  
・処理しない  
・処理する  
処理方法(切断にともなう補強方法含む)  
・図示による(  
杭頭の中詰め材料  
・基礎のコンクリートと同調合のもの  
・  
  
工法  
・アースドリル工法(安定液 ※使用する ・使用しない)  
・リバース工法  
・オールケーシング工法(孔内の水張り ・行う ・行わない)  
併用する工法  
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法  
鋼管巻き材料  
・SKK400 ・SKK490  
・拡底杭工法(安定液 ・使用する ・使用しない)  
・  
寸法等

	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (mm)	むね数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭						
本杭						

試験杭  
試験杭の位置  
・図示による(  
孔壁の保持状況(孔壁測定)  
測定箇所  
・試験杭( )箇所及び本杭( )箇所  
杭の支持層への掘入れ長さ  
・図示による(  
杭の精度  
水平方向の位置ずれ  
・杭径の1/4かつ100mm以下  
建込み時の杭の鉛直度  
・1/100以内  
・評定等の評価内容による  
鉄筋の種類

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
・SD295		
・SD345		
・		

帯筋の加工及び組立  
・図示による(  
鉄筋の最小かぶり厚さ  
・100 mm  
鉄筋かこの補強  
・  
組み立てた鉄筋の節ごとの継手  
※重ね継手  
重ね継手の長さ ・図示による(  
・  
主筋の基礎底盤への定着長さ  
・図示による(  
  
・場所打ち  
コンクリート杭地業

(4. 2. 2) (4. 5. 1) (4. 5. 4) ~ (4. 5. 6)

⑤  
鉄筋工事

○砂利地業

(4. 6. 2) (4. 6. 3)

セメントの種類  
※高炉セメントB種  
コンクリートの設計基準強度  
・図示による(  
コンクリートの種別  
・A種 ・B種 ・評定等の評価内容による  
スランプ  
・18cm ・21cm  
構造体強度補正值  
・3N/? ・評定等の評価内容による  
  
材料  
砂利 ○再生クラッシュラン  
・切込砂利又は切込砕石  
範囲  
・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下、土間コンクリート下  
○図示による(  
厚さ  
※60mm ・  
  
範囲  
・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下 ○図示による(  
厚さ  
※50mm ・  
設計基準強度  
※18N/mm  
スランプ  
※15cm又は18cm ・  
  
材料  
※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上  
範囲  
・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ビット下を除く)  
・  
  
種類及び施工方法等  
・図示による(  
  
形状等  
・図示による(  
支持地盤  
・図示による(  
型枠使用の有無  
・無し  
・有り 型枠の使用箇所等は図示による(  
  
・地盤改良工法  
  
・置換コンクリート地業  
(ラッフルコンクリート地業)

(4. 6. 2) (4. 6. 4) (4. 6. 5)

○鉄筋

(5. 2. 1)

鉄筋の種類等

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
○SD295	構造図による	
○SD345		
・		
・		

鉄筋の形状等

種類	種類の記号	鉄筋の形状、網目寸法、鉄筋の径 (mm)	使用部位
・溶接金網			
・鉄筋格子			

鉄筋の継手の方法等

部位	継手の方法	呼び径 (mm)
柱、梁の主筋	○ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手 ・重ね継手	
耐力壁の鉄筋	○重ね継手	
その他の鉄筋( )	・重ね継手	

継手位置  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 5.1、6.1、7.1、7.3、8.1)  
・  
柱及び梁主筋の重ね継手の長さ  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1(a) (2)及び表3.1)  
耐力壁の重ね継手の長さ  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1(a) (2)及び表3.1)  
  
鉄筋の定着長さ  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1(b))  
機械式定着工法  
・適用する  
適用箇所  
・図示による(  
種類  
・摩擦圧接接合 ・蝶合グラウト固定  
・嵌合グラウト固定  
工法  
※第三者機関の評定等を取得している工法とする  
必要定着長さ  
※評定等の評価内容による  
補強筋形状  
※評定等の評価内容による  
かぶり厚さ  
※評定等の評価内容による  
品質確認  
※評定等の評価内容による  
検査  
※評定等の評価内容による  
  
○鉄筋の定着

(5. 2. 2) (5. 3. 4) (5. 5. 3) (5. 6. 3)

○溶接金網

(5. 2. 2)

鉄筋の形状等

種類	種類の記号	鉄筋の形状、網目寸法、鉄筋の径 (mm)	使用部位
・溶接金網			
・鉄筋格子			

鉄筋の継手の方法等

部位	継手の方法	呼び径 (mm)
柱、梁の主筋	○ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手 ・重ね継手	
耐力壁の鉄筋	○重ね継手	
その他の鉄筋( )	・重ね継手	

継手位置  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 5.1、6.1、7.1、7.3、8.1)  
・  
柱及び梁主筋の重ね継手の長さ  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1(a) (2)及び表3.1)  
耐力壁の重ね継手の長さ  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1(a) (2)及び表3.1)  
  
鉄筋の定着長さ  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1(b))  
機械式定着工法  
・適用する  
適用箇所  
・図示による(  
種類  
・摩擦圧接接合 ・蝶合グラウト固定  
・嵌合グラウト固定  
工法  
※第三者機関の評定等を取得している工法とする  
必要定着長さ  
※評定等の評価内容による  
補強筋形状  
※評定等の評価内容による  
かぶり厚さ  
※評定等の評価内容による  
品質確認  
※評定等の評価内容による  
検査  
※評定等の評価内容による  
  
○鉄筋の定着

(5. 3. 4)

○鉄筋の継手

(5. 3. 4) (5. 5. 3) (5. 6. 3)

鉄筋の継手の方法等

部位	継手の方法	呼び径 (mm)
柱、梁の主筋	○ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手 ・重ね継手	
耐力壁の鉄筋	○重ね継手	
その他の鉄筋( )	・重ね継手	

継手位置  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 5.1、6.1、7.1、7.3、8.1)  
・  
柱及び梁主筋の重ね継手の長さ  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1(a) (2)及び表3.1)  
耐力壁の重ね継手の長さ  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1(a) (2)及び表3.1)  
  
鉄筋の定着長さ  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1(b))  
機械式定着工法  
・適用する  
適用箇所  
・図示による(  
種類  
・摩擦圧接接合 ・蝶合グラウト固定  
・嵌合グラウト固定  
工法  
※第三者機関の評定等を取得している工法とする  
必要定着長さ  
※評定等の評価内容による  
補強筋形状  
※評定等の評価内容による  
かぶり厚さ  
※評定等の評価内容による  
品質確認  
※評定等の評価内容による  
検査  
※評定等の評価内容による  
  
○鉄筋の定着

(5. 3. 4)

○鉄筋の定着

(5. 3. 4)

鉄筋の定着長さ  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 3.1(b))  
機械式定着工法  
・適用する  
適用箇所  
・図示による(  
種類  
・摩擦圧接接合 ・蝶合グラウト固定  
・嵌合グラウト固定  
工法  
※第三者機関の評定等を取得している工法とする  
必要定着長さ  
※評定等の評価内容による  
補強筋形状  
※評定等の評価内容による  
かぶり厚さ  
※評定等の評価内容による  
品質確認  
※評定等の評価内容による  
検査  
※評定等の評価内容による  
  
○鉄筋の定着

(5. 3. 4)

○鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網を含む)

(5. 3. 5)

最小かぶり厚さ  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) 4.1表4.1)  
軽量コンクリートを適用する場合  
・あり 適用箇所( )  
・最小かぶり厚さに加える厚さ( )mm  
耐久性上不利な箇所がある場合(塩害を受けおそれのある部分等)  
・あり 適用箇所( )  
・最小かぶり厚さに加える厚さ( )mm  
  
各部配筋  
○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図) )  
  
圧接完了後の圧接部の試験  
※超音波探傷試験  
・引張試験  
試験方法等 ※標準仕様書5.4.10(f) (h) ①~⑥による  
  
適用箇所  
・図示による(  
H12建告第1463号に適合する性能  
・A級  
種類  
・ねじ式鉄筋継手  
充填方式  
・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式  
・端部ねじ加工継手  
・モルタル充填式継手  
・  
工法  
※第三者機関の評定等を取得している工法  
鉄筋相互のあき  
※評定等の評価内容による  
品質の確認  
※評定等の評価内容による  
検査  
※評定等の評価内容による  
施工完了後の継手部の試験  
・外観試験  
試験対象  
※全数  
試験項目  
・評定等の評価内容による  
試験方法  
・評定等の評価内容による  
・超音波測定試験  
試験対象  
・抜取り  
ロット  
・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする。  
・  
試験の箇所数  
1ロットに対して( )箇所  
・全数  
試験項目  
※挿入長さ  
試験方法  
※JIS Z 3064(鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準)による  
不合格となった場合の措置  
・  
  
溶接継手  
  
適用箇所  
・図示による(  
H12建告第1463号に適合する性能  
・A級  
溶接継手の工法  
・図示による(  
鉄筋相互のあき  
・標準仕様書5.3.5(4)による  
・評定等の評価内容による  
・図示による(  
施工完了後の溶接部の試験  
・外観試験  
試験対象  
※全数  
試験項目  
・評定等の評価内容による  
試験方法  
・評定等の評価内容による  
・超音波探傷試験  
試験対象  
・抜取り  
ロット  
・1組の作業班が1日に行った溶接箇所で、最大200箇所程度とする。  
・  
試験の箇所数  
1ロットに対して( )箇所  
・全数  
試験項目  
※内部欠陥の検出  
試験方法  
※JIS Z 3063(鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準)による  
不合格となった場合の措置  
・  
  
・溶接継手

(5. 6. 3) (5. 6. 5)

年 月 日

R 4 . 2 .

課 長

担 当

工 事 名 称

第87号木ノ下中学校講堂改築工事(建築)

図 面 名

特記仕様書 構造(1)

No. 11 建

⑥コンクリート工事

○コンクリートの種類

コンクリートの種類(6.2.1)

※Ⅰ類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)

・Ⅱ類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)

・普通コンクリート(6.2.1)～(6.2.4) (6.3.2) (6.10.1) (6.10.2)

設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> )	スラブ(cm)	気乾単位容積質量(t/m <sup>3</sup> )	適用箇所
・24	※標準仕様書表6.2.2による	・2.3程度	
・	・	・	
	構造図による		

構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.3.2による

・軽量コンクリート

設計基準強度(N/mm <sup>2</sup> )	スラブ(cm)	気乾単位容積質量(t/m <sup>3</sup> )	種類	適用箇所
・	※21	・	・1種	・2種
・	・	・		

構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.3.2による

○セメント

種 類(6.3.1)

※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 (普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g 以下、かつ28日目で 402J/g 以下のものとする)

適用箇所( )

・高炉セメントB種 ② 適用箇所( )

・フライアッシュセメントB種 ② 適用箇所( )

○骨材

アルカリシリカ反応性による区分(6.3.1)

※A ・B

○混和材料

・混和剤

混和剤の種類

※標準仕様書 6.3.1(4) (a) による

・混和材

混和材の種類

※標準仕様書 6.3.1(4) (b) による

・寒中コンクリート

(6.11.1) (6.11.2)

・暑中コンクリート

(6.12.2)

・マスコンクリート

(6.13.1) (6.13.2)

○無筋コンクリート

(6.14.1)

コンクリートの種類

※普通コンクリート

セメントの種類

※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種

・高炉セメントB種 ②

・フライアッシュセメントB種 ②

設計基準強度

※18N/㎠

スラブ

※15cm又は18cm

適用箇所

※標準仕様書 6.14.1(4) (7)～(d) による

・流動化コンクリート

(6.15.1)

○打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

(6.6.4) (6.8.1) (9.7.3)

打継ぎの位置

※標準仕様書6.6.4(1) による

・図示による( )

目地寸法

※ 標準仕様書9.7.3(1) (7) による

・図示による( )

ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法

・図示による( )

○構造体コンクリートの仕上り

(6.2.5)

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ

種 別	適用箇所
・A種	
○B種	
・C種	

コンクリートの仕上りの平たんさ (柱・梁・壁)

種 別	適用箇所
・a種	化粧打ち放しコンクリート、塗装仕上げ、壁紙張り、接着剤による陶磁器質タイル張り
・b種	仕上塗材塗り
・c種	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り、モルタル塗り、胴縁下地

コンクリートの仕上りの平たんさ (床)

種 別	適用箇所
・a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、コンクリート直出し仕上げ、フリーアクセスフロア (蓋敷式)
・b種	カーペット張り、防水下地、セルフレバリング材塗り
・c種	タイル張り、モルタル塗り、二重床

・打増し厚さ(打放し仕上げ部)

(6.8.1)

・打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る)

・20mm

・打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る)

・10mm

・20mm

○型枠

(6.8.2)

せき板の材料及び厚さ

○合板 (※12mm ・ ) ②

・断熱材を兼用した型枠材

使用箇所

・図示による( )

性能

熱抵抗値を0.73㎡・K/W以上を有するもの

・MCR工法用シート

適用箇所

・図示による( )

打増し厚さ

・20mm

打増し範囲

・図示による( )

スリーブの材種・規格等

・図示による( )

・床型枠用鋼製デッキプレートを使用する場合は、プレートが支持される梁の側面については、打増しを行うこと。

コンクリートの打増し厚さ

※10mm

施工範囲

※図示による( )

○コンクリートの単位水量測定

(6.5.1)

実施要領

※図示による (構造関係共通図 (構造関係共通事項) )

⑦鉄骨工事

○鉄骨製作工場

(7.1.3)

構造設計標準仕様による

鉄骨製作工場の加工能力

※建築基準法 第68条の25 に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場

( )クレード以上

・監督職員の承諾する工場

○鉄骨製作工場における施工管理技術者

(7.1.4)

※配置する

○鋼材

(7.2.1) (7.2.10)

種類等

種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規 格
		・JISによる
		・JISによる
	構造図による	・JISによる
		・JISによる
		・JISによる

○高力ボルト

(7.2.2) (7.3.2) (7.4.2)

高力ボルトの種類

○トルシア形高力ボルト

・JIS形高力ボルト

・

ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等

○図示による ( 構造図 )

摩擦面の処理方法

・標準仕様書7.4.2(1) による

・

・すべり試験の実施

・すべり係数試験

・すべり耐力試験

すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.4.2(1) (f) による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

○普通ボルト

(7.2.3) (7.3.2) (7.3.8)

ボルト及びナット

の材料

○標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品) 又は次による

ボルトの規格は、JIS B 1180とする。

ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は金ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。

ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの輪径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。

ナットの規格は、JIS B 1181とする。

ナットの種類は、六角ナット-Cとし、材料は鋼とする。

・

座金

※JIS B 1256による

ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等

・図示による( )

母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径

※金ねじの呼び径+1.0mm

・

・すべり試験の実施

・すべり係数試験

・すべり耐力試験

すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1) (7) 又は (f) による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。

・溶融亜鉛めっき高力ボルト

(7.3.2) (7.4.2) (7.12.5)

ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等

・図示による( )

摩擦面の処理方法

・プラスト処理 (表面粗度50μm Rz 以上)

・りん酸塩処理

・

・

○アンカーボルト

(7.2.4) (7.3.2)

○構造用アンカーボルト

種類

・ABR400

・ABR490

・建方用アンカーボルト

種類

・SS400

アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度

※標準仕様書 表7.2.3による

・標準仕様書7.2.4以外のアンカーボルト

適用箇所

・図示による( )

種類

・SS400

アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度

※標準仕様書 表7.2.3による

ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等

・図示による( )

○溶接材料

(7.2.5)

溶接材料

・標準仕様書 7.2.5(1) (2) による

・

○ターンバックル

(7.2.6)

種類

建築用ターンバックルボルト

※羽子板ボルト

建築用ターンバックル鋼

※割 粋 式

ねじの呼び

・図示による( )

○床構造用のデッキプレート

(7.2.7) (7.7.8)

材質、形状及び寸法

	適用箇所	材質・形状・寸法	備 考
・デッキプレート	構造図による		
単独の構法			
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法			
・			

開口部補強要領 (補強筋の定着長さ等をきむ)

○図示による( )

鉄骨部材への溶接方法

○図示による( )

耐火認定

○あり

耐火時間

○図示による( )

・なし

・スタッド

(7.2.8)

種類等

呼 び 名	呼び長さ (mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

○柱底均しモルタル

(7.2.9)

無取輪モルタルとする場合の材料、調合等

※標準仕様書 7.2.9(2) (7) から (1) による

○製作精度

(7.3.3)

鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]に加えて、次による

通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法

※H12建告第1464号第二号イ (2) による

・

アンダーカットの寸法

※H12建告第1464号第二号イ (3) による

・

食い違い仕口のずれの検査方法及び補強方法

・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による

・

・仮組

(7.3.10)

仮組を行う範囲

・図示による( )

・溶接作業を行う技能資格者の技量付加試験

(7.6.3)

試験の要領

・図示による( )

○溶接接合

(7.6.4) (7.6.7)

開先の形状

○図示による ( 構造図 )

鋼製エンドタブを切断する部分

切断する箇所

・図示による( )

切断範囲

・

鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。

なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。

・

切断面の仕上げ

・標準仕様書7.6.7(1) (a) (b) ②による

・

スカラップの形状

・図示による( )

○入熱、バス間温度の溶接条件

(7.6.7) (7.6.10)

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件

○図示による ( 構造図 )

適用箇所

○図示による ( 構造図 )

・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部

○溶接部の試験

(7.6.12)

平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等

・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による

※抜き取り検査②

・抜き取り検査①

JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等

・JASS 6 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査 (1) から (5) までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

完全溶込み部の超音波探傷試験

○工場溶接の場合

AOQL (X) ※4.0

・2.5

節	全て			
検査水準	※第6水準	・	・	・

・工事現場溶接の場合

※ 全 て

○錆止め塗装

(7.8.2、4) (18.3.2)

塗料の範囲

耐火被覆材の接着する面の塗装範囲

・図示による( )

耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲

xt19:※ 標準仕様書7.6.2(1)による

・図示による( )

塗料の種別

・下記以外の鉄鋼面は、18章 [塗装工事] による

・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別

※ A種

・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別

・

・耐火被覆

(7.9.2)～(7.9.8)

種類、材料、工法等

種類	材料・工法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール		
	・半乾式吹付けロックウール		
	・湿式ロックウール		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール		
	・		
・ラス張りモルタル塗り	・		
	・		
・耐火塗料	・		
	・		

○アンカーボルト等の設置等

(7.10.3)

構造用アンカーボルトの形状及び寸法

○図示による( )

構造用アンカーフレームの形状及び寸法

○図示による( )

建方用アンカーボルトの形状及び寸法

○図示による( )

建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法

種別

・A種

・B種

柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別

厚さ

・

種別

※A種

・B種

○軽量形鋼構造

(7.11.2)

ボルトの接合部

○普通ボルト接合

年 月 日

R4. 2.

課 長

担 当

工 事 名 称

第87号木ノ下中学校講堂改築工事 (建築)

図 面 名

特記仕様書 構造 (2)

No.

12

建

別	表
1	2
3	4
5	6
7	8
9	10
11	12
13	14
15	16
17	18
19	20
21	22
23	24
25	26
27	28
29	30
31	32
33	34
35	36
37	38
39	40
41	42
43	44
45	46
47	48
49	50
51	52
53	54
55	56
57	58
59	60
61	62
63	64
65	66
67	68
69	70
71	72
73	74
75	76
77	78
79	80
81	82
83	84
85	86
87	88
89	90
91	92
93	94
95	96
97	98
99	100

## 乾式保護材

(品質・性能)		産業系パネルⅠ類 (寒冷地仕様)	産業系パネルⅡ類 (一般のな仕様)	金属複合版
分類・規格				
寸法の許容差		厚さ：+10%、-5%、幅：±1%		
外観		割れ、貫通、き裂がない。欠け、ぬれ、そり、異物の混入、汚れ、はく離など使用上支障がない。		
含水率		出荷時において10%以下		—
曲げ強さ・曲げモーメント ( $\Delta l$ 740mmにおける 単位幅1cmあたりの 曲げモーメント)	標準時	550 N・cm以上	450 N・cm以上	300 N・cm以上
	凍結融解完了時 (91%露数)	400 N・cm以上 (300)	320 N・cm以上 (200)	250 N・cm以上 (300)
吸水率(%)		20以下	20以下	1以下
吸水による長さ変化率(%)		0.07以下	0.07以下	0.01以下
難燃性		不燃	不燃	表面材は不燃
耐凍結融解性能		300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	200サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。 (明らかに吸水しないことと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)
耐衝撃性能		質量1,000gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落として、表面に達する穴があかないこと。	質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落として、表面に達する穴があかないこと。	質量500gのなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落として、表面に達する穴があかないこと。残留変形量が1/100以下
剛性(=E×I) $\Delta l$ 740mm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性		—	—	80,000 N・?以上

(試験方法)

- (1) 寸法の試験方法  
(厚さ)  
供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めパネルの厚さとする。  
(幅)  
供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央1箇所の幅寸法を、JIS B 7512「鋼製棒状」に規定する目量1mmの級コンパッスル又は、JIS B 7516「金貨用千本」に規定する目量1mmの級直寸用子にて測定する。  
幅及び厚さの測定は、JIS A 1408「建築用ポード材の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。  
幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央位置に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中部のたわみ量について、変位荷重にて測定する。  
測定項目については、凍結融解試験前と同試験 100, 200, 300サイクル完了後の各4項目について測定する。(廃棄系スパンⅡ類は200サイクルとする。)なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予想最大荷重に達する程度とする。  
(3) 吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。  
(4) 難燃性の試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び施工の難燃性試験方法」に準じて行う。  
吸水による長さ変化率試験(試験(幅400mm×長さ180mm×素材高さ)を乾燥機内で、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後、取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム(試薬)」に規定する塩化カルシウム又は JIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する物質に適するシリカゲルと調製したジヤークリウに入れ、常温まで冷却する。次に、試験体の標線間幅140mmに合わせるように標線を通す。  
その後、1/150 mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さsを測定し、それを基準(L1)とする。次に試験体の長さ方向を水平にこし立てし、その上端が水深下約30mmになるように保持して、常温の水中に浸せきける。  
24時間経過した後、試験片を水中から取り出して濾布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ(L2)を測る。  
そのより長さ変化率(ΔL)は、次式によって求める。  
$$(\Delta L) = (L2 - L1) / L1 \times 100\%$$
$$\Delta L: \text{吸水による長さ変化率}(\%)$$
$$L1: \text{乾燥時の標線間の長さ}(\text{mm})$$
$$L2: \text{吸水時の標線間の長さ}(\text{mm})$$
  
(5) 耐凍結融解性能試験は、JIS A 5442「建築用サイディング」の気中凍結水融解法による。試験体は3号試験体とする。  
100, 200, 300サイクル完了の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。(廃棄系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。)  
凍結融解操作の試験条件は、試験片の切断面小口面をあらかじめシールし、5～35℃清水中に24時間浸せきさせた後、凍結融解試験装置の槽内に設置し、-20±3℃の気中で約2時間の凍結、20±3℃の水中で約7時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。  
(7) 耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ポード材の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2対辺単軸支持方法による。  
試験体の大きさは、4号(長さ400mm、幅300mm)とする。ただし、鋼製のなす形おもりとし、記号(W-1000)、質量1.000kgとする。試験体を支持装置で保持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上10mmから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に透る穴の「有・無」を確認する。  
金属接合板の残留変形量、最大くぼみ深さを測定する。

## 既調合モルタル

(品質・性能)		
項 目		品質・性能
保水率		70.0 %以上
単位容積質量		1.80 kg/L以上
接着強度	標準時	0.60 N/2以上
	温冷繰り返し後	0.40 N/2以上
長さ変化率		0.20 %以下
曲げ強度		4.0 N/2以上

(試験方法)

- (1) 試料の調製  
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。  
練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
- (2) 保水率の試験方法  
JIS R 3202「フロート板ガラス及び磁器板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P 380「ろ紙（化学処理）」に規定するφ5Aの紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型を（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を全てなら平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上を圧さず、ろ紙部分の上部になるよう十分に静置する。60分後にろ紙入にじみ出した水分の広がりが増大と認められ、方向とこれに直角な方向の長さをもノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
- $$\text{保水率} = 50 / \text{平均値} \times 100 \quad (\text{注} \quad 50 : \text{リング型わくの直径} \quad \text{mm})$$
- (3) 単位容積質量の試験方法  
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の規定に準ずる。
- (4) 接着強さ（標準時）の試験方法
- (4) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合  
（試験体の作製）  
JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）のうち推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板

とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿を行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付け、両面にJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出又はプレス成形による施陶の「F50角二ツットタイル(外寸の寸法約300mm×300mm)」を圧着する。

その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態を湿置を行い、これを試験体とする。

(試験方法)

JIS A 6909「建築用土上塗材」に規定する7,10付着試験機に準じて、試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下板に接合するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接合し、引張試験機を用いて接着強度試験を行う。なお、接着強度の測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び、抜き取る。また、試験後の部材破断位置の指示を「a」記号の中括弧で明記する。

T : タイルの母材破断  
TM : 既調合モルタルとタイルの界面破断  
M : 既調合モルタルの母材破断  
MG : 既調合モルタルと下地板の界面破断  
G : 下地板の母材破断  
(なお、標準時の接着強さは、抜取った試験片5箇所ともすべて、0.60 N/㎡以上確保していること。)

⑦ 適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合  
(試験体の作製)  
JIS A 5371「フレキシカル無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）のうち推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨したのち、水養生を行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mm になるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出又はプレス成形になる厚さ約10mmのタイル108mm×60mm×12mmを4枚2列、計8枚を圧着する。  
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。

- (試験方法)  
「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
- (5) 接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法  
（試験体の作成）  
「モザイクタイル」及び「小ロタイル・二掛タイル」とも、各々4) 接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。  
（温冷繰返し試験）  
「モザイクタイル」及び「小ロタイル・二掛タイル」とも、各々JIS A 6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰返し試験に準じて、試験体を20±2℃の水中に1時間浸せさせた後、直ちに20±2℃の恒温器中で2時間冷却し、次に50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。  
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）  
「モザイクタイル」及び「小ロタイル・二掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態（2時間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。  
なお、温冷繰返し後の接着強さは、抜取った試験片5箇所ともすべて 0.40 N/㎡以上を確保していること。
- (6) 長さ変化率の試験方法  
JIS A 6203「セメント混和ポリマーマーティスパーション及び再乳化形粉末樹脂」に規定する9.長さ変化率に準ずる。
- (7) 曲げ強さの試験方法  
JIS A 6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。  
試験室の状態：試験室は、温度20±2℃、湿度65±10％とする。

既調合目地材

項目	品質・性能
保水率	30.0 %以上
長さ変化率	0.2 %以下(収縮)
吸水量	50 g以下
単位容積質量	1.80 kg/L以上

## 試驗方法

- (1) 試料の条件  
試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
- (2) 試料の調整  
正味質量と標準練り上り質量より、1.0～1.2Lの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。  
練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」11.2.に規定する練混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌し約30秒間材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。
- (3) 保水性 (ろ紙法)  
JIS R 3022「フロードベガス及び磨きガラス」に規定する磨きガラス (縦200mm、横200mm、厚さ5mm) の上にJIS P 3801「ろ紙 (化学分析用)」に規定する5号ろ紙 (直径18.5cm) の一枚、その中央部に真鍮線リリング型くわ (内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm) を設置し、(2)で練り混ぜた試料を金庫下で平滑に詰め込む。その後、直ちにリリング型くわ上部にガラス板を当て上下を逆にして、ろ紙部分を上側になくするようにして静置する。10分後にろ紙へしみ出した水分の広がり最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて1mmまで測定する。  
試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。  
保水率 =  $50 / \text{平均値} \times 100$  (注) 50：リリング型くわの内径 (mm)
- (4) 単位容積質量  
(2)で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に規定する方法で測定する。
- (5) 長さ変化率  
(2)で調整した試料を用いて JIS A 1171の 7.8 長さ変化率試験に従って行う。
- (6) 吸水率  
(2)で調整した試料を用いて JIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値を示す。

錠前類

【シリンダー箱錠及びシリンダー本締め錠】

外 力 対 する 性 能	<p>           テッドボルトの寸法は17mm以上とする。            鍵付きのもはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。         </p> <ol style="list-style-type: none"> <li>             (1) (シリンダー箱錠のみ) ラッチトルクの閉鎖確認し試験 (40万回以上) を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に異常がない。           </li> <li>             (2) キーによるテッドボルトの施解錠繰返し試験 (10万回以上) を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。(シリンダー本挿り錠のみ) シリンダー単体の施解錠繰返しの評価は、シリンダーだけの回転トルクが 10N・cm以下とする。           </li> <li>             (3) キーによる施解錠後の施解錠確認し試験 (107万回以上) を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がなく、かつ、確実に施解錠を施すことができる。           </li> <li>             (4) キーの抜き差し繰返し試験 (10万回以上) を行った後、キーの抜き差しに要する力 (N) は 10 N 以下である。また、未使用の合鍵でシリンダーが回転でき、かつ、17所1段差違いの鍵をもつ異なるキーでは、シリンダーが回転しないこと。(キーに加えるトルクは、150 N・cm 以下とする)           </li> </ol> <p>             1) テッドボルトの押込み強度試験 (10 KN以上) を行なった後、荷重を除いたときのテッドボルトの寸法は8 mm以上とする。           </p> <p>             2) テッドボルトの側圧強度試験 (10 KN以上) の荷重を加えたとき、加圧板がテッドボルトを通過しない。           </p> <p>             3) テッドボルトの押込み強度 (衝撃荷重) 試験 (58.8 J以上) の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態 (テッドボルトの突出量が8 mm未満) にならない。           </p>
-----------------	---

使用上の質量に 対する性能 (シンジター一般 給絞のみ)	4) テンソルボルトの側圧強度 (衝撃荷重) 試験 (58.8 J) の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態 (加圧板がテンソルボルトを通過した状態) にならない。
	5) (シンジター一本押し錠はグレード3以上の形込錠の場合) ストリートペーカの厚さ1.5 mm以上のステンレス線製とし、トロコグは厚さ2.1 mm以上の鋼製の一体構造とする。又はストリートペーカと同等以上の強度をもつものとする。
	1) ラッチボルトの側圧強度試験 (4 kN以上) を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。
	2) レバーハンドルのしり強度試験 (3.5 kN・cm) を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが操作に支障がない。また、錠錠時にハンドルが固定される錠は、錠錠状態が維持され、かつ、施錠解錠操作に支障がない。
	3) 握り玉の握り強度試験 (3 kN・cm) を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、錠錠時握り玉が固定される錠は、錠錠状態が維持され、かつ、施錠解錠操作に支障がない。
鍵	4) ハンドルの側圧強度試験 (2 kN以上) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠解錠ハンドルが固定される錠は、荷重を除いたとき、かつ、施錠解錠操作に支障がない。
	5) ハンドルの側面垂直荷重強度試験 (2 kN以上) を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠解錠ハンドルが固定される錠は、錠錠状態が維持され、かつ、施錠解錠操作に支障がない。
	1) 鍵数は、1.5万以下とする。ただし、異なったキーウェイ形状であっても、共通のキーセクション数がある場合は、有効鍵連数とみなさないものとする。
鍵	2) 同一タンブラーの使用数は、60 %以下とする。また、6本タンブラーにおいては、キーの同一一羽は最大2連続までとしていること。

試験方法は、JIS A 1541-1(建築金物 - 錠 - 第1部：試験方法)による。

クローザ類

品質・性能)		性能試験項目		① ドアクローザ		② ヒンジクローザ		③ フロアヒンジ	
初期値	閉じ力及び 効率による 区分 (注1) (注2)	Grade2	番手	閉じキック (N・m)	効率 (%)	閉じキック (N・m)	効率 (%)	閉じキック (N・m)	効率 (%)
			1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
			2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
			3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
			4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
			5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
			6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上
	閉じ速度			常温 (5～35 ℃) 無風状態において、開扉 (70°) から全閉 (0°) までの時間を 5～8 秒に調整できること。					
温度依存性			寒衝油の流動点は、JIS K 2269「原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り 点試験方法」により測定し、-15℃以下であること。						
ストッパ	ストッパ入力	60 N・m以下 ただし、3/4トラッド 型は 200 N・m以下			100 N・m以下		100 N・m以下		
	ストッパ解除力	8 N・m以上			3 N・m以上		10 N・m以上		
初期値	バックチェック性能 (秒) (バックチェック機能を 有する機種のみ適用)		ドア開扉方向に荷重60 N/m を開扉50° から負荷 する。バックチェック 開始角度 (70～85°) から 更に20° まで開く間の 時間は0.8秒以上として いること。			—		—	
	ティアレードアクション性能 (秒) ティアレードアクション 解除角度 (60～70°) (ティアレードアクション機能を 有する機種のみ適用)		開扉90° の位置からティ アレードアクション解除 角度までの時間が10秒 以上確保でき、また、 その時間の調整が可能 であること。			—		—	
	戸の閉鎖位置 (中心吊り込み角自由 のみに適用)		—			—		±3mm以内	
耐久性	繰返し開閉後の 閉じキック (N・m)	Grade2	耐久試験後も上記初期値 を満足していること。			耐久試験後も上記初期値 を満足していること。		耐久試験後も上記初期値 を満足していること。	
		Grade2	耐久試験後も上記初期値 を満足していること。			耐久試験後も上記初期値 を満足していること。		耐久試験後も上記初期値 を満足していること。	
	繰返し開閉後の閉じ速度 (秒)		耐久試験後も上記初期値を満足していること。						
	繰返し開閉後のバックチェッ ク性能 (秒)		耐久試験後も上記初期値 を満足していること。			—		—	
	繰返し開閉後のティアレードア クション性能 (秒)		耐久試験後も上記初期値 を満足していること。			—		—	
	繰返し開閉後の戸閉鎖位置 (mm)		—			—		耐久試験後±6mm以内	
耐久性の試験回数 (繰返し開閉回数)		Grade2	20万回			10万回		30万回	

注1. ハッセル取付けは、上記の閉じこめ率の10%程度までとする。  
注2. J77-11 型は右記の閉じこめ率の50%程度までとする。  
Grade1を選定する場合は、図示による。

(試験方法)

- (1) 性能試験は、JIS A 1510-3（建築用ドア金物の試験方法－第3部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ）に規定する試験方法による。
- (2) 試験ドアの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。

防水剂

品質・性能)	
項 目	品質・性能
防水剤の種類	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	凝結時間 始発：1時間以内 終結：10時間以内 安定性 収縮性・膨張性のひび割れ及びそりがないこと。
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したものの、しないものの比： 曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上
吸水比	防水剤を混入したものの、しないものの比： 吸水比 95%以下
透水比	防水剤を混入したものの、しないものの比： 吸水比 80%以下

試験方法)

JIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による。  
ただし、透水試験における水圧は、 $3.0 \times 10^5 \text{Pa}$ とし1時間行う。

## 現場発泡断熱材

品質・性能	
項 目	品質・性能
難燃性	<p>下記のいずれかによること。</p> <p>(1) JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」に規定する難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。</p> <p>(2) 法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験（コーンカロリ－試験）に適合していること。</p>
発熱性	<p>準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分として次の(1)～(3)に適合していること。</p> <p>(1) 総発熱量が8MJ/㎡以下であること。</p> <p>(2) 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。</p> <p>(3) 最高発熱速度が、10秒以上継続して200kW/㎡を超えないこと。</p>

試験方法)

- (1) 付け付け硬質ウレタンフォーム原液の粘度試験  
JIS A 9526「建築物断熱用付け付け硬質ウレタンフォーム」に規定する6.1による。
- (2) 発泡品試験
- イ 試料の作製は、JIS A 9526に規定する6.2.1による。
  - ロ 試料の状態調節は、JIS A 9526に規定する6.2.2による。
  - ハ 試料片の作製は、JIS A 9526に規定する6.2.3による。
  - ニ 試験場所とは、JIS A 9526に規定する6.2.4による。
  - ホ 圧縮強さ試験は、JIS A 9526に規定する6.2.5による。
  - ヘ 熱伝導率試験は、JIS A 9526に規定する6.2.6による。
  - ヘ 接着強さ試験は、JIS A 9526に規定する6.2.7による。
  - ロ 透湿率試験は、JIS A 9526に規定する6.2.8による。
- (3) 難燃性試験は、JIS A 1321 に規定する表面試験及び発熱性試験による。
- イ 難燃性試験については、JIS A 1321 に規定する試験方法に準じる。
  - ロ 発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価に使用している試験方法に準じる。

フリーアクセスフロア

項 目	性 能
① ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき若しくはコンクリート接着面が剝離したとき	水平荷重の1/2が下記の＜適用地震時水平力＞以上
② 上記①以外の部分が耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5が下記の＜適用地震時水平力＞以上
③ 適用地震時水平力 (0.86又は1.06) を加力した時の支柱頂部の変位	構造床面からの高さの1/50以下であること。

＜適用地震時水平力＞

- ・3,000N・0.6gタイプ  
支柱一本が負担する床加重 ( (n/1 相当自重+3,000N)/n 相当の支柱本数 ) × 0.6
- ・3,000N・1.0gタイプ  
支柱一本が負担する床加重 ( (n/1 相当自重+3,000N)/n 相当の支柱本数 ) × 1.0
- ・5,000N・0.6gタイプ  
支柱一本が負担する床加重 ( (n/1 相当自重+5,000N)/n 相当の支柱本数 ) × 0.6
- ・5,000N・1.0gタイプ  
支柱一本が負担する床加重 ( (n/1 相当自重+5,000N)/n 相当の支柱本数 ) × 1.0

- ① 振動試験による耐疲労性能(設計床高≦300mmの場合のみ)  
パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動しない。
- ② 歩行感  
通常の歩行において、空音やがたつきがなく、歩行感到違和感がない。
- ③ メンテナンス性  
交換が必要な部品については、交換ができるよう設計をしている。  
構造、形状は配線の変更及び増設に対して支障がないこと。

試験方法)

- ① 耐震性能
- イ 設計床高が $\leq 300\text{mm}$ の場合
- 試験体ユニット $100\text{mm} \times 250\text{mm}$ 程度
- 所定の重りの質量 300N: 200kg 5000N: 350kg
- 加振 0.6g: 所定加速度 $600\text{cm/s}^2$  1.0g: 所定加速度 $1000\text{cm/s}^2$
- ロ 300mm<設計床高 $\leq 600\text{mm}$ の場合
- ① 固定台による耐震性能試験
- 1) 支柱調整式・支柱分体型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法-1 又は、試験方法-2による。
- 2) 原則として、試験方法-1はパネル単体設置(Aタイプ)に適用し、試験方法-2はパネル連結設置(Bタイプ)に適用するものとする。
- ② 試験方法-1
- 1) 試験は、コンクリート(JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」種類:N300)に接合した支柱の頂部に對し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。
- 2) 加力方向は、支柱要素に對して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。
- ③ 試験方法-2
- 1) 試験は、コンクリート(JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」種類:N300)に接合した数ユニットの支柱の頂部に對し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に對して最も不利な方向とする。
- 2) 最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱1本当たりの水平力とする。また、 $800\text{mm} \times 800\text{mm}$ の荷重板に1.920 N (3.000N/1㎡相当)、3.200 N (5.000 N/1㎡相当)を1箇所設ける。試験体数は、1セットとする。
- ④ 零点補正及び測定記録
- 試験体と試験機の隙間の除去を除去するため、始めに適用地震時水平力の1/2程度の水平力を加力した後、速やかに除荷して0にした状態を零点とする。また、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。
- ロ 共通事項

試験に使用する表面仕上げ材	
種類：タイルカーベット	繊維素材：ナイロン100%
バイル形態：ループバイル	バイル長：3.0mm～4.0mm
バックینگ素材：塩化ビニル樹脂	金厚：6.0mm～7.0mm
単位質量：4.0kg/m <sup>2</sup> ～6.0kg/m <sup>2</sup>	人体耐電圧：2KV以下

<div>移動間仕切</div> <div>(品質等)</div> <div>標準仕様書20.2.4)によるほか以下による。</div> <div>(1) パネル(表面材、心材、フレーム材、幅木、笠木及び補強材)及びハンガーレールは、JIS A 6512「可動間仕切」に規定する表9 材料又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食を起こさないもの、又は防食処理を施したものを。</div> <div>(2) 外観は、JIS A 6512に規定する 5. 要求事項a)～c) による。</div> <div>(性能)</div> <div>(1) パネルの操作性</div> <div>パネルの操作の初動力は98 N以下とする。</div> <div>(2) パネル装着装置の耐久性</div> <div>パネル圧着装置の固定・解除は、7,500回の繰返し耐久試験において異常がないものとする。</div> <div>(3) 耐衝撃性</div> <div>パネル圧着装置の耐久性試験後、質量50kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく、表面の割れ、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れていないこと及び、多少のずれが生じても圧接装置の調整で元に戻せるものとする。</div> <div>(4) レールの耐久性</div> <div>レールは普通パネルで、吊り車2個が通過する部分を1m以上とし、その通過回数が30,000回以上で異常のないものとする。</div> <div>(5) 吊り車の耐久性</div> <div>吊り車は、走行距離60mで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。</div> <div>(6) ランナーの引張強度</div> <div>引張試験を実施し、普通パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナーの数で除した値以上の強度があるものとする。</div> <div>(7) 吊りボルトの引張強度</div> <div>一本にかかる荷重の15倍以上の引張強度があるものとする。</div> <div>(8) 遮音性能</div> <div>遮音性試験は JIS A 6512に規定する 8.2 遮音性試験により、試験方法は JIS A 1416「実験室における建築部材の空気音遮断性能の測定方法」による。性能は、中心周波数500Hzについての透過損失とし、36dB以上を遮音タイプ、36dB未満を一般タイプとする。</div> <div>(9) ホルムアルデヒド等</div> <div>JIS A 6512「可動間仕切」7. 材料による。</div>		<div>床点検口</div> <div>(品質・性能)</div> <table><tr><th>部材名</th><th>材質</th><th>屋内外用</th><th>屋内用</th></tr><tr><td rowspan="3">受け枠材 蓋枠材</td><td>アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材</td><td>JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定する A6063S-T5 (表面処理)</td><td>JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装複合被膜」に規定する B 又は JIS H 8601「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化皮膜」に規定する AA15</td></tr><tr><td>ステンレス鋼板</td><td>JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定する SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (目地ともの場合の表面仕上) HL又はNo.28仕上程度</td><td>JIS G 4305に規定する SUS430 (目地ともの場合の表面仕上) HL又はNo.28仕上程度</td></tr><tr><td>銅板</td><td>—</td><td>銅板又は JIS G 3313「電気亜鉛めっき銅板及び鋼帯」の類にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の錆止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの</td></tr><tr><td rowspan="2">二重蓋の中蓋</td><td>鉄板</td><td>JIS G 5501「ねずみ鋳鉄品」に規定する FC150、FC200</td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td>塩化ビニル樹脂製等</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">目地材</td><td>黄銅</td><td>JIS H 3100「銅及び銅合金の板及び条」に規定する C2600、C2720、C2801 JIS H 3260「銅及び銅合金の棒」の C3602、C3604</td><td></td></tr><tr><td>ステンレス鋼板</td><td>JIS G 4305に規定する SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 また JIS G 4308「ステンレス鋼線材」に規定する SUS304</td><td>JIS G 4305に規定する SUS304</td></tr><tr><td rowspan="2">底板材 コーナース 底板補強材</td><td>アルミニウム板</td><td>JIS H 4000「アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条」に規定する A1100P-H24 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601に規定する AA15 JIS H 8602に規定する B</td><td>—</td></tr><tr><td>銅板</td><td>—</td><td>銅板又は JIS G 3313「電気亜鉛めっき銅板及び鋼帯」の類にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の錆止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの</td></tr><tr><td colspan="2">バックシム材</td><td>塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等外枠と蓋枠の材質、形状に適する弾力性及び密着性を有するもの</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">アンカー材</td><td>鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗装を行ったもの</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">取手</td><td rowspan="3"></td><td>黄銅鋳物製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋳物製、ステンレス鋼鋳物品、ステンレス鋼材製等の堅牢な材質のもの</td><td></td></tr><tr><td>合成樹脂製は、ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材等で表面を被覆し、衝撃による変形・割れが生じない構造のもの</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">錠</td><td>黄銅製、ステンレス鋼製、亜鉛合金製 (クロムめっき) の類のもの</td><td></td></tr></table>	部材名	材質	屋内外用	屋内用	受け枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定する A6063S-T5 (表面処理)	JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装複合被膜」に規定する B 又は JIS H 8601「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化皮膜」に規定する AA15	ステンレス鋼板	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定する SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (目地ともの場合の表面仕上) HL又はNo.28仕上程度	JIS G 4305に規定する SUS430 (目地ともの場合の表面仕上) HL又はNo.28仕上程度	銅板	—	銅板又は JIS G 3313「電気亜鉛めっき銅板及び鋼帯」の類にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の錆止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの	二重蓋の中蓋	鉄板	JIS G 5501「ねずみ鋳鉄品」に規定する FC150、FC200		その他	塩化ビニル樹脂製等		目地材	黄銅	JIS H 3100「銅及び銅合金の板及び条」に規定する C2600、C2720、C2801 JIS H 3260「銅及び銅合金の棒」の C3602、C3604		ステンレス鋼板	JIS G 4305に規定する SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 また JIS G 4308「ステンレス鋼線材」に規定する SUS304	JIS G 4305に規定する SUS304	底板材 コーナース 底板補強材	アルミニウム板	JIS H 4000「アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条」に規定する A1100P-H24 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601に規定する AA15 JIS H 8602に規定する B	—	銅板	—	銅板又は JIS G 3313「電気亜鉛めっき銅板及び鋼帯」の類にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の錆止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの	バックシム材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等外枠と蓋枠の材質、形状に適する弾力性及び密着性を有するもの		アンカー材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗装を行ったもの		取手		黄銅鋳物製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋳物製、ステンレス鋼鋳物品、ステンレス鋼材製等の堅牢な材質のもの		合成樹脂製は、ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材等で表面を被覆し、衝撃による変形・割れが生じない構造のもの		錠		黄銅製、ステンレス鋼製、亜鉛合金製 (クロムめっき) の類のもの		<div>(1) 許容差</div> <div>イ) 受け枠基準寸法 600mm角程度まで</div> <div>ロ) 受け枠寸法の許容差 ±0.5mm</div> <div>ハ) 蓋付寸法の許容差 ±0.5mm</div> <div>ニ) 受け枠と蓋枠のクリアランス 片側 2.0mm以内</div> <div>(2) 蓋の耐荷重性能</div> <div>イ) 加圧する荷重値 Pn≧1,000N</div> <div>ロ) 蓋中央部の残留たわみが点検口の有効径の0.08%以内</div> <div>ハ) 受け枠・蓋その他に使用上の支障がないこと</div> <div>ニ) 破壊荷重が、加圧荷重値 Pnの2倍以上</div> <div>(試験方法)</div> <div>耐荷重試験</div> <div>(1) 試験体</div> <div>イ) 張物用とし、600mm角程度とする。</div> <div>ロ) 枠見込みは、40mm以下とする。</div> <div>(2) 試験</div> <div>イ) 試験は、蓋枠の四隅を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。</div> <div>ロ) 本試験前に 200Nを加圧した後、本試験を行う。</div> <div>ハ) 本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰返し行った後、その後試験体が破壊する (終局荷重) まで加圧する。</div> <div>(3) 測定</div> <div>測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰返し、荷重ごとに記録。また、終局荷重を記録する。</div>	<div>グレーチング</div> <div>(品質・性能等)</div> <div>〈鋼製グレーチング〉</div> <table><tr><th>項 目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>メインバー、サイドバー及びエンドバー</td><td>JIS G 3101「一般構造用圧延鋼材」に規定する SS400</td></tr><tr><td>クロスバー</td><td>JIS G 3101に規定する SS400 及び JIS G 3505「軟鋼線材」に規定するSWRM</td></tr><tr><td>受け枠用アングル材</td><td>JIS G 3101に規定する SS400 及び JIS G 3132「鋼管用熱間圧延炭素鋼鋼帯」に規定する SPHT</td></tr><tr><td>溶融亜鉛めっき膜厚</td><td>JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」に規定する HDZT 56/56μm (IE2種40 HDZ 40) 以上 HDZT 70/70μm (IE2種50 HDZ 50) 以上</td></tr><tr><td>受け枠用アングル材</td><td>塗装仕上とする場合は、樹脂系塗料</td></tr></table> <div>(1) 組立て加工</div> <div>イ) アンカーの間隔は、側溝の場合500mm内外とする。</div> <div>ロ) 平坦性は、変形がなく据付けに支障がないものとする。</div> <div>ハ) ふたの幅及び長さの許容差は、±3.0mmとする。</div> <div>(2) 耐荷重性能</div> <div>設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないものとする。</div> <div>〈ステンレス製グレーチング〉</div> <table><tr><th>項 目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td rowspan="2">メインバー、クロスバー</td><td>JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L</td></tr><tr><td>JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L及び JIS G 4317「熱間成形ステンレス鋼棒鋼」 JIS G 4320「冷間成形ステンレス鋼棒鋼」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L</td></tr><tr><td rowspan="2">エンドバー、サイドバー</td><td>JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L及び JIS G 4317「熱間成形ステンレス鋼棒鋼」 JIS G 4320「冷間成形ステンレス鋼棒鋼」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L</td></tr><tr><td>JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L及び JIS G 4317「熱間成形ステンレス鋼棒鋼」 JIS G 4320「冷間成形ステンレス鋼棒鋼」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L</td></tr></table>	項 目	品質・性能	メインバー、サイドバー及びエンドバー	JIS G 3101「一般構造用圧延鋼材」に規定する SS400	クロスバー	JIS G 3101に規定する SS400 及び JIS G 3505「軟鋼線材」に規定するSWRM	受け枠用アングル材	JIS G 3101に規定する SS400 及び JIS G 3132「鋼管用熱間圧延炭素鋼鋼帯」に規定する SPHT	溶融亜鉛めっき膜厚	JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」に規定する HDZT 56/56μm (IE2種40 HDZ 40) 以上 HDZT 70/70μm (IE2種50 HDZ 50) 以上	受け枠用アングル材	塗装仕上とする場合は、樹脂系塗料	項 目	品質・性能	メインバー、クロスバー	JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L	JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L及び JIS G 4317「熱間成形ステンレス鋼棒鋼」 JIS G 4320「冷間成形ステンレス鋼棒鋼」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L	エンドバー、サイドバー	JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L及び JIS G 4317「熱間成形ステンレス鋼棒鋼」 JIS G 4320「冷間成形ステンレス鋼棒鋼」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L	JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L及び JIS G 4317「熱間成形ステンレス鋼棒鋼」 JIS G 4320「冷間成形ステンレス鋼棒鋼」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L	<div>屋上緑化システム</div> <div>(品質・性能)</div> <table><tr><th>項 目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>透水フィルターの材質及び透水性能試験</td><td>材質は、合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるもの。透水性能は、その週の数値が直前の週の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できること。</td></tr><tr><td>透水、排水層等構成材の主要材質</td><td>合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。</td></tr><tr><td>排水層</td><td>植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び締込み土壌を支え、流出しない構造であること。</td></tr><tr><td>排水層の鉛直方向の排水性能</td><td>240 L/㎡・h以上</td></tr><tr><td>耐荷重性能</td><td>最大有効土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍以上、かつ3×10<sup>4</sup>N/㎡以上の載荷重で破壊・有害な変形のないこと。また、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。</td></tr><tr><td>耐根層</td><td>重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能 (貫通防止能力) を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるもの。</td></tr><tr><td>耐根層保護層</td><td>材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護できること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む) の下に設ける場合は省略することができるものとする。</td></tr></table> <div>(試験方法)</div> <div>(1) 透水フィルターの透水性能</div> <div>イ) JIS A 1218「土の透水試験方法」に規定する定水位透水試験に準じたインターロッキングブロックの透水性試験装置の下部に試験体 (透水フィルター) をセットし、その上に砂 (JIS A5308「レディミクストコンクリート」付属書Aに規定する砂) 及びシルトφ250を容積比1：1の割合で混合し、高さ80mmの試験容器に加圧せず均一に充填する。(試験体1体)</div> <div>ロ) 常温で1日置いた後、上部より給水する。給水5日間連続後取り出して自然水切り2日とした給水サイクルを繰り返す。週2回を下回らない測定回数で圧力差の水頭差110mmを保持したまま、1分間の透水量を計量し、透水係数を算出する。なお、乾燥工程の試験室は室温20±3℃ 湿度60±5%とする。</div> <div>ハ) 水切り工程は、試験体の入った試験装置を取り出し、試験室内に水が切れる状態で保管する。</div> <div>ニ) 各サイクルごとの透水係数の推移をグラフ化し、6週間を過ぎるまでにその週の数値が直前の週の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できれば目詰まりが解消方向にあると判断し、合格とする。</div> <div>イ) 試験開始後6週間、流水時間合計が30日を越えた時点で透水係数がまた上昇に転じない場合は、その後も透水量が増加する方向へ向かうまで流水時間を延長して確認することも可とする。</div> <div>(2) 排水層の耐荷重性能</div> <div>イ) 最大土壌層の単位面積当たりの重量の1.5倍かつ3×10<sup>4</sup>N /㎡の等分布荷重による加圧試験を行い、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。又その時の圧縮応力に対する歪み(%) を測定する。保水層を有する場合は保水層も対象とする。</div> <div>ロ) 試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10mm/min以下とする。</div>	項 目	品質・性能	透水フィルターの材質及び透水性能試験	材質は、合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるもの。透水性能は、その週の数値が直前の週の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できること。	透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。	排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び締込み土壌を支え、流出しない構造であること。	排水層の鉛直方向の排水性能	240 L/㎡・h以上	耐荷重性能	最大有効土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍以上、かつ3×10 <sup>4</sup> N/㎡以上の載荷重で破壊・有害な変形のないこと。また、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。	耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能 (貫通防止能力) を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるもの。	耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護できること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む) の下に設ける場合は省略することができるものとする。	<div>屋上緑化軽量システム</div> <div>(品質・性能)</div> <table><tr><th>項 目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td>透水、排水層等構成材の主要材質</td><td>合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。</td></tr><tr><td>透水層</td><td>目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、補え込み用土を流出させない構造であること。</td></tr><tr><td>排水層</td><td>植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び締込み土壌を支え、流出しない構造をすること。</td></tr><tr><td>排水層の鉛直方向の排水性能</td><td>240 L/㎡・h以上</td></tr><tr><td>耐荷重性能</td><td>3×10<sup>4</sup>N/㎡ 以上の載荷重で破壊・有害な変形がないこと。また一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。</td></tr><tr><td>耐根層</td><td>重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能 (貫通防止能力) を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるもの。</td></tr><tr><td>耐根層保護層</td><td>材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護できること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む) の下に設ける場合は省略することができるものとする。</td></tr></table> <div>(試験方法)</div> <div>(1) 排水層の耐荷重性能</div> <div>イ) 3×10<sup>4</sup>N /㎡の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。またその時の圧縮応力に対する歪み(%) を測定する。保水層を有する場合は保水層も対象とする。</div> <div>ロ) 試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10mm/min以下とする。</div>	項 目	品質・性能	透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。	透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、補え込み用土を流出させない構造であること。	排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び締込み土壌を支え、流出しない構造をすること。	排水層の鉛直方向の排水性能	240 L/㎡・h以上	耐荷重性能	3×10 <sup>4</sup> N/㎡ 以上の載荷重で破壊・有害な変形がないこと。また一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。	耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能 (貫通防止能力) を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるもの。	耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護できること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む) の下に設ける場合は省略することができるものとする。	<div>トップライト</div> <div>(品質・性能等)</div> <table><tr><th colspan="2">項 目</th><th colspan="2">品質・性能</th></tr><tr><td colspan="2">付帯品</td><td colspan="2">水切、結露受、顔縁等が必要に応じて取り付けられること。</td></tr><tr><td rowspan="2">アルミニウム合金の押出形材</td><td>材質</td><td colspan="2">JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定するものと</td></tr><tr><td>表面処理</td><td colspan="2">JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装複合被膜」に規定する種類 Bとする。</td></tr><tr><td colspan="2">ステンレス鋼板</td><td colspan="2">JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定する SUS304 及び SUS430J1L とする。</td></tr><tr><td rowspan="5">副資材</td><td rowspan="2">アルミニウム板</td><td>材質</td><td>JIS H 4000「アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条」に規定するものと</td></tr><tr><td>厚さ</td><td>枠・かまち等に用いる場合は、1.5mm以上とする。</td></tr><tr><td rowspan="2">銅板等</td><td>表面処理</td><td>JIS H 8602に規定する種類の Bとする。</td></tr><tr><td>材質</td><td>補強材、カ骨、アンカー等は、亜鉛めっきなどの接触腐食の防止処置を行ったもの、又はアルミニウム合金製とする。</td></tr><tr><td>ステンレス鋼板</td><td>材質</td><td>JIS G 4305に規定する SUS304 及び SUS430J1Lとする。</td></tr><tr><td rowspan="3"></td><td colspan="2">合成樹脂系成形材</td><td>耐久性を有し使用箇所に適したものとする。</td></tr><tr><td colspan="2">気密材</td><td>耐久性を有し使用箇所に適したものとする。</td></tr><tr><td colspan="2">小ぬし類</td><td>ステンレス製とする。</td></tr><tr><td rowspan="4">製品の寸法許容差及び相対する辺寸法の差</td><td>寸法部位</td><td>寸法</td><td>許容差</td></tr><tr><td>枠の内法寸法</td><td>2.0 m未満</td><td>±1.5 mm</td></tr><tr><td>高さ及び幅</td><td>2.0 m以上3.5 m未満</td><td>±2.0 mm</td></tr><tr><td>枠の相対する辺寸法の差</td><td>2.0 m未満</td><td>2 mm以下</td></tr><tr><td rowspan="4">耐風圧性</td><td>枠の見込み寸法</td><td>2.0 m以上3.5 m未満</td><td>3 mm以下</td></tr><tr><td>耐風圧等級</td><td>120 mm未満</td><td>±1.0 mm</td></tr><tr><td>耐風圧区分</td><td>S - 5</td><td>S - 6</td></tr><tr><td>耐風圧区分</td><td>S - 5</td><td>S - 7</td></tr><tr><td rowspan="3">気密性</td><td colspan="2">1) 加圧中破壊のないこと。</td><td>2,800 Pa</td></tr><tr><td colspan="2">2) 無目・方立がある場合は、そのたわみ率が1/150以下であること。</td><td>3,600 Pa</td></tr><tr><td colspan="2">3) 除圧後、枠及び戸の部材、金具、その他に機能上支障がないこと。</td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">水密性</td><td colspan="2">気密性による等級</td><td>A - 4</td></tr><tr><td colspan="2">気密等級線</td><td>A - 4 等級線</td></tr><tr><td colspan="2">通気量が JIS A 4706「サッシ」の図-1に規定する気密等級線以下とすること。</td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">耐火性能</td><td colspan="2">水密性による等級</td><td>Ⅱ - 5</td></tr><tr><td colspan="2">サッシ前後の圧力差</td><td>500 Pa</td></tr><tr><td colspan="2">加圧中に JIS A 1517「建具の水密性試験方法」に規定する枠外への流れ出し、しずき、吹き出し、あふれ出しの状況が発生しないこと。</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">耐火性能</td><td colspan="2">建築基準法施行令第107条による屋根の30分耐火構造とする。</td></tr></table> <div>(1) 枠部材の接合は、強固で、見え掛り箇所 (ぬじをきむ) は平滑であること。</div> <div>(2) 枠には、必要に応じて付属部品を取り付けるための補強が施されていること。</div> <div>(3) 補強に用いる場合には接触腐食を起こさないよう処置してあること。</div> <div>(4) 組立ては、形状寸法、取合い等を正確に行い、特に肉仕舞い及び閉閉具合 (閉閉機構のある製品に限る) に注意してあること。</div> <div>(5) 枠、水切り板等のアンカー間隔は、製品に適合したものとし、両端から逃げた位置から間隔50mm以下に取り付けること。</div> <div>(6) 雨水の浸入の恐れがある接合部には、その箇所に相応したシーリング材又は止水材を用いて止水処理を行うこと。</div> <div>(7) ガラス溝の寸法・形状等は製造所の仕様による。</div> <div>(試験方法)</div> <div>(1) 耐風圧性については JIS A 1515「建具の耐風圧性試験方法」</div> <div>(2) 気密性 については JIS A 1516「建具の気密性試験方法」</div> <div>(3) 水密性 については JIS A 1517「建具の水密性試験方法」</div> <div>(4) 断熱性 については JIS A 1492「出窓及び天窓の断熱性試験方法」</div> <div>※2008 (平成18) 以前の評価については、JIS A 4710「建具の断熱性試験方法」も可とする。</div>	項 目		品質・性能		付帯品		水切、結露受、顔縁等が必要に応じて取り付けられること。		アルミニウム合金の押出形材	材質	JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定するものと		表面処理	JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装複合被膜」に規定する種類 Bとする。		ステンレス鋼板		JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定する SUS304 及び SUS430J1L とする。		副資材	アルミニウム板	材質	JIS H 4000「アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条」に規定するものと	厚さ	枠・かまち等に用いる場合は、1.5mm以上とする。	銅板等	表面処理	JIS H 8602に規定する種類の Bとする。	材質	補強材、カ骨、アンカー等は、亜鉛めっきなどの接触腐食の防止処置を行ったもの、又はアルミニウム合金製とする。	ステンレス鋼板	材質	JIS G 4305に規定する SUS304 及び SUS430J1Lとする。		合成樹脂系成形材		耐久性を有し使用箇所に適したものとする。	気密材		耐久性を有し使用箇所に適したものとする。	小ぬし類		ステンレス製とする。	製品の寸法許容差及び相対する辺寸法の差	寸法部位	寸法	許容差	枠の内法寸法	2.0 m未満	±1.5 mm	高さ及び幅	2.0 m以上3.5 m未満	±2.0 mm	枠の相対する辺寸法の差	2.0 m未満	2 mm以下	耐風圧性	枠の見込み寸法	2.0 m以上3.5 m未満	3 mm以下	耐風圧等級	120 mm未満	±1.0 mm	耐風圧区分	S - 5	S - 6	耐風圧区分	S - 5	S - 7	気密性	1) 加圧中破壊のないこと。		2,800 Pa	2) 無目・方立がある場合は、そのたわみ率が1/150以下であること。		3,600 Pa	3) 除圧後、枠及び戸の部材、金具、その他に機能上支障がないこと。			水密性	気密性による等級		A - 4	気密等級線		A - 4 等級線	通気量が JIS A 4706「サッシ」の図-1に規定する気密等級線以下とすること。			耐火性能	水密性による等級		Ⅱ - 5	サッシ前後の圧力差		500 Pa	加圧中に JIS A 1517「建具の水密性試験方法」に規定する枠外への流れ出し、しずき、吹き出し、あふれ出しの状況が発生しないこと。			耐火性能		建築基準法施行令第107条による屋根の30分耐火構造とする。	
部材名	材質	屋内外用	屋内用																																																																																																																																																																																																																				
受け枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定する A6063S-T5 (表面処理)	JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装複合被膜」に規定する B 又は JIS H 8601「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化皮膜」に規定する AA15																																																																																																																																																																																																																				
	ステンレス鋼板	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定する SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 (目地ともの場合の表面仕上) HL又はNo.28仕上程度	JIS G 4305に規定する SUS430 (目地ともの場合の表面仕上) HL又はNo.28仕上程度																																																																																																																																																																																																																				
	銅板	—	銅板又は JIS G 3313「電気亜鉛めっき銅板及び鋼帯」の類にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の錆止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの																																																																																																																																																																																																																				
二重蓋の中蓋	鉄板	JIS G 5501「ねずみ鋳鉄品」に規定する FC150、FC200																																																																																																																																																																																																																					
	その他	塩化ビニル樹脂製等																																																																																																																																																																																																																					
目地材	黄銅	JIS H 3100「銅及び銅合金の板及び条」に規定する C2600、C2720、C2801 JIS H 3260「銅及び銅合金の棒」の C3602、C3604																																																																																																																																																																																																																					
	ステンレス鋼板	JIS G 4305に規定する SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 また JIS G 4308「ステンレス鋼線材」に規定する SUS304	JIS G 4305に規定する SUS304																																																																																																																																																																																																																				
底板材 コーナース 底板補強材	アルミニウム板	JIS H 4000「アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条」に規定する A1100P-H24 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601に規定する AA15 JIS H 8602に規定する B	—																																																																																																																																																																																																																				
	銅板	—	銅板又は JIS G 3313「電気亜鉛めっき銅板及び鋼帯」の類にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の錆止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの																																																																																																																																																																																																																				
バックシム材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等外枠と蓋枠の材質、形状に適する弾力性及び密着性を有するもの																																																																																																																																																																																																																					
アンカー材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗装を行ったもの																																																																																																																																																																																																																					
取手		黄銅鋳物製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋳物製、ステンレス鋼鋳物品、ステンレス鋼材製等の堅牢な材質のもの																																																																																																																																																																																																																					
		合成樹脂製は、ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材等で表面を被覆し、衝撃による変形・割れが生じない構造のもの																																																																																																																																																																																																																					
錠		黄銅製、ステンレス鋼製、亜鉛合金製 (クロムめっき) の類のもの																																																																																																																																																																																																																					
項 目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																						
メインバー、サイドバー及びエンドバー	JIS G 3101「一般構造用圧延鋼材」に規定する SS400																																																																																																																																																																																																																						
クロスバー	JIS G 3101に規定する SS400 及び JIS G 3505「軟鋼線材」に規定するSWRM																																																																																																																																																																																																																						
受け枠用アングル材	JIS G 3101に規定する SS400 及び JIS G 3132「鋼管用熱間圧延炭素鋼鋼帯」に規定する SPHT																																																																																																																																																																																																																						
溶融亜鉛めっき膜厚	JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」に規定する HDZT 56/56μm (IE2種40 HDZ 40) 以上 HDZT 70/70μm (IE2種50 HDZ 50) 以上																																																																																																																																																																																																																						
受け枠用アングル材	塗装仕上とする場合は、樹脂系塗料																																																																																																																																																																																																																						
項 目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																						
メインバー、クロスバー	JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L																																																																																																																																																																																																																						
	JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L及び JIS G 4317「熱間成形ステンレス鋼棒鋼」 JIS G 4320「冷間成形ステンレス鋼棒鋼」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L																																																																																																																																																																																																																						
エンドバー、サイドバー	JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L及び JIS G 4317「熱間成形ステンレス鋼棒鋼」 JIS G 4320「冷間成形ステンレス鋼棒鋼」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L																																																																																																																																																																																																																						
	JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」 JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L及び JIS G 4317「熱間成形ステンレス鋼棒鋼」 JIS G 4320「冷間成形ステンレス鋼棒鋼」に規定する SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定する SUS430J1L																																																																																																																																																																																																																						
項 目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																						
透水フィルターの材質及び透水性能試験	材質は、合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるもの。透水性能は、その週の数値が直前の週の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できること。																																																																																																																																																																																																																						
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。																																																																																																																																																																																																																						
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び締込み土壌を支え、流出しない構造であること。																																																																																																																																																																																																																						
排水層の鉛直方向の排水性能	240 L/㎡・h以上																																																																																																																																																																																																																						
耐荷重性能	最大有効土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍以上、かつ3×10 <sup>4</sup> N/㎡以上の載荷重で破壊・有害な変形のないこと。また、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。																																																																																																																																																																																																																						
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能 (貫通防止能力) を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるもの。																																																																																																																																																																																																																						
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護できること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む) の下に設ける場合は省略することができるものとする。																																																																																																																																																																																																																						
項 目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																						
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。																																																																																																																																																																																																																						
透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、補え込み用土を流出させない構造であること。																																																																																																																																																																																																																						
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び締込み土壌を支え、流出しない構造をすること。																																																																																																																																																																																																																						
排水層の鉛直方向の排水性能	240 L/㎡・h以上																																																																																																																																																																																																																						
耐荷重性能	3×10 <sup>4</sup> N/㎡ 以上の載荷重で破壊・有害な変形がないこと。また一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。																																																																																																																																																																																																																						
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能 (貫通防止能力) を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるもの。																																																																																																																																																																																																																						
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護できること。ただし、耐根層を保護コンクリート (絶縁シートも含む) の下に設ける場合は省略することができるものとする。																																																																																																																																																																																																																						
項 目		品質・性能																																																																																																																																																																																																																					
付帯品		水切、結露受、顔縁等が必要に応じて取り付けられること。																																																																																																																																																																																																																					
アルミニウム合金の押出形材	材質	JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定するものと																																																																																																																																																																																																																					
	表面処理	JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装複合被膜」に規定する種類 Bとする。																																																																																																																																																																																																																					
ステンレス鋼板		JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定する SUS304 及び SUS430J1L とする。																																																																																																																																																																																																																					
副資材	アルミニウム板	材質	JIS H 4000「アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条」に規定するものと																																																																																																																																																																																																																				
		厚さ	枠・かまち等に用いる場合は、1.5mm以上とする。																																																																																																																																																																																																																				
	銅板等	表面処理	JIS H 8602に規定する種類の Bとする。																																																																																																																																																																																																																				
		材質	補強材、カ骨、アンカー等は、亜鉛めっきなどの接触腐食の防止処置を行ったもの、又はアルミニウム合金製とする。																																																																																																																																																																																																																				
	ステンレス鋼板	材質	JIS G 4305に規定する SUS304 及び SUS430J1Lとする。																																																																																																																																																																																																																				
	合成樹脂系成形材		耐久性を有し使用箇所に適したものとする。																																																																																																																																																																																																																				
	気密材		耐久性を有し使用箇所に適したものとする。																																																																																																																																																																																																																				
	小ぬし類		ステンレス製とする。																																																																																																																																																																																																																				
製品の寸法許容差及び相対する辺寸法の差	寸法部位	寸法	許容差																																																																																																																																																																																																																				
	枠の内法寸法	2.0 m未満	±1.5 mm																																																																																																																																																																																																																				
	高さ及び幅	2.0 m以上3.5 m未満	±2.0 mm																																																																																																																																																																																																																				
	枠の相対する辺寸法の差	2.0 m未満	2 mm以下																																																																																																																																																																																																																				
耐風圧性	枠の見込み寸法	2.0 m以上3.5 m未満	3 mm以下																																																																																																																																																																																																																				
	耐風圧等級	120 mm未満	±1.0 mm																																																																																																																																																																																																																				
	耐風圧区分	S - 5	S - 6																																																																																																																																																																																																																				
	耐風圧区分	S - 5	S - 7																																																																																																																																																																																																																				
気密性	1) 加圧中破壊のないこと。		2,800 Pa																																																																																																																																																																																																																				
	2) 無目・方立がある場合は、そのたわみ率が1/150以下であること。		3,600 Pa																																																																																																																																																																																																																				
	3) 除圧後、枠及び戸の部材、金具、その他に機能上支障がないこと。																																																																																																																																																																																																																						
水密性	気密性による等級		A - 4																																																																																																																																																																																																																				
	気密等級線		A - 4 等級線																																																																																																																																																																																																																				
	通気量が JIS A 4706「サッシ」の図-1に規定する気密等級線以下とすること。																																																																																																																																																																																																																						
耐火性能	水密性による等級		Ⅱ - 5																																																																																																																																																																																																																				
	サッシ前後の圧力差		500 Pa																																																																																																																																																																																																																				
	加圧中に JIS A 1517「建具の水密性試験方法」に規定する枠外への流れ出し、しずき、吹き出し、あふれ出しの状況が発生しないこと。																																																																																																																																																																																																																						
耐火性能		建築基準法施行令第107条による屋根の30分耐火構造とする。																																																																																																																																																																																																																					
<div>ポリマーセメントモルタル</div> <div>(性能)</div> <table><tr><th>項 目</th><th>品質・性能</th></tr><tr><td rowspan="2">だ れ</td><td>下がり量 (mm)</td><td>5 以内</td></tr><tr><td>表面の状態</td><td>ひび割れの発生がないこと。</td></tr><tr><td rowspan="3">接着力強さ (N/?)</td><td>曲げ強さ (N/?)</td><td>6.0 以上</td></tr><tr><td>圧縮強さ (N/?)</td><td>20.0 以上</td></tr><tr><td>標準条件</td><td>1.0 以上</td></tr><tr><td rowspan="2">接着力強さ (N/?)</td><td>特殊条件</td><td>0.8 以上</td></tr><tr><td>低湿時</td><td>0.5 以上</td></tr><tr><td colspan="2">透水性</td><td>表面のぬれ、水滴の付着が無いこと。</td></tr><tr><td rowspan="2">その他</td><td colspan="2">1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。</td></tr><tr><td colspan="2">2) 高分子エマルジョンは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。</td></tr></table> <div>(試験方法)</div> <div>(1) だれの試験方法は、JIS A 5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 N300の表面をワイヤブラシ等で清浄し、その上に厚さ10mm、幅100mm、長さ50mmの寸法にポリマーセメントモルタルを塗り付け、塗り付け開始から5分後に、平らにおかれたいた平板を直角に立て起し、そのままの状態で静置する。24時間後のポリマーセメントモルタルの変形状態を観測し、その形状の以上の有無とどれ長さを測定する。</div> <div>(2) 曲げ強さ、圧縮強さの試験方法は、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に規定する7.3による。</div> <div>(3) 接着力強さの試験方法は、JIS A 5371に規定する普通平板 N300の表面をワイヤブラシ等を用いて清浄し、その上に厚さ10mmになるようポリマーセメントモルタルを塗り、14日間経過した後その上面に縦40mm、横40mm、厚さ10mmの鉄片を張り付けて単軸引張りを加える。最大荷重 (P) を断面積 (A) で除し、接着力強さを求める。</div> <div>(4) 透水性試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に規定する8.6に定める方法による。</div> <div>(5) 接着耐水性試験 (温冷繰返し後) は、JIS A 1171に規定する7.5による。</div> <div>(6) 透水量試験は、JIS A 6916「建築用地下調整塗材」に規定する7.15による。</div> <div>(7) 吸水量試験は、JIS A 1171に規定する7.6による。</div> <div>(8) 長さ変化率試験は、JIS A 1171に規定する7.8による。</div> <div>(9) 試験室は、温度 20±2℃、湿度 60%以上とする。</div>	項 目	品質・性能	だ れ	下がり量 (mm)	5 以内	表面の状態	ひび割れの発生がないこと。	接着力強さ (N/?)	曲げ強さ (N/?)	6.0 以上	圧縮強さ (N/?)	20.0 以上	標準条件	1.0 以上	接着力強さ (N/?)	特殊条件	0.8 以上	低湿時	0.5 以上	透水性		表面のぬれ、水滴の付着が無いこと。	その他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。		2) 高分子エマルジョンは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。																																																																																																																																																																																													
項 目	品質・性能																																																																																																																																																																																																																						
だ れ	下がり量 (mm)	5 以内																																																																																																																																																																																																																					
	表面の状態	ひび割れの発生がないこと。																																																																																																																																																																																																																					
接着力強さ (N/?)	曲げ強さ (N/?)	6.0 以上																																																																																																																																																																																																																					
	圧縮強さ (N/?)	20.0 以上																																																																																																																																																																																																																					
	標準条件	1.0 以上																																																																																																																																																																																																																					
接着力強さ (N/?)	特殊条件	0.8 以上																																																																																																																																																																																																																					
	低湿時	0.5 以上																																																																																																																																																																																																																					
透水性		表面のぬれ、水滴の付着が無いこと。																																																																																																																																																																																																																					
その他	1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。																																																																																																																																																																																																																						
	2) 高分子エマルジョンは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。																																																																																																																																																																																																																						
		年 月 日			課 長	担 当	工 事 名 称	第87号木ノ下中学校講堂改築工事 (建築)	No. 14 / 建																																																																																																																																																																																																														
		R 4 . 2 .					図 面 名	特記仕様書 別表 (2)																																																																																																																																																																																																															

建築非構造部材の耐震性能に係る標準的な特記事項

CW(スタル・Pcα)

CW工事  
取付方法、性能等

地震力に対する安全性

設計用震度	帳壁(仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材)の性能
設計用水平震度 (K <sub>h</sub> ) ※1.0	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準(製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。)が定める値とする。
設計用鉛直震度 (K <sub>v</sub> ) ※0.5	

構造体の層間変形に対する追従性

層間変形角	帳壁(仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材)の性能
・1/100 ・1/200 ・	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと

層間変形角1/300に対して、ほとんど補修の必要がなく、継続使用に耐えること。

ALCパネル

外壁パネルの耐震性

地震力に対する安全性

設計用震度	帳壁(仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材)の性能
設計用水平震度 (K <sub>h</sub> ) ※1.0	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準(製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。)が定める値とする。
設計用鉛直震度 (K <sub>v</sub> ) ※0.5	

構造体の層間変形に対する追従性

層間変形角	帳壁(仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材)の性能
・1/100 ・1/200 ・	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと

押出成形セメント板(ECP)

外壁パネルの耐震性

地震力に対する安全性

設計用震度	帳壁(仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材)の性能
設計用水平震度 (K <sub>h</sub> ) ※1.0	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準(製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。)が定める値とする。
設計用鉛直震度 (K <sub>v</sub> ) ※0.5	

構造体の層間変形に対する追従性

層間変形角	帳壁(仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材)の性能
・1/100 ・1/200 ・	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと

AD、SD、LD、SSD

RC壁に設置する特定室等及び避難経路の扉

・耐震ドア面内変形追従性の等級(・)(建具符号：・建具表による・)

重量がある扉

以下の設計用震度の地震力に対して、脱落が生じないものとする。

なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。

設計用水平震度 (K) ※1.0

設計用鉛直震度 (K) ※0.5

(建具符号：・建具表による・)

ガラス

構造体の層間変形に対する追従性

以下の構造体の層間変形角に対して、破損、脱落が生じないよう取り付けられているものとする。

構造体の層間変形角

・1/100

・1/200

軽量鉄骨天井下地(特定天井)

範囲

・図示による

特定天井の設計用震度及びクリアランスは以下による。

特定天井告示(平成25年国土交通省告示771号)による

特定天井の設計用震度 検証ルート( )

室名	階	設計用水平震度 (K <sub>h</sub> )	設計用鉛直震度 (K <sub>v</sub> )	クリアランス (mm)
		・	・	・
		・	・	・
		・	・	・

軽量鉄骨天井下地(緊結吊天井)

範囲

・図示による

標準仕様書14.4.1～14.4.4に加えて、天井下地材における耐震性を考慮した補強は、以下の1)～4)のとおりとする。

1) 野縁受けは、相互にジョイントを差し込んだ上でねじ留め。

2) 野縁や野縁受けの隣り合うジョイントの位置は、互いに1m以上離し、千鳥状に配置。

3) 野縁受けと吊りボルトの接合に用いるハンガーは、ねじ留め等の措置(開き止め)を講じる。

4) 野縁と野縁受けの接合に用いるクリップは、特定天井告示(平成25年国土交通省告示第771号)第3第3項に適合する天井に用いられるもの又は耐風圧クリップ相当の緊結度合を「新たな特定天井の技術基準(天井と周囲の壁等との間に隙間を設けない仕様を追加)の解説(平成28年7月版)」(国土交通省国土技術政策総合研究所他)の「付録1クリップの接合部の衝撃試験」により確認されたものを使用する。なお、当該クリップは、JIS A 6517 によらなくてもよいものとする。

システム天井

・システム天井

※フリッドタイプ

範囲

・図示による

耐震性

以下の設計用震度の地震力及び構造体の層間変形角に対して、脱落しないものとする。

なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。

設計用水平震度 (K<sub>h</sub>) ※1.0

設計用鉛直震度 (K<sub>v</sub>) ※0.5

構造体の層間変形角

・1/100

・1/200

・

エキスパンションジョイント金物

材質	階区分	建築物間のクリアランス (mm)	変位追従量 (mm)	耐火性能	断熱性能	備考
・アルミニウム製	( )階～( )階	・50	(避難経路の床等)	・有り	・有り	
・ステンレス製	( )階～( )階	・100	・以上	・( )	・( )	
		・150	(その他)	・無し	・無し	
		・	・以上			
・アルミニウム製	( )階～( )階	・50	(避難経路の床等)	・有り	・有り	
・ステンレス製	( )階～( )階	・100	・以上	・( )	・( )	
		・150	(その他)	・無し	・無し	
		・	・以上			

外部に設置するものは、防水型とする。

エキスパンションジョイントカバーには、脱落防止措置を講ずる。

壁等に固定する家具

固定方法

・壁固定(図示による)

・床固定(図示による)

以下の設計用震度の地震による引抜き力に対して固定金具に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないものとする。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震による引抜き力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基準(製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。)が定める値による。

設計用水平震度 (K<sub>h</sub>) ※1.0

設計用鉛直震度 (K<sub>v</sub>) ※0.5

家具名称

設置場所

備考

・

・

・

・

※収納物の取乱防止措置(ラッチ機構、ロック機構等)を講ずる

・軽量鉄骨壁下地等への補強(・図示による・)

・

年

月

日

R4.

2.

課長

担当

工事名称

図面名

第87号木ノ下中学校講堂改築工事(建築)

特記仕様書 非構造部材の耐震性能

No.

15

建



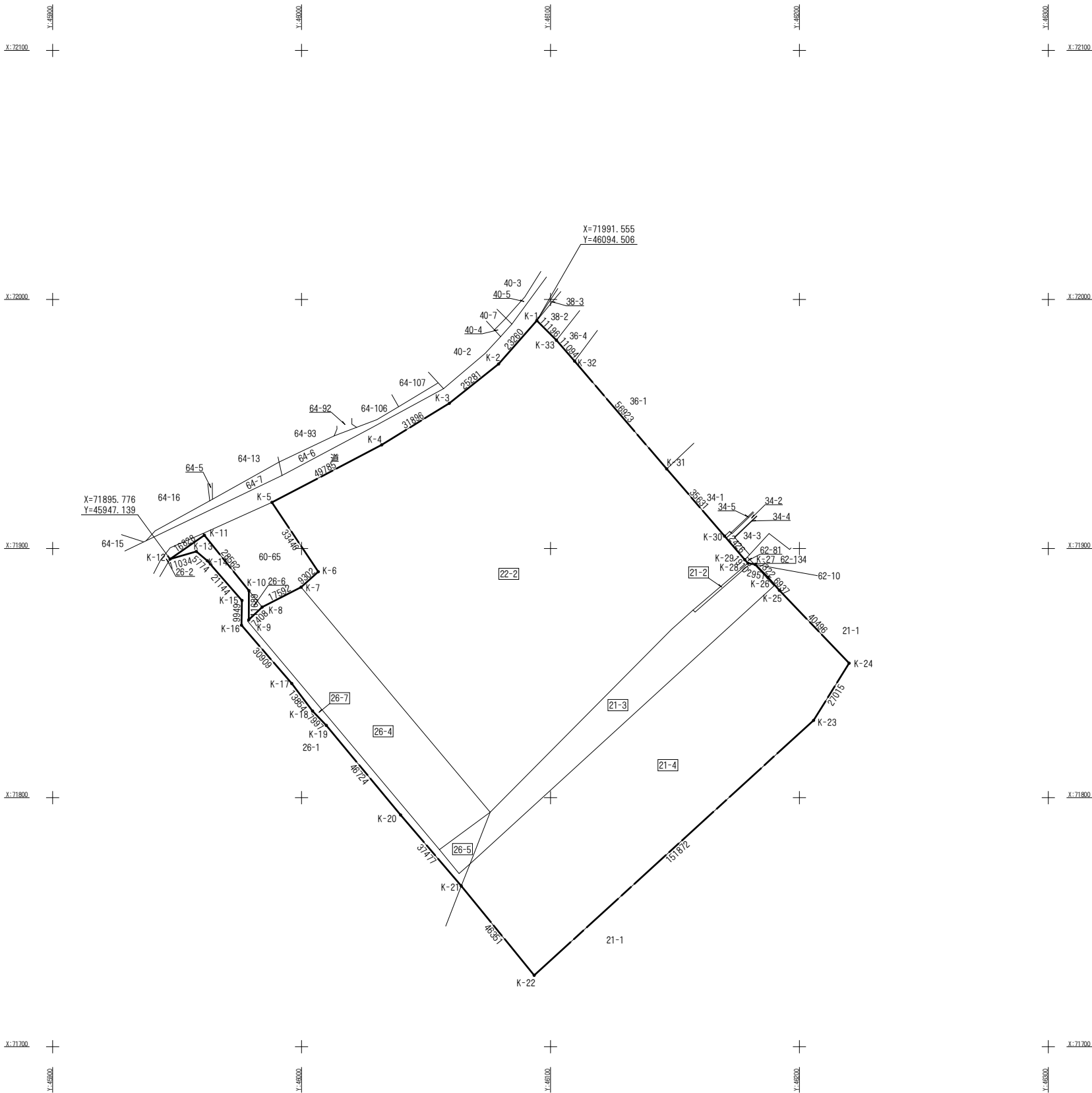
工事区分表		(他工事との取合い等)					区分は○印を適用する					A 建築工事   E 電気設備工事   M 機械設備工事   EV エレベーター設備工事					※複数箇所に○印があるものは、各工事を適用する																										
		項目	A	E	M	EV		備考			項目	A	E	M	EV		備考			項目	A	E	M	EV		備考			項目	A	E	M	EV		備考								
躯体関係												ユニットバス・シャワーユニット			○						自家発電設備											エレベーター設備											
RC造（梁・壁・床） の貫通孔・開口部	貫通スリーブ	○	○	○	○						既製浴槽			○						自家発電装置		○								機械室・昇降路の躯体	○												
	貫通スリーブの補強	○									コンクリート浴槽	○								発電装置 基礎	○									機械室の床開口	○												
	開口部の型枠・補強	○									浴槽排水金物			○						トレンチ	○									機械室の床配管ビット・蓋	○												
	貫通スリーブ・開口部の墨出し	○	○	○	○						洗濯機パン			○						トレンチ用 蓋	○									機械室の上げ床コンクリート打設・仕上	○												
	貫通スリーブ・型枠部の穴埋め	○	○	○	○		防火・防煙区画	事務室廻り	フリーアクセスフロアパネル切込み加工	○										主燃料タンク（充填砂共）		○								巻上機周囲のチェッカープレート敷				○									
									フリーアクセスフロア給排気グリル	○										主燃料タンク用 基礎、外郭工事	○									昇降路内ビット防水	○												
S・SRC造（梁 壁・床）の貫通孔 開口部	鉄骨貫通鋼管スリーブ	○									フリーアクセスフロアコンセント		○							同上杭及び杭頭処理	○									ビット点検トラップ				○									
	貫通スリーブ	○	○	○	○			その他	感知器連動防火戸のレリース用切込み	○									燃料小出タンク		○								各階出入口穴あけ・同補強	○													
	貫通スリーブの補強	○							消火器ボックス	○									燃料小出タンク基礎	○									三方枠取付・枠廻り埋戻し・同補強				○										
	開口部の型枠・補強	○							表面仕上が必要な全熱交換機等の表面仕上	○					ポート類、塗装のみ			防油堤	○									昇降路がS造の場合の出入口扉・三方枠及び幕板の受け	○														
	貫通スリーブ・開口部の墨出し	○	○	○	○				壁・天井・床点検口	○					M・E用含む			通気管		○								昇降路の中間ビーム、ブラケット、 レールブラケット支持柱、他昇降路内の 鋼製部材一式				○											
	貫通スリーブ・型枠部の穴埋め	○	○	○	○		防火・防煙区画		駆動装置が電動の建具類の1次電源、 1次・2次配管、及び手元電源スイッチ		○					レールヒータ用の 手元スイッチを含む			給油ボックス		○								昇降路がS造の場合の中間ビーム 及びブラケットの受けピース	○													
設備機器の基礎	機器取り付け用アンカー・架台		○	○	○				同上本体・駆動装置・検出装置（センサー）	○								給油ボックス 基礎	○									機械室天井・昇降路内フック取付	○														
	基礎	○							駆動装置が電動のブラインド・排煙オペレー ター等の1次配線及び1次・2次配管		○							屋外トレンチ	○									ホール押知・インジケータなどの壁開口	○														
	太陽光発電設備基礎	○							同上本体・操作スイッチ及び2次配線	○								危険物表示板		○								機械室内換気設備				○											
	太陽光発電設備架台		○						電動スクリーン用ボックス	○								電気配管配線								エレベーター制御盤までの 一次側動力用配管配線工事 （AC3相 200V50HZ）																	
その他	トラフ・ビット類（ふたを含む）	○							電気設及び扉～枠通電金具及び2次配線	○								機器付属の制御盤以降の2次側配管配線 （接地線共）			○	○						エレベーター制御盤までの 一次側電灯用配管配線工事 （AC単相 100V50HZ）				○											
	RC造各種ビット	○							同上用1次配線及び1次・2次配管		○							機器付属の制御盤への1次側電源供給 配管配線（接地線共）			○							エレベーター制御盤からの 一次側電灯用配管配線工事 （AC単相 100V50HZ）				○											
	同上用マンホール・トラップ	○							避雷導体の接続		○							自動制御盤と動力盤との電源供給の渡り 配管配線（接地線共）			○							エレベーター制御盤からの 接地用配管配線工事（D種接地）				○											
	排水溝	○							笠木を棟上げ導体とした場合の笠木～ 笠木の接続	○								機器と附属操作スイッチの渡り配管配線			○	○						エレベーター制御盤までの 火災警報用配管配線工事				○											
	オイルサピスタングの防油堤	○							ルーフドレン及びたてどい	○								注油口内アース端子からの アース用配管配線			○	○						エレベーター制御盤からの 非常用インターホンまでの配線及び インターホン取付工事					○										
	フリーアクセスフロア内の防水堤	○							煙突の水抜き管（排水管）	○								ACP屋外機と屋内機の渡り電源 信号・アース用配管配線				○						エレベーター制御盤までの 館内放送用配管配線工事				○											
	設備室内床排水管				○				地震感知器の配管配線				○					ACPマルチ形屋内機の電源・アース用 配管配線			○							エレベーター制御盤からの 緊急地震速報受信用配管工事				○											
	既設埋設配管配線調査（X線探查含む）	○	○	○					防煙ダンパーと連動制御盤までの配管配線 及び連動制御盤から煙感知器までの配管配線		○							機器・電極棒用の電源配管配線			○							昇降路頂部煙感知器、熱感知器設備工事				○											
	仕上関係									屋外関係																																	
		軽鉄天井・壁下地	ボード類の切り込み	○						排水・ハンドホール 廻り	雨水排水設備	○								エレベーター制御盤からの監視盤又は警報盤までの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事															
下地材の切込み・補強			○							くつ洗いの排水金物・排水管	○								エレベーター制御盤又は警報盤までの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																
開口部の墨だし			○	○	○	○				駐車場・車庫廻りのガソリントラップ	○								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																
可動間仕切	切込み・補強	○							雑排水・汚水排水設備				○					エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																	
	各種ボックス類	○	○	○					ハンドホール				○					エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																	
吊りボルト及び インサート	設備機器類用			○	○				E・M棟で充填用マンホールふたを 使用した場合の表面仕上	○								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																	
									雨水利用設備 （ルーフドレン、縦樋はA、縦樋から集水槽までM）	○			○					エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																	
給排気関係	外壁ガラリ	○																エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																	
	防風板	○							オイルタンク廻り	オイルタンク本体（充填砂共）			○	○					エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																
	ウェザーカバー・ベントキャップ				○					オイルタンクの外郭、基礎	○								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																
	排気フード（標準詳細図によるステンレス製）	○								同上杭及び杭頭処理	○								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																
水廻り機器	排気フード（レンジフード等既製品）				○				ユニット型浄化槽	ビット型の躯体	○							エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																	
	流し台・吊り戸棚・水切り棚・コンロ台	○					厨房用はM			上記以外のユニット型浄化槽本体 配管及び据付等（充填砂共）				○				エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																	
	手洗い・洗面器カウンター	○																エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																	
	鏡（既製品）				○													エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																	
	鏡（注文品）	○																エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																	
	バリアフリートイレ手すり・便器類手すり	○																エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																	
	トイレブース内小物棚	○																エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																	
ベビシート	○																エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事								エレベーター制御盤からの監視カメラまでの配管配線工事																		
この工事区分表は、建築工事（A）、電気設備工事（E）、機械設備工事（M）、エレベーター工事（EV）といった施工上密接に関連する各工事において、材料や作業がどの工事に含まれているかを明確にするために共通事項として添付しているものである。よって、本工事の設計図書に記載されていない、工事範囲外の項目も含んでおり、本工事の具体の工事内容を示すものではないことに留意すること。																																											
																				年 月 日						課 長		担 当		工 事 名 称		第87号木ノ下中学校講堂改築工事（建築）										No. 16 / 建	
																				R4. 2.								図 面 名		特記仕様書 工事区分表													





公図等転写連続図

S=1:1000



図面転写			
土地の所在	上北郡おいらせ町上久保 地内		
縮尺	1:1000		
精度区分	乙一		
測地系	世界測地系(2011)	座標系	第10系
図面	地図(法第14条第1項)		
地籍法務局	青森地方裁判所十和田支部		
転写年月日	令和4年1月31日		
転写者	青森県三沢市南山一丁目129番地7号 株式会社 出雲		
測量士補	S54-9511号	工務	真

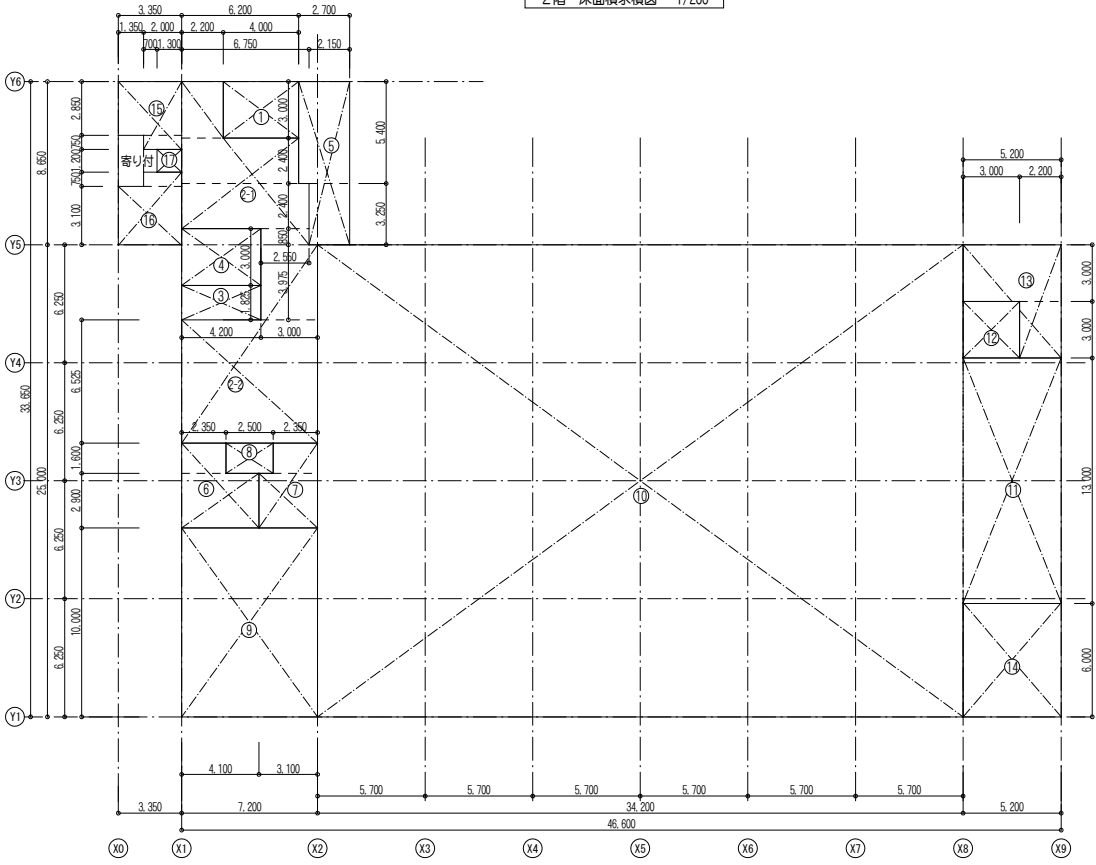
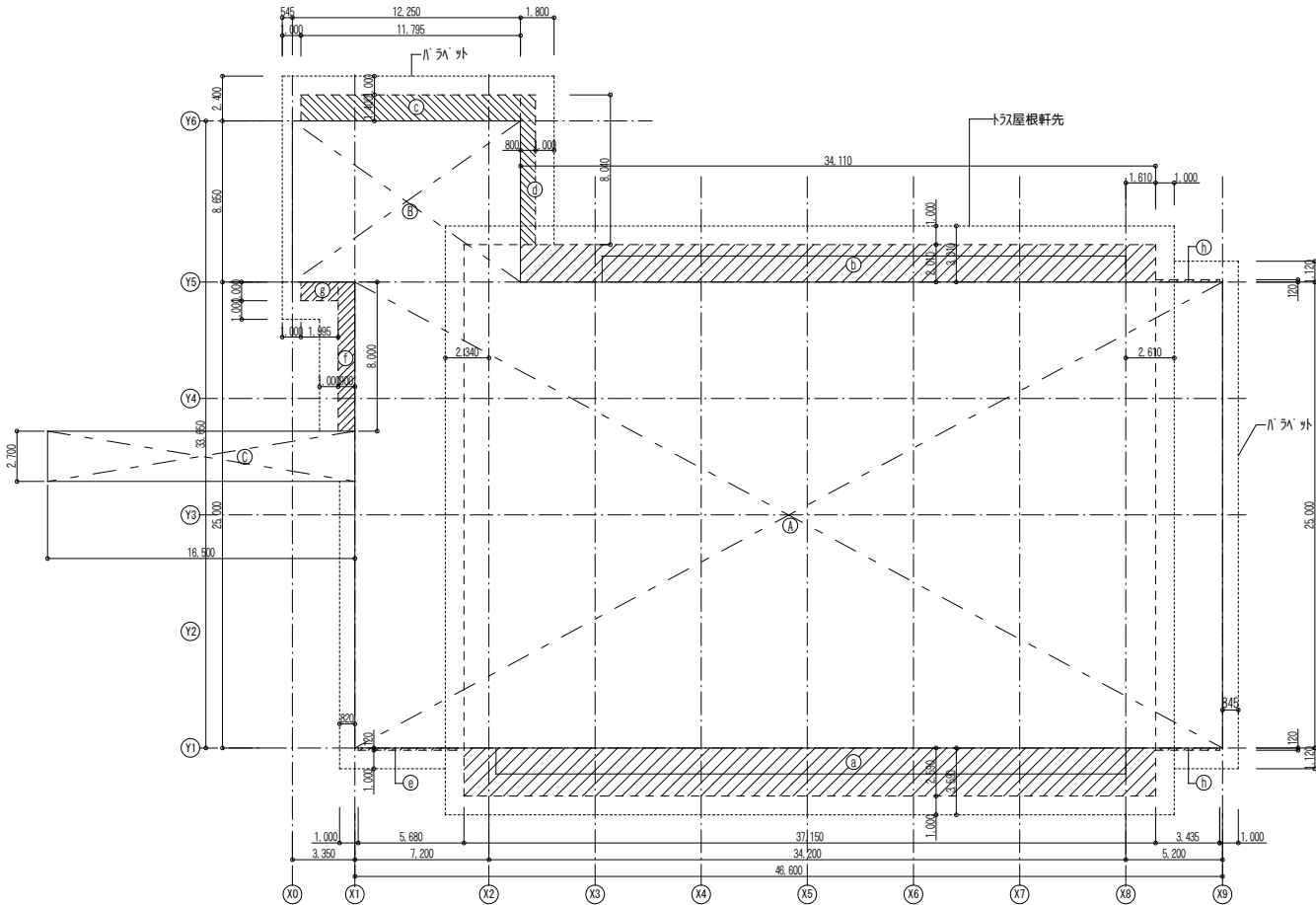
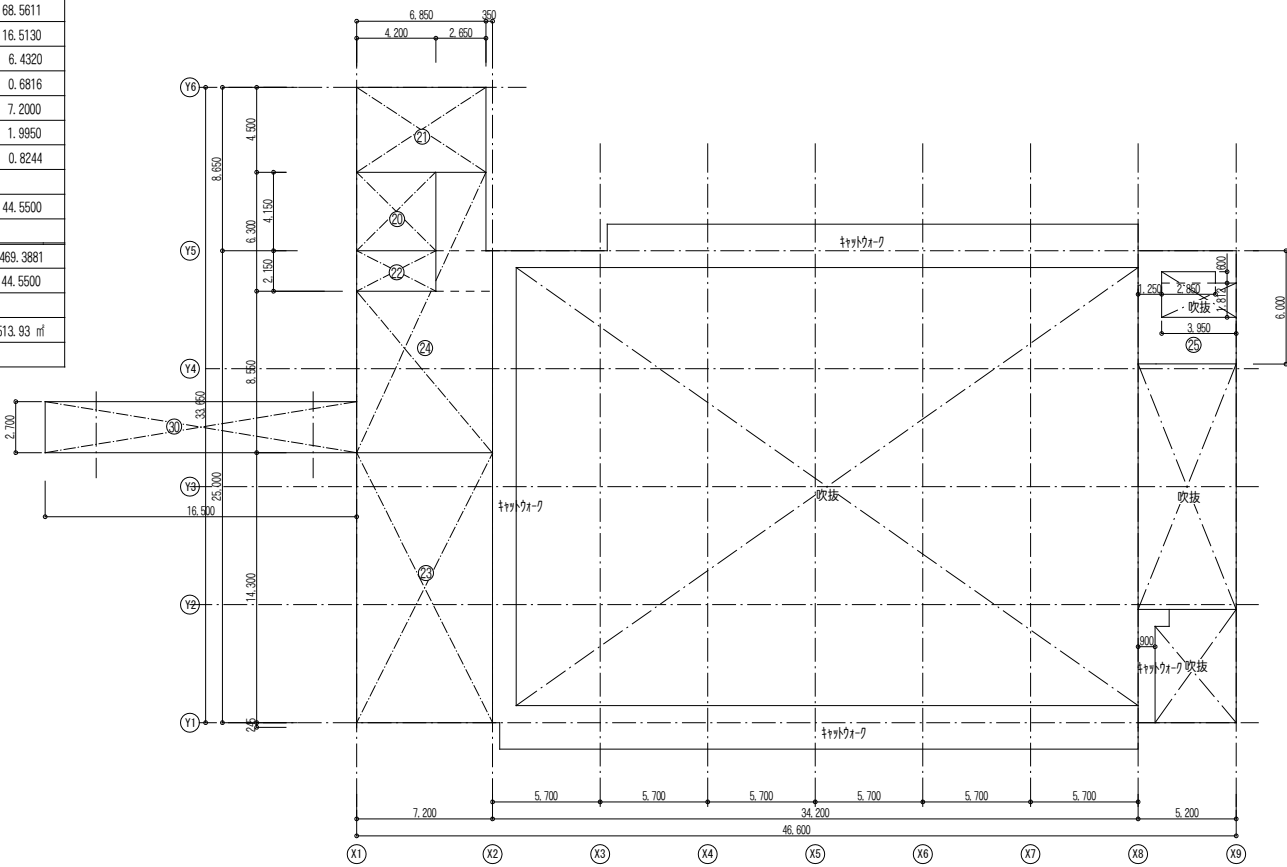
点名称	X座標	Y座標	倍面積 m²	辺長 mm
K-1	71991.555	46094.506	732504.378	11196
K-2	71974.100	46079.132	-1608890.851	23260
K-3	71958.330	46059.373	-1453024.224	25281
K-4	71941.640	46032.192	-1537008.220	31896
K-5	71918.505	45988.109	-2128889.664	49785
K-6	71890.708	46006.709	-2557179.956	33446
K-7	71884.469	45999.809	-574028.666	9302
K-8	71876.485	45984.134	-734399.801	17591
K-9	71871.385	45978.761	-469010.765	7408
K-10	71883.073	45978.831	1074800.335	11688
K-11	71905.362	45960.970	2049246.224	28562
K-12	71895.776	45947.139	-881031.133	16828
K-13	71898.841	45957.739	281688.451	11034
K-14	71895.100	45862.137	-343872.256	5774
K-15	71879.169	45976.039	-1464667.082	21144
K-16	71869.222	45975.853	-914645.470	9949
K-17	71845.812	45996.037	-2153061.945	30910
K-18	71834.772	46004.407	-1015684.902	13854
K-19	71829.001	46009.943	-531014.814	7997
K-20	71793.042	46039.779	-3310015.953	46725
K-21	71764.565	46064.142	-2622843.358	37477
K-22	71728.662	46093.458	-3308734.313	46351
K-23	71831.008	46205.666	9446446.145	151873
K-24	71853.944	46219.940	2119873.699	27015
K-25	71883.224	46191.965	2705820.578	40496
K-26	71888.398	46187.344	477970.545	6937
K-27	71893.610	46182.201	481430.069	7322
K-28	71894.136	46179.297	48582.148	2951
K-29	71895.549	46178.012	130500.878	1910
K-30	71904.986	46169.929	871487.519	12425
K-31	71931.971	46146.663	2491163.235	35630
K-32	71975.231	46109.665	3991008.749	56923
K-33	71983.610	46102.395	772644.851	11093
倍面積 m²			67164.431	
面積 m²			33582.216	
地積 m²			33582.21	

1階室別面積算定表					面積（単位㎡）	計
1	風除室	3.00 ×	4.00		12.0000	1,241.9850 [1-1]
2-1	玄関・F・J・階段室	3.00 ×	2.20 =	6.6000	98.7525	
		2.40 ×	6.20 =	14.8800		
		2.40 ×	6.75 =	16.2000		
		0.85 ×	2.55 =	2.1675		
2-2		3.975 ×	3.00 =	11.9250		
		6.525 ×	7.20 =	46.9800		
3	物置	1.825 ×	4.20		7.6650	
4	男子更衣室	3.00 ×	4.20		12.6000	
5	女子更衣室	5.40 ×	2.70 =	14.5800	21.5675	
		3.25 ×	2.15 =	6.9875		
6	女子便所	2.90 ×	4.10 =	11.8900	15.6500	
		1.60 ×	2.35 =	3.7600		
7	男子便所	2.90 ×	3.10 =	8.9900	12.7500	
		1.60 ×	2.35 =	3.7600		
8	多機能便所	1.60 ×	2.50		4.0000	
9	器具庫	10.00 ×	7.20		72.0000	
10	講堂	25.00 ×	34.20		855.0000	
11	フーフ	13.00 ×	5.20		67.6000	
12	放送室	3.00 ×	3.00		9.0000	
13	ハット1	3.00 ×	5.20 =	15.6000	22.2000	
		3.00 ×	2.20 =	6.6000		
14	ハット2	6.00 ×	5.20		31.2000	
15	外部男子便所	2.85 ×	3.35 =	9.5475	11.0475	
		0.75 ×	2.00 =	1.5000		
16	外部女子便所	3.10 ×	3.35 =	10.3850	11.8850	
		0.75 ×	2.00 =	1.5000		
17	掃除用具入	1.20 ×	1.30		1.5600	
	1階床面積				1,266.4775	

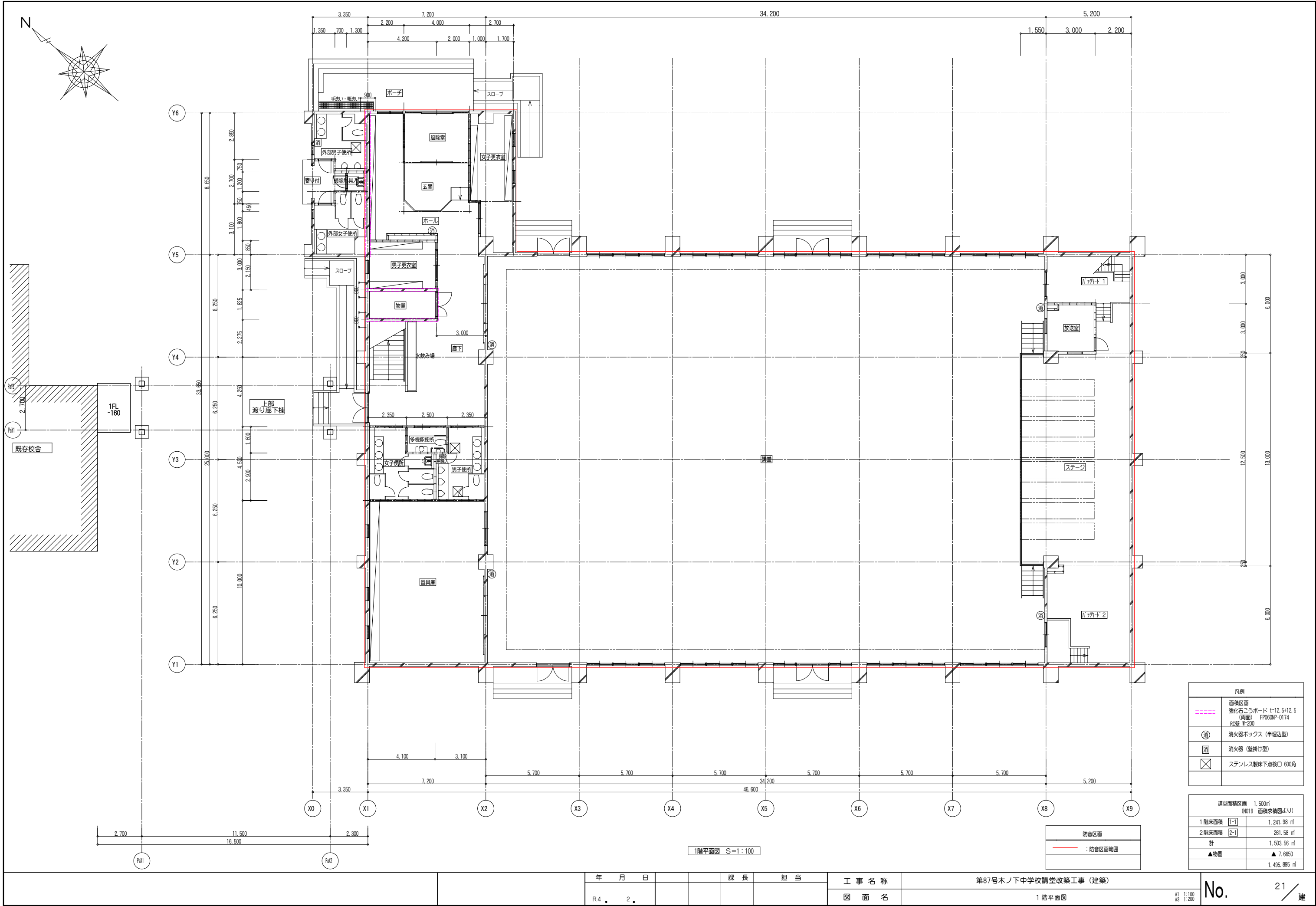
2階室別面積算定表					面積 (単位㎡)		
20	部室1	4.15 ×	4.20		17.4300	261.5851 [2-1]	
21	部室2	4.50 ×	6.85		30.8250		
22	倉庫	2.15 ×	4.20		9.0300		
23	多目的室	14.30 ×	7.20		102.9600		
24	A-I・廊下・階段室	4.15 ×	2.65 =	10.9975	79.0075		
		2.15 ×	3.00 =	6.4500			
		8.55 ×	7.20 =	61.5600			
25	A' ヲナト 3	6.00 ×	5.20 =	31.2000	22.3326	44.5500 [2-3]	
		-0.60 ×	2.85 =	-1.7100			
		-1.812 ×	3.95 =	-7.1574			
30	渡り廊下	2.70 ×	16.50		44.5500		
	2階床面積					306.1351	

	講堂		渡り廊下	計
	防音区画	その他		
	[1-1] [2-1]	[1-2] [2-2]	[2-3]	
1階床面積	1,241.9850	24.4925		1,266.4775 ≒ 1,266.47 ㎡
2階床面積	261.5851		44.5500	306.1351 ≒ 306.13 ㎡
延べ床面積				1,572.60 ㎡
計	1,241.98+261.58 =1,503.56	24.49		
	1,528.05	44.55		1,572.60 ㎡

建築面積算定表				
A	25.00	×	46.60	= 1,165.0000
B	8.85	×	12.25	= 108.9625
a	37.15	×	2.59	= 96.2185
b	34.11	×	2.01	= 68.5611
c	1.40	×	11.795	= 16.5130
d	8.04	×	0.80	= 6.4320
e	0.12	×	5.68	= 0.6816
f	8.00	×	0.90	= 7.2000
g	1.00	×	1.995	= 1.9950
h	0.12	×	3.435 × 2	= 0.8244
C	2.70	×	16.50	= 44.5500
講堂建築面積	A~B + a~h =			1,469.3881
渡り廊下建築面積	C =			44.5500
計 建築面積		1,513.9381		1,513.93 ㎡



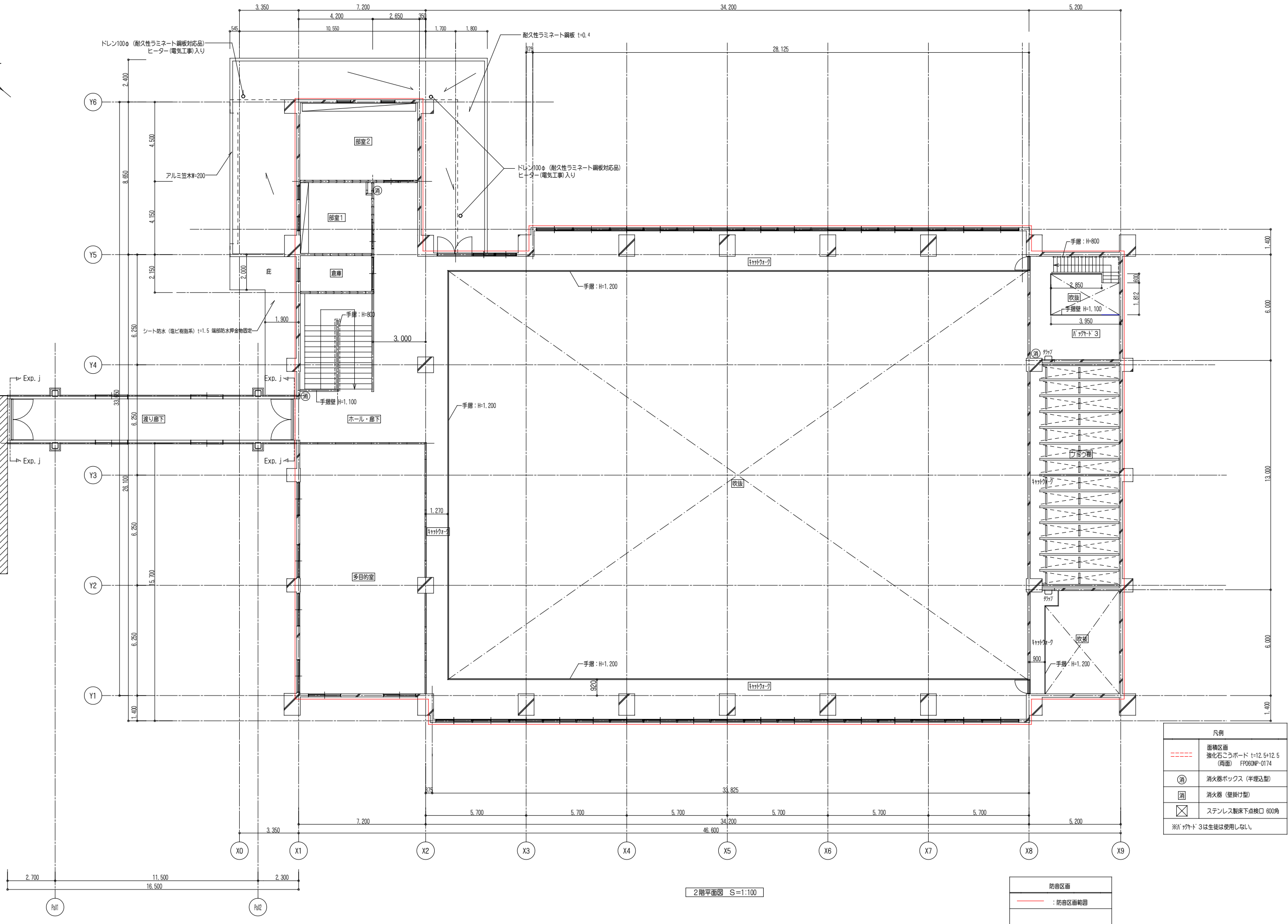
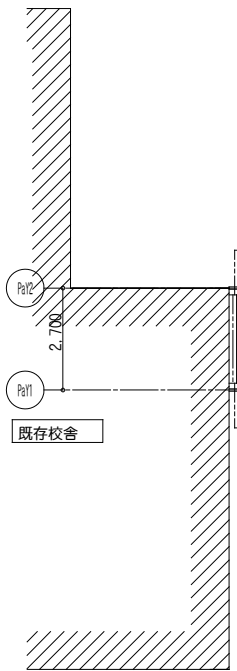
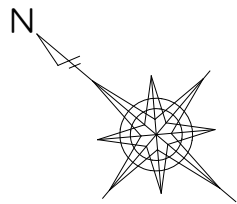




年 月 日				課 長	担 当
R 4 .	2 .				

工 事 名 称	第87号木ノ下中学校講堂改築工事（建築）
図 面 名	1 階平面図

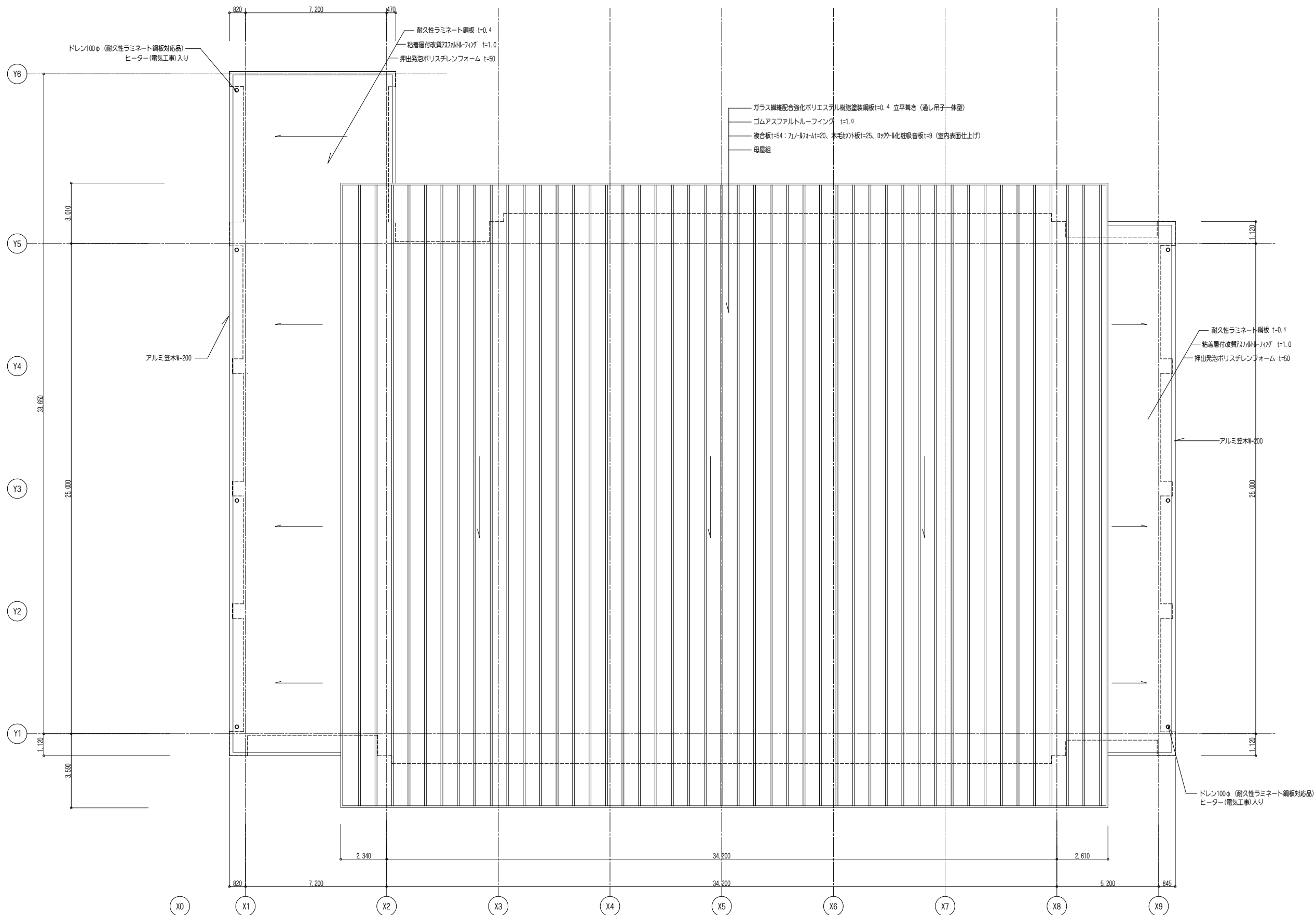
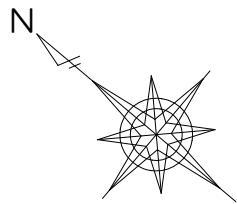
A1 1:100  
A3 1:200



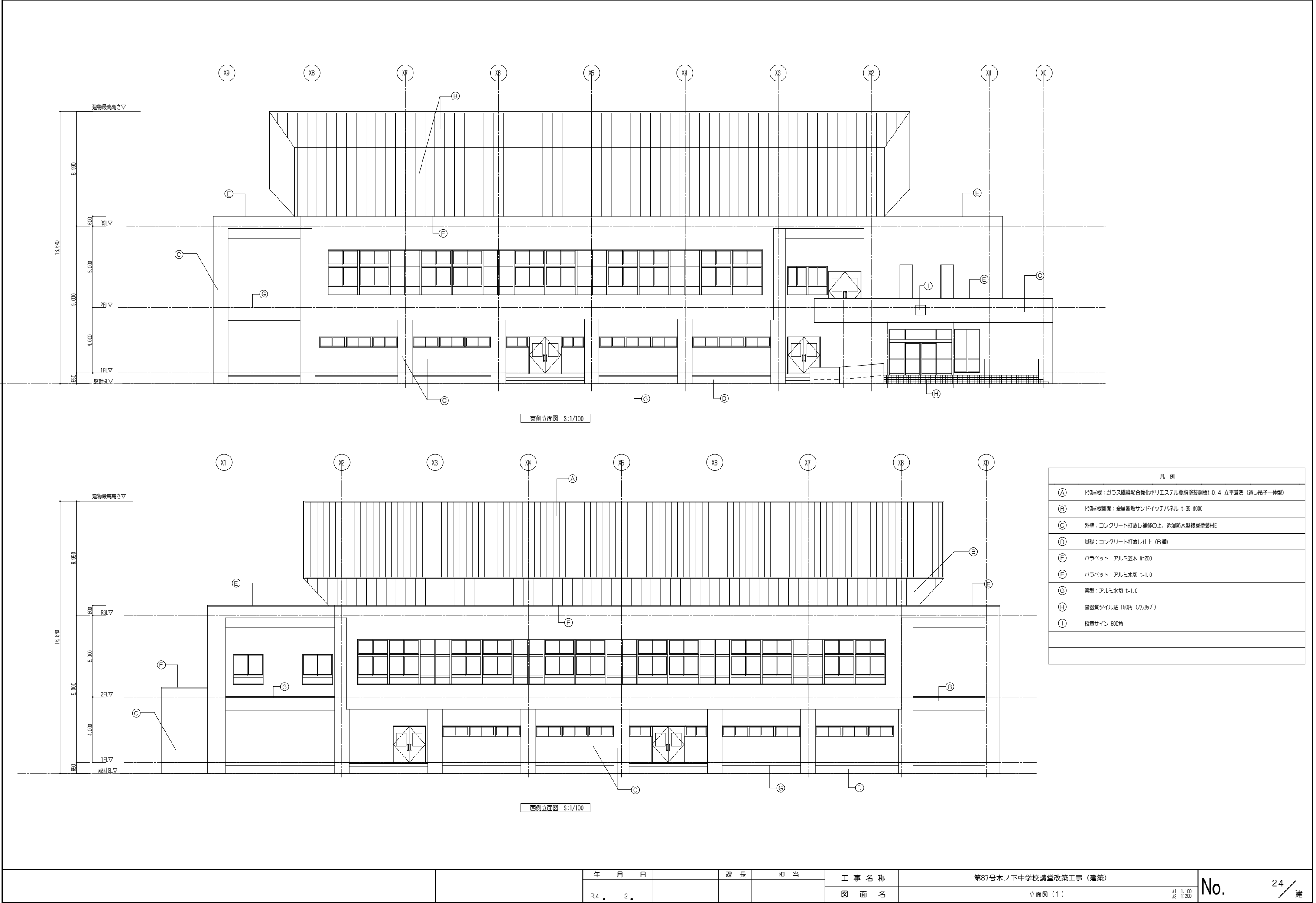
凡例	
面線区画	強化石膏ボード t=12.5+12.5 (両面) FP060NP-0174
消	消火器ボックス (半埋込型)
消	消火器 (壁掛け型)
消	ステンレス製床下点検口 600角
※A' 'サット' 3は生徒は使用しない。	

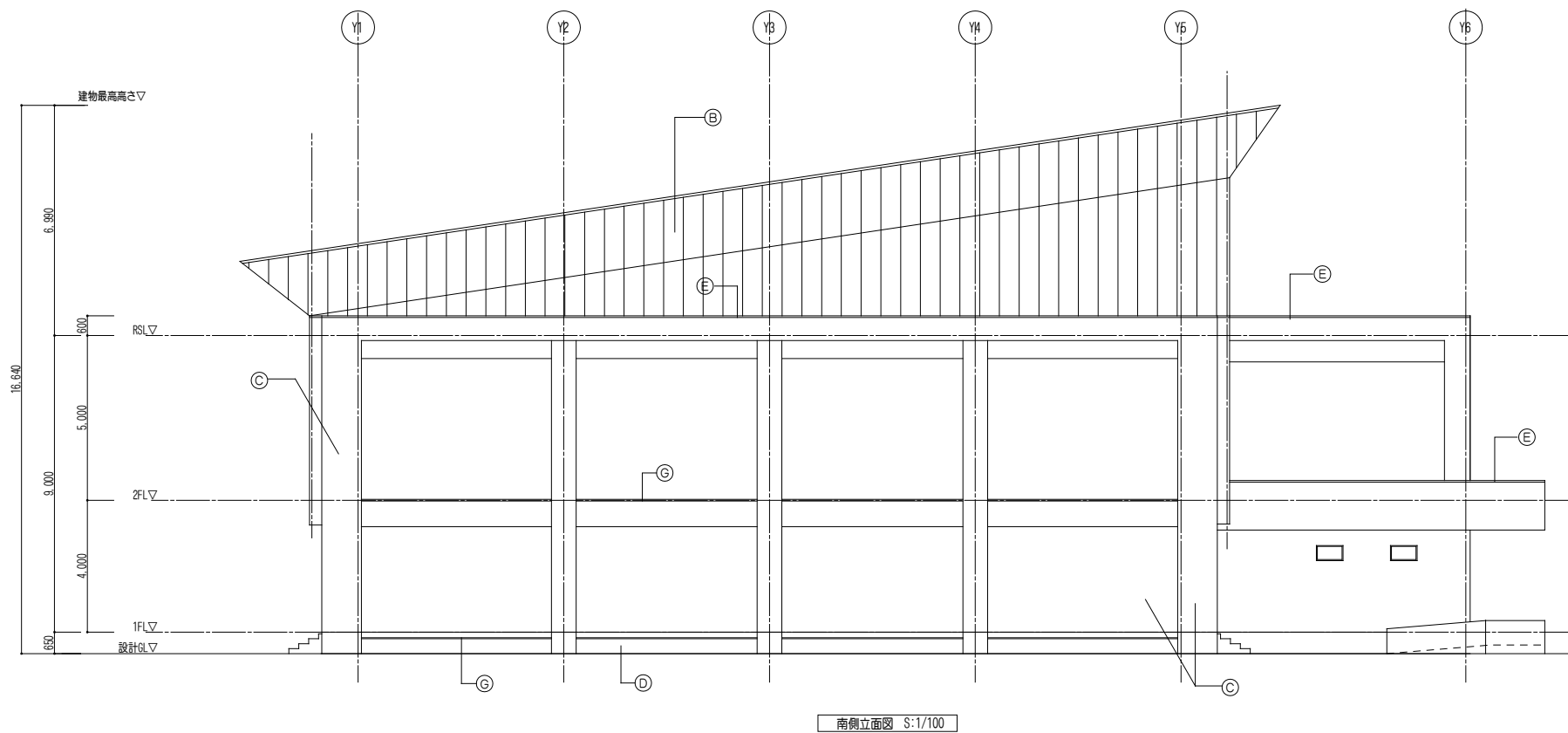
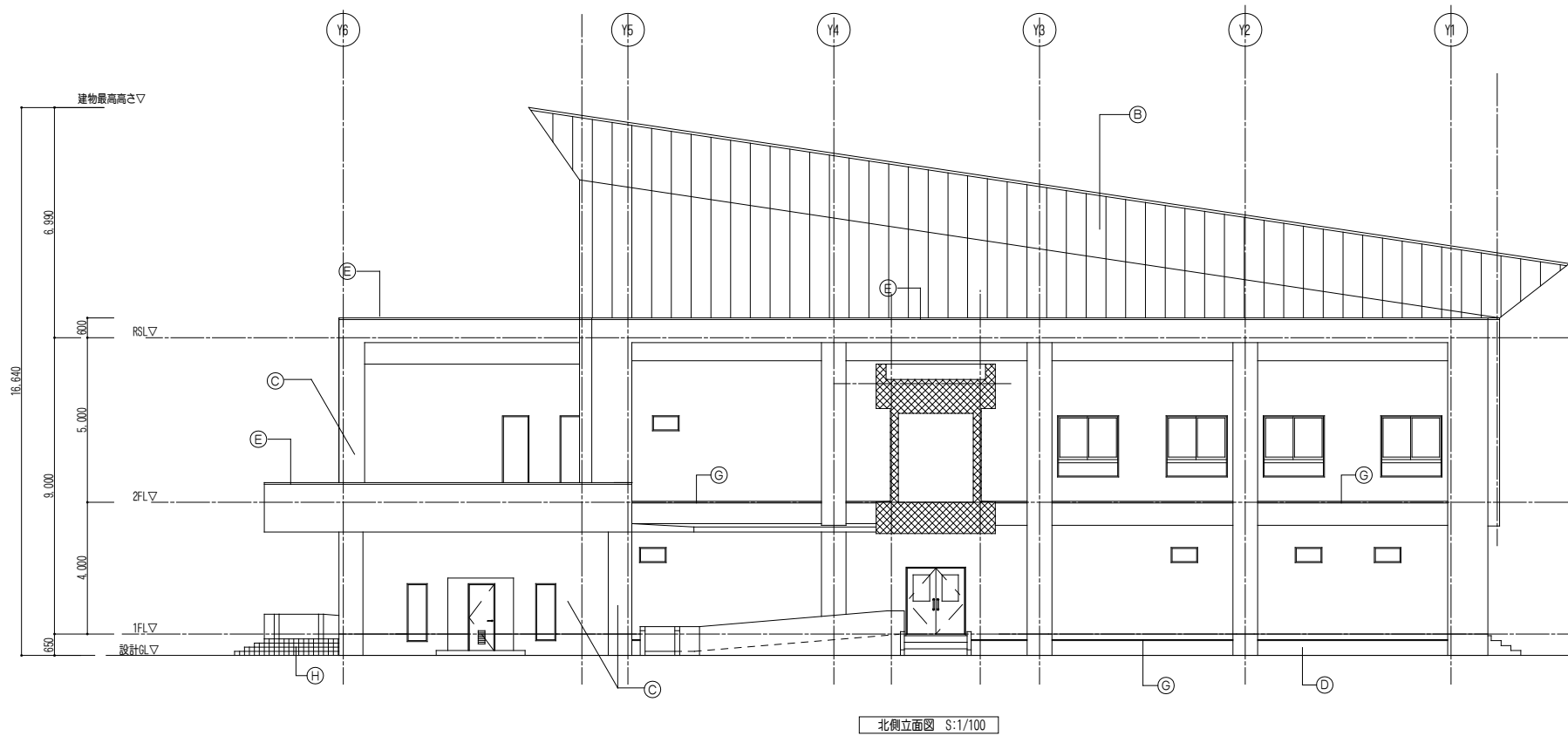
2階平面図 S=1:100

防音区画
防音区画範囲



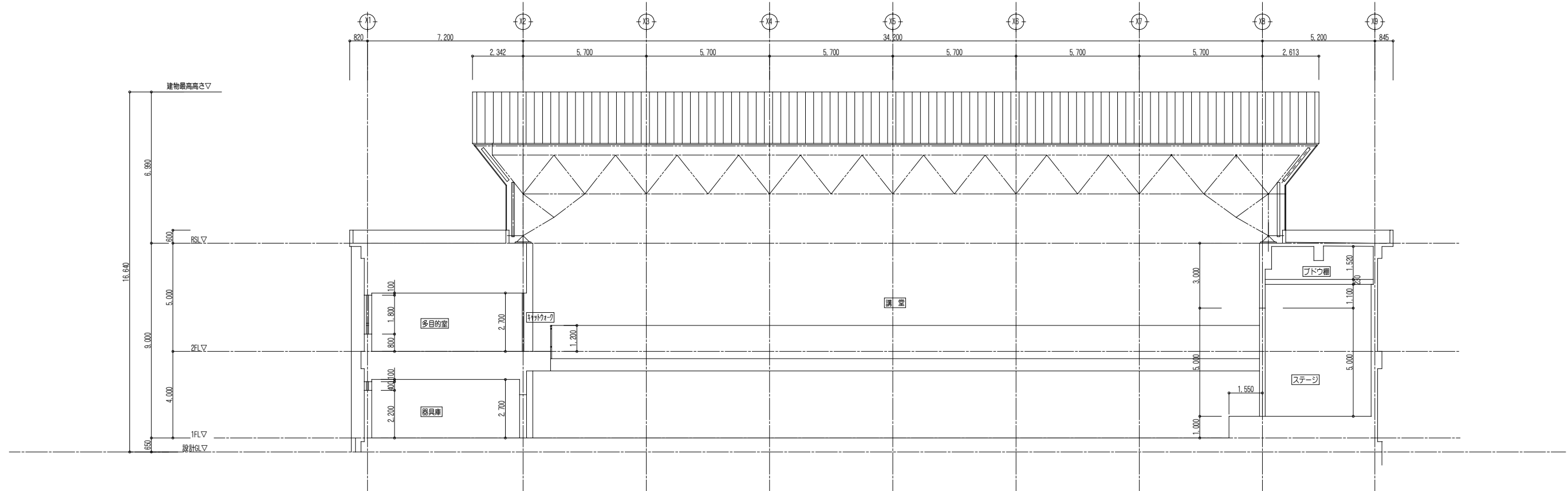
屋根伏図 S=1:100



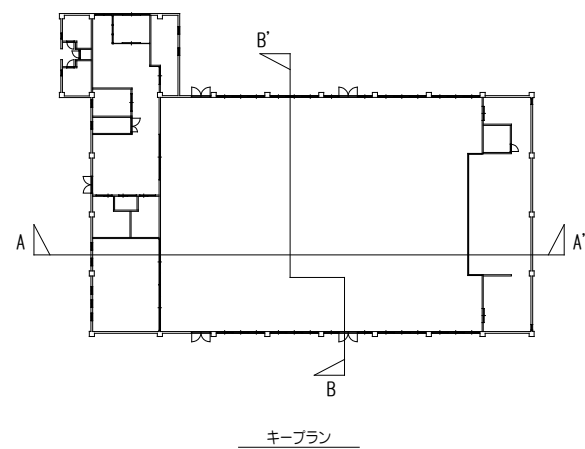


凡 例	
Ⓐ	トノ屋根：ガラス繊維配合強化ポリエステル樹脂塗装鋼板t=0.4 立平置き（通し吊子一体型）
Ⓑ	トノ屋根側面：金属断熱サンドイッチパネル t=35 600
Ⓒ	外壁：コンクリート打放し補修の上、透湿防水型複層塗装材E
Ⓓ	基礎：コンクリート打放し仕上（B種）
Ⓔ	バラベット：アルミ笠木 W=200
Ⓕ	バラベット：アルミ水切 t=1.0
Ⓖ	梁型：アルミ水切 t=1.0
Ⓗ	磁器質タイル貼 150角（ノズル7）
Ⓘ	校章サイン 600角

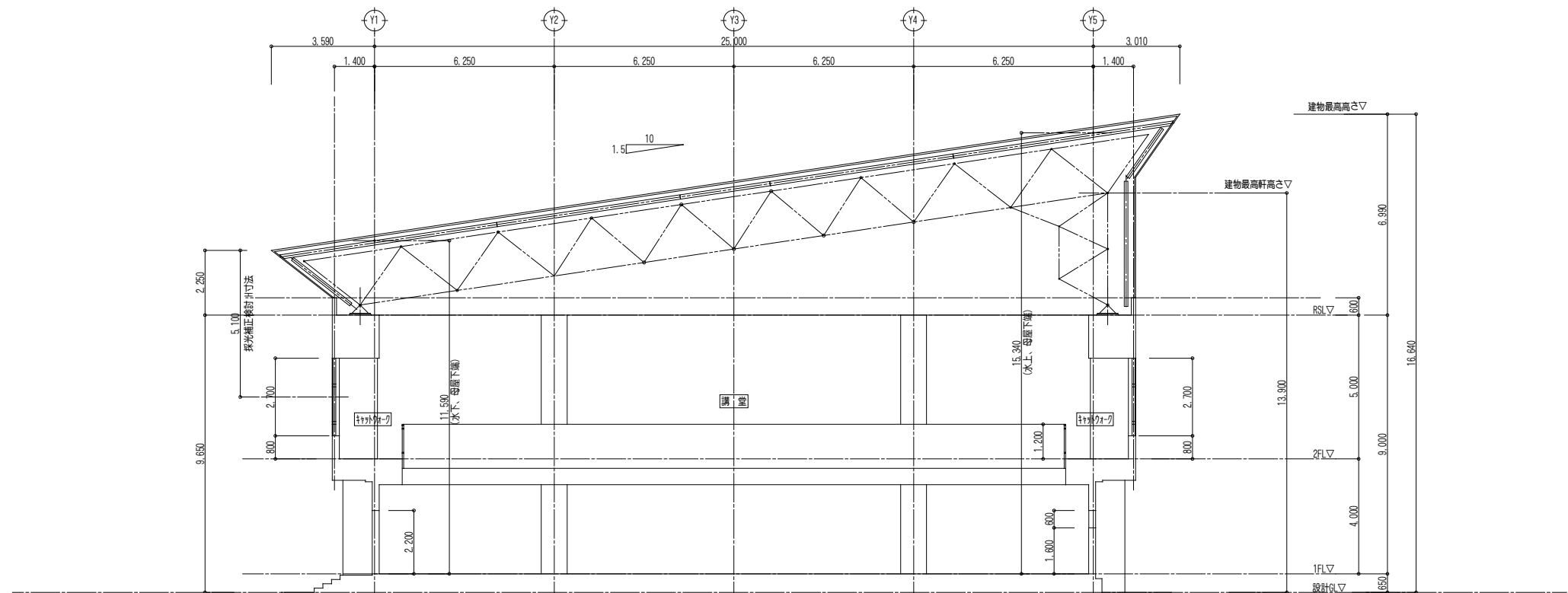




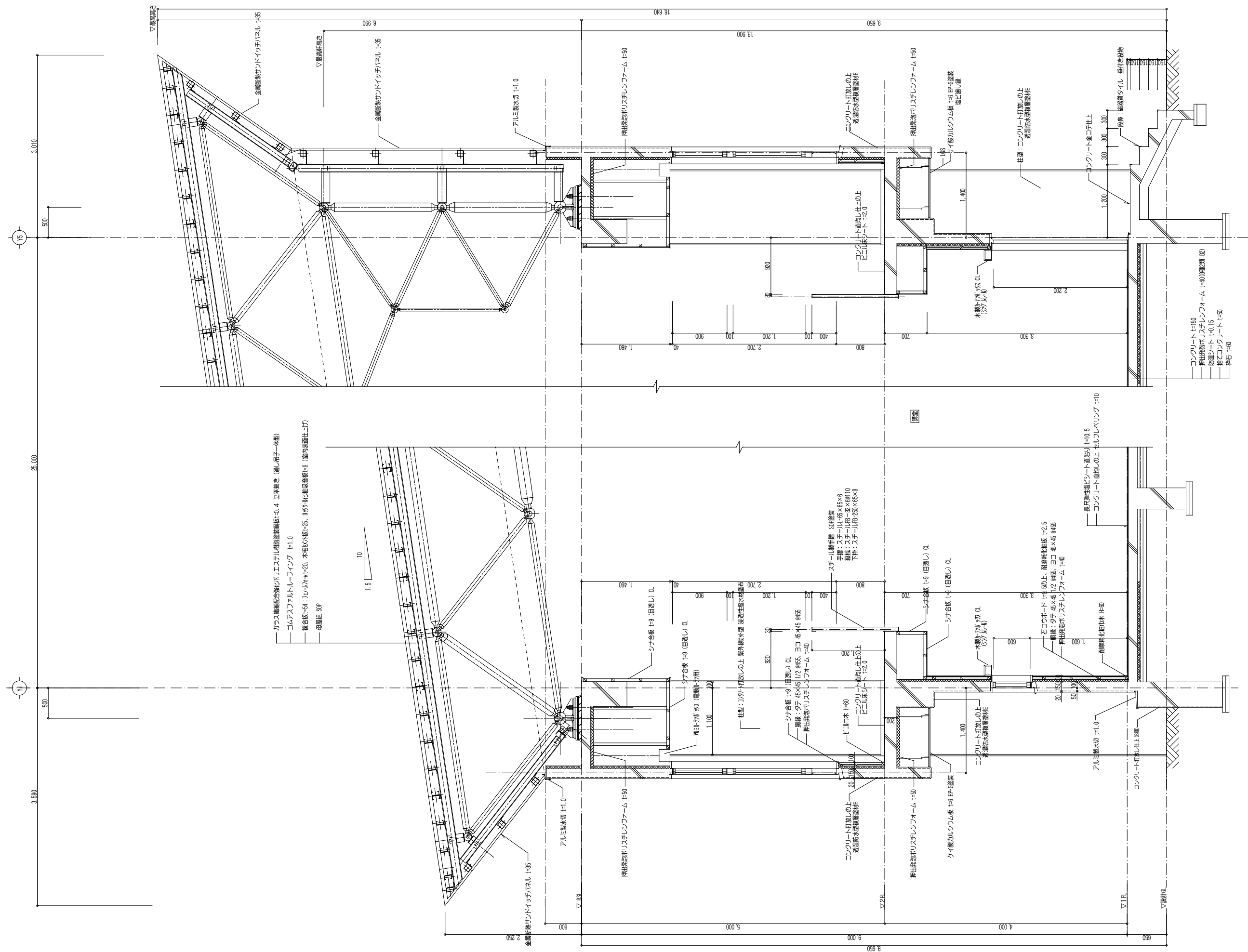
A - A' 断面図 1/100



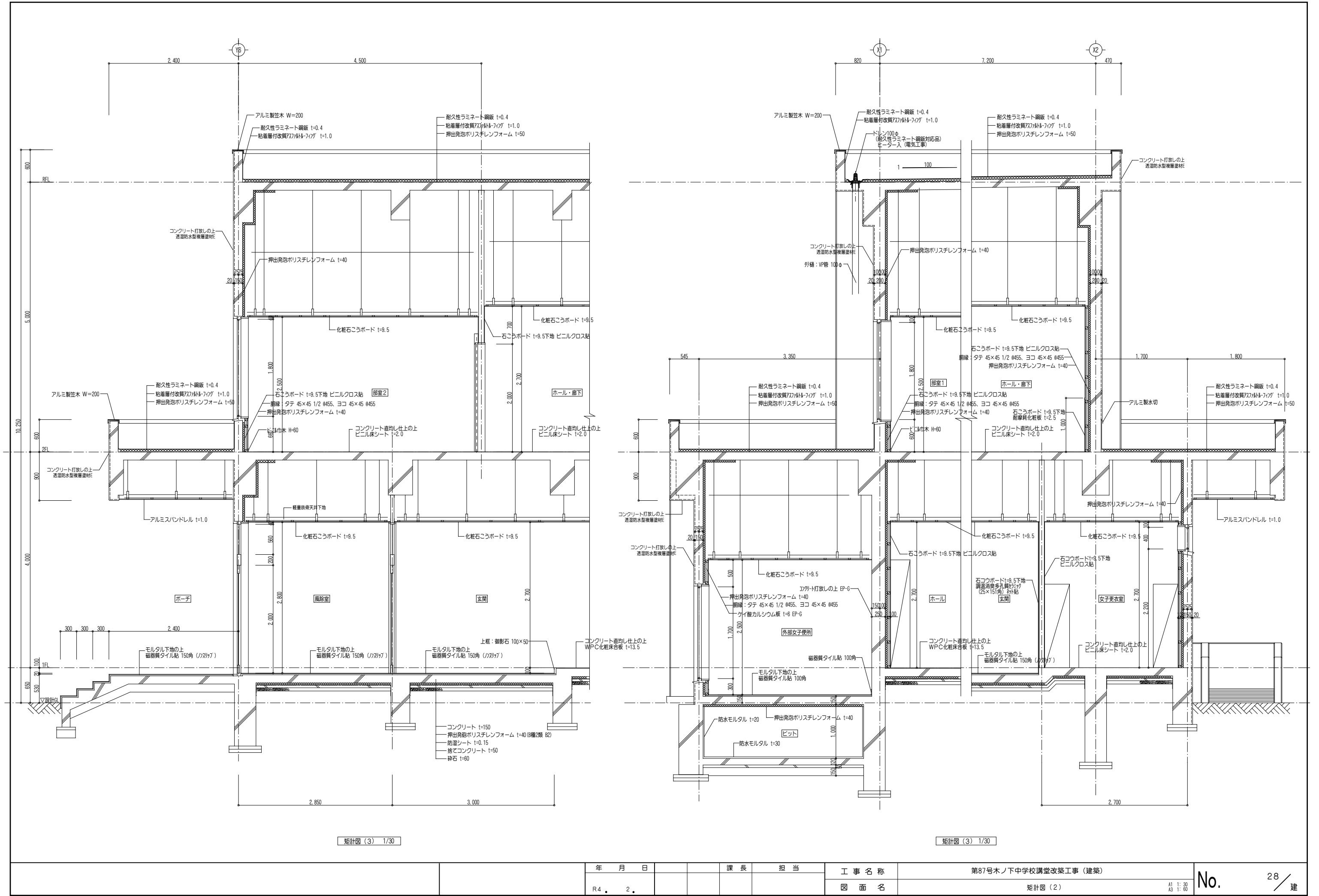
キープラン



B - B' 断面図 1/100



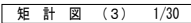
矩計圖(1) S:1/30



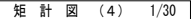
矩計図 (3) 1/30

矩計図 (3) 1/30

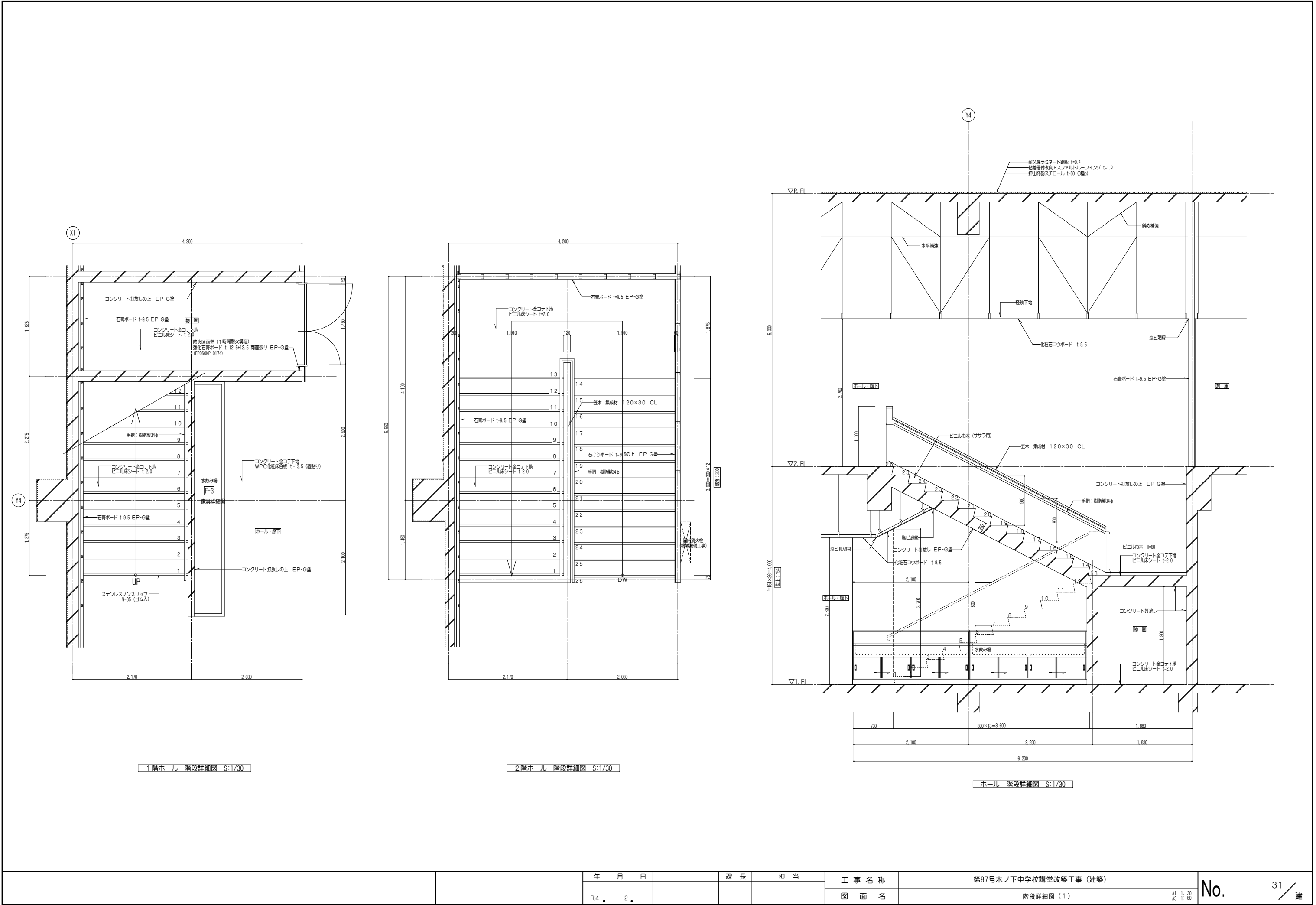
年 月 日	課 長	担 当	工 事 名 称	第87号木ノ下中学校講堂改築工事（建築）	No. 28 / 建
R4 . 2 .			図 面 名	矩計図 (2)	A1 1: 30 A3 1: 60

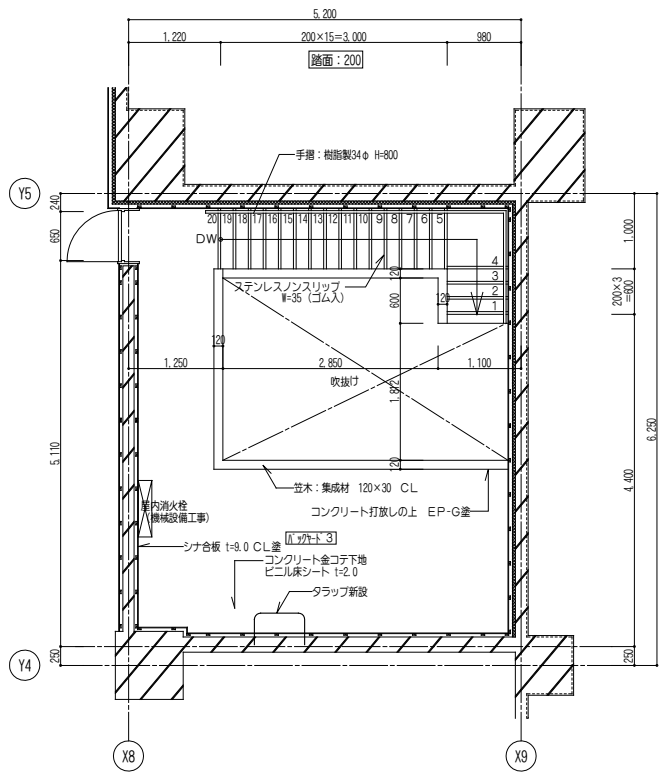


A1	1: 30
A3	1: 60

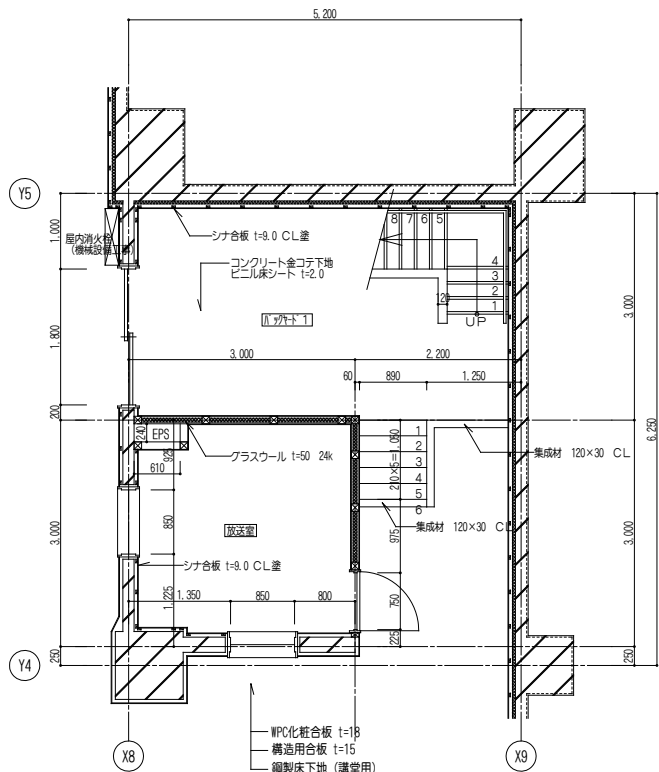


A1	1: 30
A3	1: 60

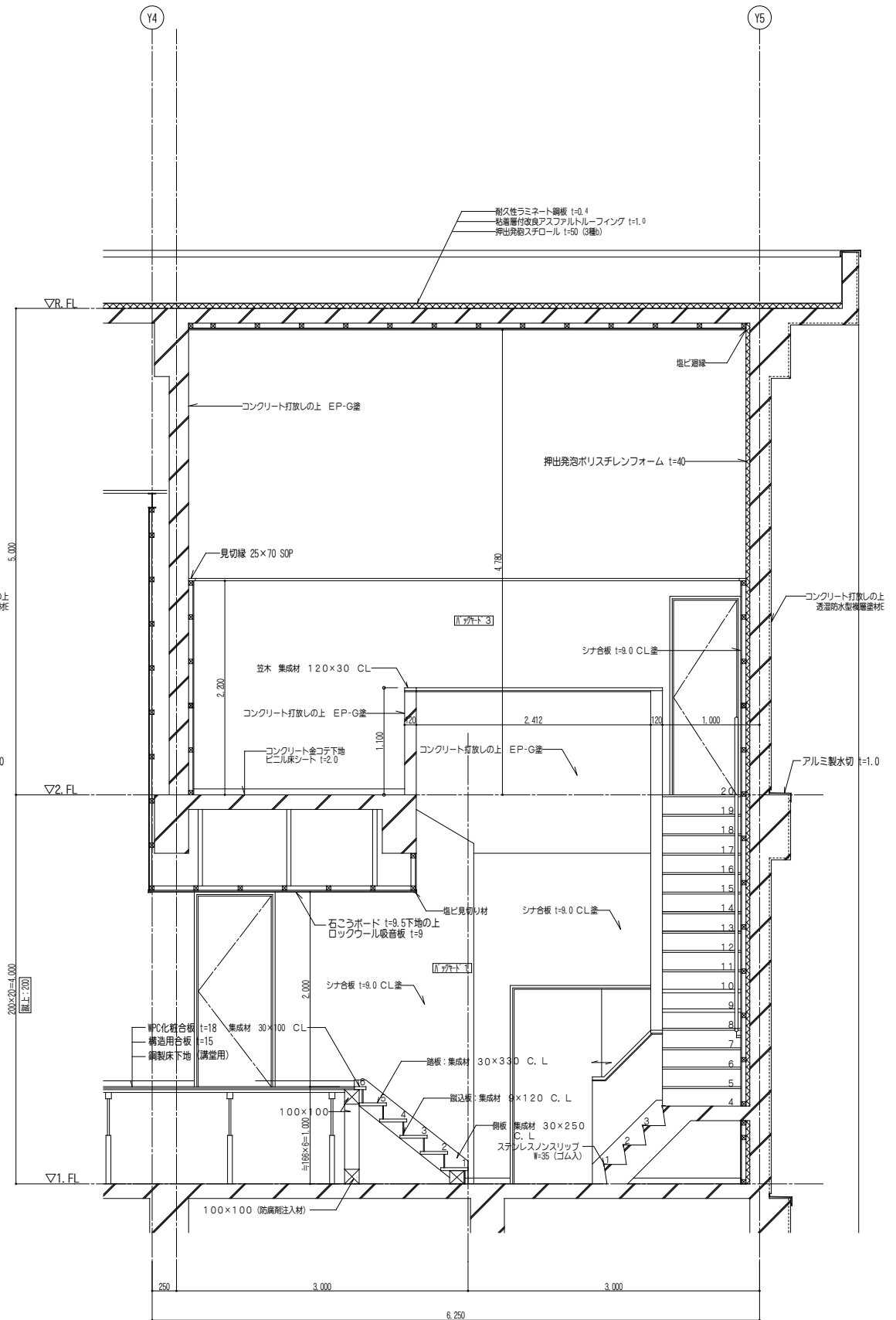
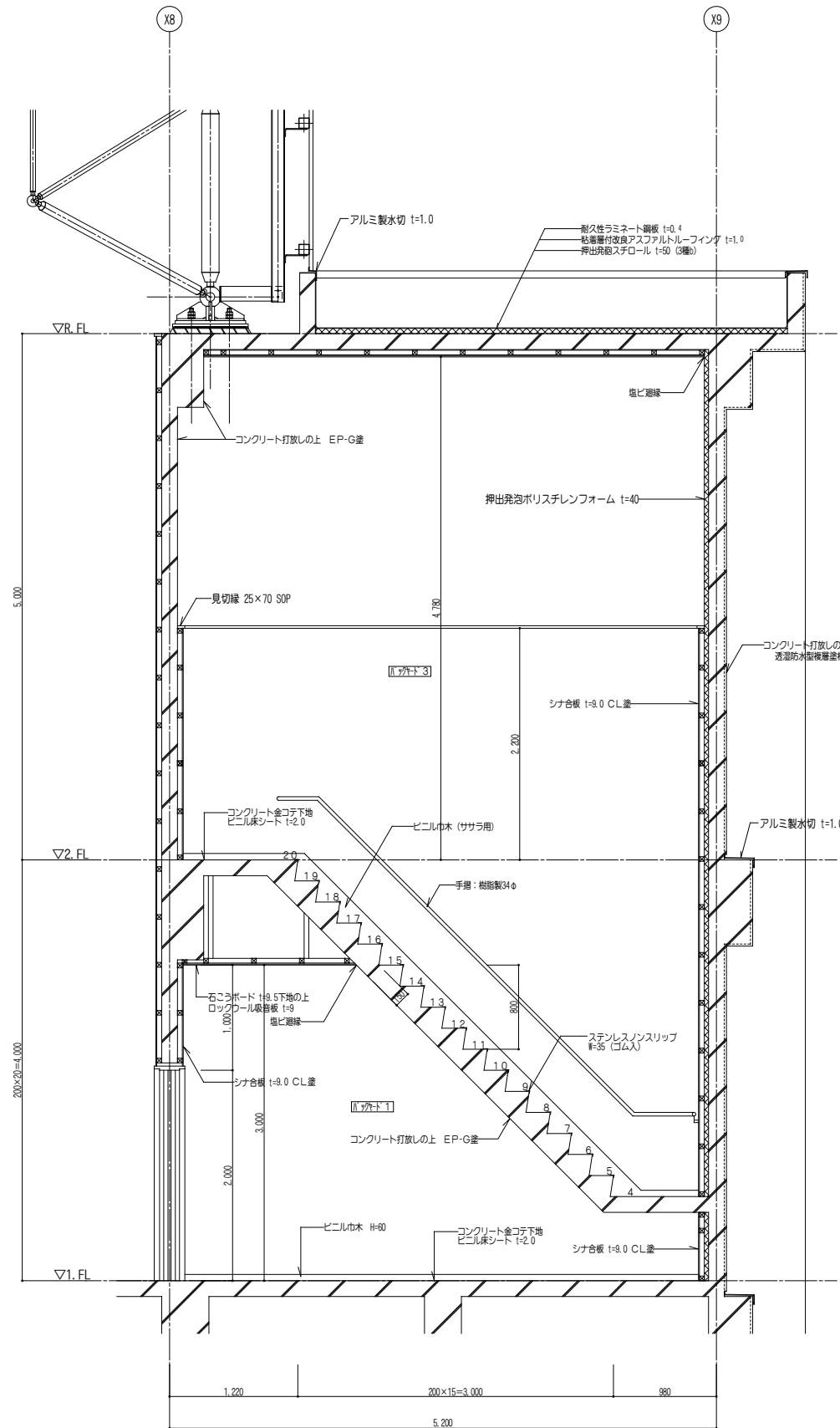


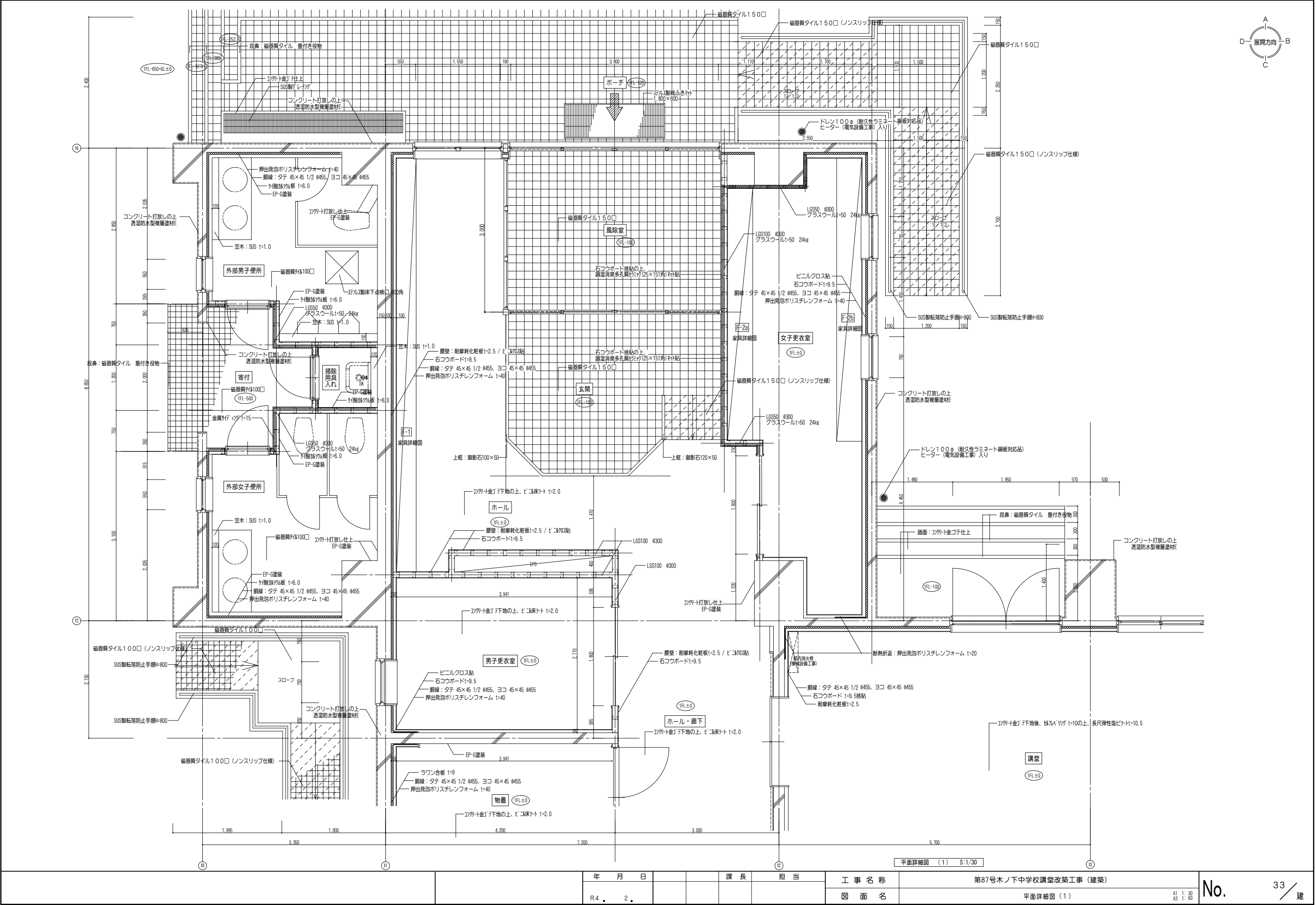


2階控室3 階段詳細図 S:1/50

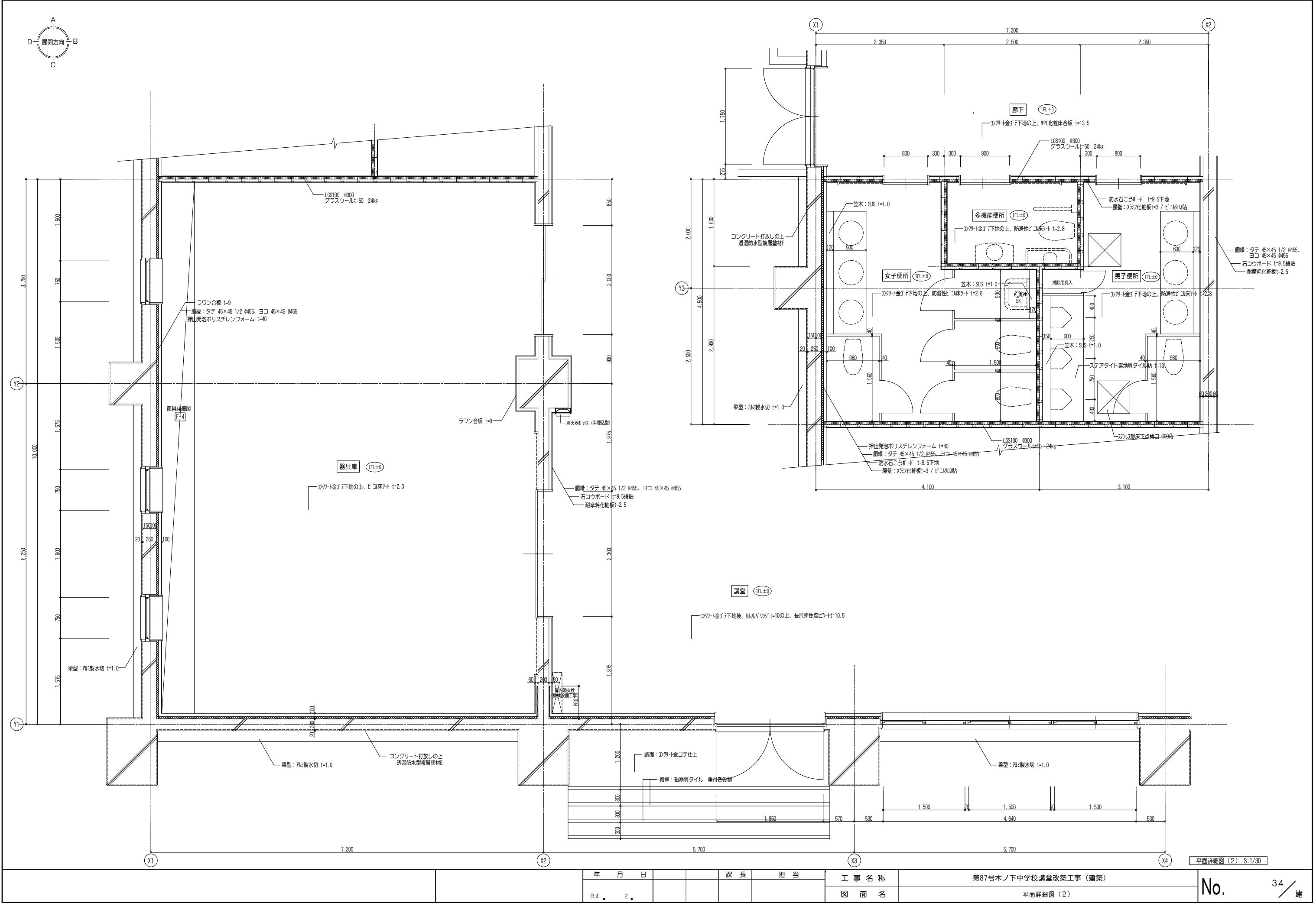


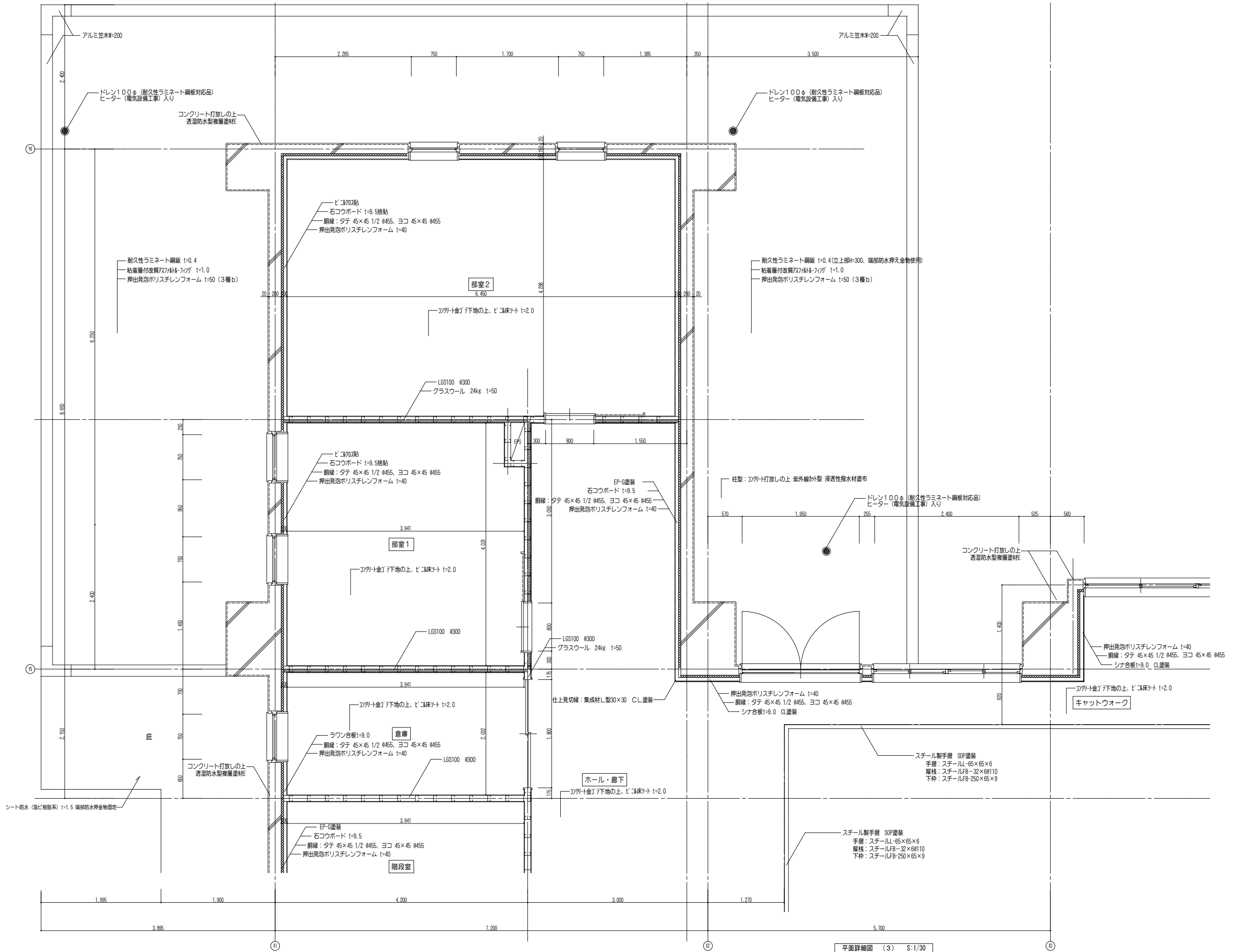
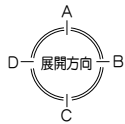
1階控室1 階段詳細図 S:1/50



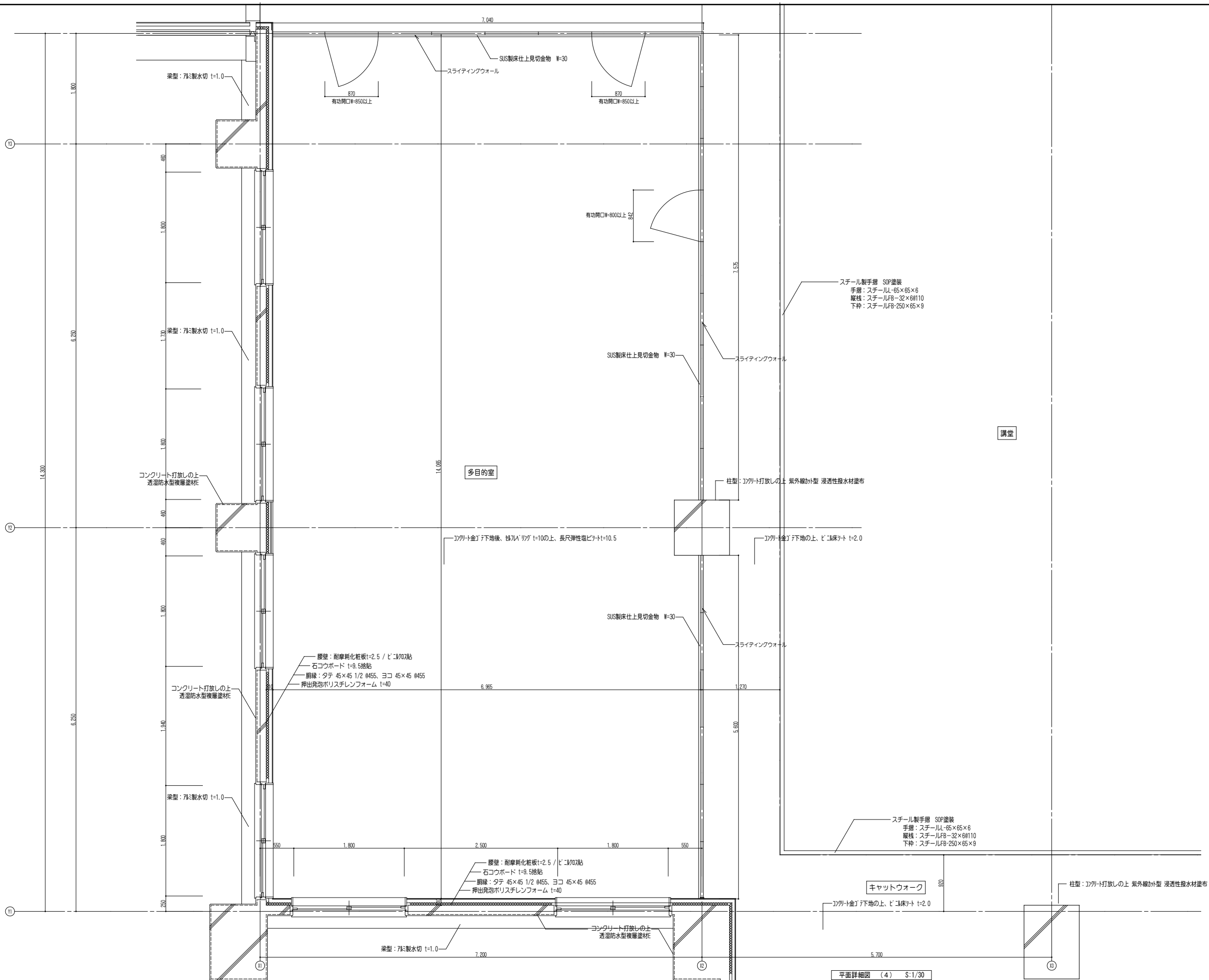


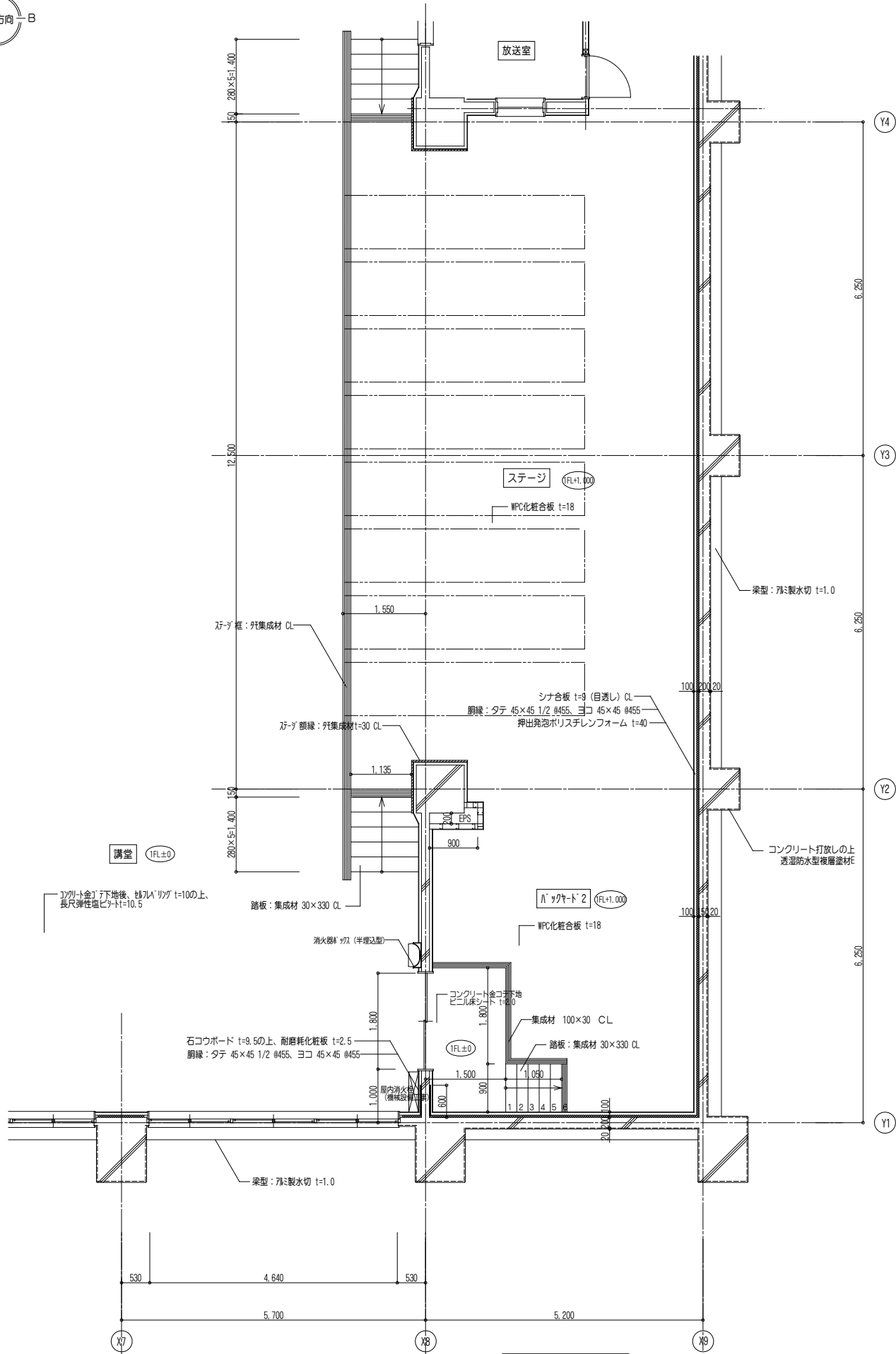
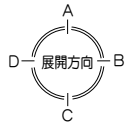




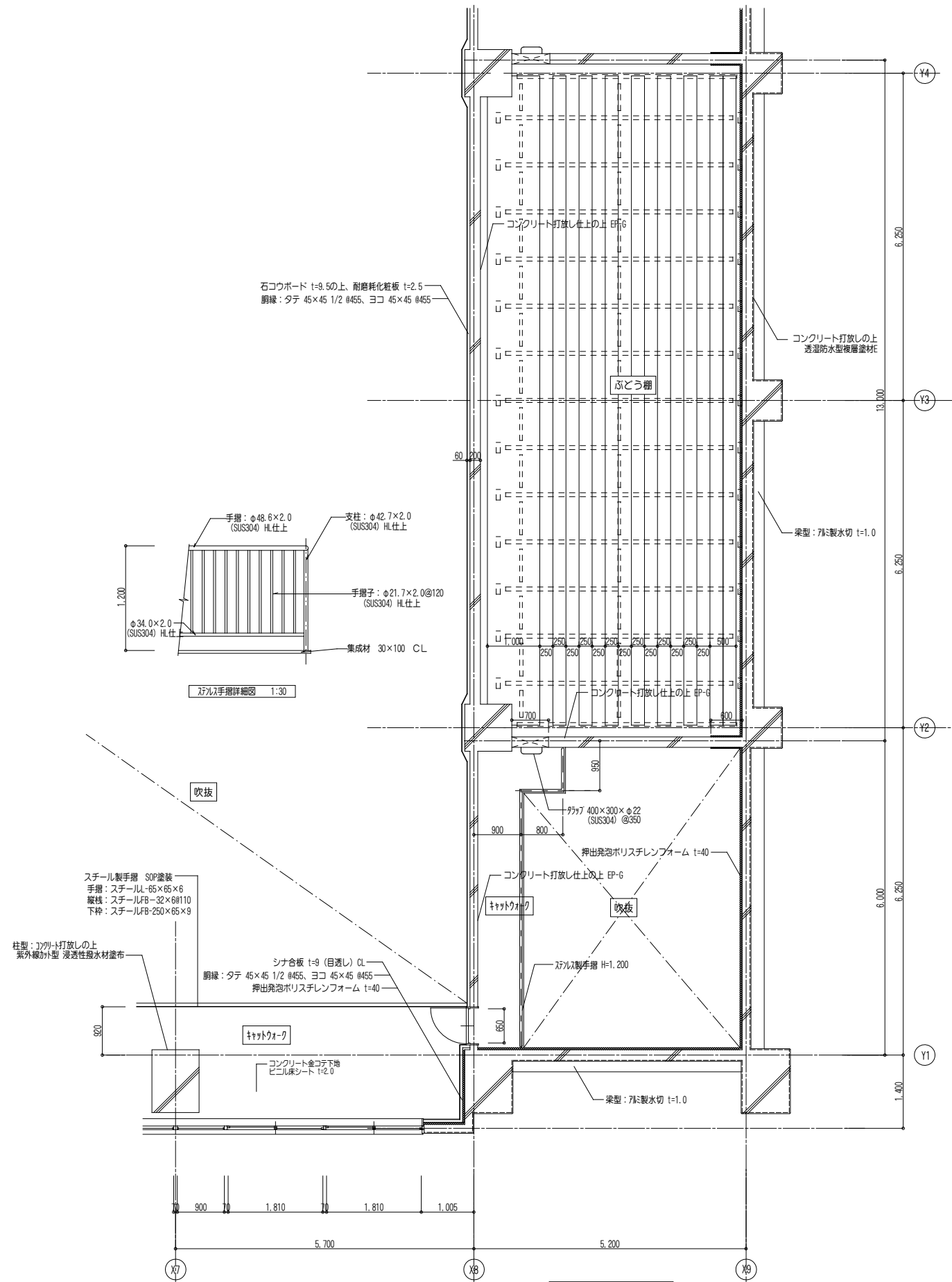


平面詳細図 (3) S:1/30

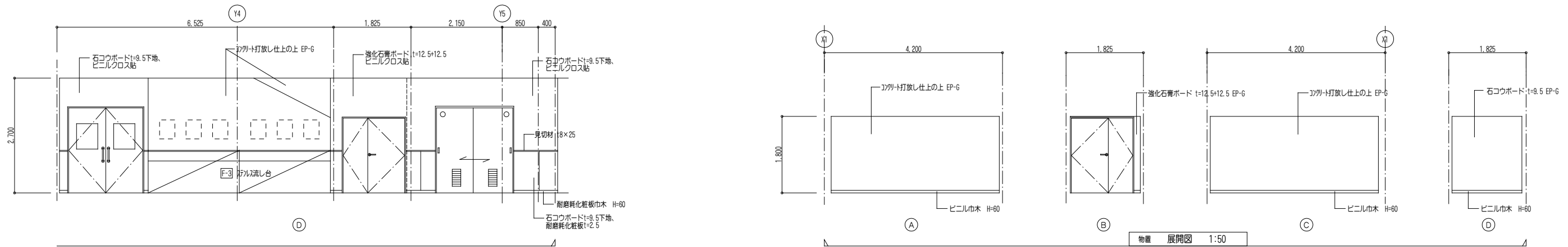
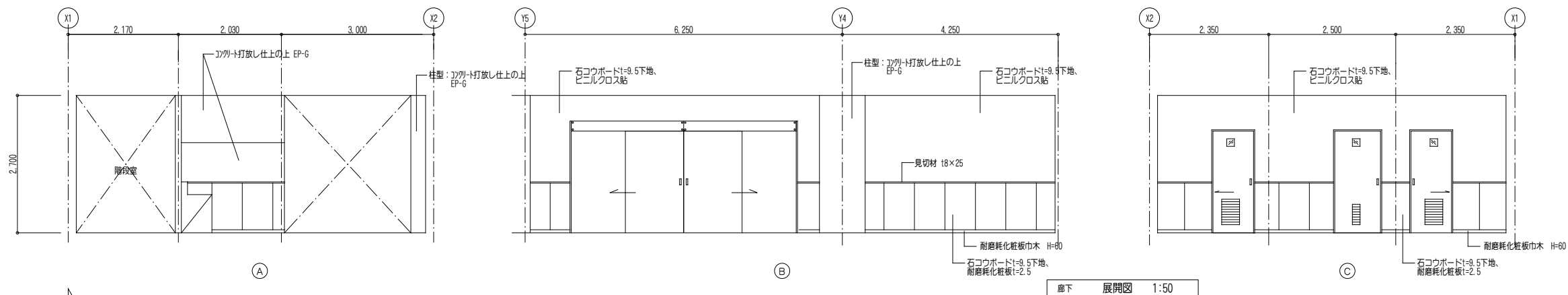
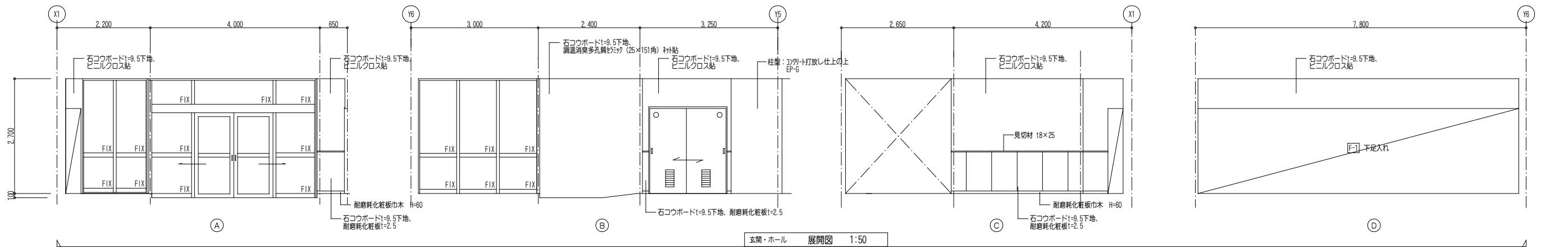
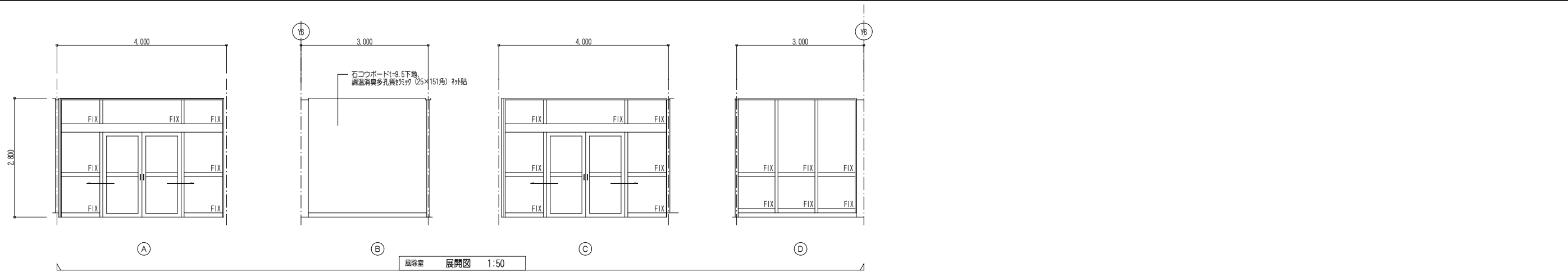


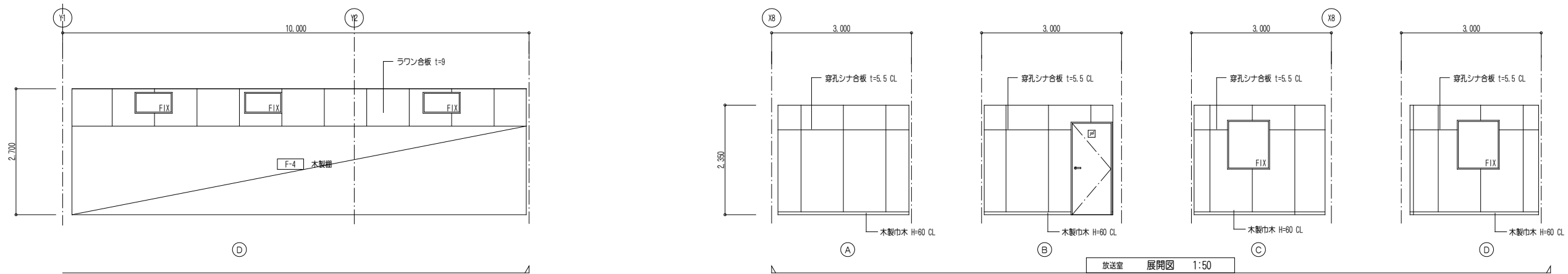
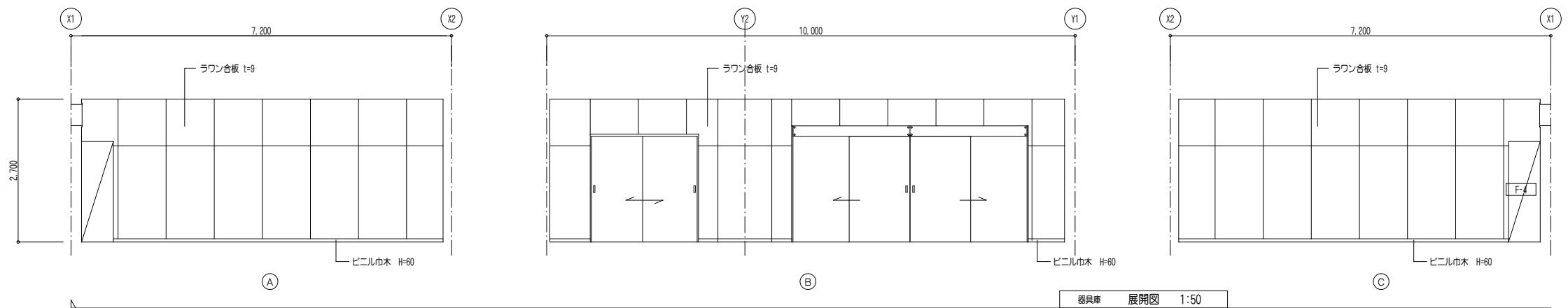
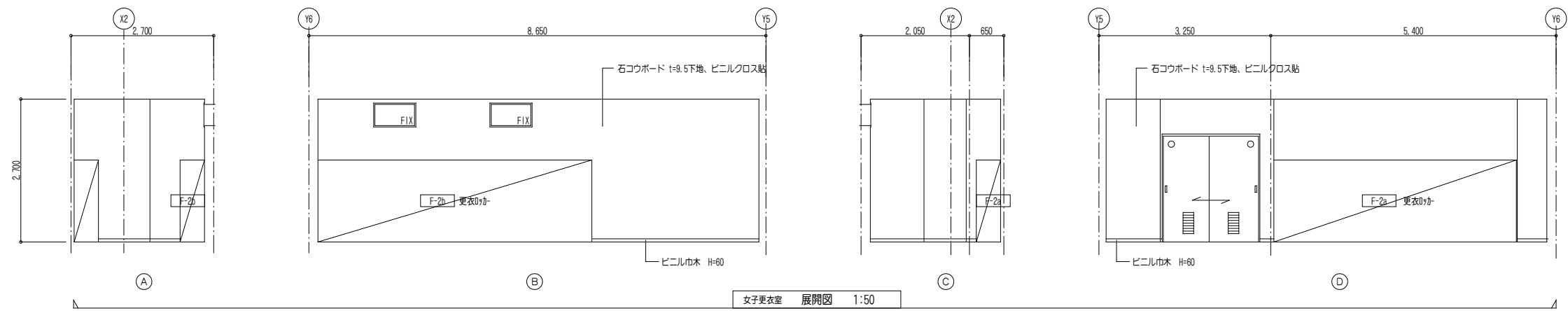
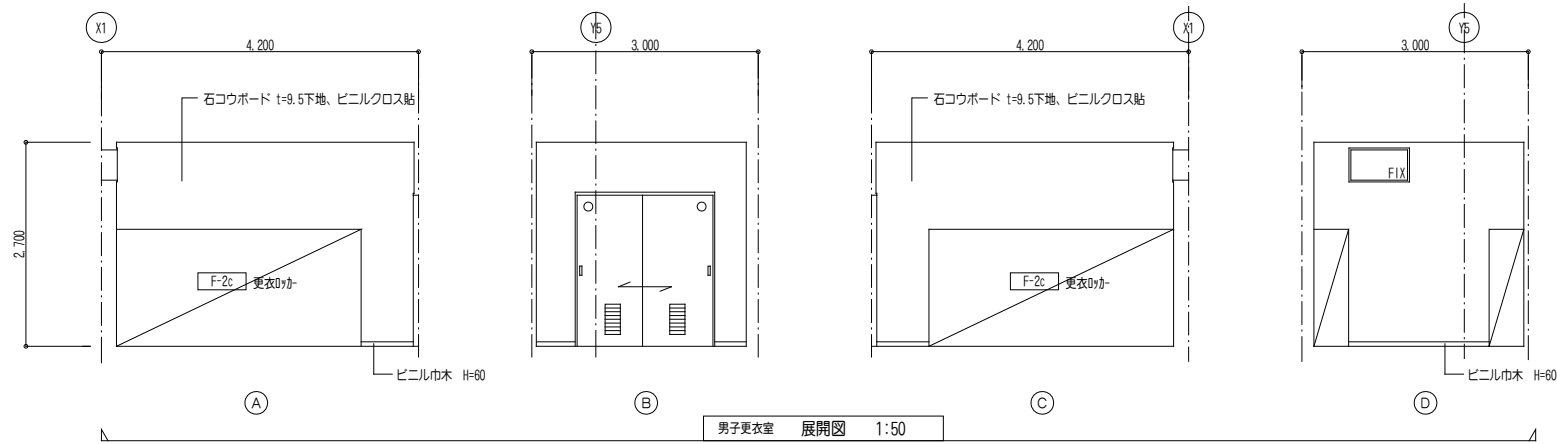


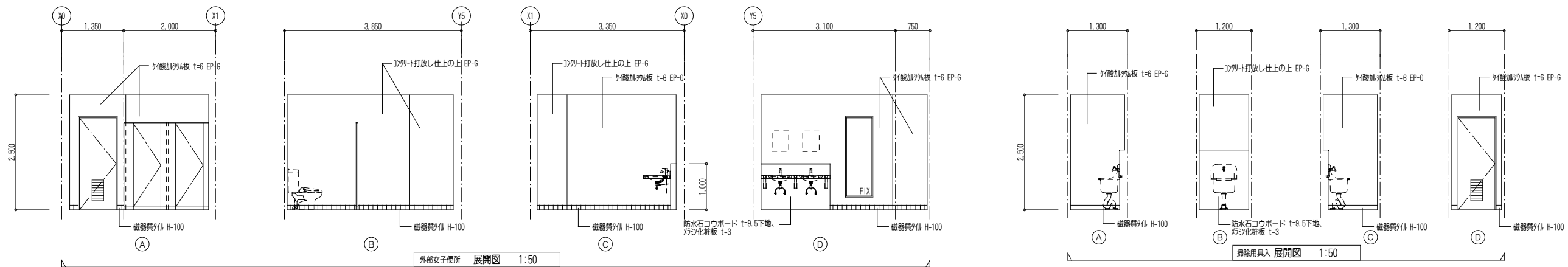
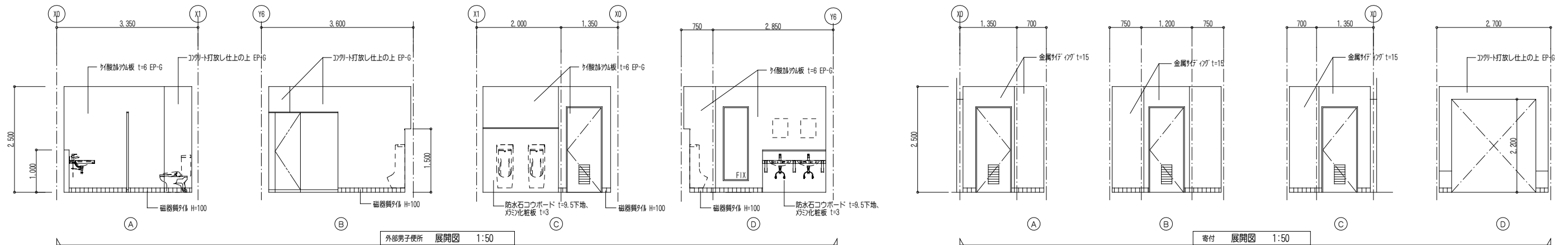
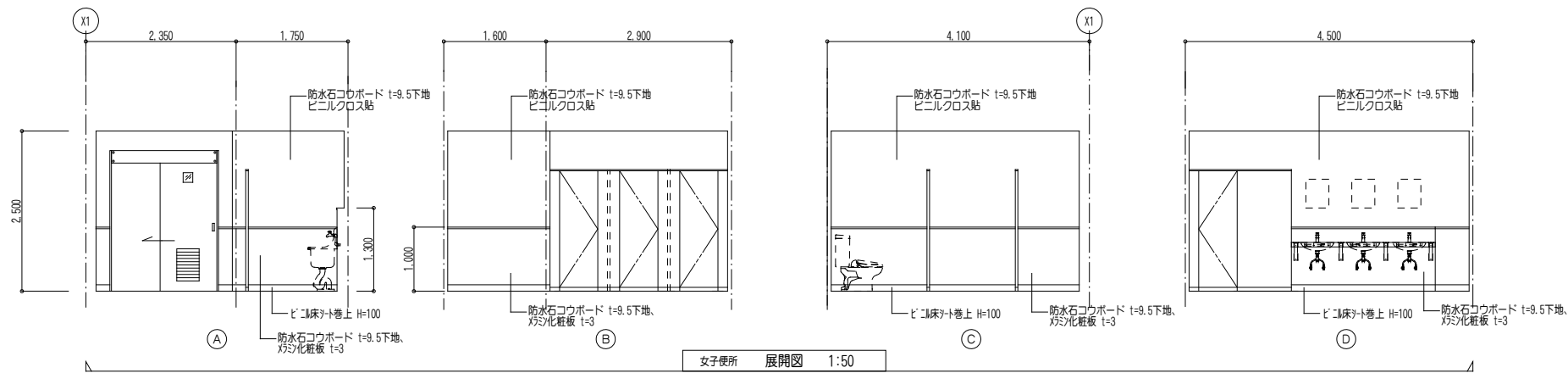
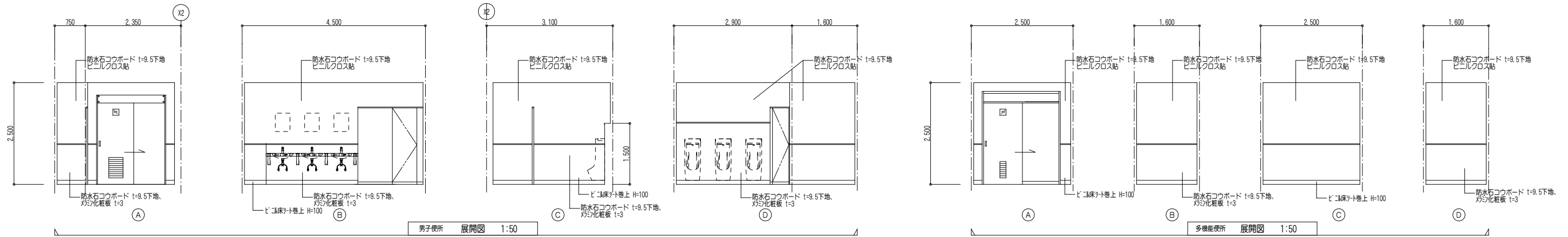
1階平面詳細図 S:1/50



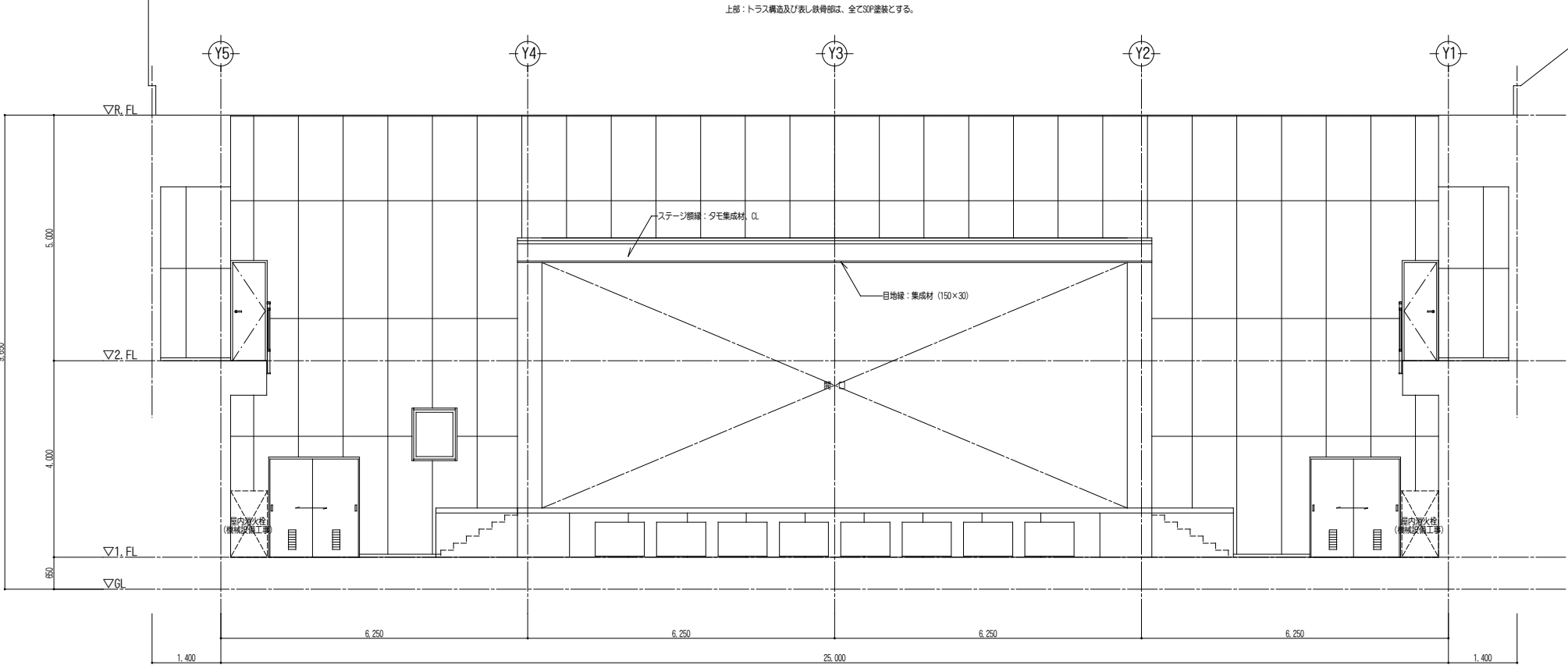
2階平面詳細図 S:1/50



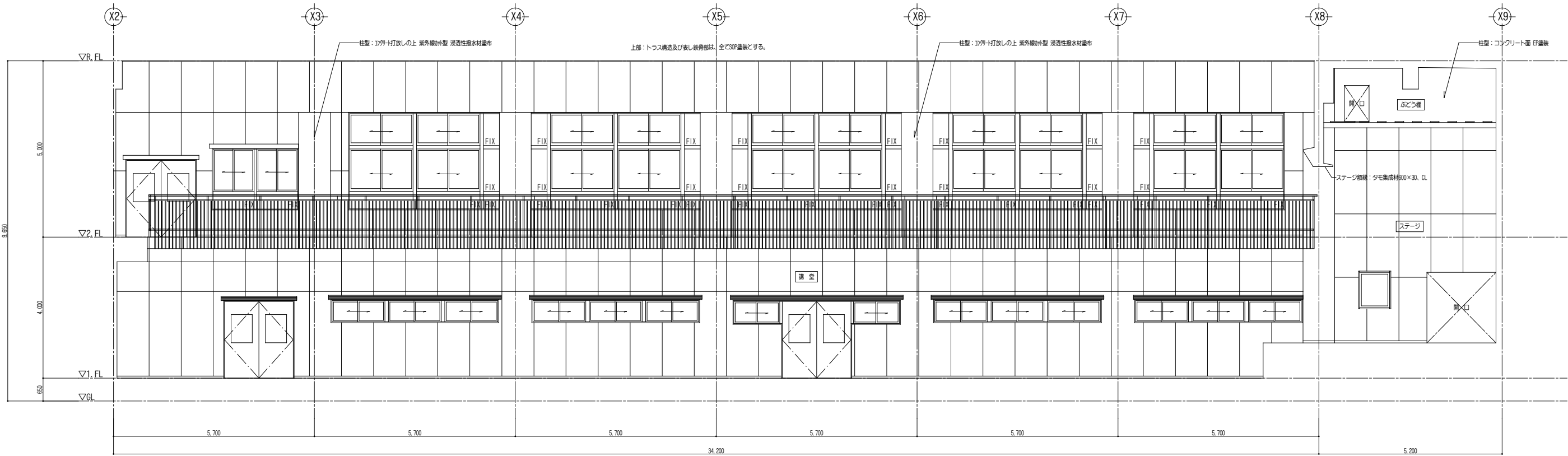




室名	階	講堂
床	1階	長尺弾性塩ビシート t=10.5
	2階	ビニル床シート t=2.0
巾木	1階	耐摩耗化粧板巾木 H=60
	2階	ビニル巾木 H=60
腰壁	1階	耐摩耗化粧板t=2.5
	2階	シナ合板 t=9 (目隠し) OL 東面 耐摩耗化粧板t=2.5
中壁	1階	耐摩耗化粧板t=2.5
	2階	シナ合板 t=9 (目隠し) OL 東面 耐摩耗化粧板t=2.5
小壁	1階	耐摩耗化粧板t=2.5
	2階	シナ合板 t=9 (目隠し) OL 東面 耐摩耗化粧板t=2.5
天井	1階	一部 シナ合板 t=9 (目隠し) OL
	2階	一部 シナ合板 t=9 (目隠し) OL



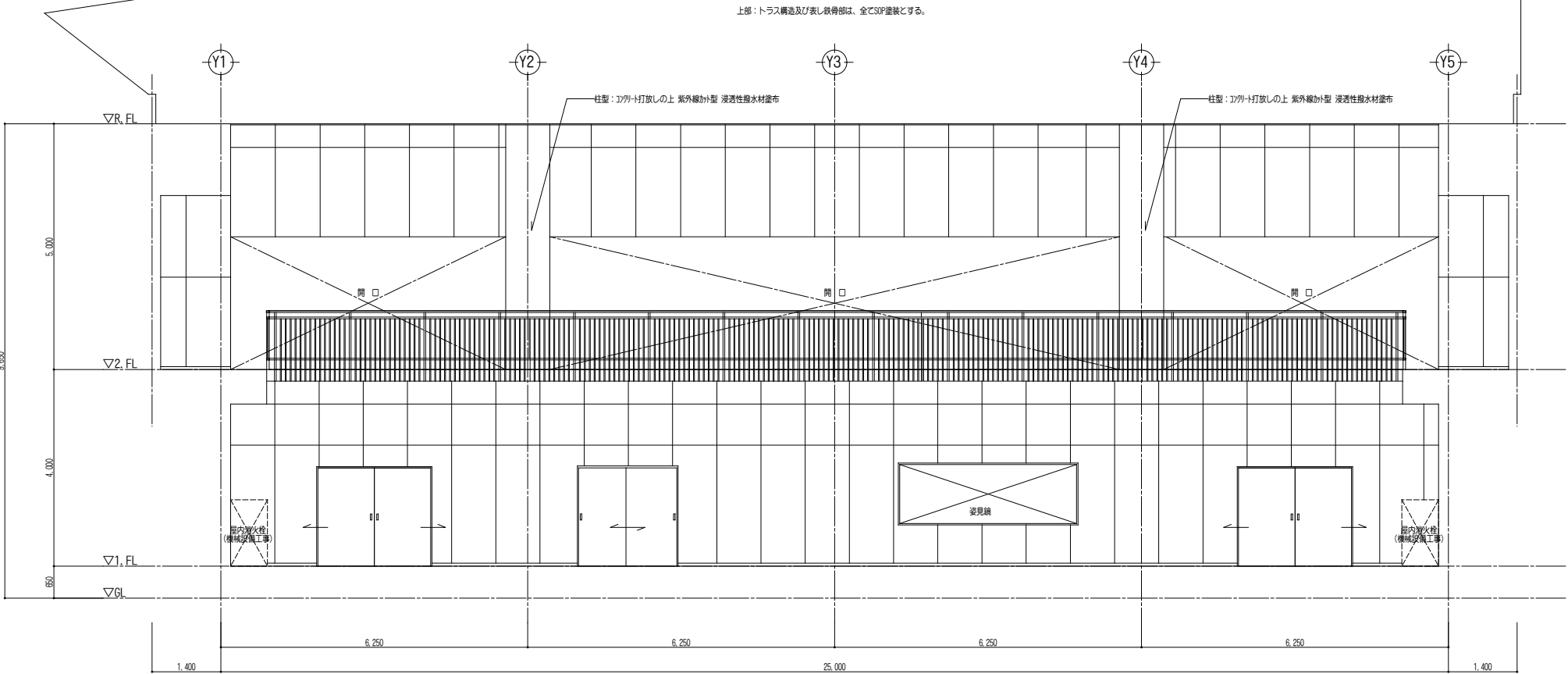
屋内運動場 東面 展開図 1:60



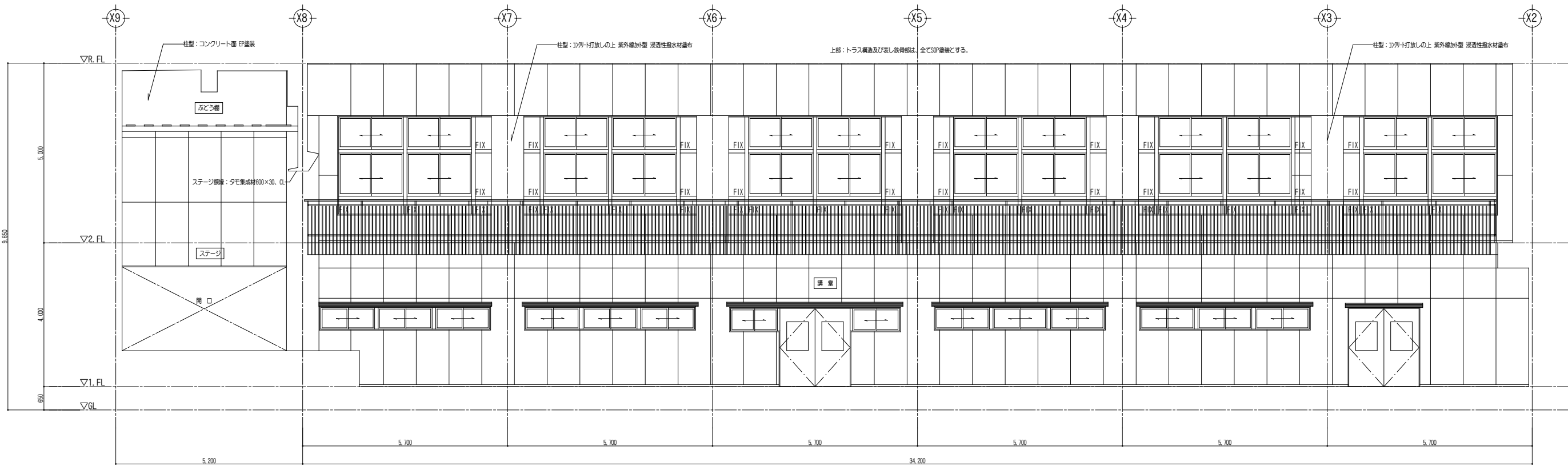
屋内運動場 北面 展開図 1:60



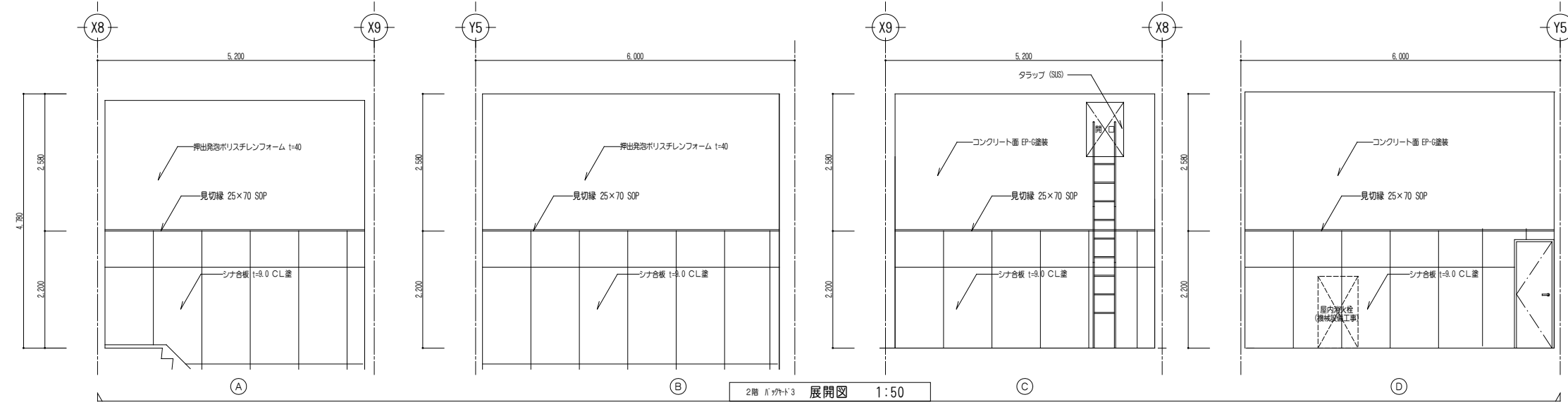
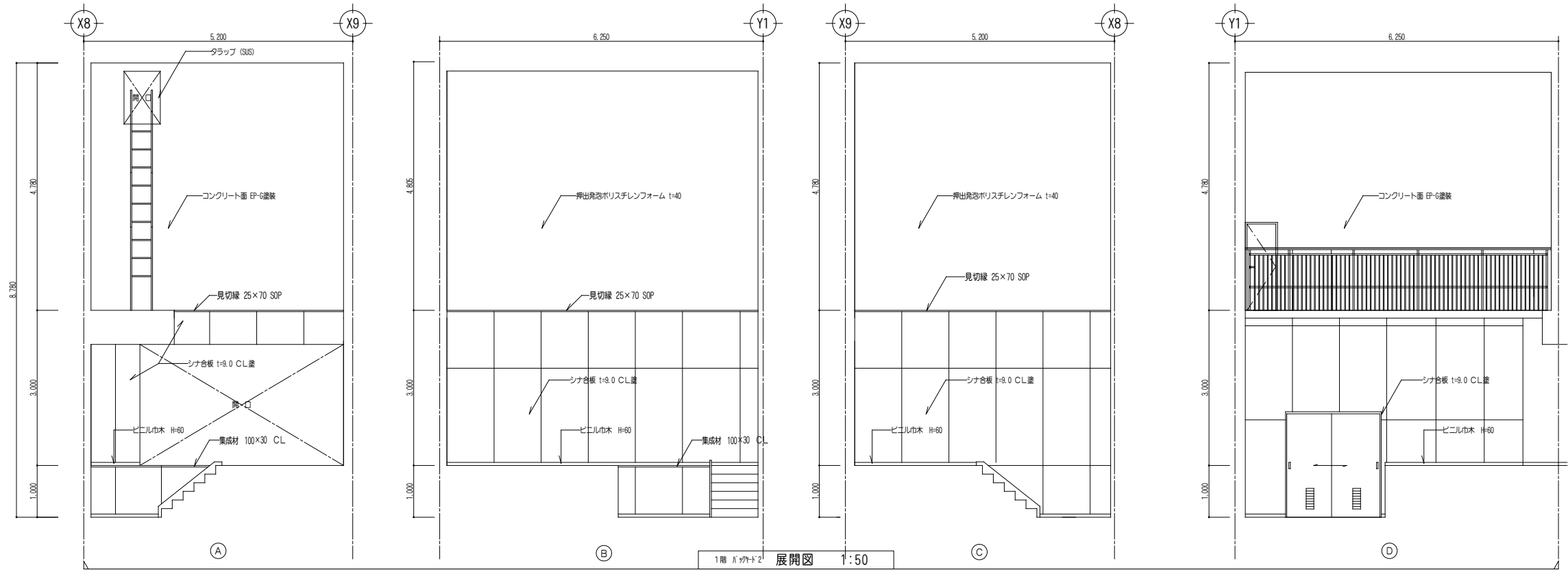
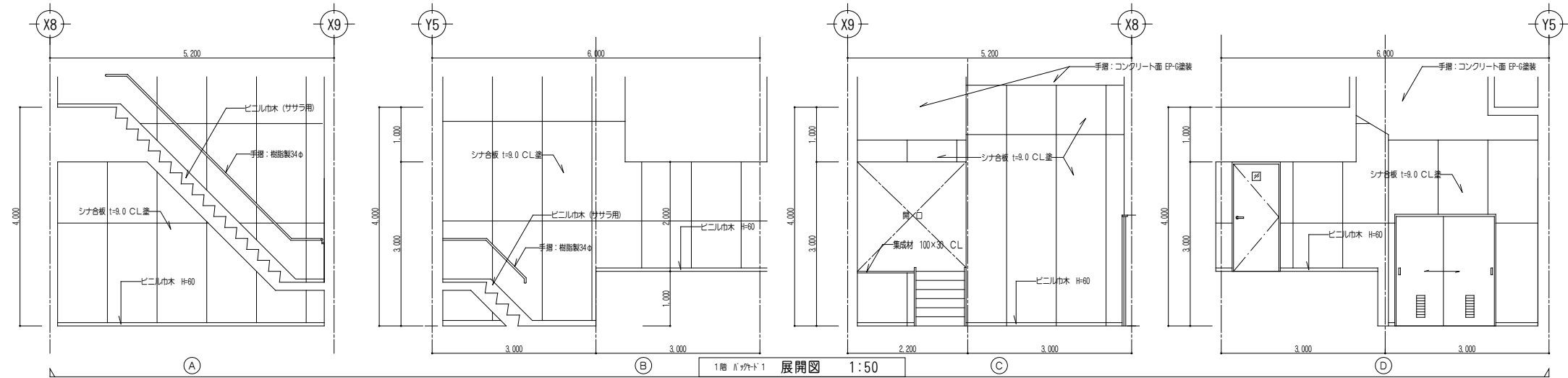
室 名	階	講 堂
床	1階	長尺弾性塩ビシート t=10.5
	2階	ビニル床シート t=2.0
巾 木	1階	耐摩耗化粧板巾木 H=60
	2階	ビニル巾木 H=60
腰 壁	1階	耐摩耗化粧板t=2.5
	2階	シナ合板 t=9 (目隠し) OL 東面 耐摩耗化粧板t=2.5
中 壁	1階	耐摩耗化粧板t=2.5
	2階	シナ合板 t=9 (目隠し) OL 東面 耐摩耗化粧板t=2.5
小 壁	1階	耐摩耗化粧板t=2.5
	2階	シナ合板 t=9 (目隠し) OL 東面 耐摩耗化粧板t=2.5
天 井	1階	一部 シナ合板 t=9 (目隠し) OL
	2階	一部 シナ合板 t=9 (目隠し) OL

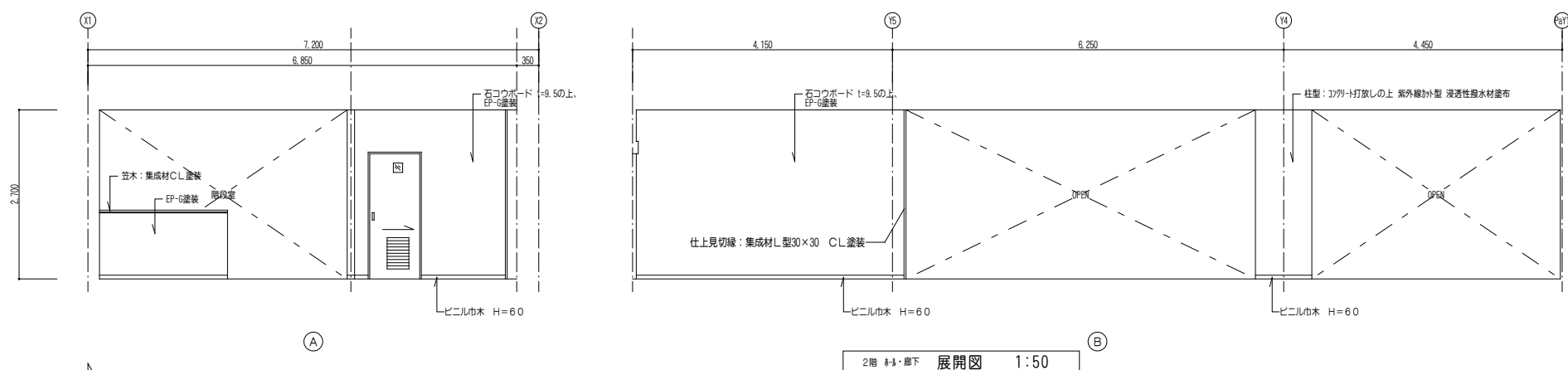
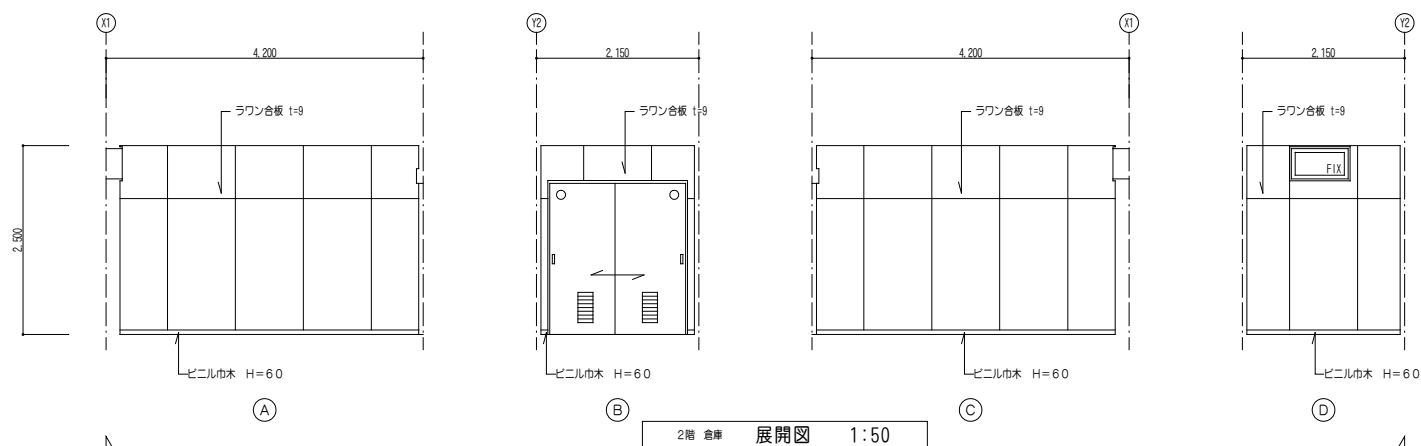
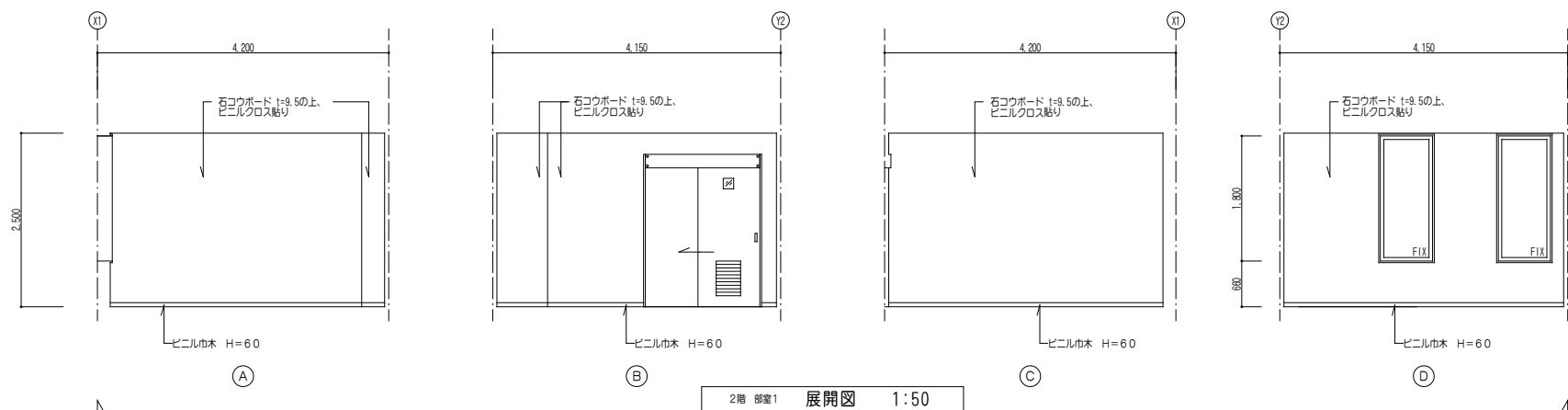
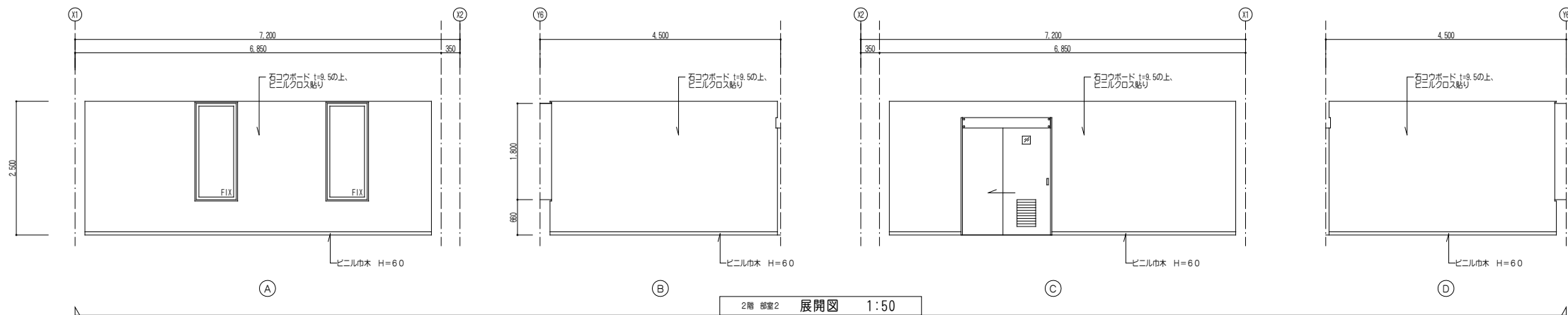


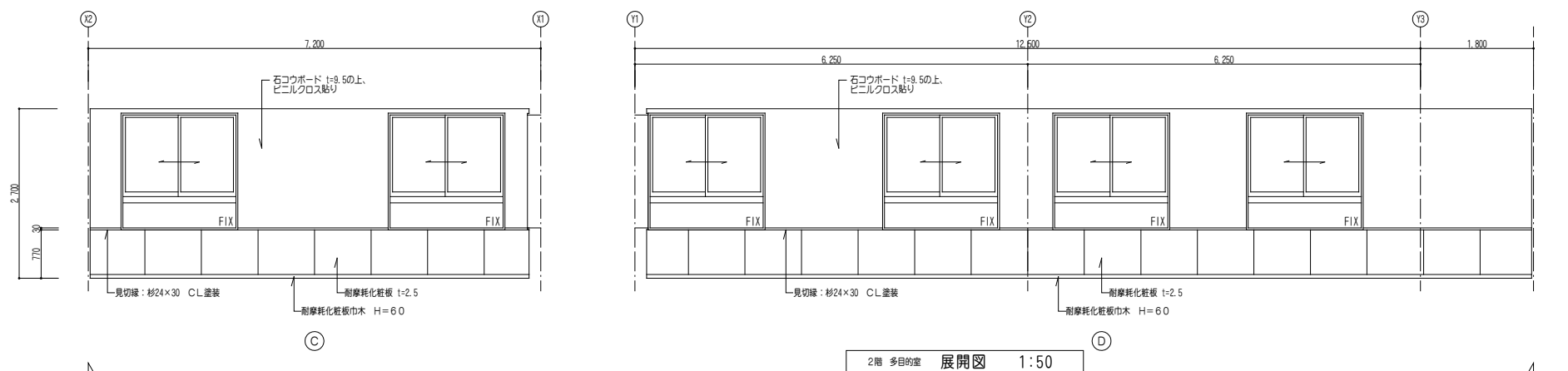
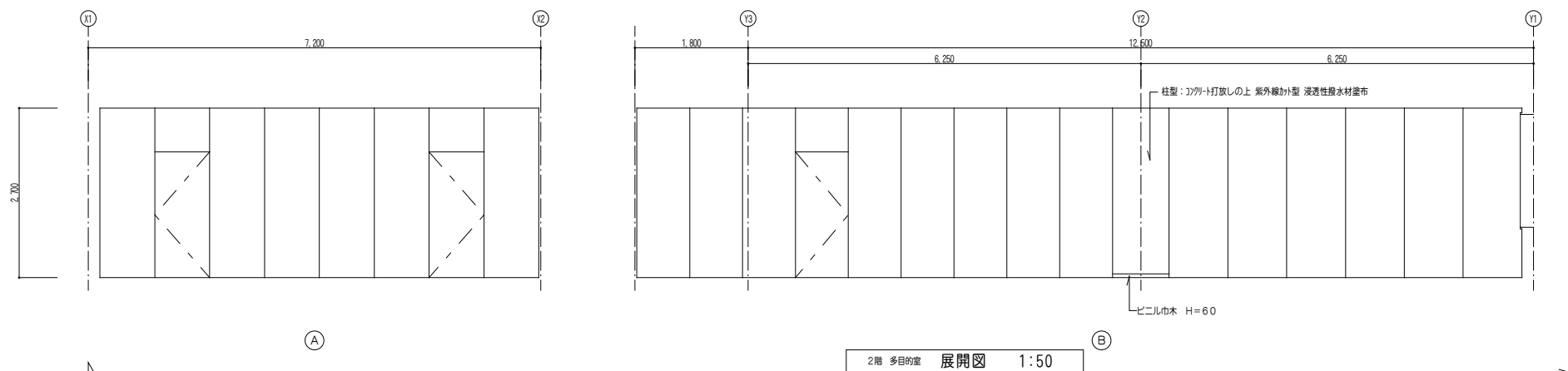
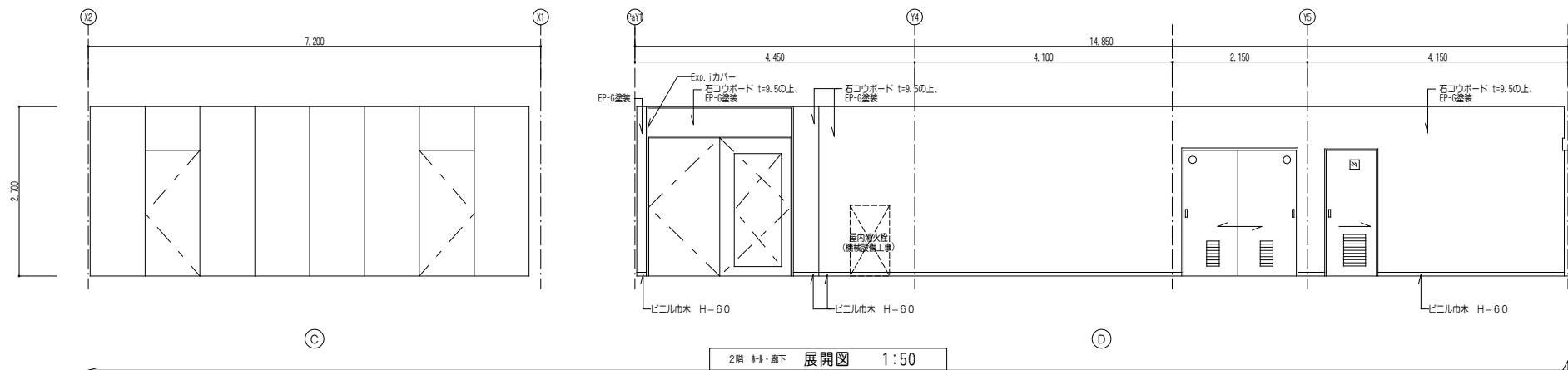
屋内運動場 西面 展開図 1:60

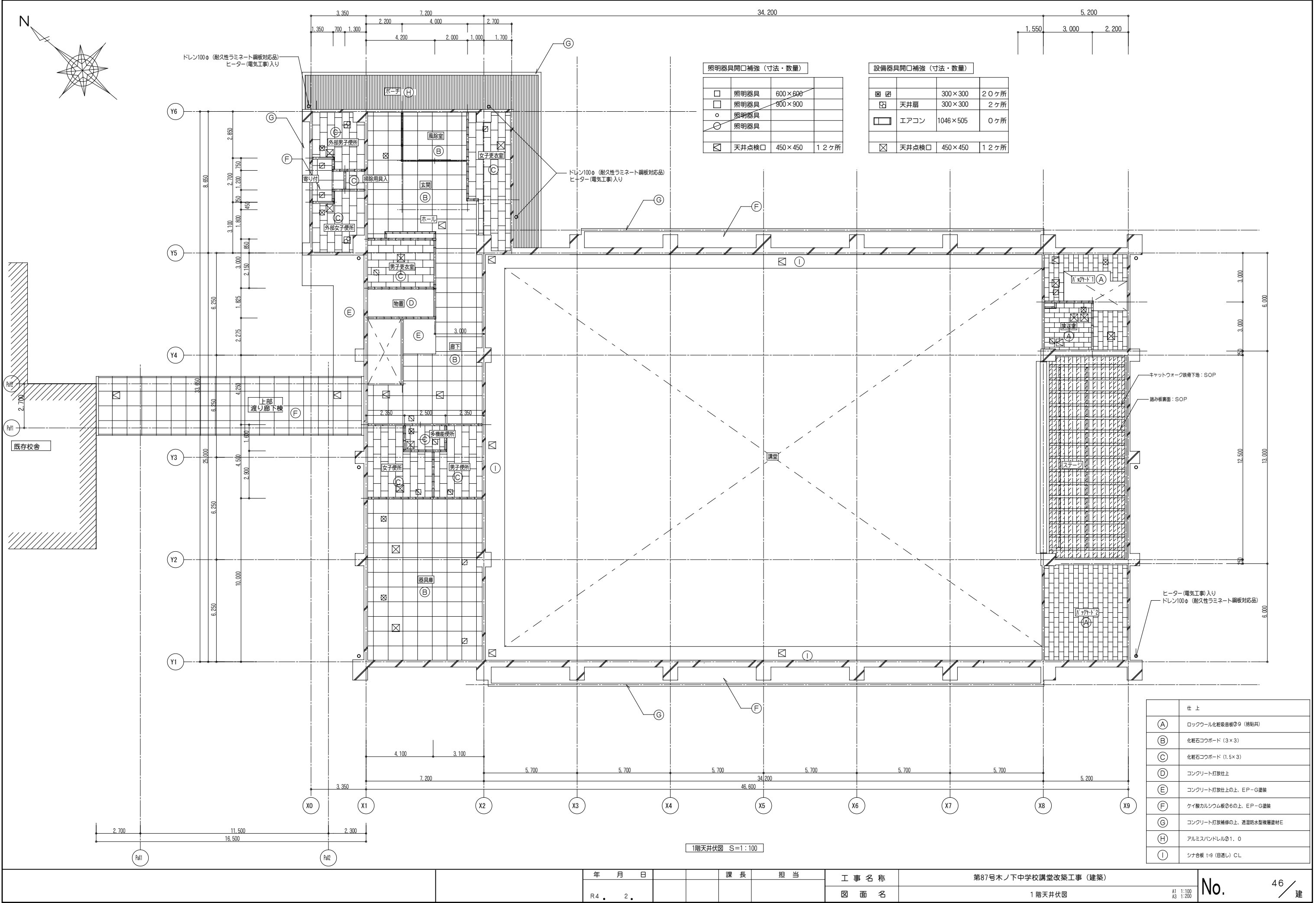


屋内運動場 南面 展開図 1:60









照明器具開口補強 (寸法・数量)

□	照明器具	600×600	
□	照明器具	900×900	
○	照明器具		
○	照明器具		
☒	天井点検口	450×450	1 2ヶ所

設備器具開口補強 (寸法・数量)

☒		300×300	2 0ヶ所
☒	天井扇	300×300	2ヶ所
☒	エアコン	1046×505	0ヶ所
☒	天井点検口	450×450	1 2ヶ所

	仕 上
(A)	ロックワール化粧吸音板φ9 (地貼共)
(B)	化粧石コウボード (3×3)
(C)	化粧石コウボード (1.5×3)
(D)	コンクリート打放仕
(E)	コンクリート打放仕上の上、EP-G塗装
(F)	ケイ酸カルシウム板φ6の上、EP-G塗装
(G)	コンクリート打放仕の上、透湿防水型複層塗材E
(H)	アルミスバンデルの1. 0
(I)	シナ合板 t=9 (目隠し) CL

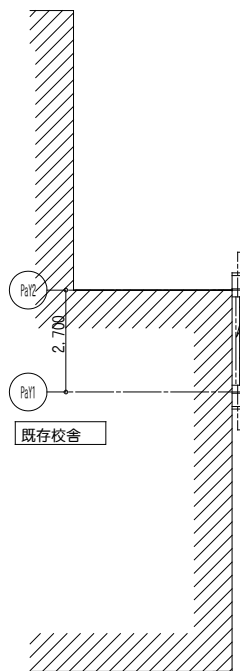
1階天井伏図 S=1:100

年 月 日				課 長	担 当
R4 . 2 .					

工 事 名 称	第87号木ノ下中学校講堂改築工事 (建築)
図 面 名	1 階天井伏図

A1 1:100  
A3 1:200

No.

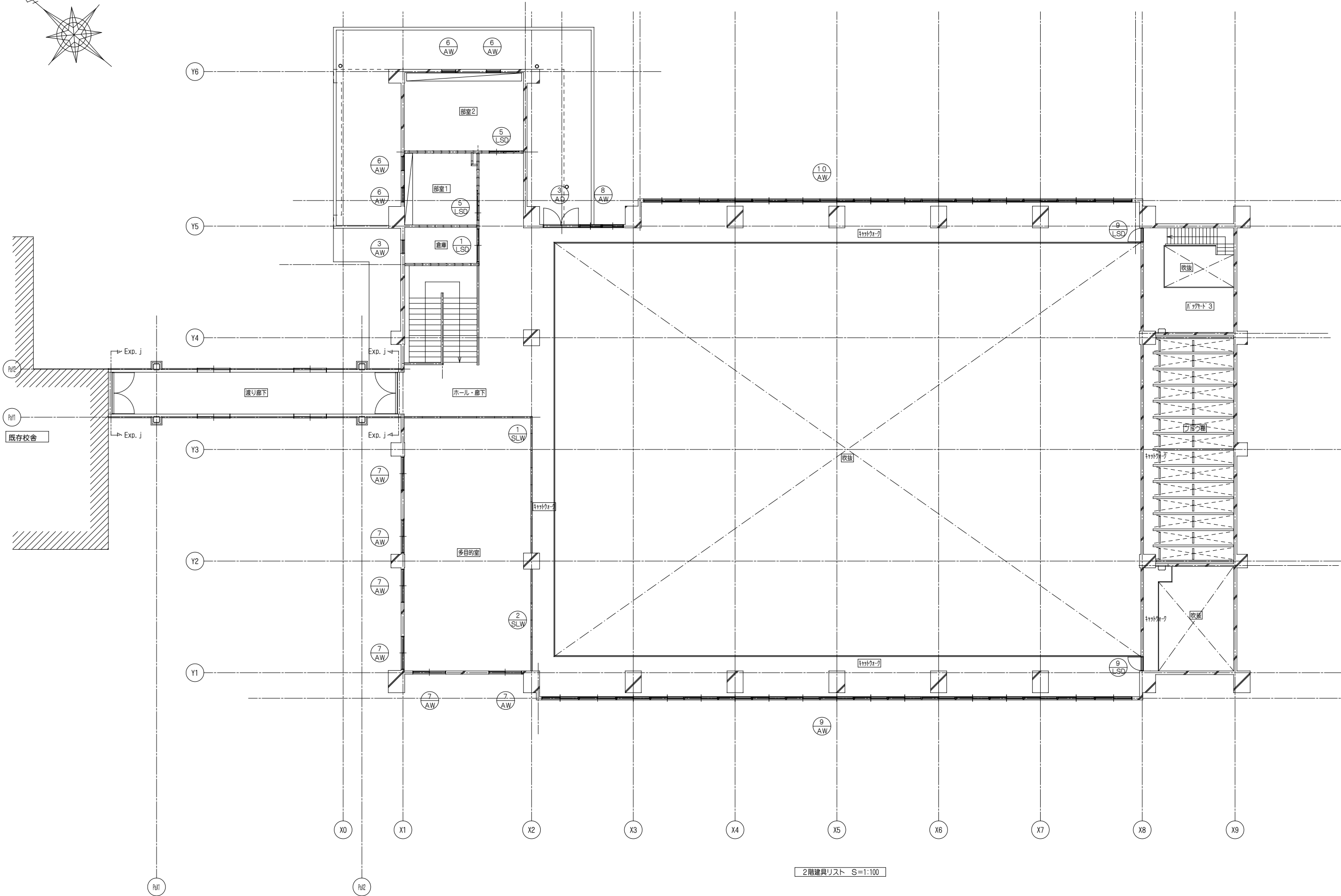
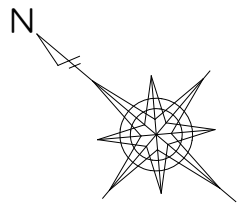


	仕 上
(A)	ロックワール化粧音板φ9（接貼共）
(B)	化粧石コウボード（3×3）
(C)	化粧石コウボード（1.5×3）
(D)	コンクリート打放仕上
(E)	コンクリート打放仕上上の、EP-G塗装
(F)	ケイ酸カルシウム板φ6の上の、EP-G塗装
(G)	コンクリート打放補修上の、透湿防水型増層塗材E
(H)	アルミスパンデルφ1.0
(I)	シナ合板 1+9（目隠し）CL



		年 月 日			課 長	担 当	工 事 名 称	第87号木ノ下中学校講堂改築工事（建築）	No.	48 / 建
		R4 . 2 .					図 面 名	1階建具リスト		

A1 1:100  
A3 1:200



2階建具リスト S=1:100



符号・本数		① AD	1ヶ所		② AD	1ヶ所		③ AD	3ヶ所		④ AD	1ヶ所		⑤ AD	3ヶ所	
姿 図																
	使用場所															
	形 式															
	硝 子															
	仕 上															
	見 込															
金 物		シリリンダー錠 引手 額縁アングル														
その他		付属金物一式														

符号・本数		① AW	8ヶ所		② AW	2ヶ所		③ AW	7ヶ所		④ AW	1ヶ所		⑤ AW	2ヶ所		⑥ AW	4ヶ所	
姿 図																			
	使用場所																		
	形 式																		
	硝 子																		
	仕 上																		
	見 込																		
金 物		結露受、額縁アングル、クレセント、網戸（サラン）																	
その他		付属金物一式																	

符号・本数		⑦ AW	6ヶ所		⑧ AW	1ヶ所													
姿 図																			
	使用場所																		
	形 式																		
	硝 子																		
	仕 上																		
	見 込																		
金 物		結露受 額縁アングル クレセント 網戸（サラン）																	
その他		付属金物一式																	

				年 月 日						課 長		担 当		工 事 名 称		第87号木ノ下中学校講堂改築工事（建築）		No. 50 / 建	
				R4 . 2 .										図 面 名		建具表（1）			

符号・本数		9 AW										1ヶ所	
姿 図													
使用場所		2階トイレ											
形 式		アルミ製引違い建窓											
硝 子		FL3+A6+FL5 (下部・中部) FL3+A6+FL3 (上部)											
仕 上		シルバー											
見 込		70											
金 物		結露受、額縁アングル、フレンチ、網戸 (サラン) (中部のみ)											
その他		付属金物一式											

符号・本数		10 AW										1ヶ所	
姿 図													
使用場所		2階トイレ											
形 式		アルミ製引違い建窓											
硝 子		FL3+A6+FL5 (下部・中部) FL3+A6+FL3 (上部)											
仕 上		シルバー											
見 込		70											
金 物		結露受、額縁アングル、フレンチ、網戸 (サラン) (中部のみ)											
その他		付属金物一式											

符号・本数		1 LS	3ヶ所		2 LS	1ヶ所		3 LS	1ヶ所		4 LS	1ヶ所		5 LS	4ヶ所		6 LS	1ヶ所	
姿 図																			
使用場所		1階 男子更衣室・女子更衣室、2階 倉庫		1階 講堂		1階 器具庫		1階 器具庫		1階 男子便所・女子便所、2階 部室1・部室2		1階 多機能便所							
形 式		鋼製軽量建具 引違い戸		鋼製軽量建具 外付け引分け戸		鋼製軽量建具 外付け引分け戸		鋼製軽量建具 引違い戸		鋼製軽量建具 外付け片引き戸		鋼製軽量建具 戸袋ハズレ片引き戸							
硝 子		F4		————		————		————		F4		F4							
仕 上		枠：防錆塗装仕上、扉：焼付塗装仕上		枠：防錆塗装仕上、扉：焼付塗装仕上		枠：防錆塗装仕上、扉：焼付塗装仕上		枠：防錆塗装仕上、扉：焼付塗装仕上		枠：防錆塗装仕上、扉：焼付塗装仕上		枠：防錆塗装仕上、扉：焼付塗装仕上							
見 込		扉：32		扉：40		扉：40		扉：32		扉：40		扉：40							
金 物		室名札：カッティングシート貼 (ビ 外付)		室名札：カッティングシート貼 (ビ 外付)		室名札：カッティングシート貼 (ビ 外付)		室名札：カッティングシート貼 (ビ 外付)		室名札：カッティングシート貼 (ビ 外付)		室名札：カッティングシート貼 (ビ 外付)							
その他		付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式							

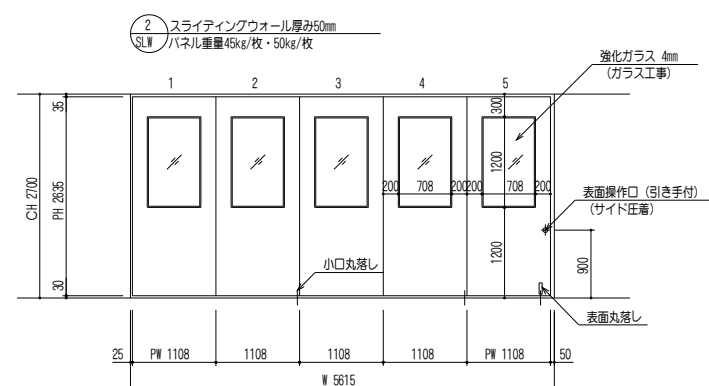
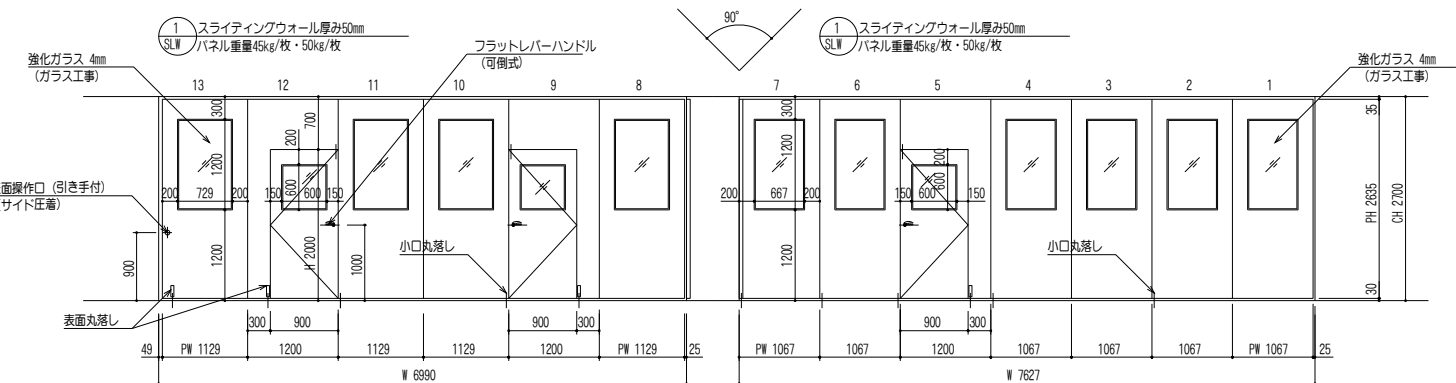
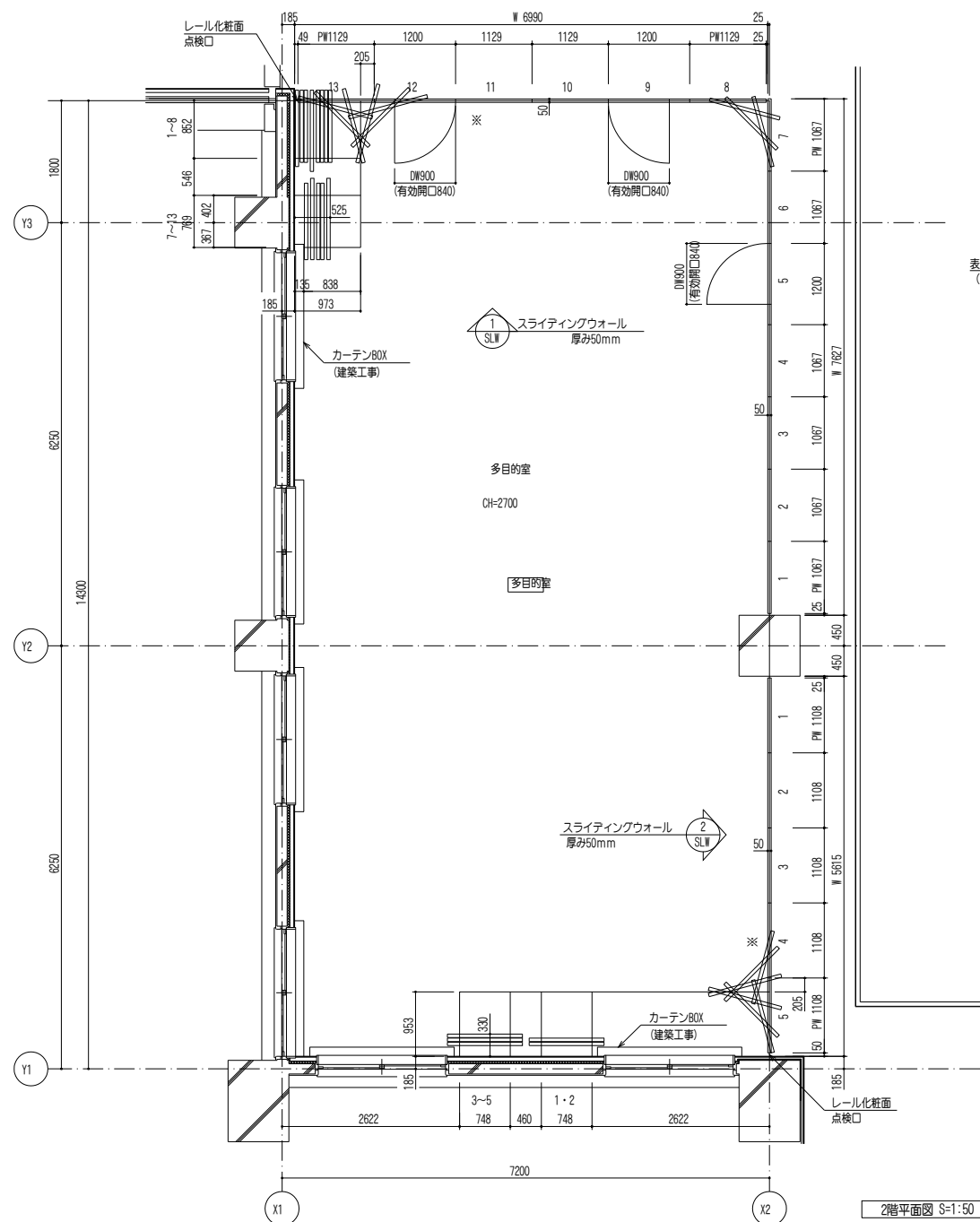
				年 月 日			課 長	担 当	工 事 名 称	第87号木ノ下中学校講堂改築工事 (建築)			No.	51 / 建
				R4 . 2 .					図 面 名	建具表 (2)				

符号・本数		⑦ LSD	2ヶ所	⑧ LSD	1ヶ所	⑨ LSD	2ヶ所		① WW	2ヶ所	
姿 図											
使用場所		1階 バッグド 1・2		1階 放送室		2階 バッグド 3・キャットウォーク		放送室			
形 式		鋼製軽量建具 引違い戸		鋼製軽量建具 片開き戸		鋼製軽量建具 片開き戸		木製はめ殺し窓			
硝 子		————		F4mm		————		TNP4			
仕 上		枠：防錆塗装仕上、扉：焼付塗装仕上		枠：防錆塗装仕上、扉：焼付塗装仕上		枠：防錆塗装仕上、扉：焼付塗装仕上		————			
見 込		扉：32		扉：40		扉：40		36			
金 物		室名札：カッティングシート貼 (他 外付)		室名札：カッティングシート貼 (他 外付)		室名札：カッティングシート貼 (他 外付)					
その他		付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式					

符号・本数		① TB	1ヶ所	② TB	1ヶ所	③ TB	1ヶ所	④ TB	1ヶ所	⑤ TB	1ヶ所	⑥ TB	1ヶ所
姿 図													
使用場所		外部男子便所		外部女子便所		男子便所				女子便所			
形 式		木製 トイレブース (巾木タイプ)		木製 トイレブース (巾木タイプ)		木製 トイレブース (巾木タイプ)				木製 トイレブース (巾木タイプ)			
硝 子		————		————		————				————			
仕 上		メラミン化粧合板		メラミン化粧合板		メラミン化粧合板				メラミン化粧合板			
見 込		40		40		40				40			
金 物		表示錠付スライドロック (非常解除付)、取手、戸当り、ラバトリーヒンジ ステンレス笠木、ステンレス巾木、壁付金物、ドアストッパー、指挟み防止仕様		表示錠付スライドロック (非常解除付)、取手、戸当り、ラバトリーヒンジ ステンレス笠木、ステンレス巾木、壁付金物、ドアストッパー、指挟み防止仕様		表示錠付スライドロック (非常解除付)、取手、戸当り、ラバトリーヒンジ、ステンレス笠木、ステンレス巾木、壁付金物、ドアストッパー、指挟み防止仕様				表示錠付スライドロック (非常解除付)、取手、戸当り、ラバトリーヒンジ、ステンレス笠木、ステンレス巾木、壁付金物、ドアストッパー、指挟み防止仕様			
その他		付属金物一式		付属金物一式		付属金物一式				付属金物一式			

符号・本数		① SD	特定防火設備 (平成12年建設省告示1369号)	1ヶ所		① SLW	1ヶ所	② SLW	1ヶ所				
姿 図						詳細図による							
使用場所		1階 物置				2階 多目的室							
形 式		スチール製両開き親子フラッシュ戸 (常時閉)				スライティングウォール							
硝 子		————											
仕 上		工場焼付塗装 t=1.6											
見 込		100											
金 物		ステンレス丁番 レバーハンドル シリンダー錠 サムターン											
その他		ドアクローザー 下枠ステンレス		付属金物一式									

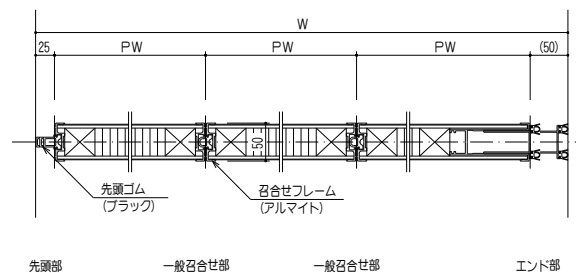
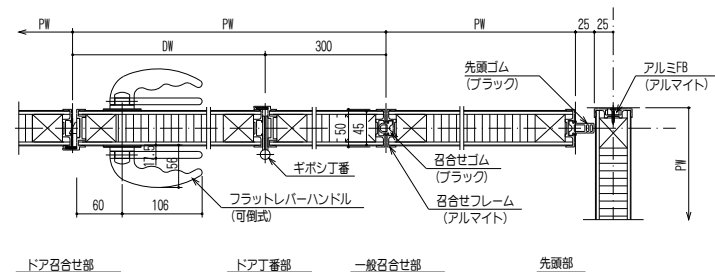
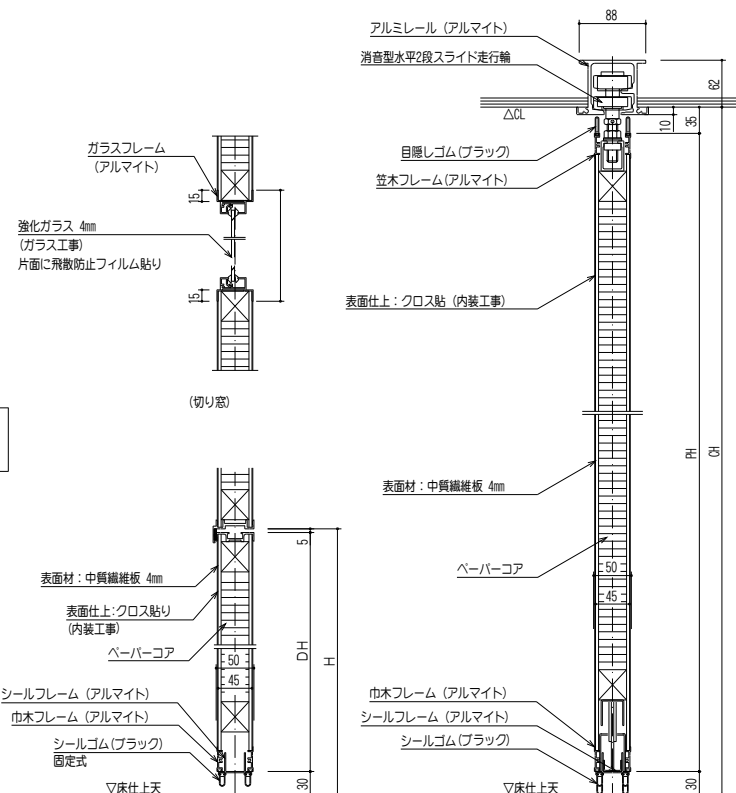
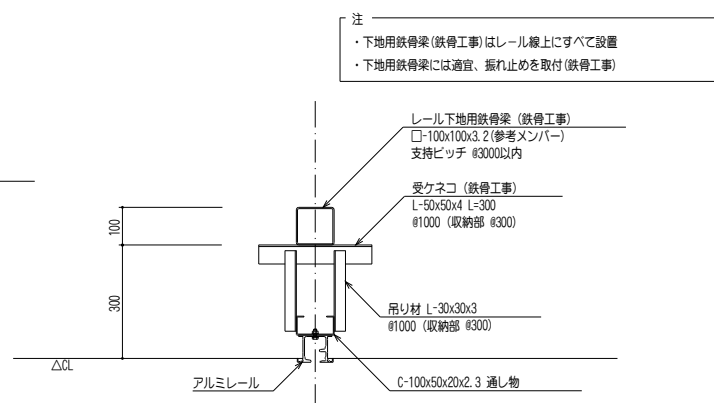
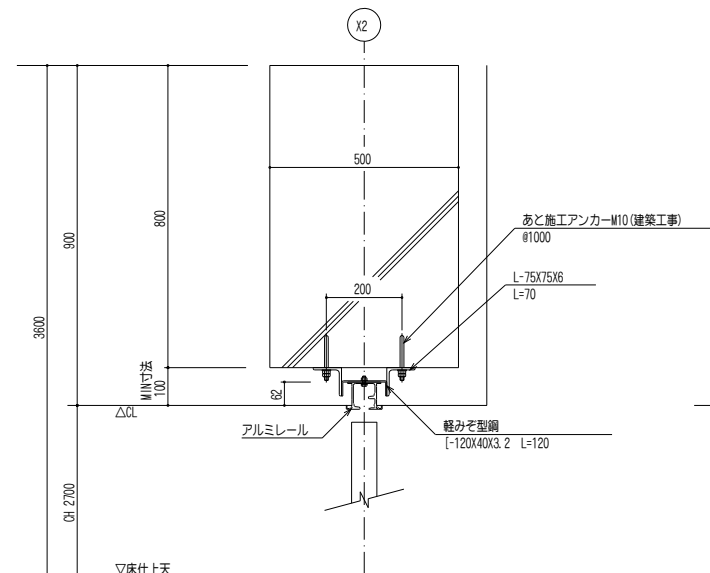
		年 月 日			課 長	担 当	工 事 名 称	第87号木ノ下中学校講堂改築工事 (建築)		No. 52 / 建
		R4 . 2 .					図 面 名	建具表 (3)		



展開図 S=1:50

スライディングウォール 厚み50mm (LW-50VB)

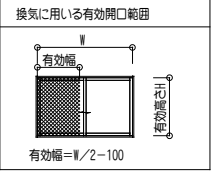
レール仕様	レール	アルミ押出型材ハンガーレール(アルマイト処理) コーナー部 直角レール
ランナー仕様	走行輪 吊ボルト	消音型水平2段スライド走行輪(ベアリング内蔵) M 14
パネル仕様	表面仕上	クロス貼り(内装工事)
	表面材	中質繊維板4mm
	充填材	ペーパーコア
	骨組	木枠(LVL)
	フレーム	アルミ押出型材 (アルマイト処理)
	召合せ	固定ゴム嵌合
	下部シルド	採光装置(プッシュロッド式)
	固定方法	小口及び表面丸磨きにしてて固定



＜スライディングウォール 厚み50mm＞ (LW-50VB)

採光・換気 検討表													
		1階				2階	1階		2階		1階	2階	
室 名	講堂	アリーナ	バヤード1	バヤード2	バヤード3	玄関・ホール・廊下	多目的室	ホール・廊下	放送室	部室1	部室2		
床 面 積 (A)㎡	855.00	67.60	22.20	31.20	22.33	98.75	102.96	79.00	9.00	17.43	30.82		
必要採光窓面積 A/20	42.75 + 3.38 = 46.13						5.15		0.45	0.87	1.54		
必要換気窓面積 A/20	42.75	3.38	1.11	1.56	1.12	4.94	5.15	3.95	0.45	0.87	1.54		
	合計 = 63.96												
採光有効面積 (H×W)	AW-1 1.0.60' 4.50' 3' 8' 64.80						AW-7 1.70' 1.80' 3' 6' 55.08		非常用照明による	AW-6 1.80' 0.75' 3' 2' 8.10	AW-6 1.80' 0.75' 3' 2' 8.10		
	AW-2 1.0.60' 2.55' 3' 2' 9.18												
	AW-9 1.2.50' 21.72' 3' 1' 162.90												
	AW-10 2.50' 18.10' 3' 1' 135.75												
	TOTAL 372.63 OK						TOTAL 55.08 OK		OK	TOTAL 8.10 OK	TOTAL 8.10 OK		
換気有効面積 (H×W)	AD-3 1.2.20' 1.99' 3' 12.87					AD-4 1.2.00' 1.79' 1' 3.50	AW-7 1.30' 0.80' 6' 6.24		機械換気による	機械換気による	機械換気による		
	AW-2 1.2.20' 1.95' 2' 8.58												
	AW-1 1.0.60' 0.53' 2' 2' 1.27								V = 20Af / N 必要換気量 = 20×9.00/3 = 60 m3/h 60 m3/h ≦ 60 m3/h (HEU-2)	V = 20Af / N 必要換気量 = 20×17.43/3 = 116.20 m3/h 116.20 m3/h ≦ 180 m3/h (FE-11)	V = 20Af / N 必要換気量 = 20×30.82/3 = 205.46 m3/h 205.46 m3/h ≦ 300 m3/h (FE-12)		
	AW-9 1.2.0' 0.80' 12' 1' 11.52												
	AW-10 1.2.0' 0.80' 10' 1' 9.60												
	AW-8 1.2.0' 0.45' 2' 1' 1.15												
			TOTAL 64.09 OK						OK	OK	OK		
備 考	※採光検討AW-9、AW-10のW寸法は引建窓部分のみ FIX部分は柱型にかぶるため												

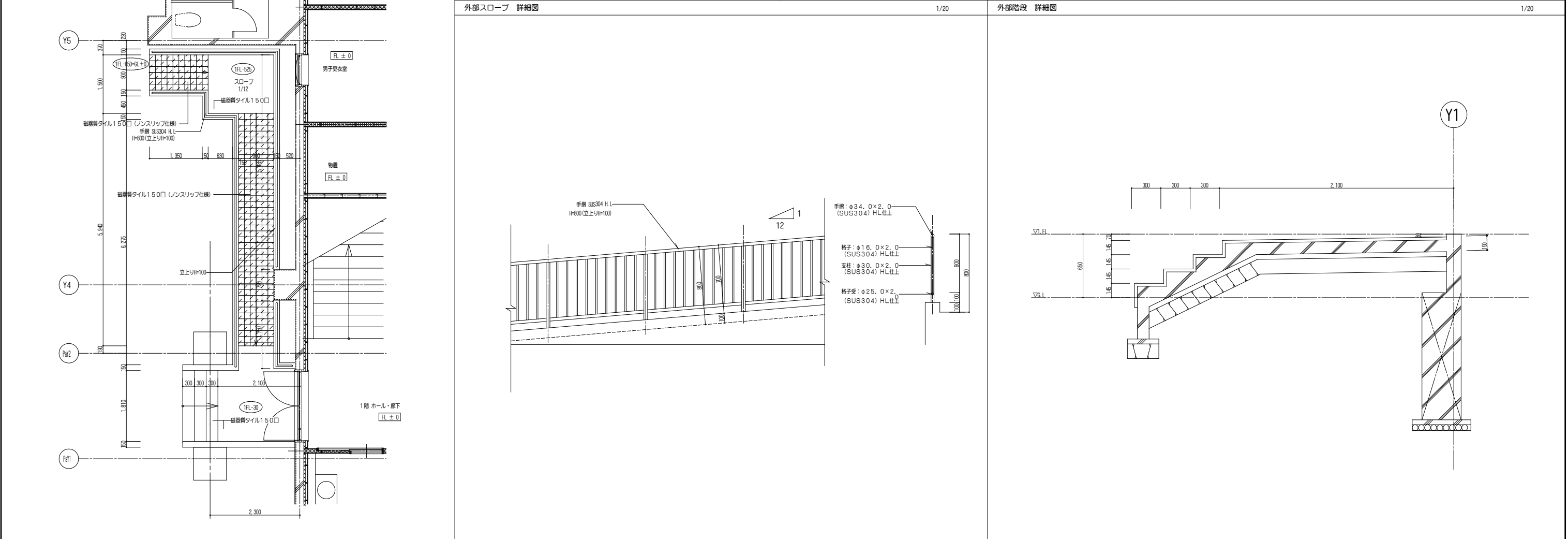
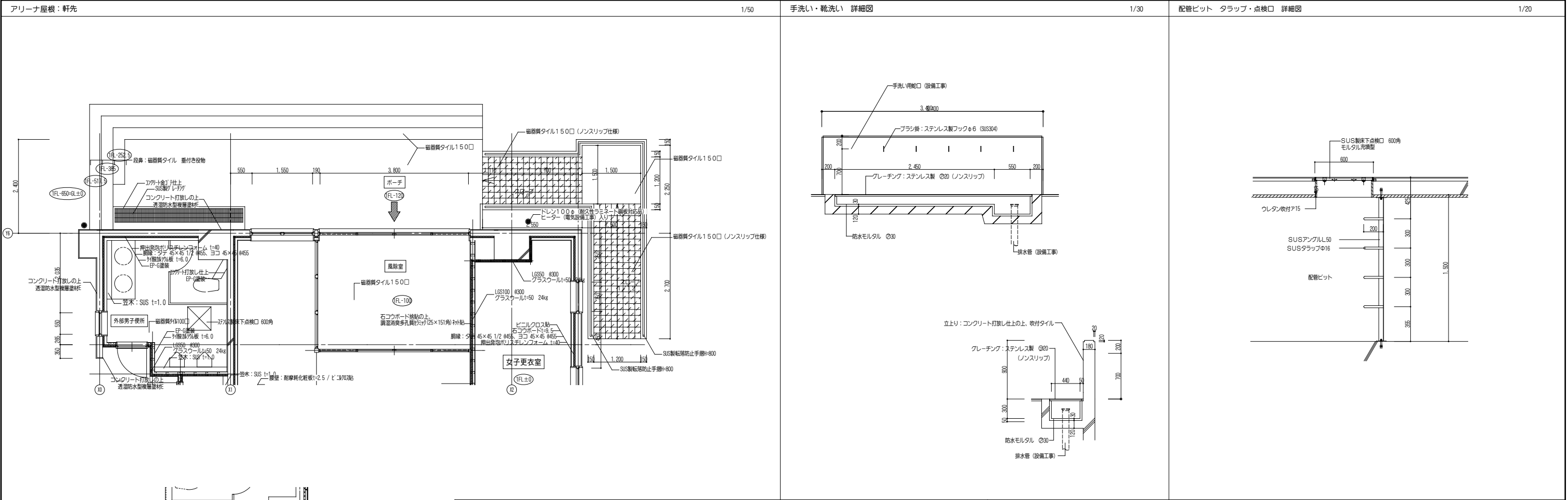
採光補正係数		
講堂 南面	AW-9	11.45 / 5.10 × 10 - 1 = 21.45
※その他の建物は全てこれ以上なので補正係数は全て3とする		

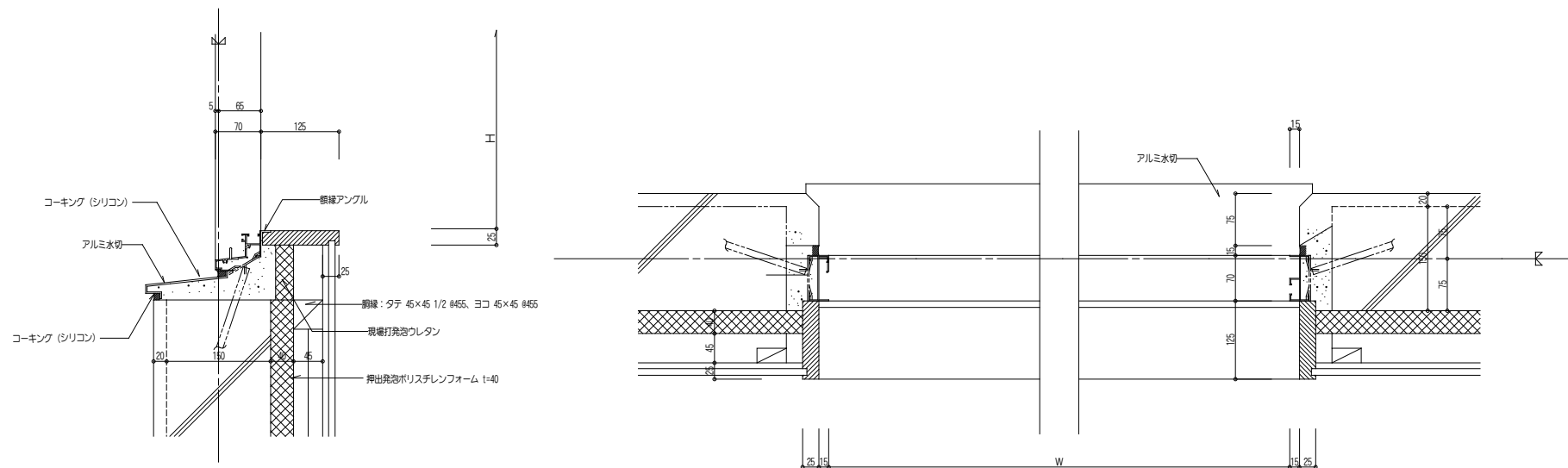
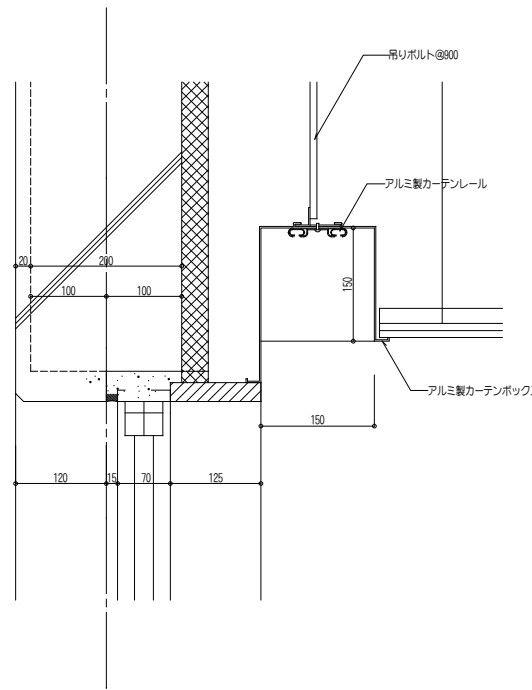
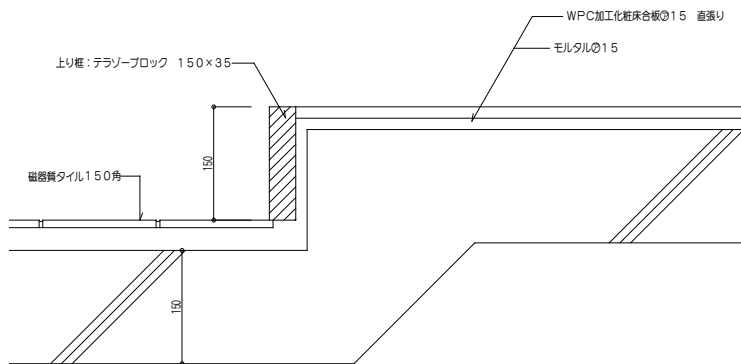
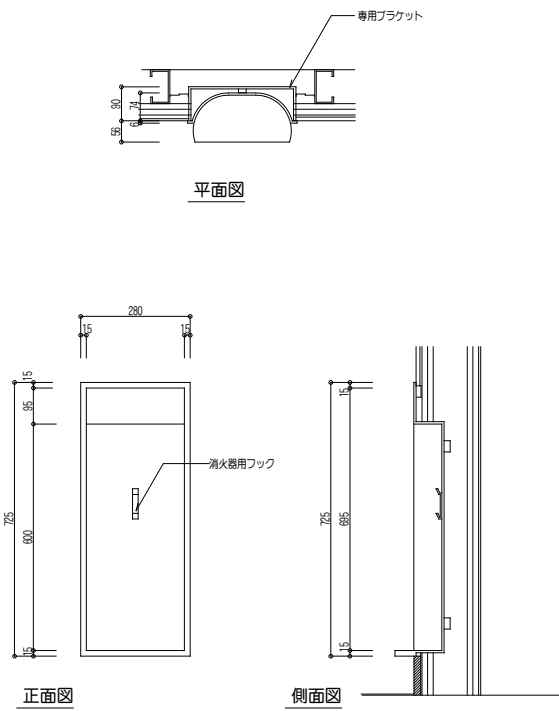
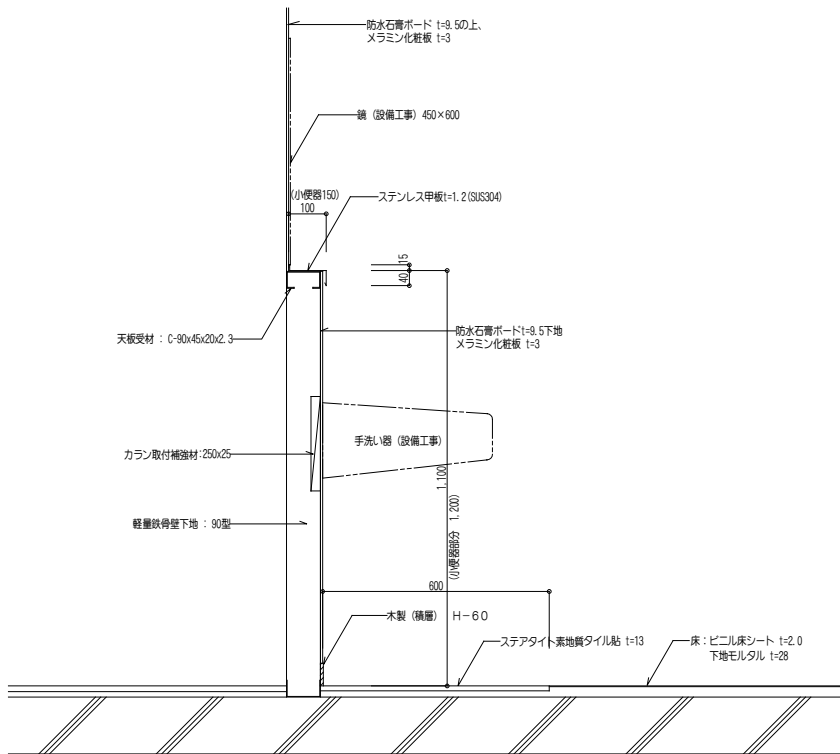


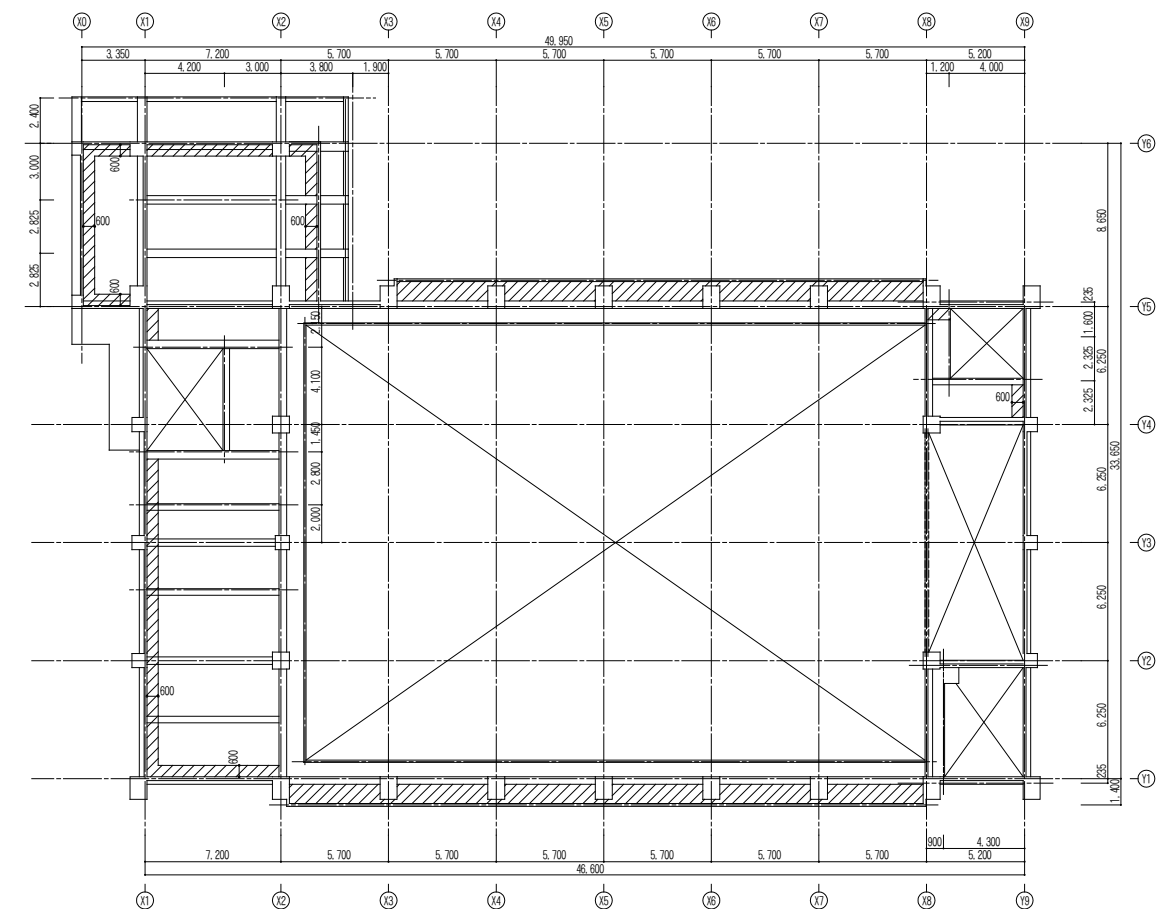
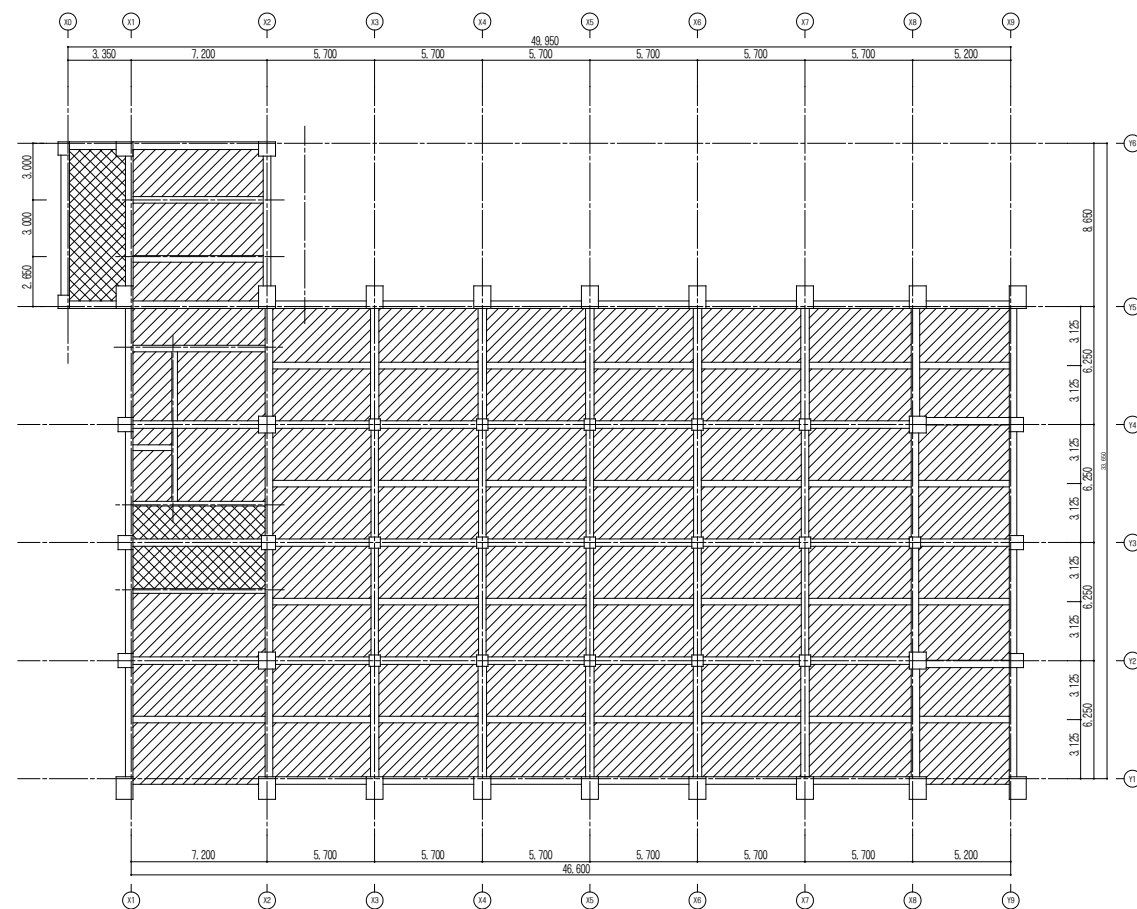
普通階・無窓階算定書									
1階床面積 (A)㎡		必要開口部面積 (A/30)㎡		有効開口部面積 合計㎡			算定結果	消防機関 ※ 普 ・ 無	
1286.47		42.22		28.65			普 ・ 無	判 定	
建具 記号	開口部位置 又は方角	床からの 高さ (m)	幅 (m)	高さ (m)	カ所	開口部面積 小計㎡	開口部 種 別	※ 備考	
1/AD	北面	0.00	1.85	2.00	1	3.70	引分戸	FL3+A6+TENP4	
3/AD	北、南面	0.00	1.95	2.20	3	12.87	両開戸	FL3+A6+TENP4	
4/AD	西面	0.00	1.75	2.00	1	3.50	両開戸	FL3+A6+FL3	
2/AW	北、南面	0.00	1.95	2.20	2	8.58	両開戸	FL3+A6+TENP4	
						28.65			
2階床面積 (A)㎡		必要開口部面積 (A/30)㎡		有効開口部面積 合計㎡			算定結果	消防機関 ※ 普 ・ 無	
273.71		9.12		0			普 ・ 無	判 定	
建具 記号	開口部位置 又は方角	床からの 高さ (m)	幅 (m)	高さ (m)	カ所	開口部面積 小計㎡	開口部 種 別	※ 備考	
			対象開口部なし						

渡り廊下 面積按分表	
既存 校舎床面積	4,084.77㎡
増築 渡り廊下床面積	44.55㎡
増築 講堂床面積	1,528.05㎡
既存	$\frac{4,084.77}{4,084.77+1,528.05} = 72.78\%$
増築	$\frac{1,528.05}{4,084.77+1,528.05} = 27.22\%$

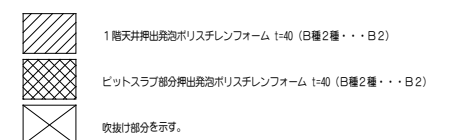
消防法による面積表		
	講堂	校舎棟
1階床面積	1,286.47	1,585.21
2階床面積	273.71 (261.58+12.13)	1,323.91 (1,291.49+32.42)
3階床面積	—	1,177.58
4階床面積	—	30.49
延べ床面積	1,540.18㎡	4,117.19㎡



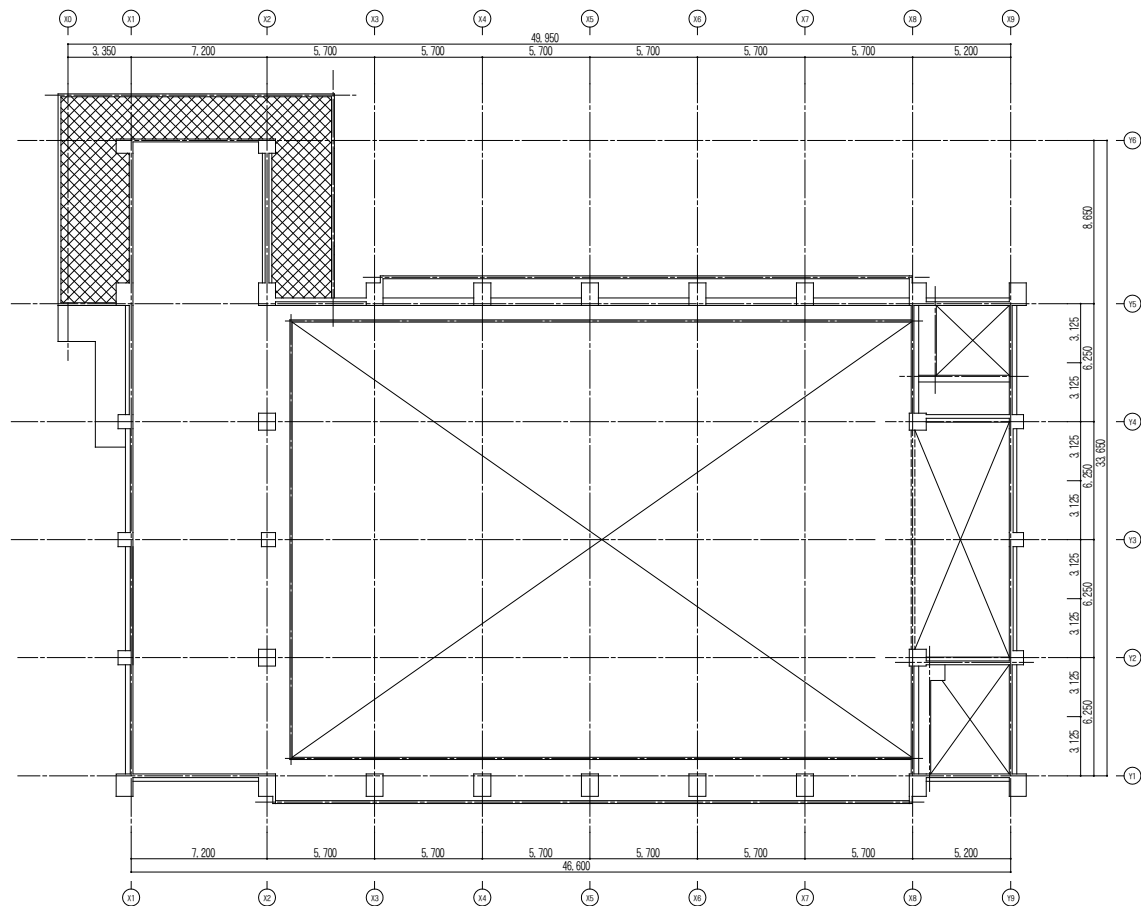
窓額縁廻り詳細図			1 : 5			木製・アルミ製カーテンボックス詳細図			1 : 5											
			断面詳細図 1 : 5			平面詳細図 1 : 5						アルミ製カーテンボックス詳細図								
昇降口上り框詳細図			1 : 5			消火器ボックス詳細図 (半埋込型)			1 : 1 0			便所カランバック 詳細図			1 : 5					
			外部: 段鼻 (ノンスリップ) 詳細図			1 : 5						※) スチール製機付塗装仕上げ								
						年 月 日			課 長 担 当			工 事 名 称			第87号木ノ下中学校講堂改築工事 (建築)					
			R4 . 2 .									図 面 名			雑詳細図 (2)					
															A1 1: 5・10 A3 1:10・20					
															No. 56 / 建					



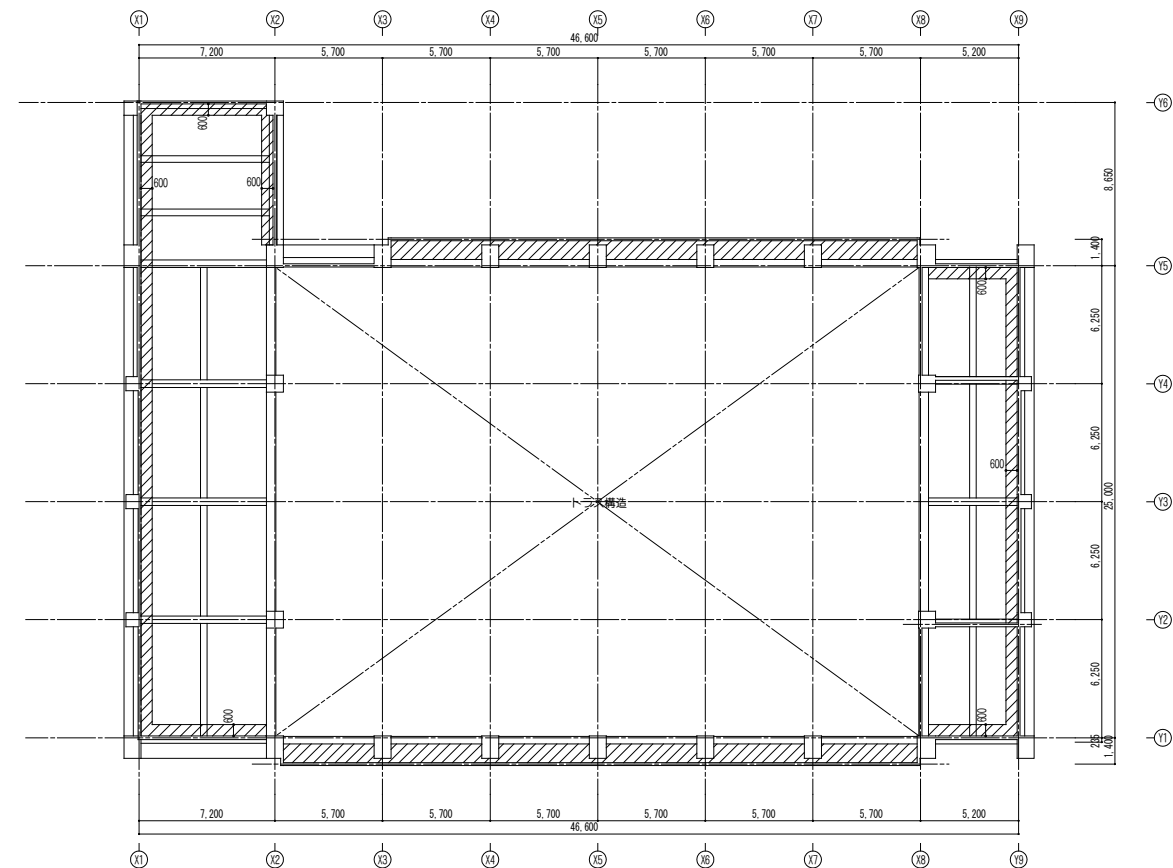
凡 例



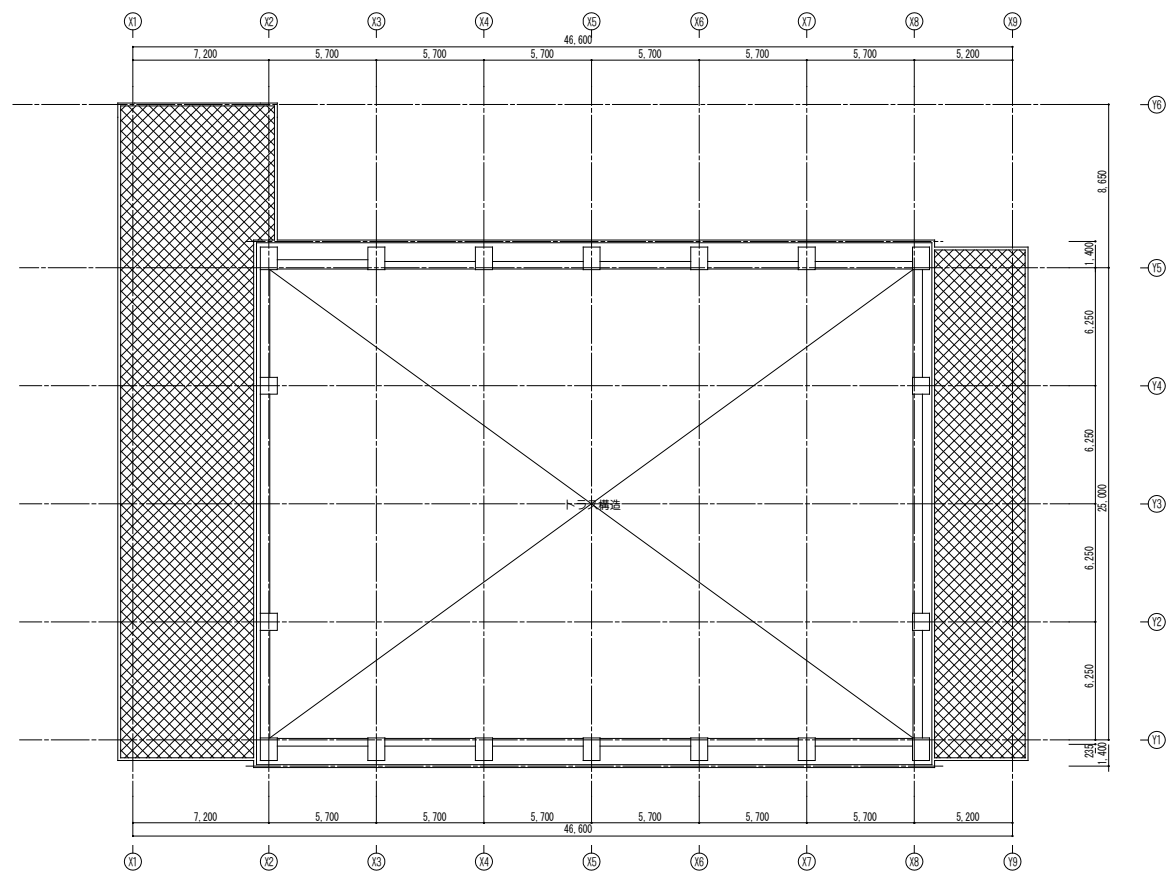







2階スラブ 押出発砲ポリスチレンフォーム割付図 S:1/200

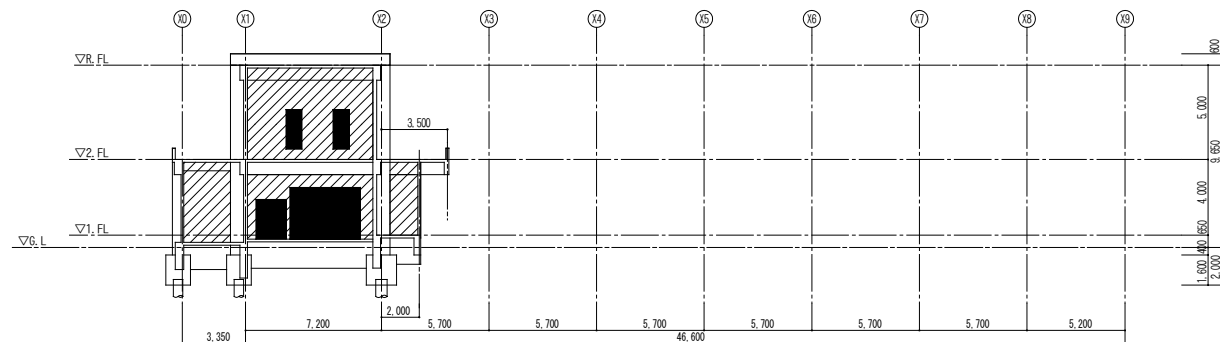


2階天井 押出発砲ポリスチレンフォーム割付図 S:1/200

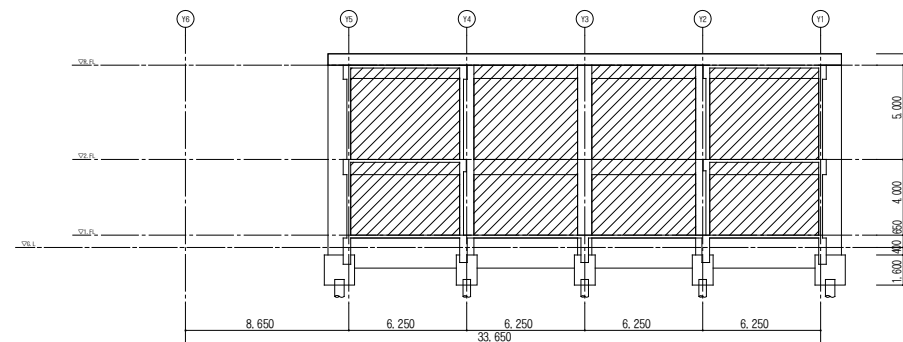


R階スラブ 押出発砲ポリスチレンフォーム割付図 S:1/200

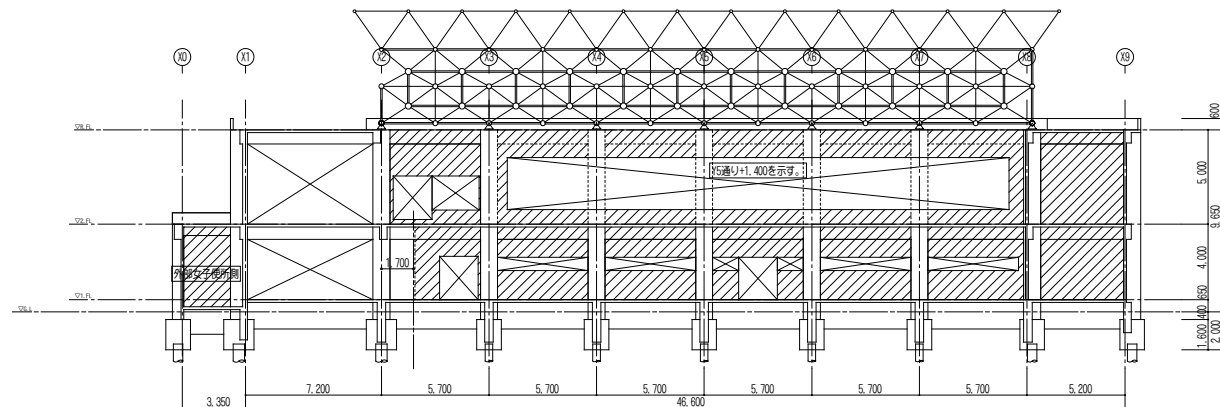
- 凡 例
-  2階天井押出発砲ポリスチレンフォーム t=40 (B種2種・・・B2)
  -  2・R階スラブ部分押出発砲ポリスチレンフォーム t=50 (B種2種・・・B2)
  -  取付け部分を示す。



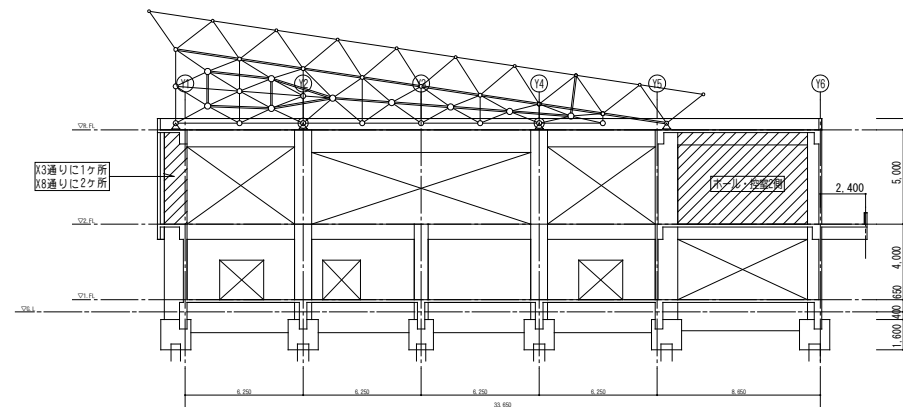
(Y6) 通り 押出発砲ポリスチレンフォーム割付図 S:1/200



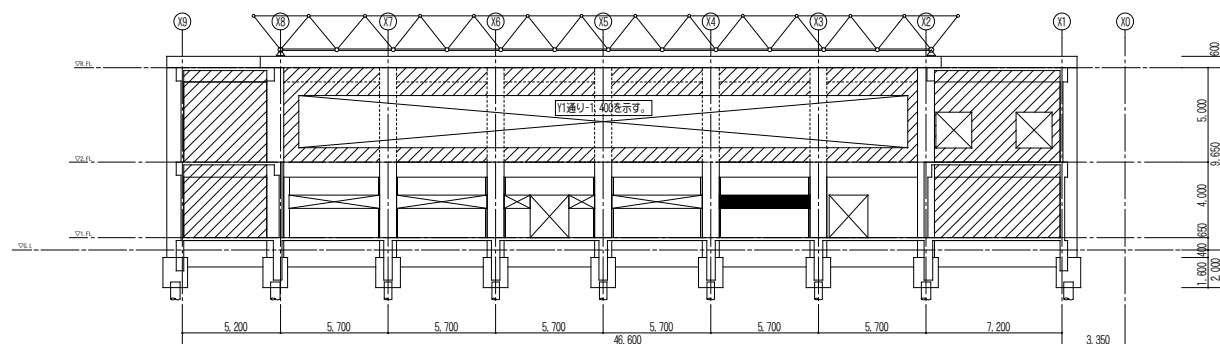
(X9) 通り 押出発砲ポリスチレンフォーム割付図 S:1/200



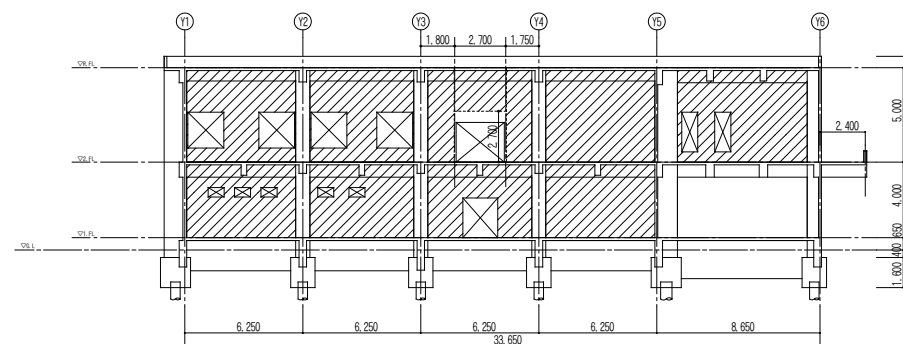
(Y5) 通り 押出発砲ポリスチレンフォーム割付図 S:1/200



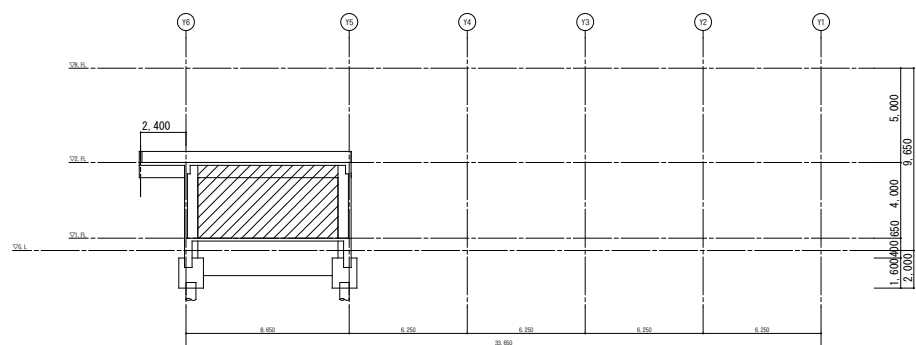
(X2) 通り~2,000 押出発砲ポリスチレンフォーム割付図 S:1/200



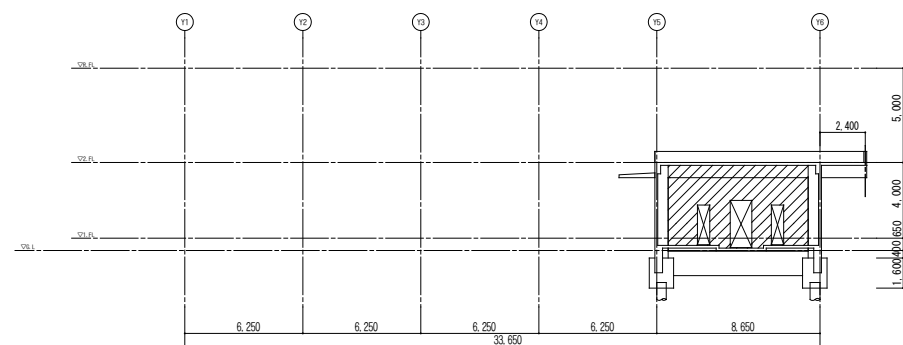
(Y1) 通り 押出発砲ポリスチレンフォーム割付図 S:1/200



(X1) 通り 押出発砲ポリスチレンフォーム割付図 S:1/200



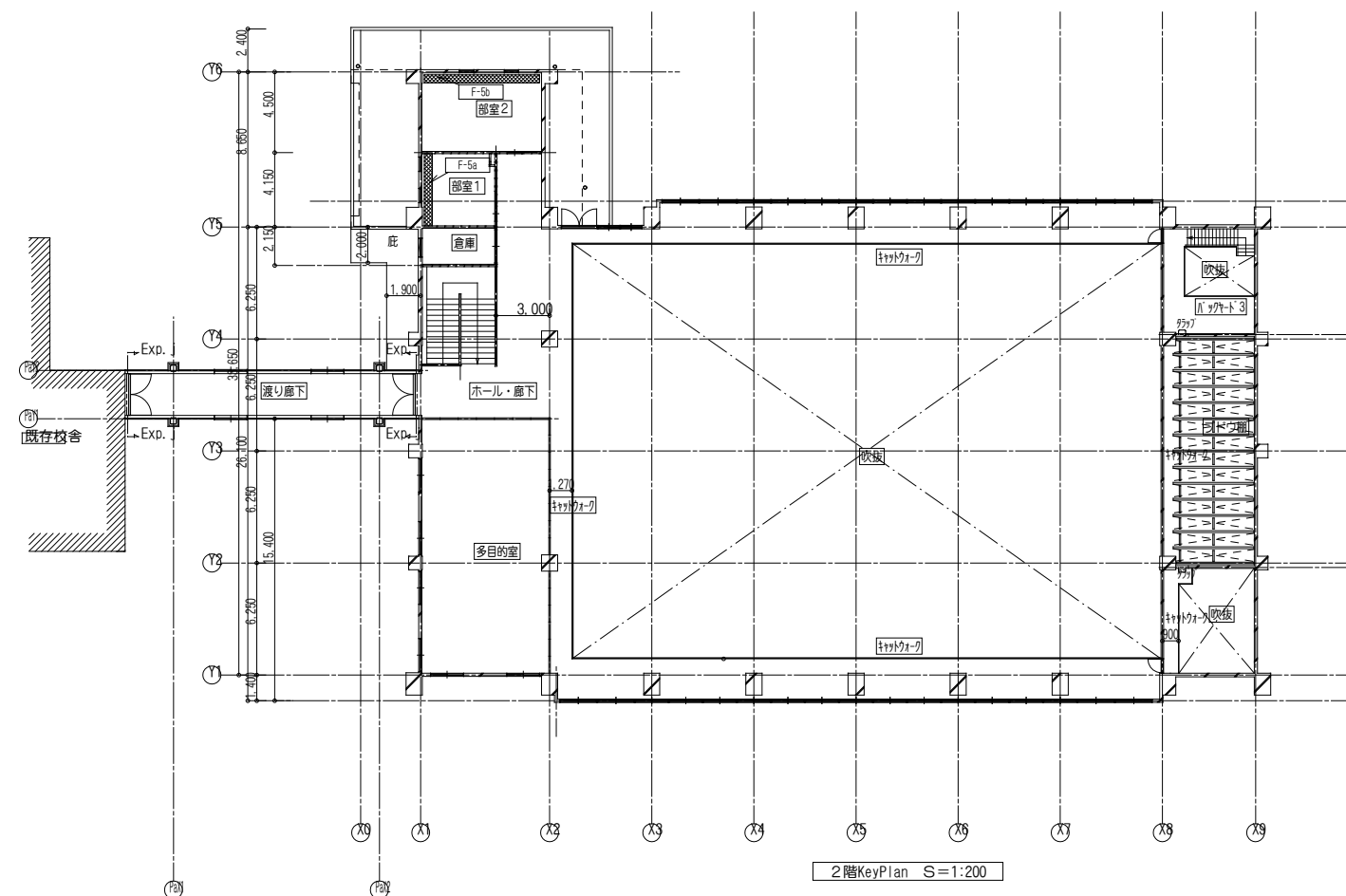
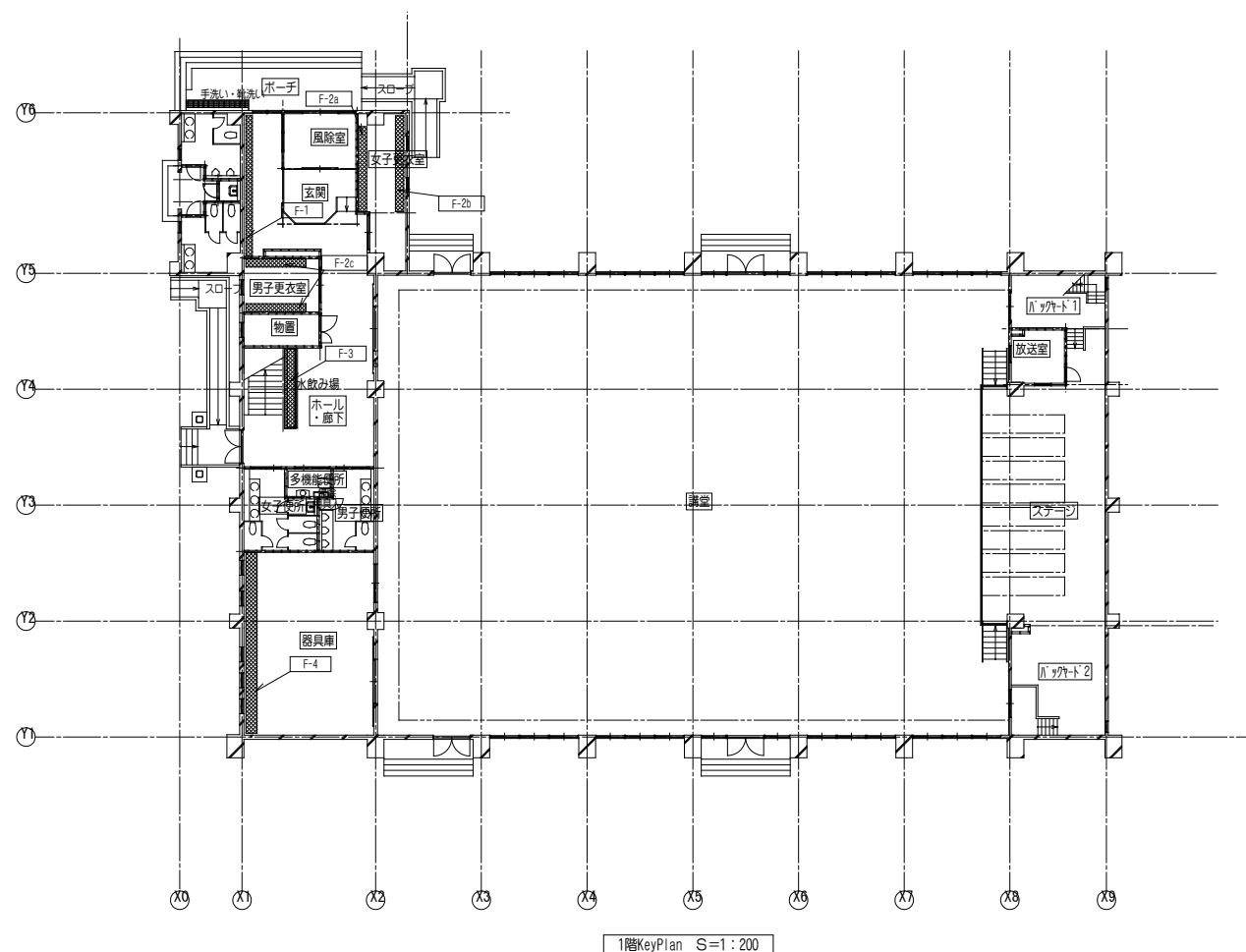
(X0) 通り+2,000 押出発砲ポリスチレンフォーム割付図 S:1/200



(X0) 通り 押出発砲ポリスチレンフォーム割付図 S:1/200

凡 例

- 押出発砲ポリスチレンフォーム t=40 (B種2種・・・B2)
- 開口部分を示す。

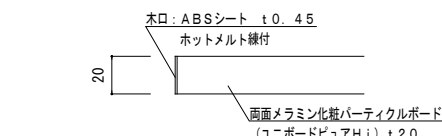


家具共通仕様 「図面中に特記なき所は下記の仕様とする。」

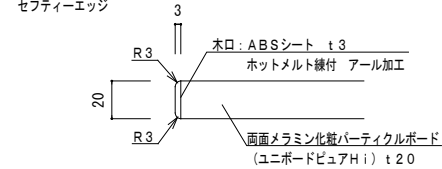
- |    |       |  |
|----|-------|--|
| 1  | 本体・棚板 | 室内VOC（ホルムアルデヒド等）の低減効果と抗菌機能を持った可視光増感型触媒を工学的に配合した両面メラミン化粧パーティクルボード（ユニボディビュアHi）厚さ20mm、F☆☆☆☆を使用する。<br>上配材は、JIS-A5908適合、18タイプ（曲げ強さ18N/平方メートル以上）とし、JISマーク認定の国内工場での生産品、かつグリーン購入法適合品とする。 |
| 2  | 木口処理  | 躯体からの水分浸入を防ぐ為に、本体は背面も含めてフラットエッジ（ABS製樹脂をホットメルト糊付）加工とする。<br>開き扉・抽斗前板はセフィエエッジ（ABS製 厚さ3mm ホットメルト糊付）加工とする。  |
| 3  | 表面処理  | 本体・棚板・建具等は使用時の擦り傷の発生を抑制する為に鉛筆硬度 9H 以上の表面材を使用する。<br>本体色については色見本帳（45色以上）を提出の上決定する。   |
| 4  | 裏板    | ポリ化塩合板 F☆☆☆☆ 厚さ4mm を使用し片面フラッシュ（450mm ピッチ以内に格子状模造）とする。  |
| 5  | 本体組立て | 組立ては、製作工場での本製タボ組接合とし、接合部のノックダウン金物は使用不可とする。   |
| 6  | 巾木・台輪 | ポリ化塩合板仕上げ F☆☆☆☆（塗装不要）とする。  |
| 7  | 建具    | 板戸・戸枠はいくいよソ抜け防止の為、かまち組み等は不可とし1枚物とする。<br>引違戸の鴨居側には耐震外れ止めスライドガイド、数居側には上下調整戸車を使用する。   |
| 8  | 引手    | 樹脂成型品（ABS製）把手・引手を使用する。   |
| 9  | 鴨居・数居 | メンテナンス性が容易な樹脂成型レール（ABS製）を埋め込んだ鴨居と面付けの数居（ABS製）とする。  |
| 10 | 棚板受け  | 安全で外れにくいネジ込み式で、錆びにくいステンレス製タボ φ8-M6を使用する。<br>棚板は外れ止めシャクリ加工を施す。  |
| 11 | 特記事項  | 品質確保の為、製作はISO9001取得企業とする。<br>製作にあたり、事前に製品の品質証明書及び材料と接着剤の安全データシートを提出し、素材・金物の承認を受ける。   |
| 12 | 施工    | 家具取付は、安全のため壁や床に耐震固定を施す。  |

[ 木口詳細 ]

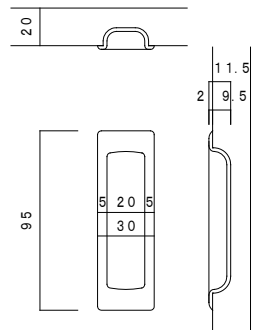
フラットエッジ



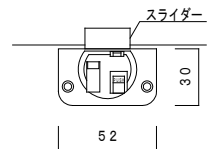
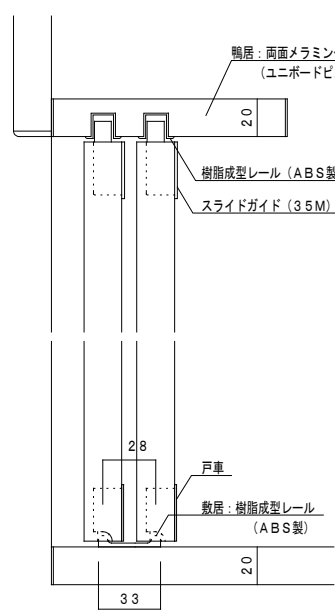
セフティーエッジ



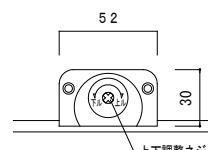
[ 引違戸詳細 ]



### 引手詳細図

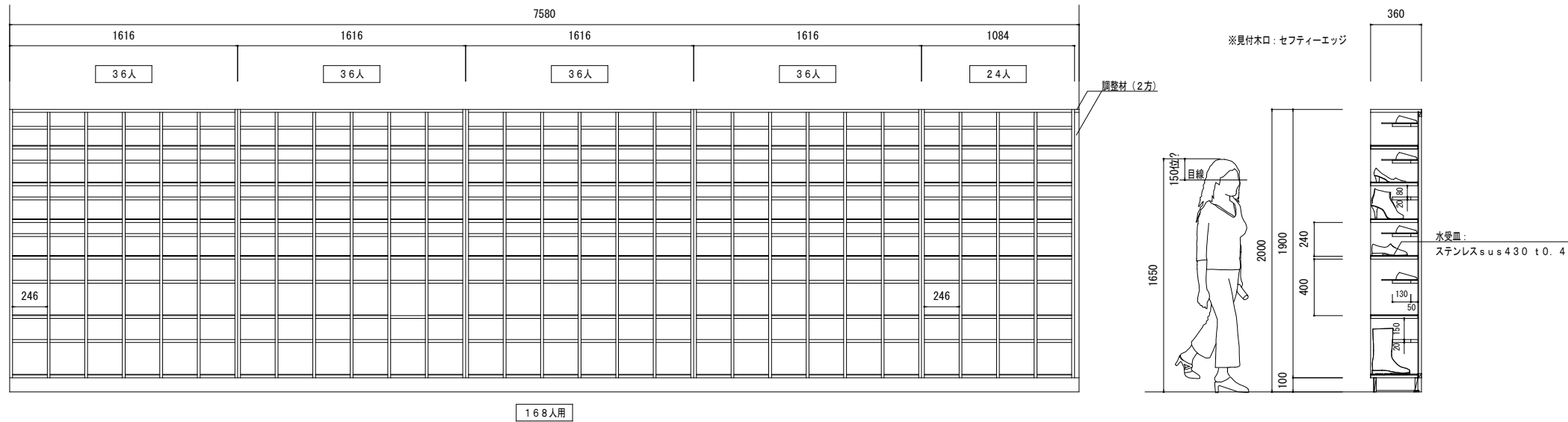
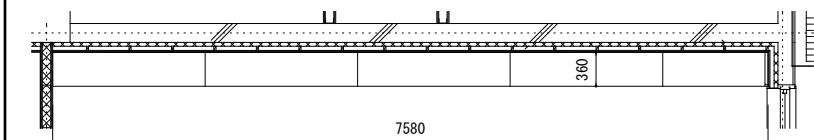


スライドガイド (35M)



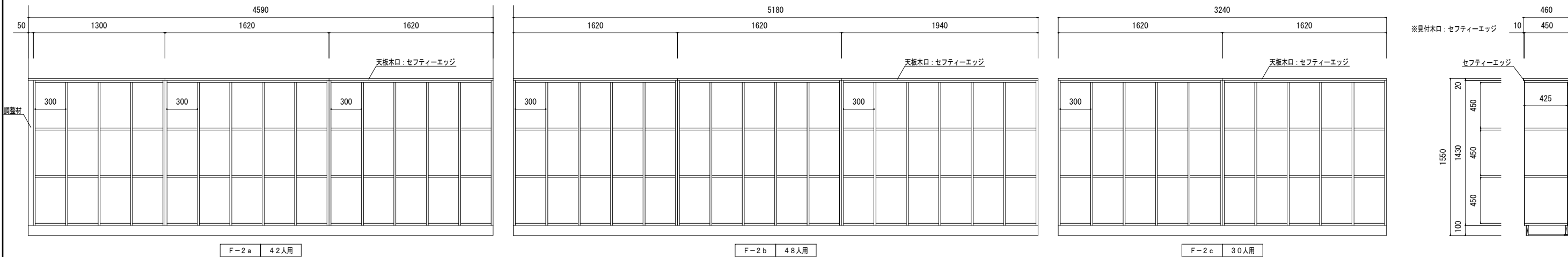
戸車詳細図

F-1	下足入れ	1階 玄関	1ヶ所				1/20
-----	------	-------	-----	--	--	--	------

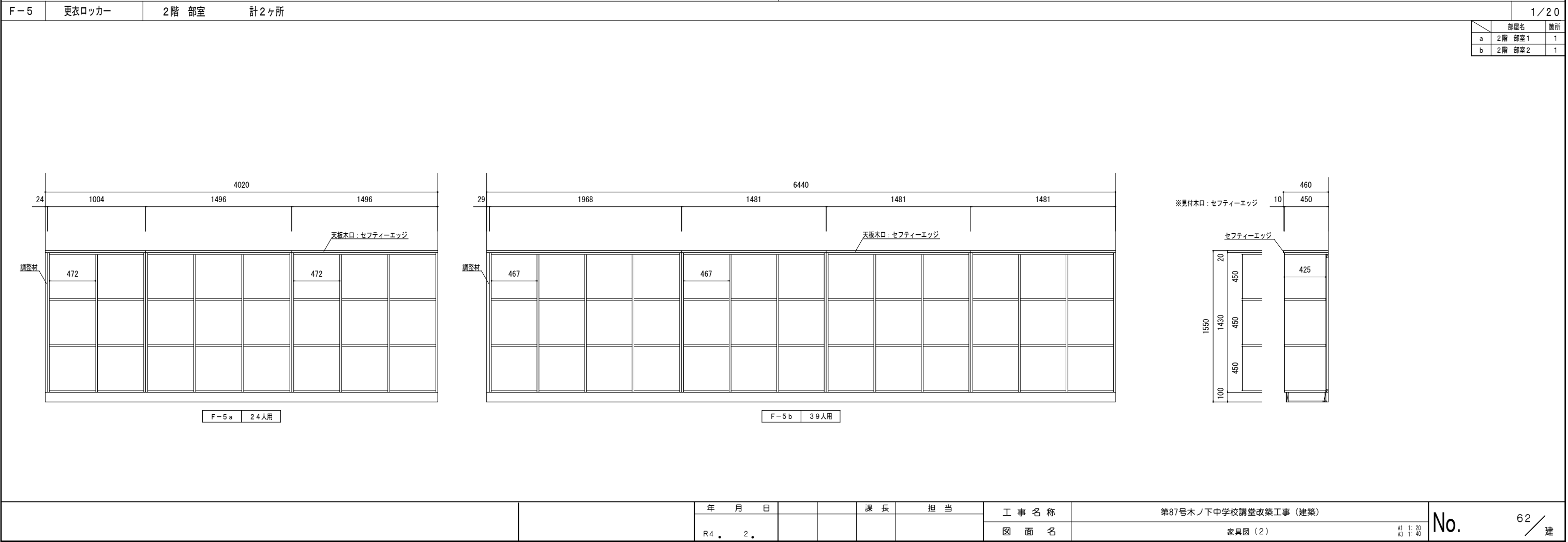
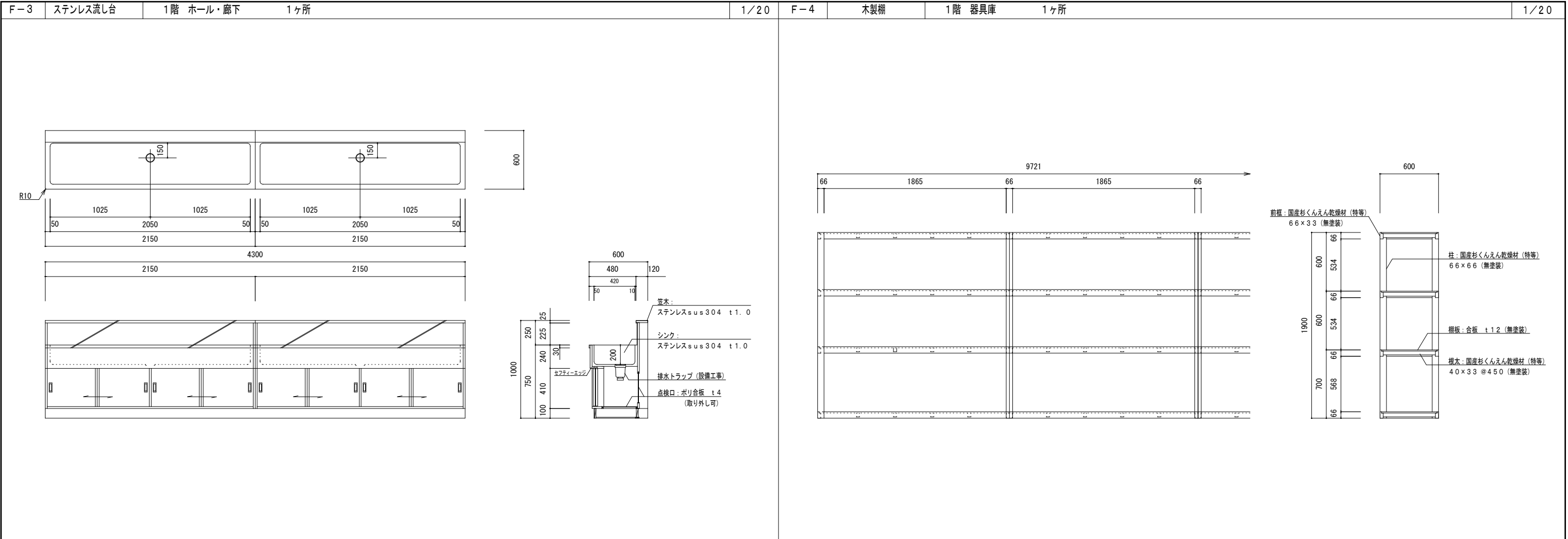


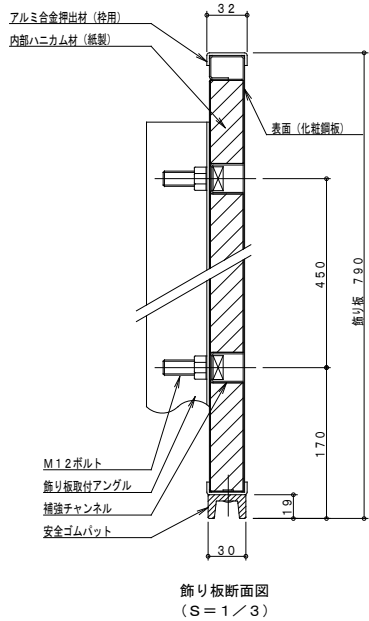
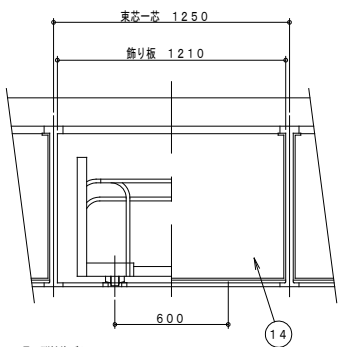
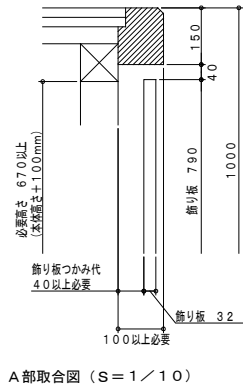
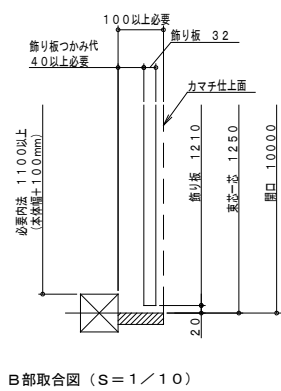
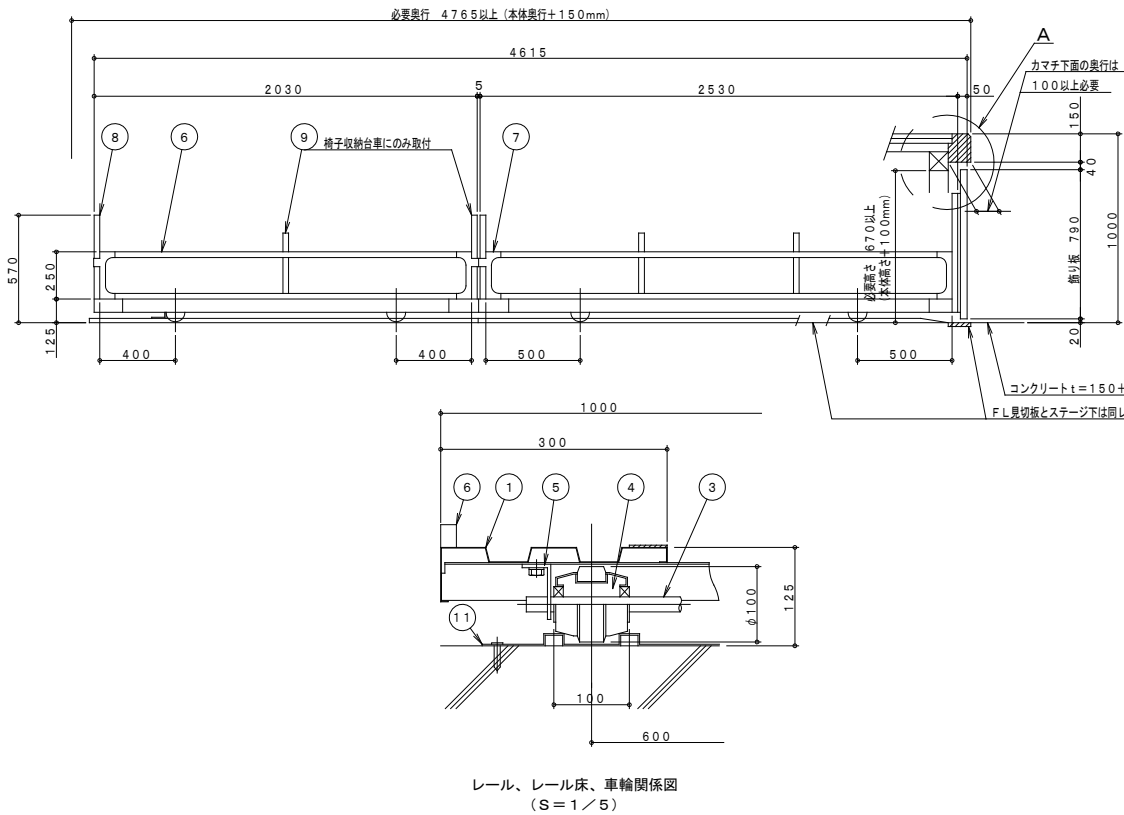
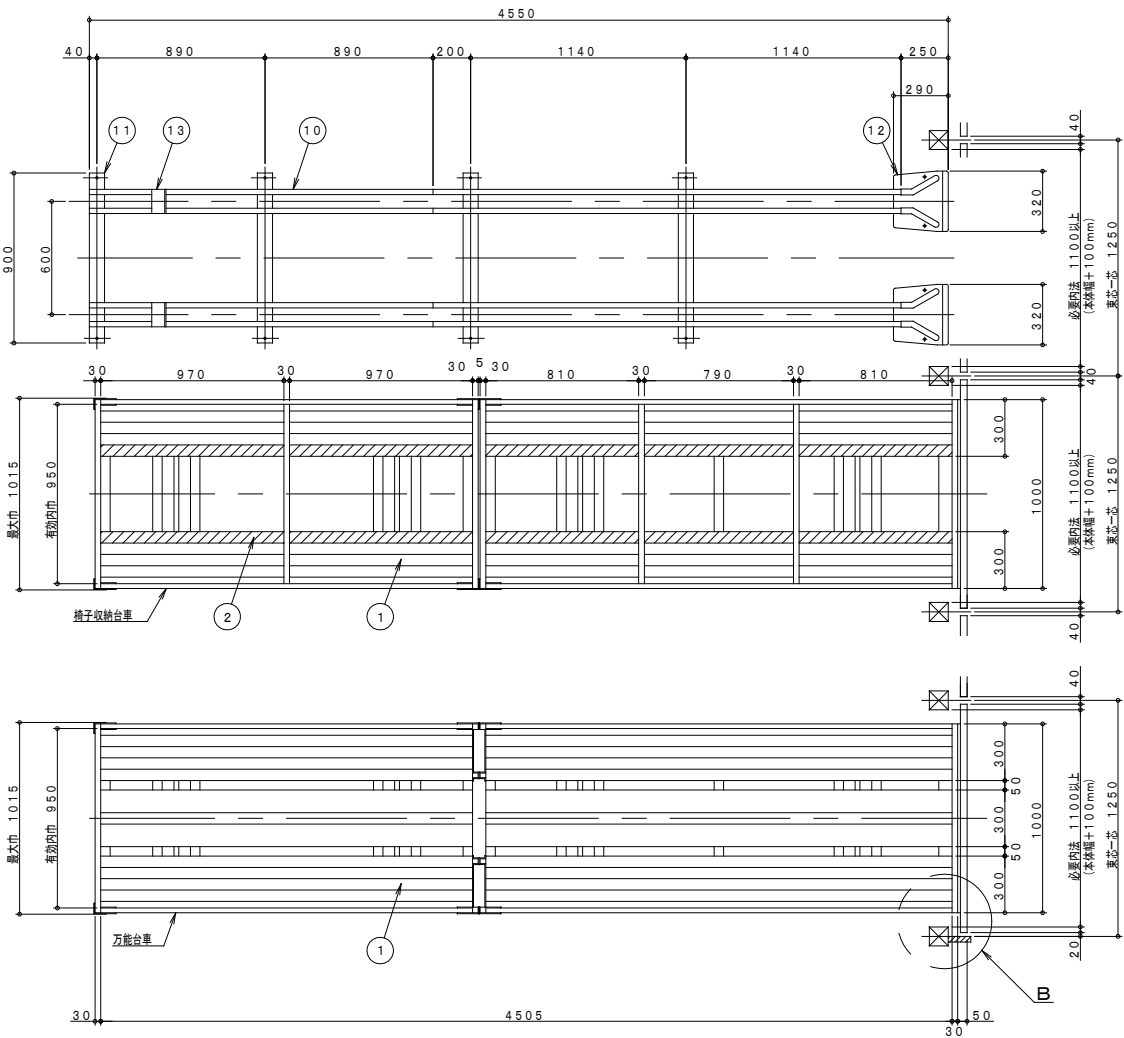
F-2	更衣ロッカー	1階 更衣室	計4ヶ所	1/20
-----	--------	--------	------	------

	部屋名	箇所
a	1階 女子更衣室	1
b	1階 女子更衣室	1
c	1階 男子更衣室	2



		年 月 日			課 長	担 当	工 事 名 称	第87号木ノ下中学校講堂改築工事（建築）	No. 61 / 建
		R4 . 2 .					図 面 名	家具図（1） A1 1: 20 A3 1: 40	

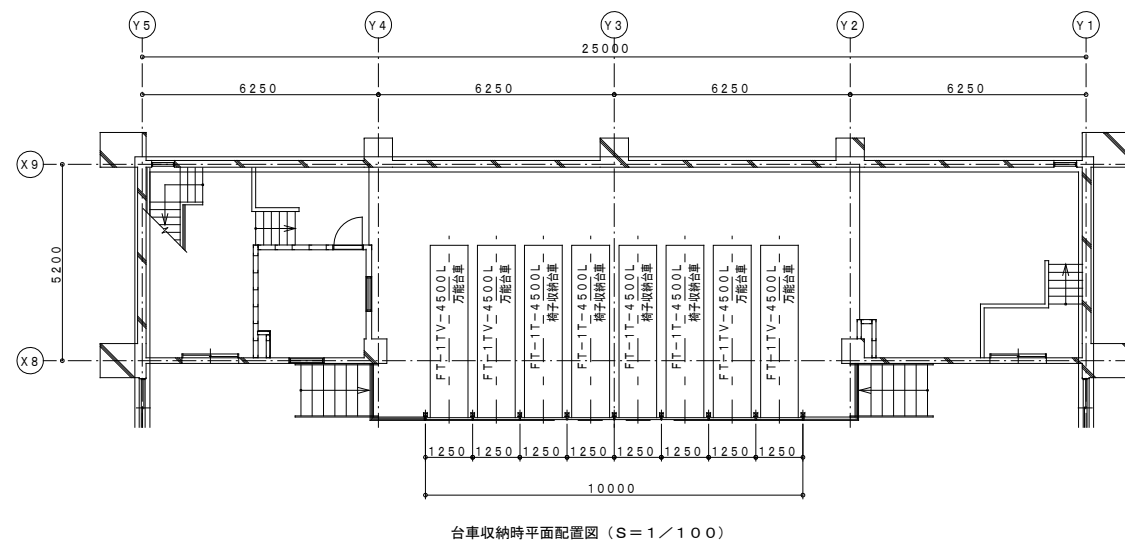


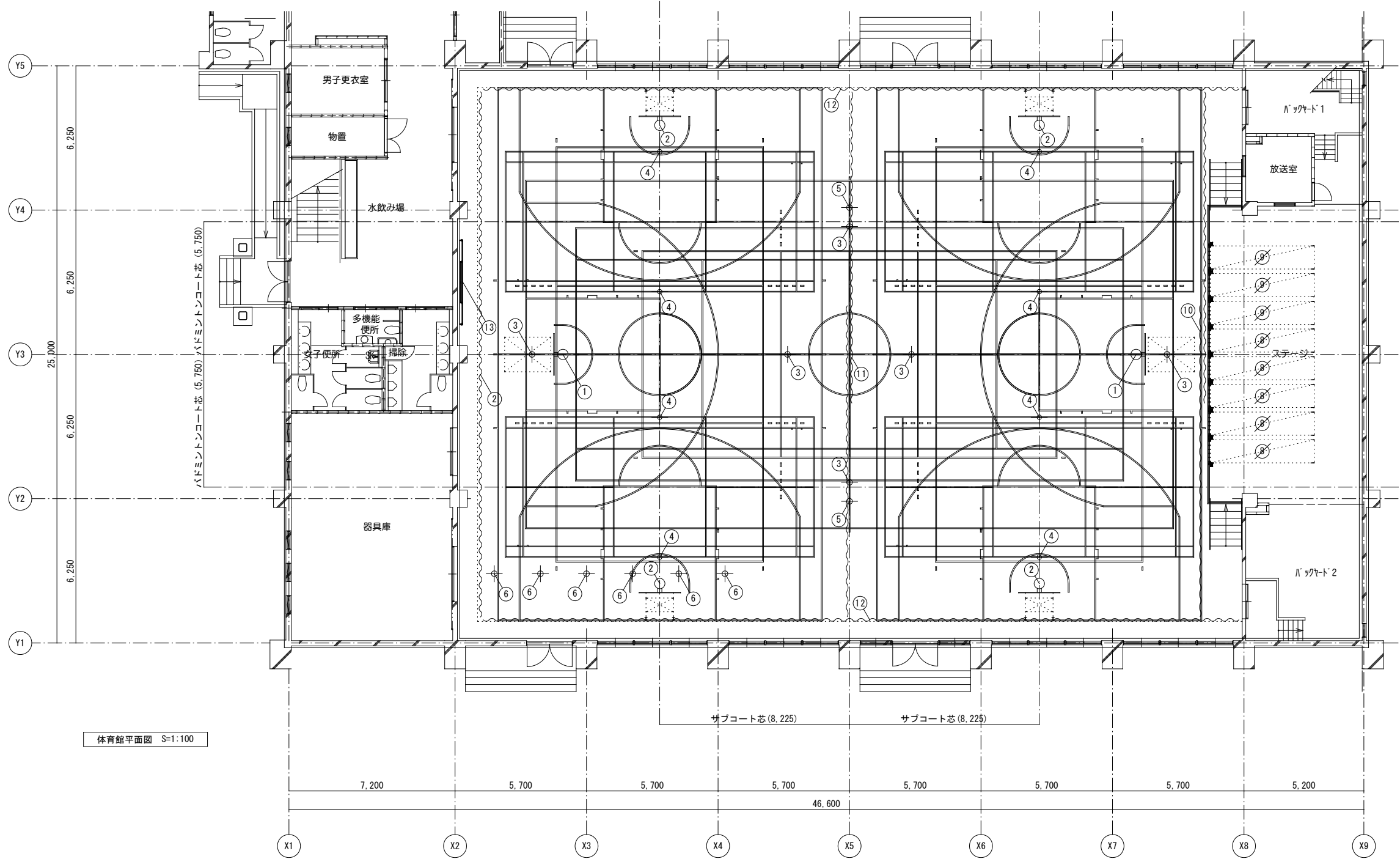
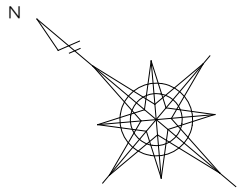


主 構 成 部 品			
NO	品 名	材 料 ・ 加 工	表面処理
1	床 板	亜鉛メッキ鋼板 t 0. 9 を曲げ加工	亜鉛メッキ
2	椅子滑り止 め	ポリエチレン樹脂発泡材	
3	車 軸	機械構造用炭素鋼鋼管 φ 20 × t 2. 5	亜鉛メッキ
4	車 輪	冷延鋼板 t 2. 0 をプレス加工した後、その外周に合成ゴムを焼付けした一体型車輪 (軸受部はベアリング嵌合)	
5	軸 受	熱延鋼板 t 4. 5 を曲げ加工	黒色焼付塗装
6	サイド枠	亜鉛メッキ鋼板をフォーミング加工 30 × 20 × t 0. 8	白色焼付塗装
7	ジョイントコネクター	熱延鋼板 t 2. 0 を曲げ加工	黒色焼付塗装
8	ハンドル	亜鉛メッキ鋼板をフォーミング加工 30 × 20 × t 0. 8	白色焼付塗装
9	椅子倒れ止 め	亜鉛メッキ鋼板をフォーミング加工 30 × 20 × t 0. 8	白色焼付塗装
10	レール	亜鉛メッキ鋼板 t 1. 6 をフォーミング加工	亜鉛メッキ
11	枕 板	亜鉛メッキ鋼板 t 1. 6 をプレス加工	亜鉛メッキ
12	車輪ガイド	亜鉛メッキ鋼板 t 1. 6 をプレス加工	黒色焼付塗装
13	ストッパー	一般構造用圧延鋼板 t 6. 0 を曲げ加工	黒色焼付塗装
14	飾り板	化粧鋼板 t 0. 8 を曲げ加工し、アルミ製枠にて保護したものの中にハニカム材 (紙製) をはめ込んだもの (合成ゴム製安全パッド付)	樹脂コーティング

備 考	
1	製作数 4列 4輛 (フジトラックFT-1T-4500L) 椅子収納台車
2	製作数 4列 4輛 (フジトラックFT-1TV-4500L) 万能台車
3	レールの製作及び取付工事はこの設備に含みます
4	飾り板の製作及び取付調整はこの設備に含みます
5	レール下地 (コンクリート) はこの設備より除外とします
6	椅子収納脚数 90脚/輛 (但し折り畳み椅子の厚さは50mm以下で積算)
7	製品総重量 175kg/輛 (FT-1T-4500L 椅子収納台車) 180kg/輛 (FT-1TV-4500L 万能台車)

別途工事  
・レール設置部床仕上工事



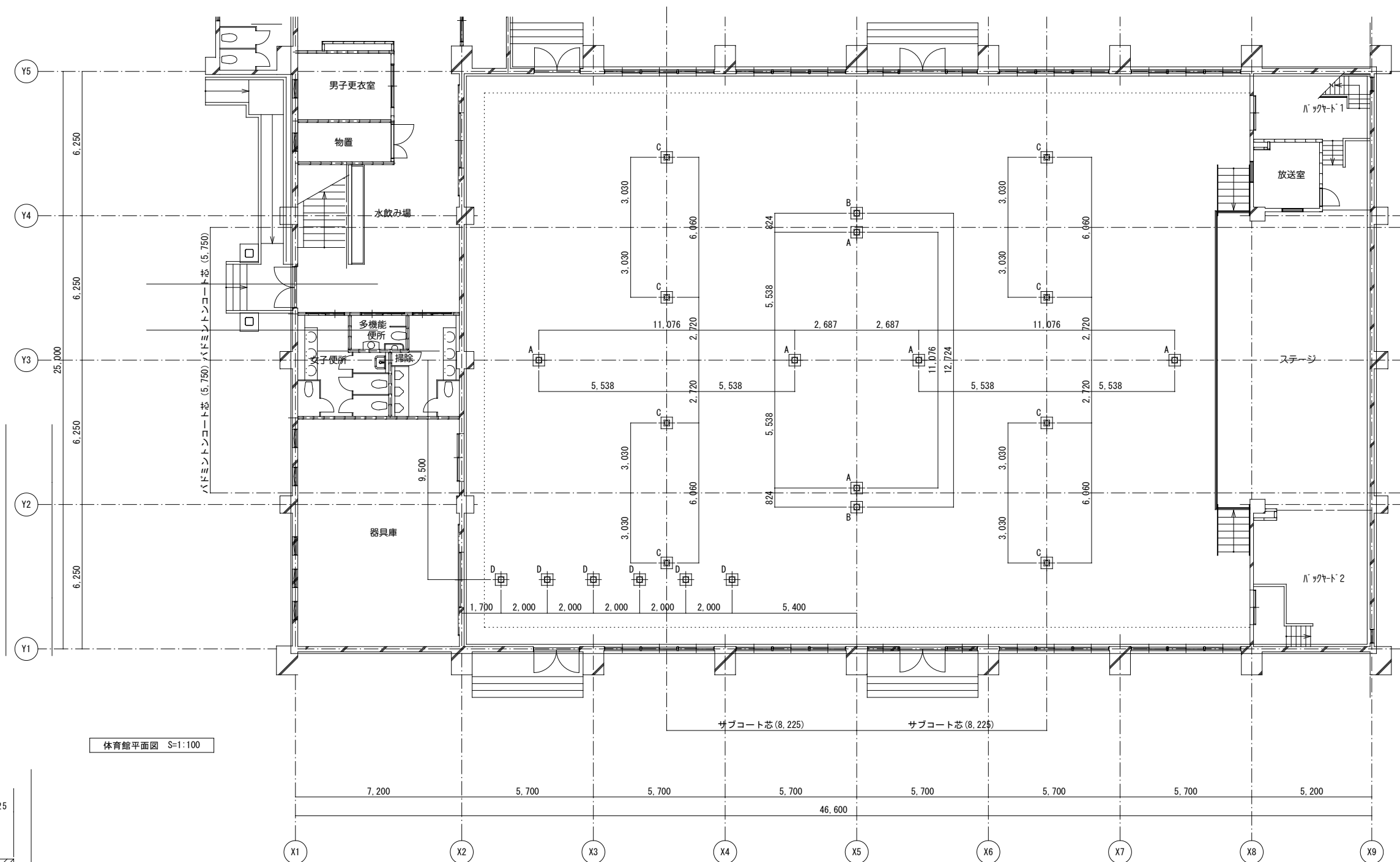
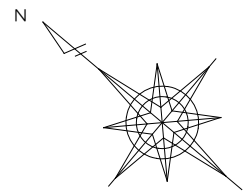


体育館平面図 S=1:100

コートライン内訳	数量	備 考
バスケットボールコート（メイン）	1面	実線 ライン幅50mm
バスケットボールコート（サブ）	2面	実線 ライン幅50mm
バレーボールコート	3面	実線 ライン幅50mm
バドミントンコート	4面	実線 ライン幅40mm
テニスコート	1面	実線 ライン幅25～50mm

体育施設工事一覧表

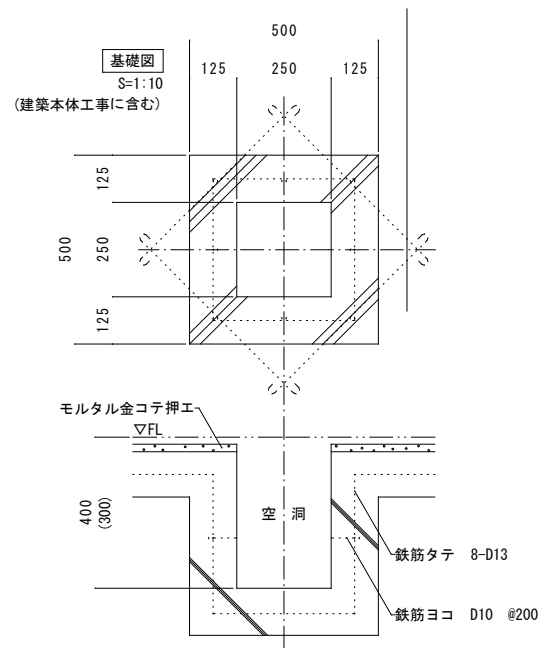
NO	品 番	数量	品 名 / 仕 様
1	BB420	1対	吊下前方折畳式バスケット台 電動無線式 プラスチック板 バックボード高低装置付 BB640落下衝撃緩衝装置付
2	BB567	2対	水平引込折畳式バスケット台 シングルフレーム方式 フロアーハンドル式 プラスチック板
3	BV401	3対	バレー用床止金具 フローリング用 完全落蓋型 亜鉛ダイカスト製
4	BD601	4対	バドミントン用床止金具 フローリング用 完全落蓋型 亜鉛ダイカスト製
5	BV401	1対	テニス用床止金具 フローリング用 完全落蓋型 亜鉛ダイカスト製
6	GG191	6個	低鉄棒用床止金具 フローリング用 完全落蓋型 亜鉛ダイカスト製
7	KG215	1基	鏡 壁面固定式 両開引き戸式 W1.8×H1.2m
8	SS707	5台	椅子収納台車 キャスター浮上式 L=4500 飾り板額縁タイプ付 別紙No. 6 4 / 建 参照
9	SS708	3台	万能台車 キャスター浮上式 L=4500 飾り板額縁タイプ付 別紙No. 6 4 / 建 参照
10	SD101	1張	ステージ用防球ネット 両開チェーン操作式
11	SD101	1張	セパレート用防球ネット 両開チェーン操作式
12	SD103	2張	側面用防球ネット 片開手引き式
13	SD104	1張	裏面用防球ネット 片開手引き式



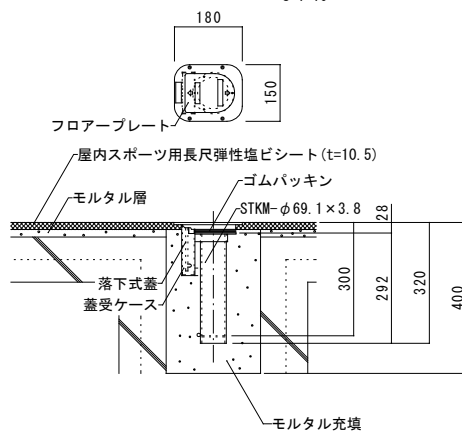
床下基礎内訳表

記 号	名 称	個 数	空洞深さ
A	バレー用	6	400
B	テニス用	2	400
C	バドミントン用	8	300
D	低鉄棒用	6	400
合計		22	

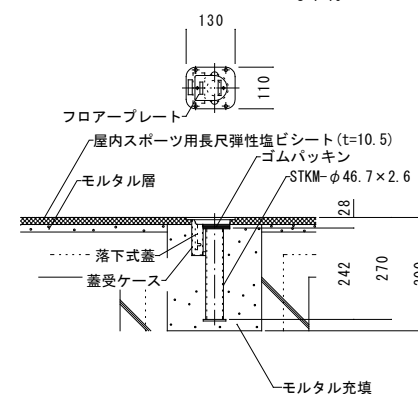
体育館平面図 S=1:100



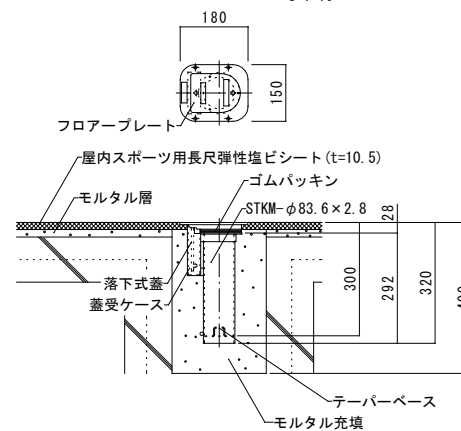
GG192(塗床用)低鉄棒床金具 S=1:10



BD602(塗床用)バドミントン床金具 S=1:10



BV402(塗床用)バレー床金具 S=1:10



年 月 日  
R4. 2.

担 当

工 事 名 称  
図 面 名

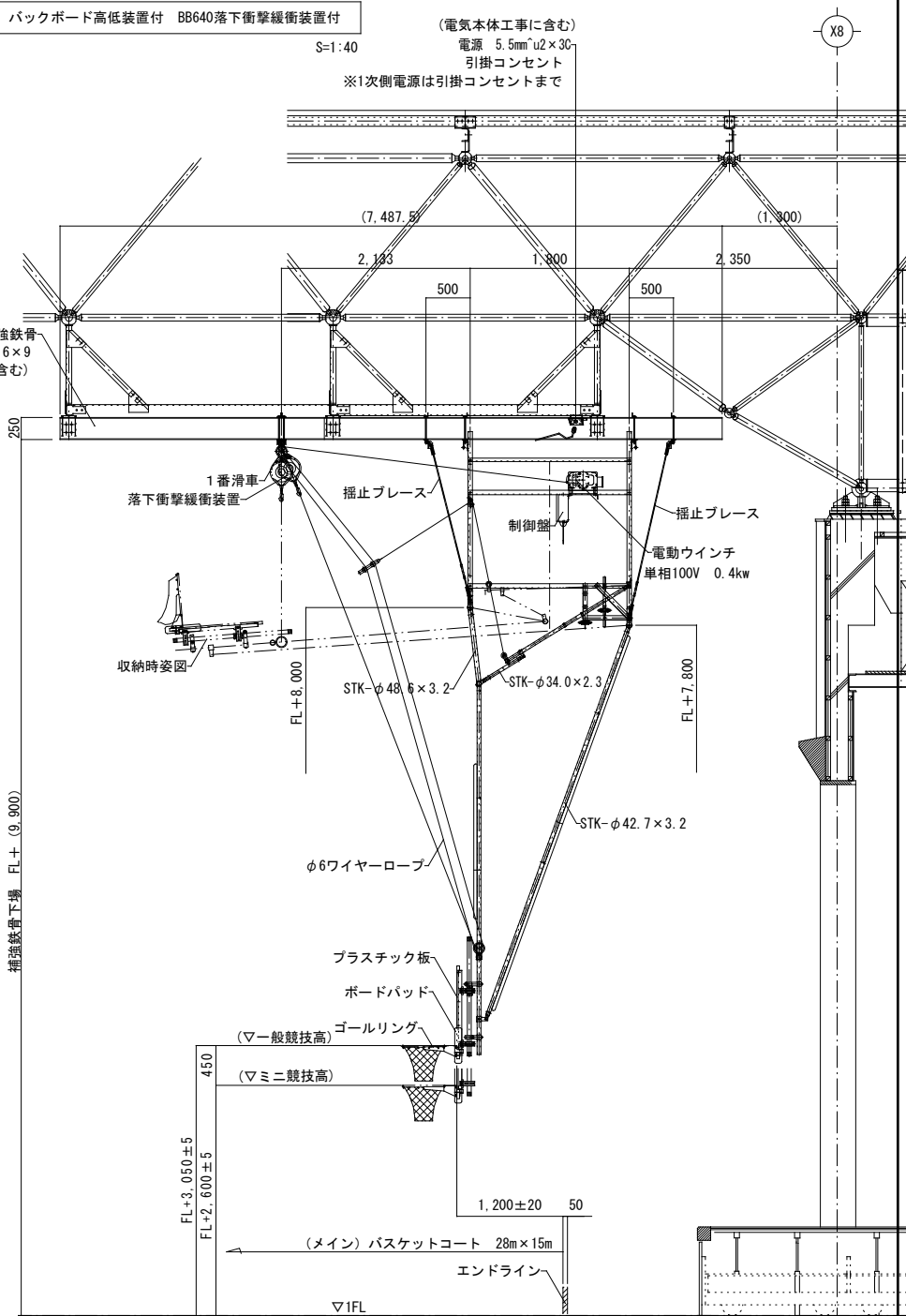
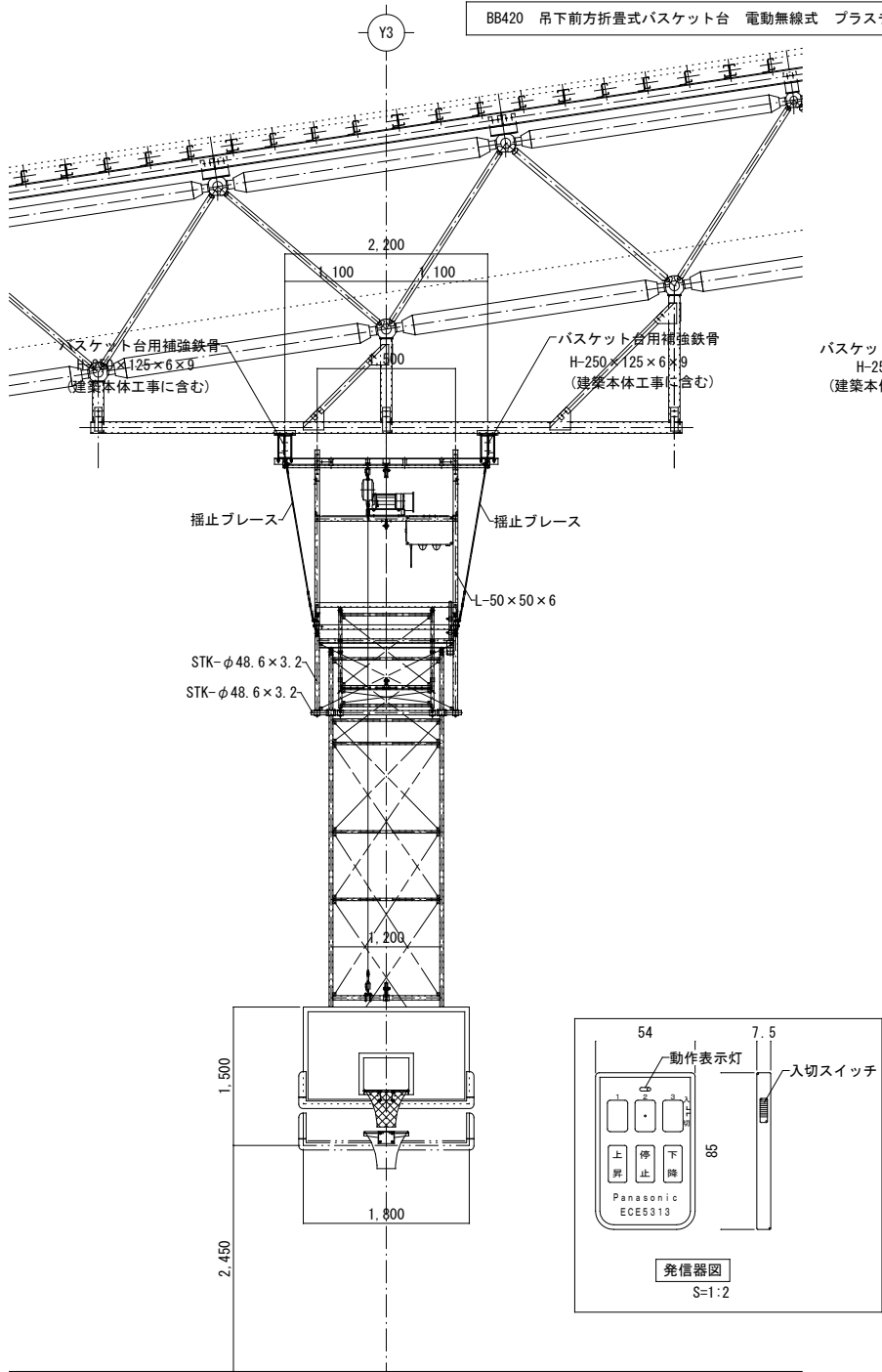
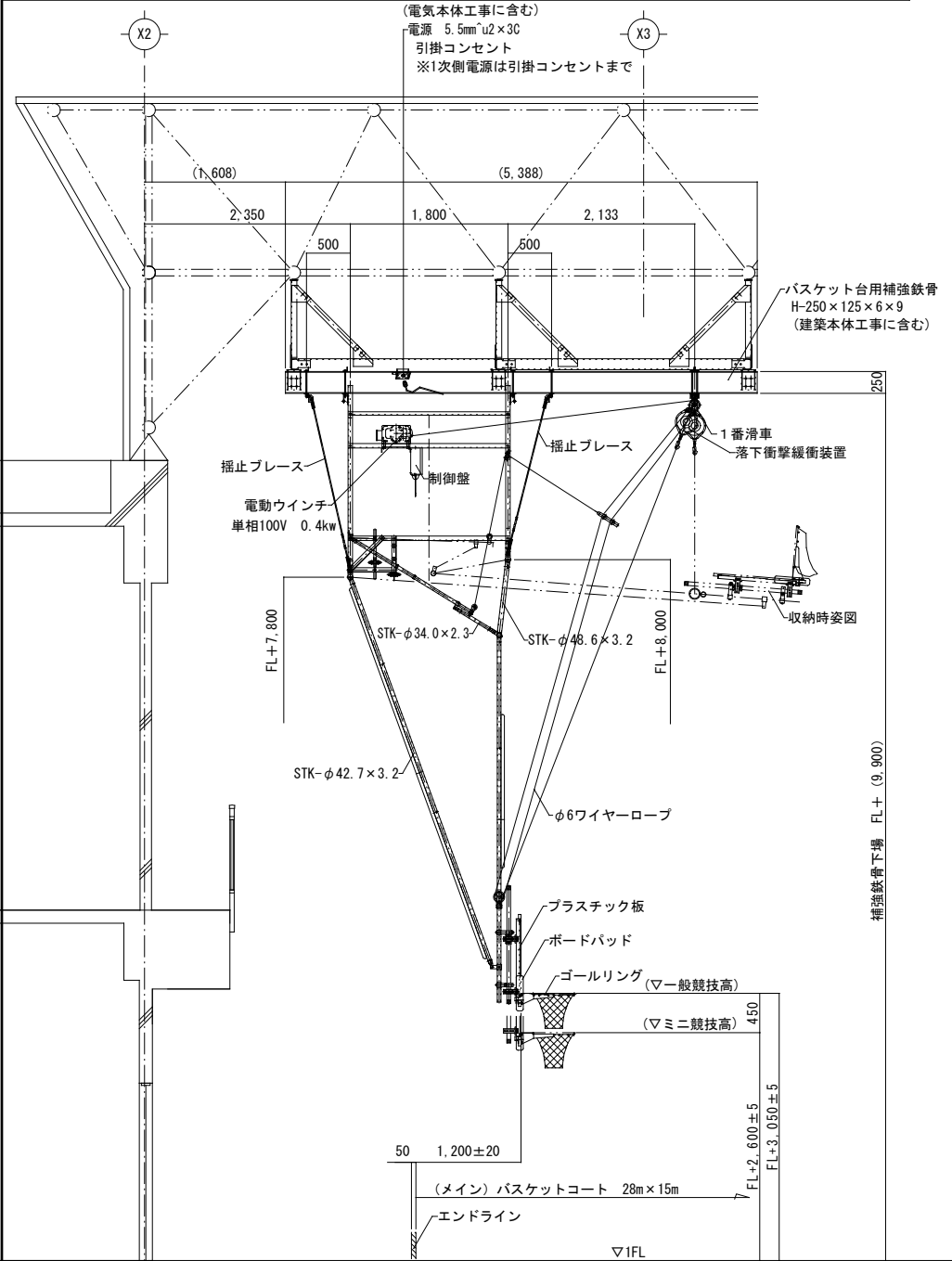
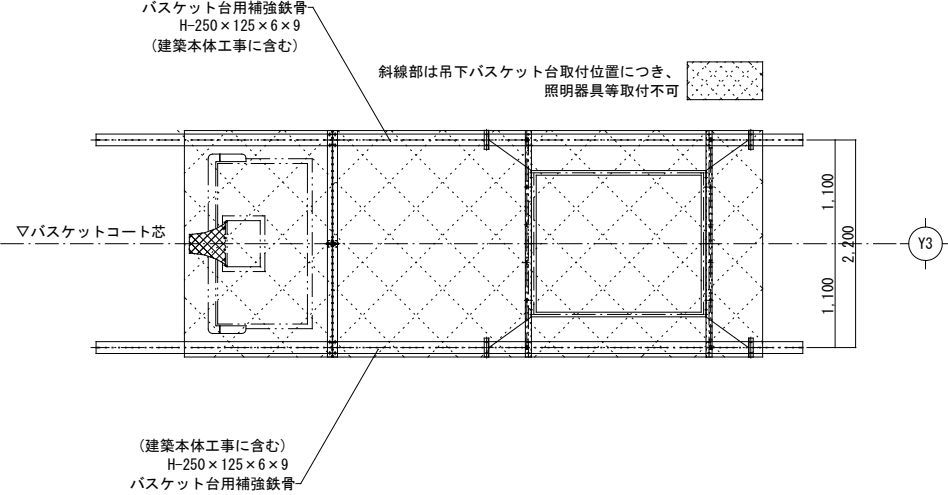
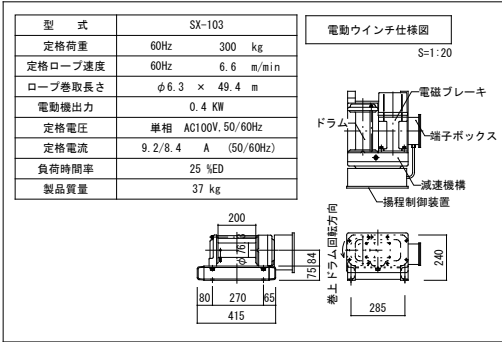
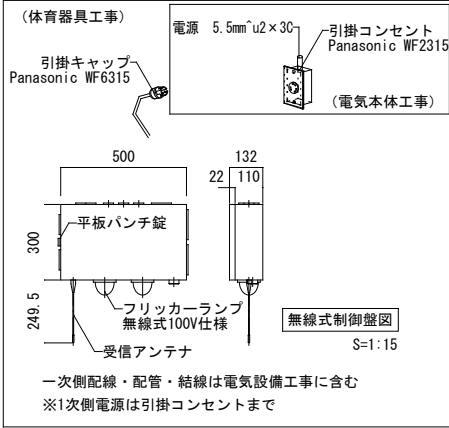
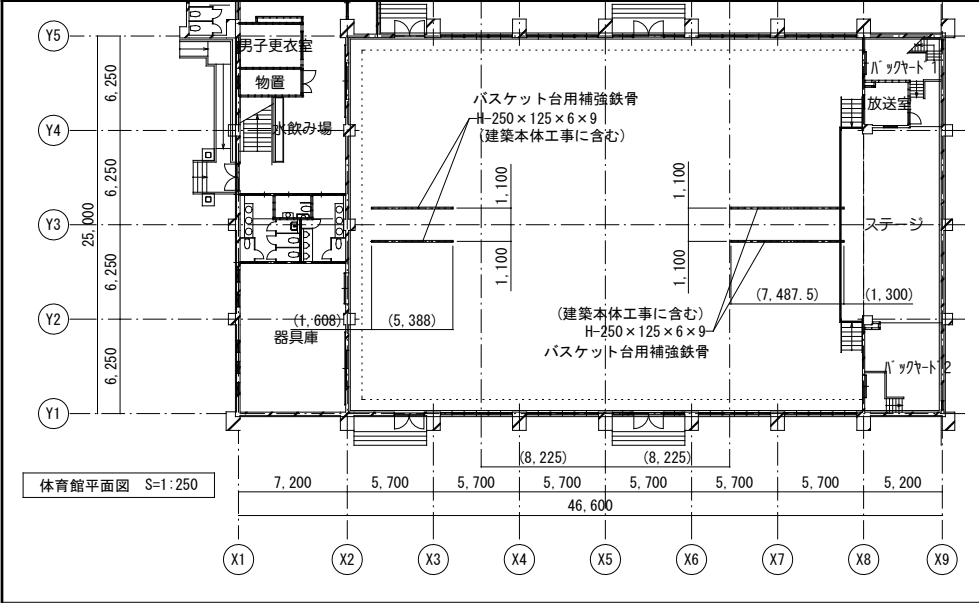
第87号木ノ下中学校講堂改築工事(建築)  
体育器具図(2)基礎配置図 床止金具詳細図

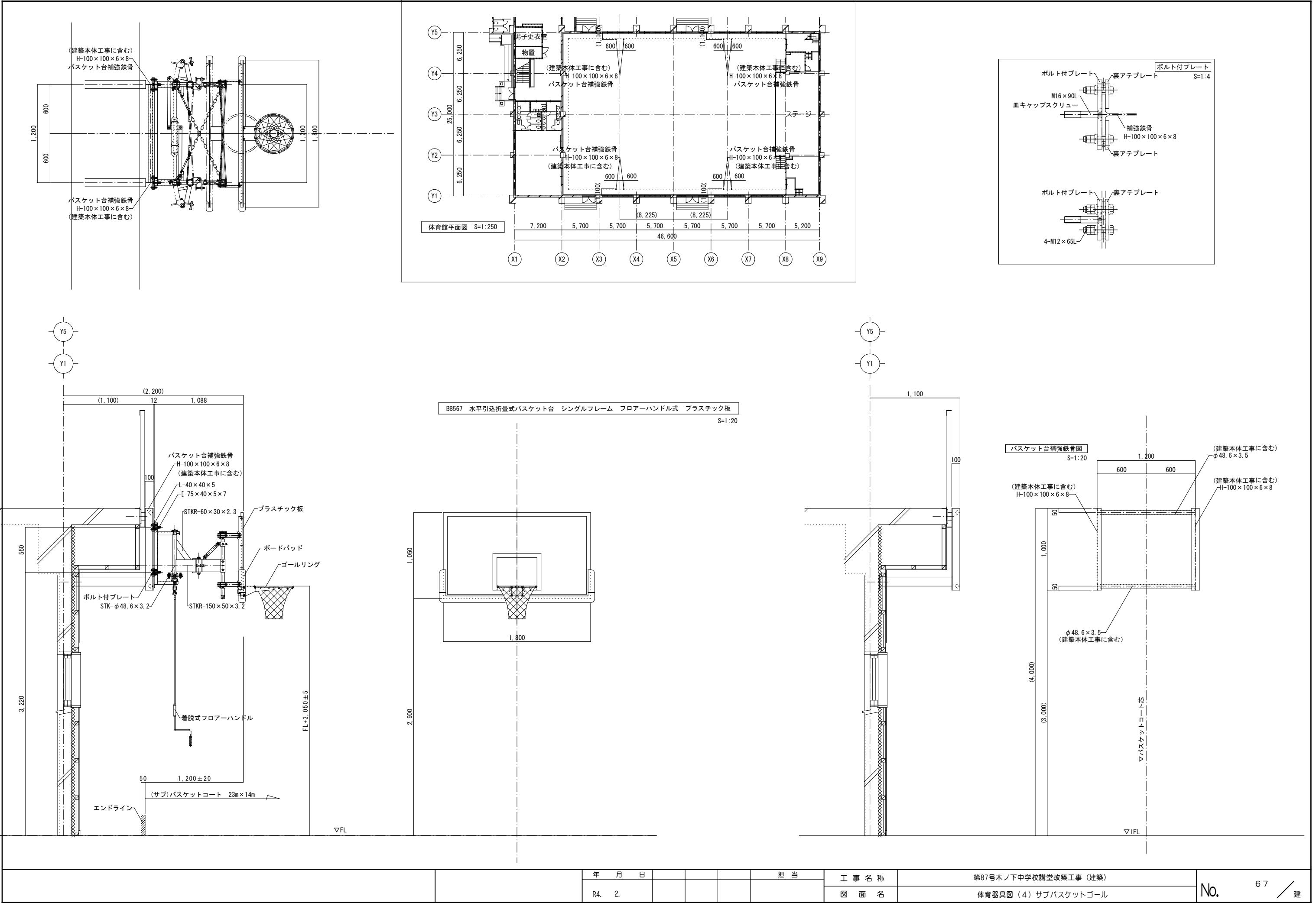
No.

65

建

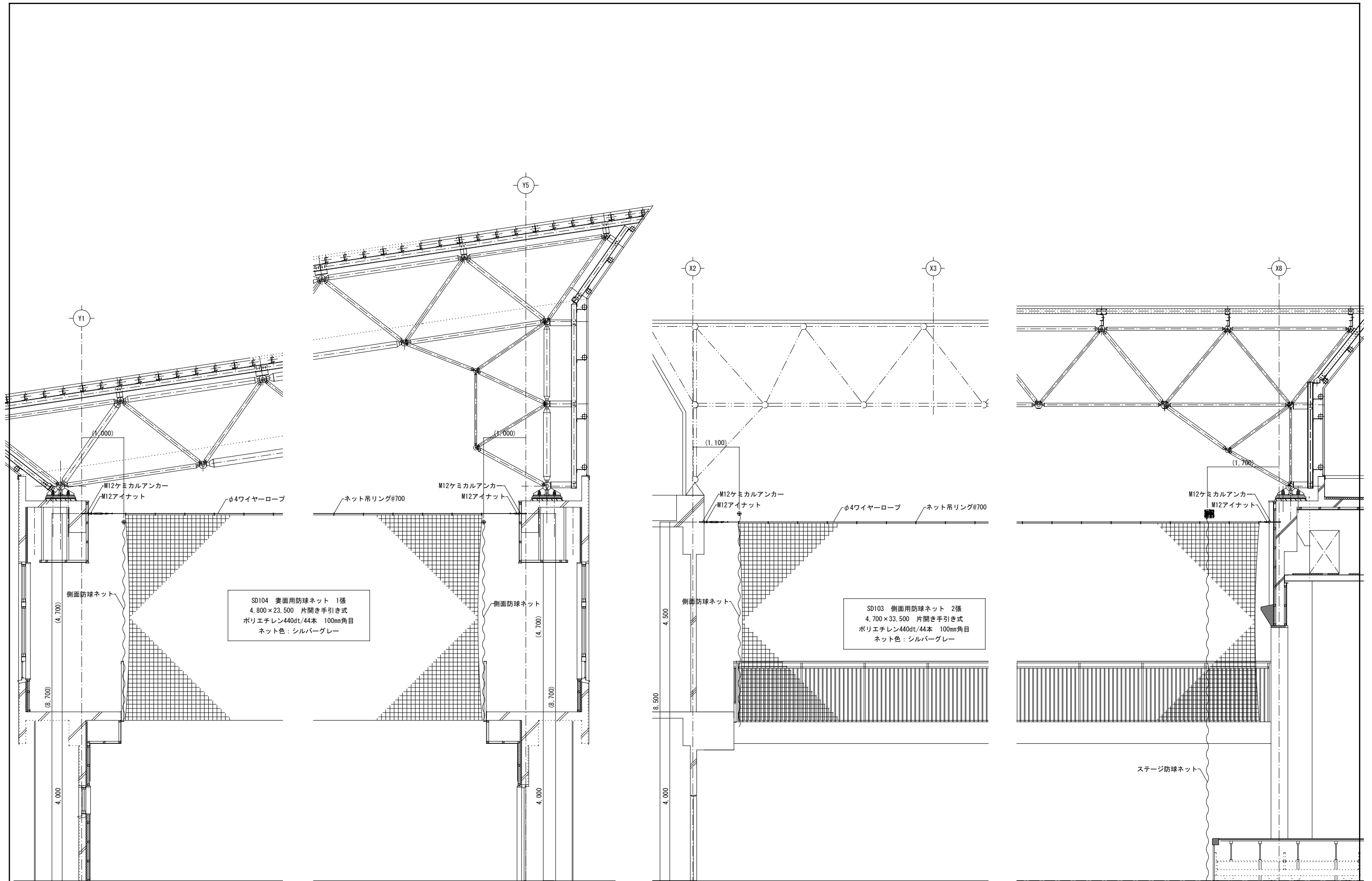






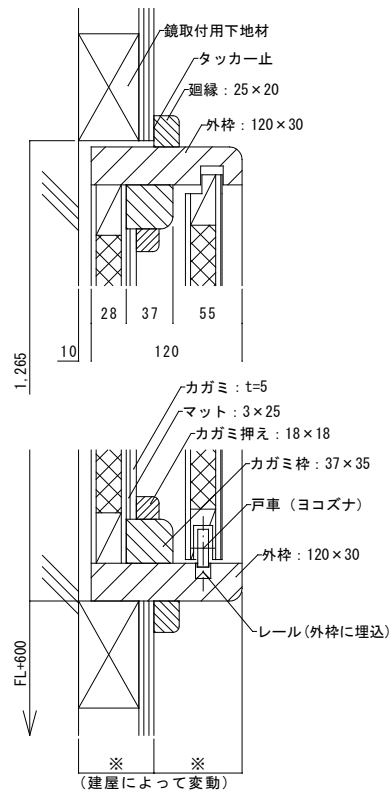
		年 月 日				担 当	工 事 名 称	第87号木ノ下中学校講堂改築工事 (建築)	No. 67 / 建
		R4. 2.					図 面 名	体育器具図 (4) サブバスケットゴール	





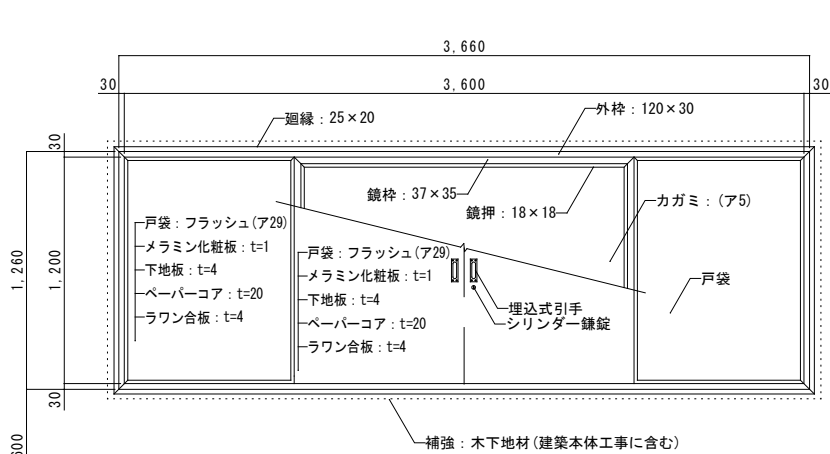
鏡取付部分図

S=1/3



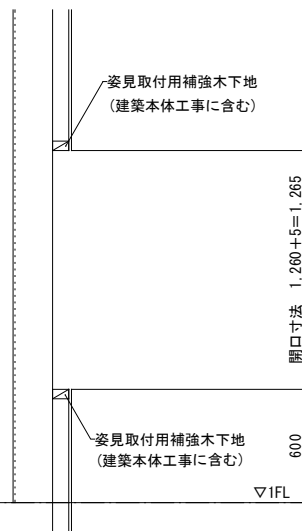
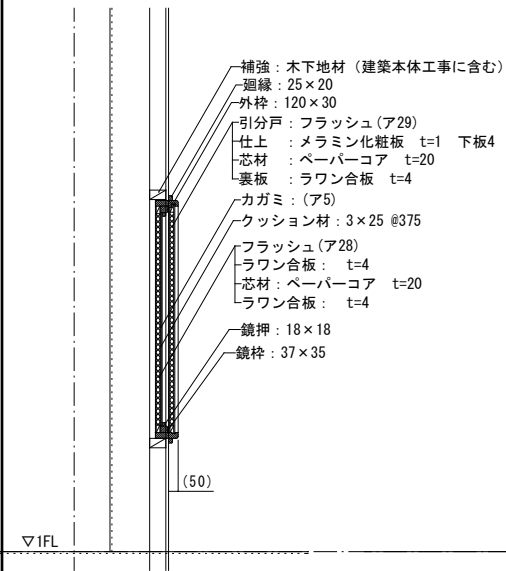
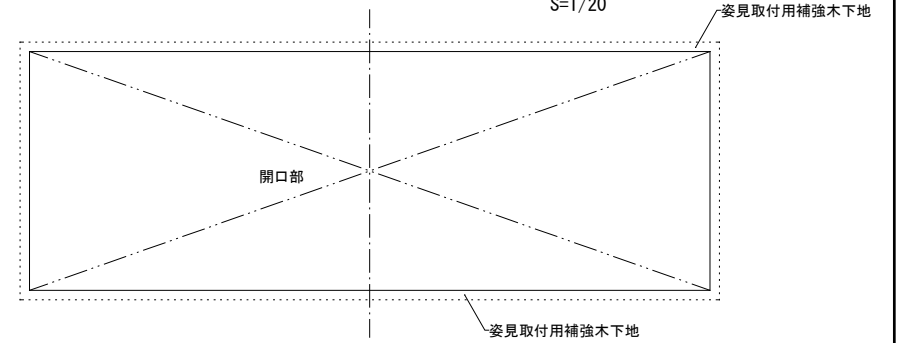
KG215 姿見鏡

S=1/20

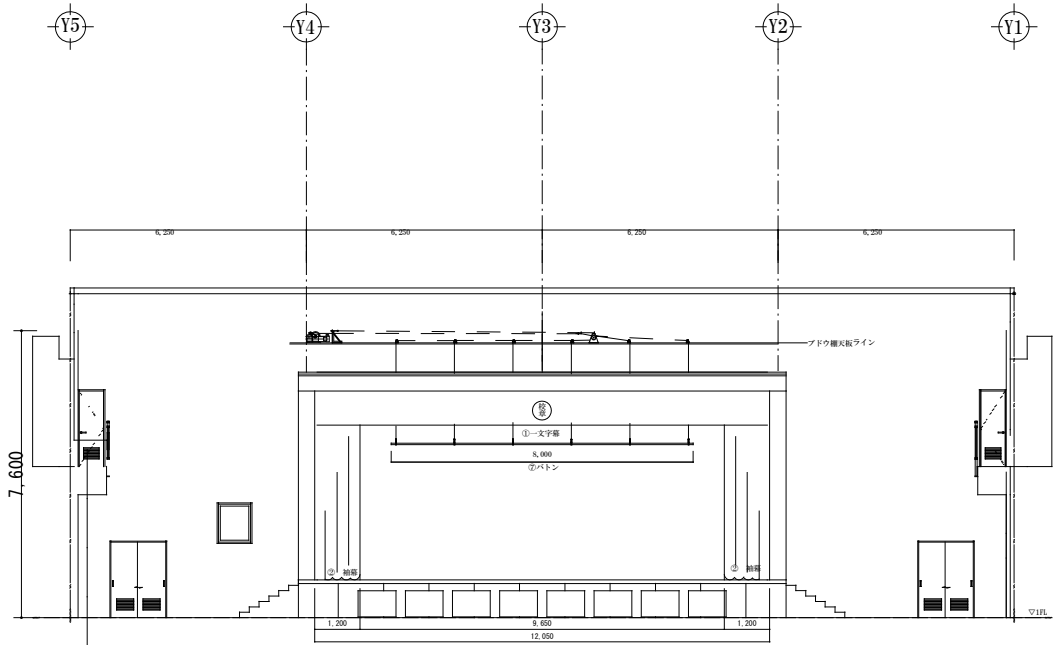


開口部詳細図

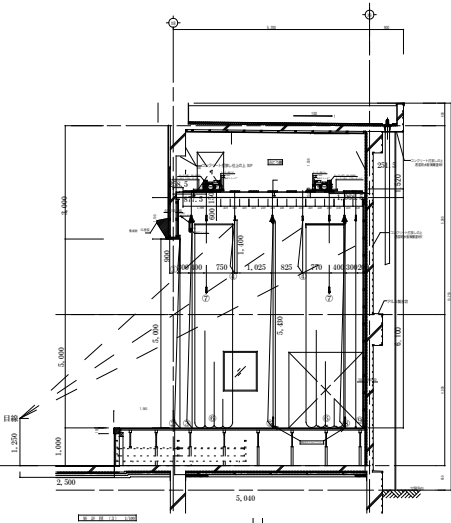
S=1/20



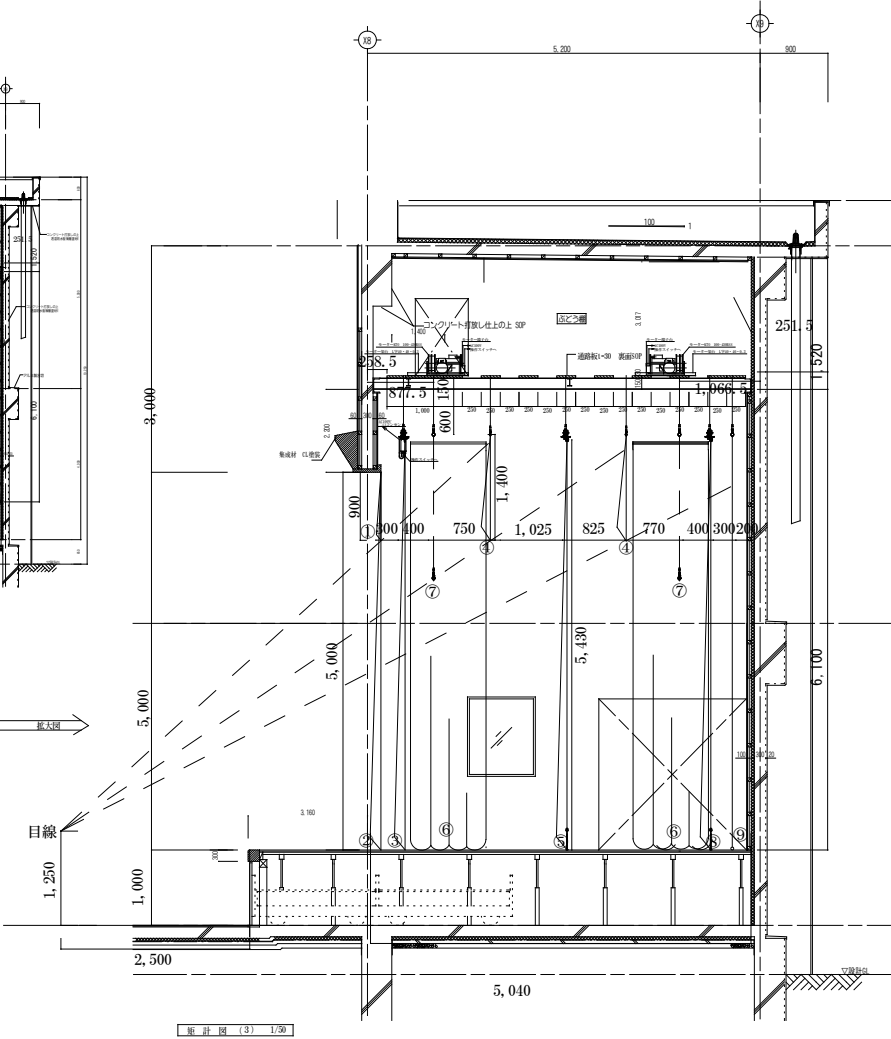
正面図 (ブドウ棚 モーター・滑車など配置図)



断面図 (ブドウ棚 モーター・滑車など配置図)

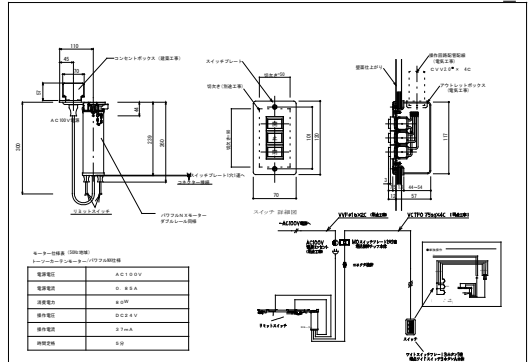


断面図 (拡大図)

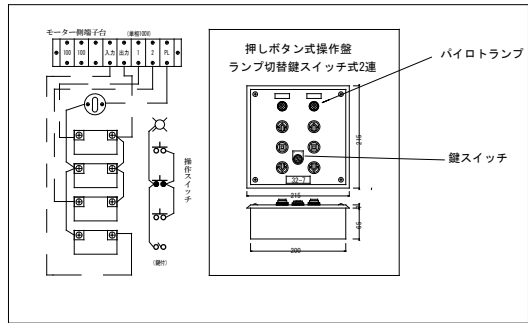


電気工事

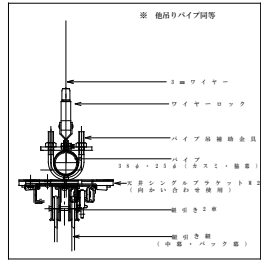
引幕  
NXモーター結線図



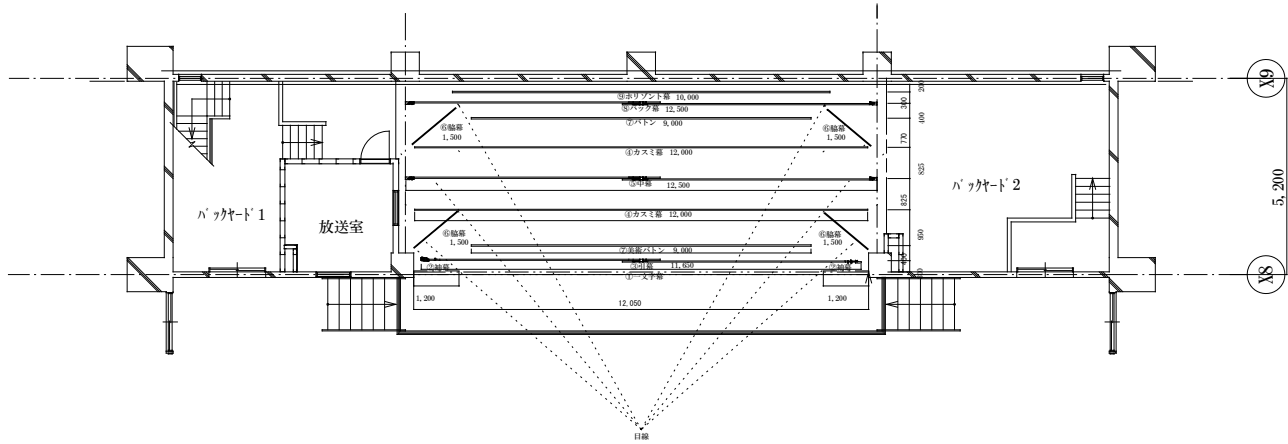
昇降ボタン  
KTO 100-450BSS 結線図



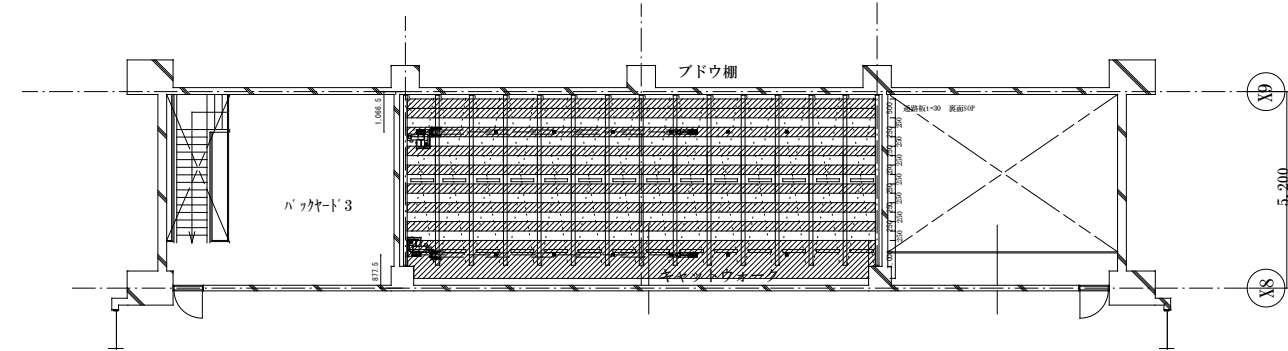
吊り金具詳細  
引幕・中幕・バック幕レール (カスミ・脇幕)



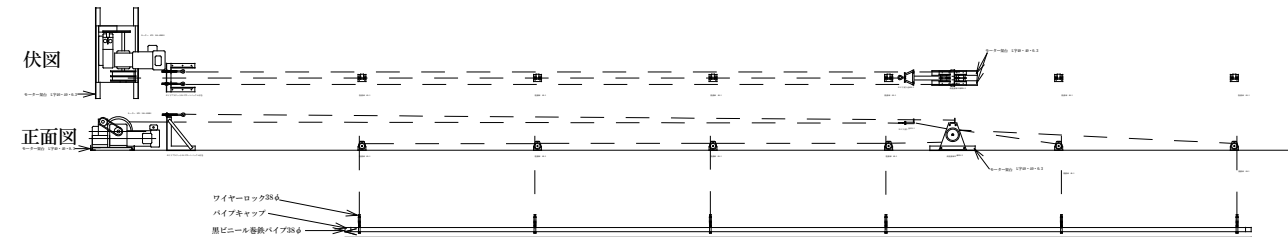
平面図 (諸幕・設備など配置図)



伏図 (ブドウ棚 バトン滑車・モーター配置図)



バトン詳細図 (鉄ワイヤー3mm・元ワイヤー/ガイドワイヤー5mm) 1/30

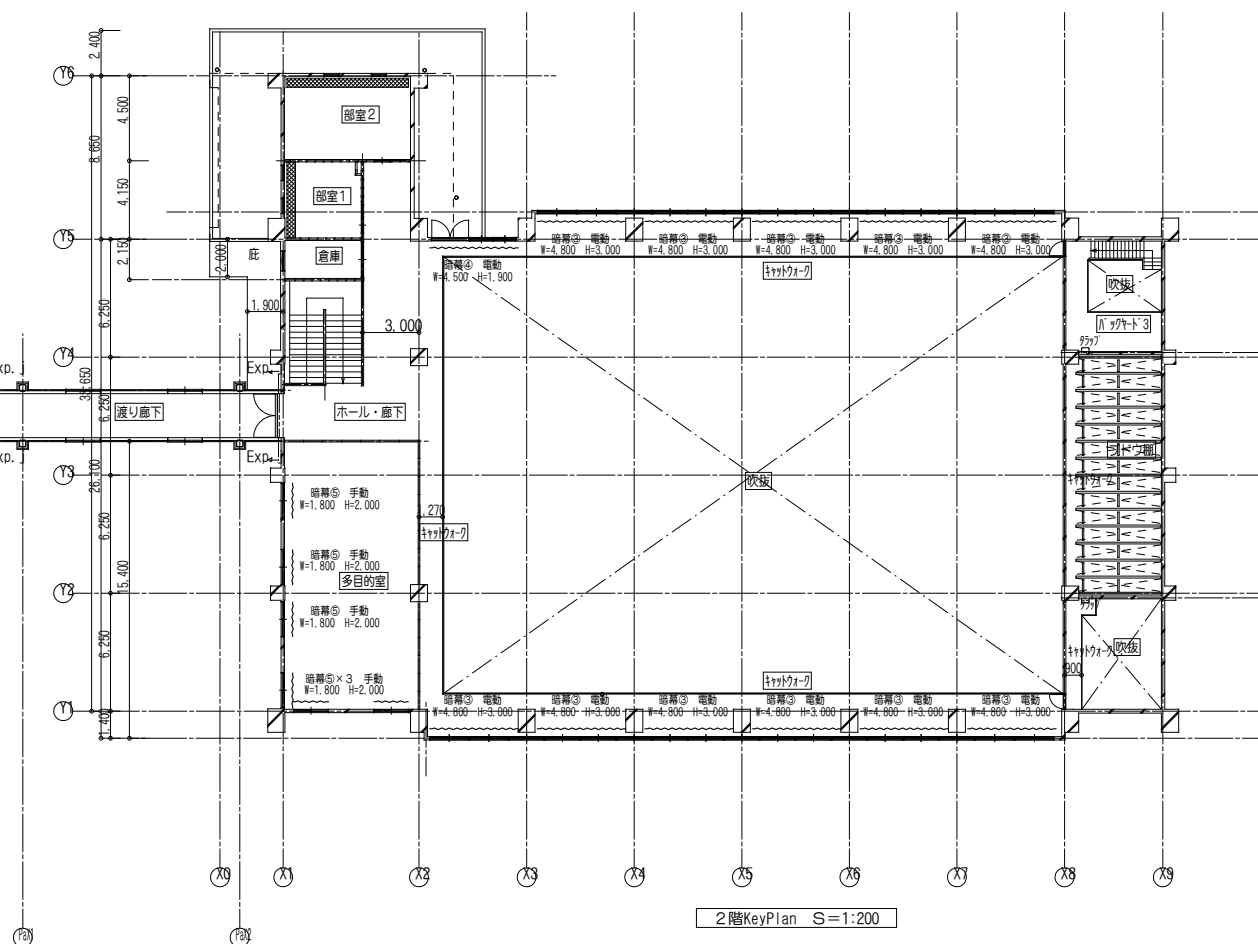
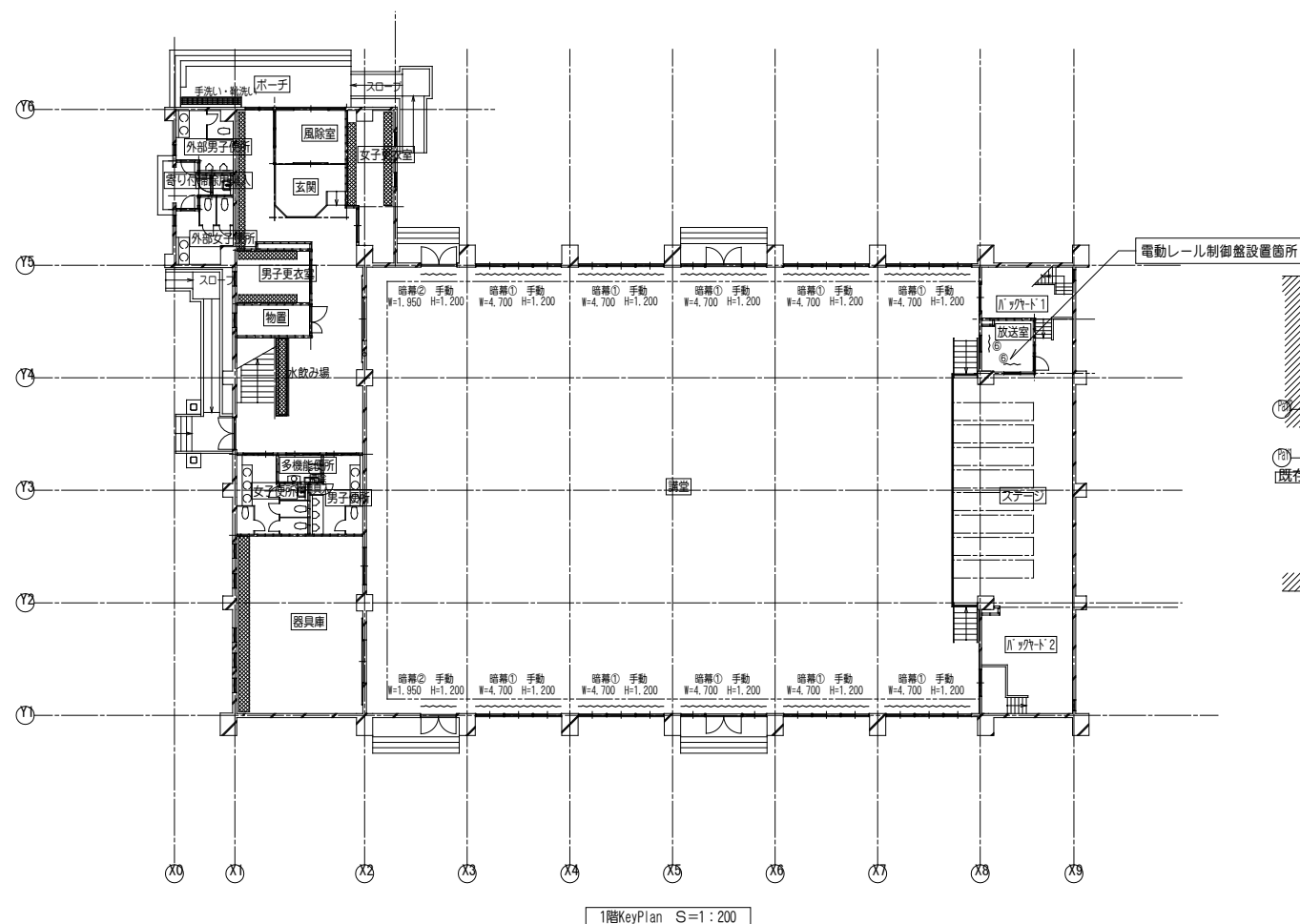


## 機械器具設置工事

《幕略仕様》										
符 号	名 称	幕 地 材 質	寸 法 (W×H)	枚 数	ヒダ数	備 考				
①	一文字幕	スミノエ ニューナイトシティー	12,100 × 900	1	2倍ヒダ	校章φ500（アププリケ）、3寸フレンジ付				
②	袖 幕	スミノエ ニューナイトシティー	1,200 × 5,050	2	2倍ヒダ	4寸フレンジ付	チチ紐			
③	引 割 幕	スミノエ ニューナイトシティー	6,500 × 5,430	2	2倍ヒダ	4寸フレンジ付	チチ紐			
④	カスミ幕	スミノエ ニューナイトシティー	12,000 × 1,400	2	2倍ヒダ	チチ紐				
⑤	中 幕	スミノエ ニューナイトシティー	6,750 × 5,430	2	2倍ヒダ	チチ紐				
⑥	脇 幕	スミノエ ニューナイトシティー	1,500 × 5,430	4	2倍ヒダ	チチ紐				
⑦	バトン		L = 8,000	2						
⑧	バック幕	スミノエ ニューナイトシティー	6,750 × 5,430	2	2倍ヒダ	チチ紐				
⑨	ホリゾン幕	帆布生地9号	10,000 × 5,430	1	ひだ無し	上部チチ紐 下部パイプ通し袋				
《舞台機構設備略仕様》										
符 号		仕 様	吊 点	荷 重	吊りパイプ長さ	ワイヤ（組）径	動 力	操 作 方 式	制 御 方 式	備 考
					幕用レール長さ					
①		タッカー止め	—				—			
②		タッカー止め	—				—			
③	（隠れ止め3か所）	電動中型アルミレール交叉（パイプ吊）	9	86	38φ L= 11,700 L=6,500×2条	1.5φ	電 動	釦スイッチ	直入れ始動	トーソー パワフルNX
④		パイプ固定吊り	7	30	25φ L= 12,000					
⑤	（隠れ止め3か所）	紐引きアルミ中型レール交叉（パイプ吊）	9	86	38φ L= 12,500 L=6,7500×2条	3.5φ	手 動	紐引き開閉方式		テンション450
⑥		パイプ固定吊り	2	10	25φ L= 1,500					
⑦		電動昇降ボタン（架台・滑車別途表示）	6	123	38φ L= 8,000	3φ・5φ	電 動	釦スイッチ	直入れ始動	KTO 100-450BSS
⑧	（隠れ止め3か所）	紐引きアルミ中型レール交叉（パイプ吊）	9	86	38φ L= 12,500 L=6,7500×2条	3.5φ	手 動	紐引き開閉方式		テンション450
⑨		パイプ固定吊り	9	60	38φ L= 10,000 2本					

※ 一次二次電気工事別途 (スイッチボックス含む)

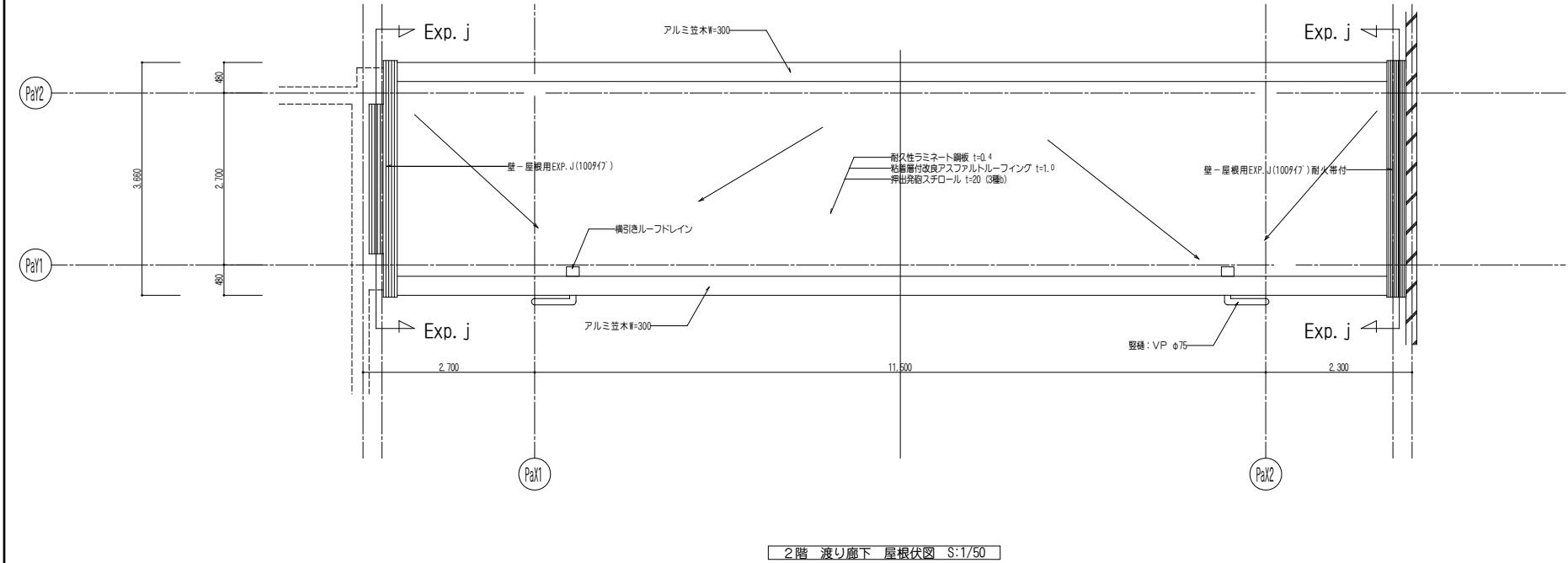
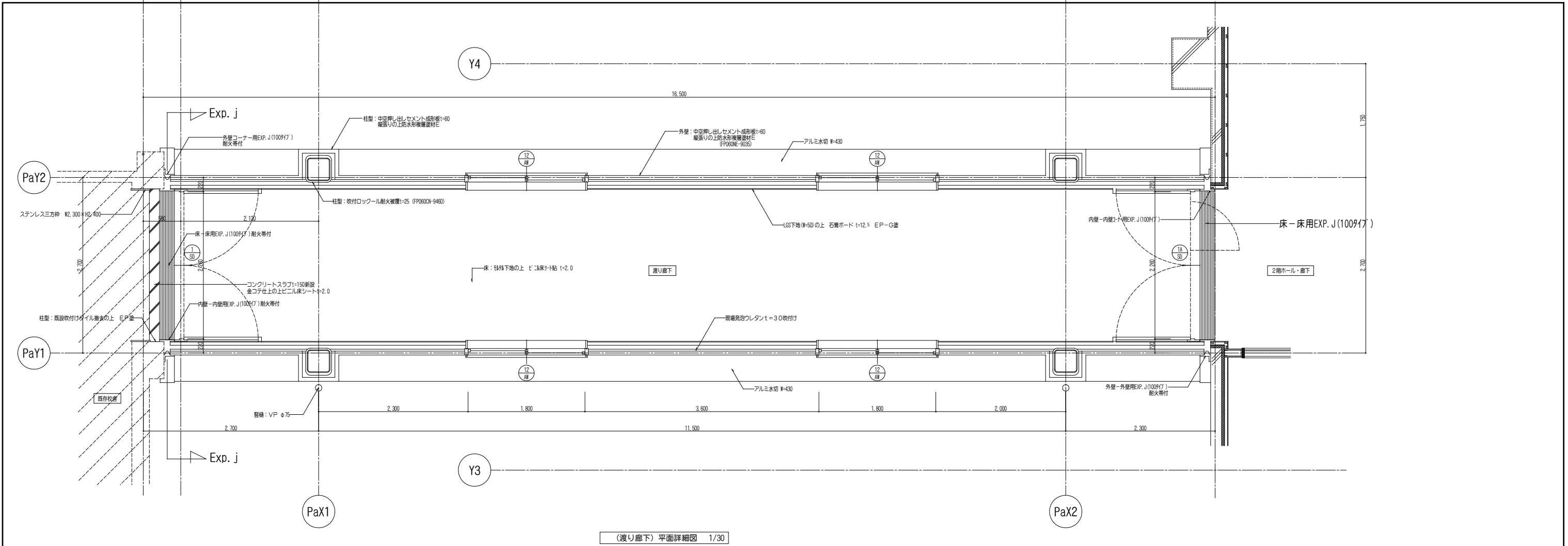
※ 足場・養生別途工事 (建築工事)



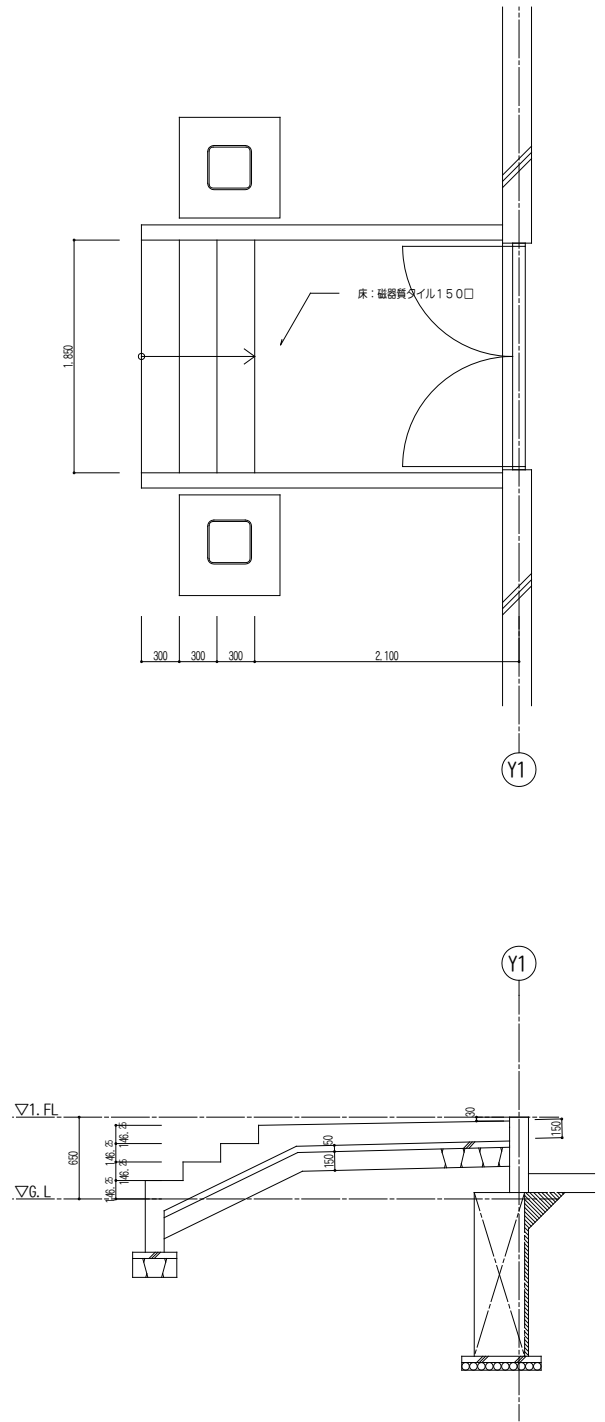
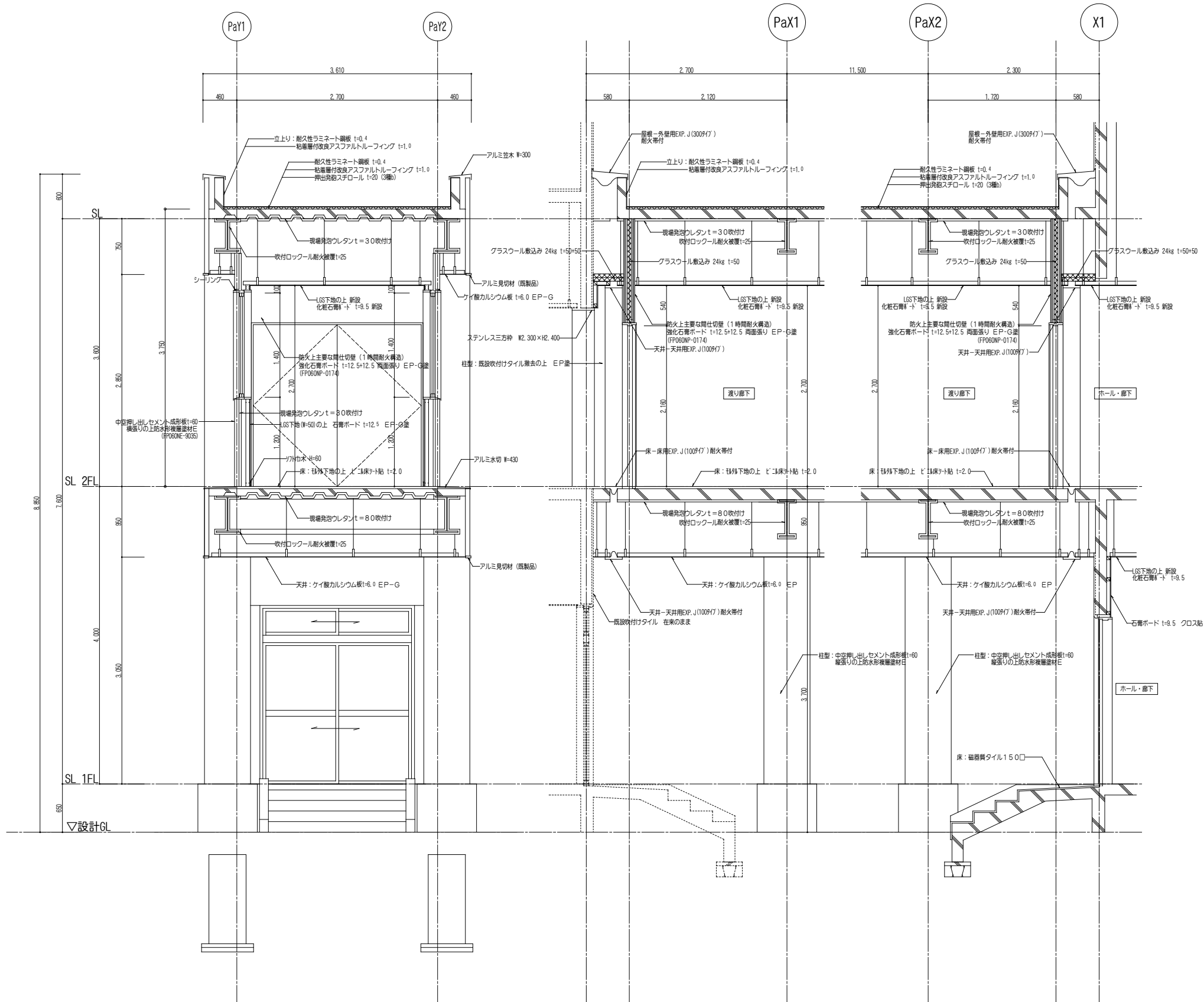
No.	設置階数	開閉方法	扉寸法	カ所	備 考
①	1階	手動	W=4.700 × H=1.200 (引分)	1 0	レール共
②	1階	手動	W=1.950 × H=1.200 (引分)	2	レール共
③	2階	電動	W=4.800 × H=3.000 (引分)	1 1	レール共、制御は1階放送室による
④	2階	電動	W=4.500 × H=1.900 (引分)	1	レール共、制御は1階放送室による
⑤	2階	手動	W=1.800 × H=2.000 (引分)	6	レール共
⑥	1階	手動	W= 850 × H=1.000 (片引)	2	レール共





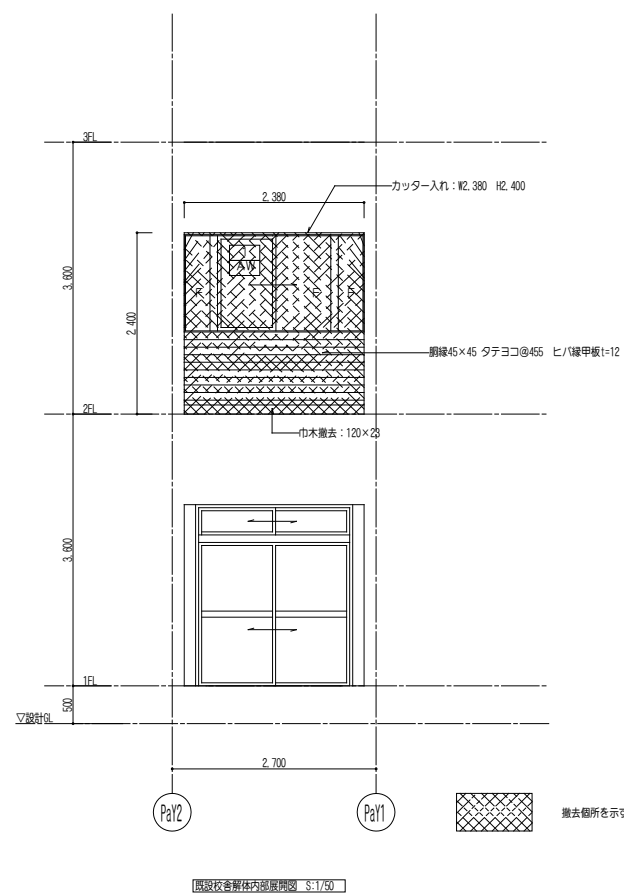
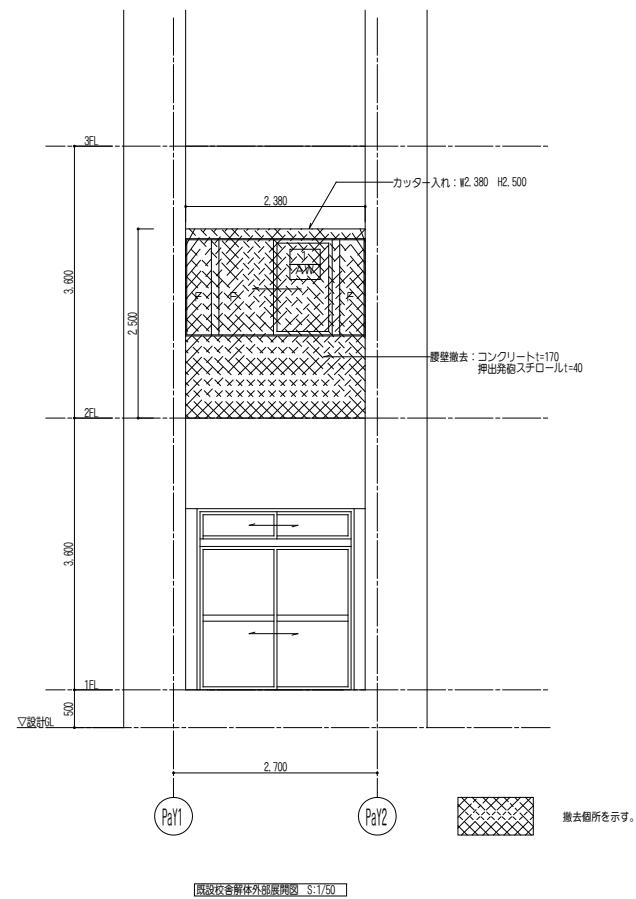
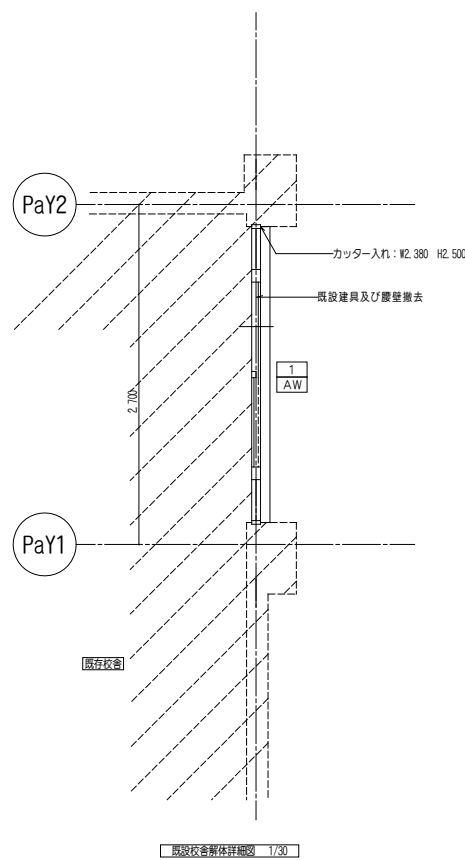


符号・本数	1 SD ※	1A SD ※	特定防火設備 平成12年建設省告示1369号 各1ヶ所	1 2 AW 4ヶ所
姿 図				
使用場所	2階 渡り廊下			2階 渡り廊下
形 式	スチール製両開きフラッシュUP (常時閉)			アルミ製引違窓
硝 子				FL3+A6+FL3
仕 上	工場機付塗装 t=1.6			シルバー
見 込	70			70
金 物	ステンレス丁番 レバーハンドル シリンダー錠 サムターン			錠鎖受 錠鎖アングル クレセント 網戸 (サラン)
その他	ドアクローザー 下枠ステンレス		付属金物一式	付属金物一式



(渡り廊下) 矩 計 図 1/30

外部階段詳細図 S:1/30



1 AW	撤去建具	1ヶ所
既設校舎 2F廊下		
アルミ製袖付片引き窓		
R15		
シルバー		
70		
横縁アングル レバーハンドル 付属金物一式		